

# 牛頸後田窯跡群 3

— 68・69・70・71・72・74 地点 —

大野城市文化財調査報告書 第218集

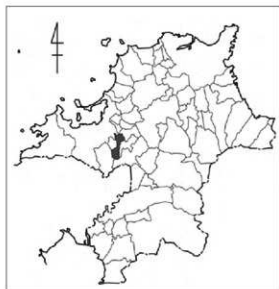
2024

大野城市

うし くびうしろ だ かまあとぐん  
牛頸後田窯跡群 3

— 68・69・70・71・72・74 地点 —

大野城市文化財調査報告書 第218集



2024

大野城市





上 70地点1・3～5号窯跡全景 下 70地点出土ヘラ書須恵器「大」





68地点出土須惠器



## 序

福岡県大野城市は福岡平野の東南部に位置し、その市名は日本最古の朝鮮式山城「大野城」に由来します。市域は中央部がくびれ、南北に細長い形をしています。東部に大野城跡、中央部に水城跡、南部に牛頭須恵器窯跡と、それぞれ国指定史跡を配し、それらを中心に数多くの文化財を擁する歴史豊かな街です。

後田窯跡群は市域の南部、牛頭山麓に広がる丘陵上に立地します。一帯には小田浦窯跡群、石坂窯跡群、大谷窯跡群などたくさんの窯跡群があり、開発に伴って幾多の須恵器窯跡が発掘調査され、貴重な成果を上げてきました。

本書で報告するのは、68～72・74地点の調査成果です。調査は霊園建設に伴って行い、総数で須恵器窯跡10基と炭窯跡1基や、たくさんの土坑が確認され、パンケース250箱分の遺物が出土しました。

須恵器窯跡は7世紀後半から8世紀後半のもので、杯蓋・杯身のみを焼く窯は天井も低く、幅も狭いのに対し、甕を焼く窯は天井が高く、幅も広がっていることから、須恵器工人は、生産する器種によって、窯の大きさを変えていることが明らかになりました。

また、出土遺物には「大」と書かれたヘラ書き須恵器が含まれており、牛頭須恵器窯の工人である大神部と関連がありそうだと考えられます。

遺跡は土地に刻まれた歴史であり、私たちに沢山のことを教えてくれます。大野城心のふるさと館では、開発などで失われていく遺跡を調査記録し、このような報告書という形で広く公開すると共に、次の世代へ伝えていけるよう努めています。本書が文化財の理解と重要性の認識を深めてもらえる一助となり、学術研究や教育現場で広く活用して頂けたら幸いです。

最後になりましたが、現地での発掘調査および報告書作成・刊行にあたり、ご理解ご協力いただいた事業関係者及び地元各位に厚くお礼申し上げます。

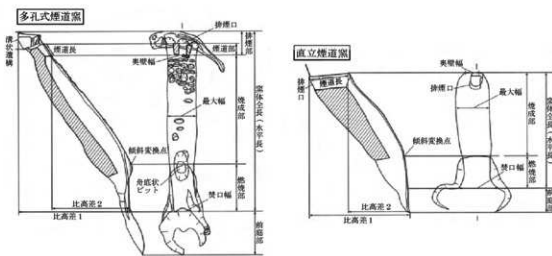
令和6年3月31日

大野城心のふるさと館  
館長 赤司 善彦



## 例言

1. 本書は大野城市教育委員会が発掘調査を実施した、大野城市大字牛頭2471-11他所在の「後田窟跡群68・69・70・71・72・74地点」の調査報告書である。
2. 発掘調査は、宗教法人「龍華寺」の委託を受け、大野城市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査は、68・69地点を徳本洋一、70・71・72・74地点を石木秀啓が担当した。
4. 各遺構写真は、発掘調査担当者が撮影した。
5. 遺構実測図は、発掘調査担当者が作成し、遺構実測図中の方位は磁北を示す。
6. 遺物実測・拓本・製図、遺構図の製図は株式会社イビソク福岡営業所に委託した。
7. 遺物の写真撮影は、牛嶋茂（株写測エンジニアリング）が行った。
8. 本書に掲載した遺跡分布図は、国土地理院発行の1/25,000地形図「福岡南部」【太宰府】及び1/50,000地形図「福岡南部」【太宰府】を一部改変して使用した。
9. 本書に使用する土色名は、『新版標準土色帖』農林水産省技術会議事務局監修を使用している。
10. 本書に掲載した資料は、全て大野城市が保管・管理している。
11. 本書の執筆は、文末に担当者名を記し、編集は澤田康夫監修のもと、稗田智美・藤島友美（株イビソク）が行った。
12. 書名は「牛頭後田窟跡群」大野城市文化財調査報告書第33集、「牛頭後田窟跡群Ⅱ」77地点の調査がすでに刊行していることから、『牛頭後田窟跡群3』68・69・70・71・72・74地点の調査とする。
13. 本書の遺物観察表は株イビソクが作成した。
14. 本書で使用する須恵器窯跡の部位、名称と計測箇所は、以下のとおりとする。



須恵器窯跡の部位名称と計測箇所

# 本文目次

I. はじめに	
1. 調査に至る経過	1
2. 調査体制	1~4
II. 位置と環境	
1. 地理的環境	5
2. 歴史的環境	5~10
III. 調査の成果	
1. 68地点の調査	11~40
2. 69地点の調査	41~45
3. 70地点の調査	46~134
4. 71地点の調査	135~146
5. 72地点の調査	147~153
6. 74地点の調査	154~158
IV. 総括	
1. 課題の抽出	210・211
2. 窯群の設定	211
3. 窯構造	212~214
4. 器種別遺物数量から見た生産傾向	214・215
5. 68地点1号窯跡出土の鉄鍔の性格について	216~218
6. 土師器杯d模倣須恵器について	219~221

# 図版目次

図版1	(1) 68地点全景(東から)
	(2) 68地点検出状況(南西から)
	(3) 68地点検出状況(南から)
	(4) 68地点1号窯跡完掘状況(南から)
	(5) 68地点1号窯跡完掘状況(南から)
	(6) 68地点1号窯跡完掘状況(上方から)
	(7) 68地点1号窯跡土層(南東から)
	(8) 68地点1号窯跡内土層(南から)
図版2	(9) 68地点1号窯跡土層ベルト(南から)

- (10) 68地点2号窯跡全景（南東から）
- (11) 68地点2号窯跡遺物出土状況（南東から）
- (12) 68地点2号窯跡煙道（排煙側から）
- (13) 68地点2号窯跡奥壁部煙道掘削状況（南西から）
- (14) 68地点3号窯跡完掘状況（南東から）
- (15) 69地点全景（北西から）
- (16) 69地点焼土坑検出状況（北から）
- 図版3 (17) 69地点焼土坑完掘状況（西から）
- (18) 69地点焼土坑土層（東から）
- (19) 70地点調査前（北西から）
- (20) 70地点検出状況（北西から）
- (21) 70地点全景（北西から）
- (22) 70地点1・3～5号窯跡全景（北西から）
- (23) 70地点1号窯跡完掘状況（北西から）
- (24) 70地点1号窯跡焚口部、4号窯跡煙道（東から）
- 図版4 (25) 70地点1号窯跡船底ビット遺物出土状況（北から）
- (26) 70地点1号窯跡貼床除去後遺物出土状況（北西から）
- (27) 70地点1号窯跡窯内縦断面土層奥壁側（東から）
- (28) 70地点1号窯跡焚口部土層（北東から）
- (29) 70地点1号窯跡B-B'南側土層（北から）
- (30) 70地点1号窯跡前庭右側遺物出土状況（西から）
- (32) 70地点2号窯跡完掘状況（北西から）
- (33) 70地点2号窯跡焚口部（南から）
- 図版5 (34) 70地点2号窯跡右側壁（東から）
- (35) 70地点2号窯跡左側壁（西から）
- (36) 70地点2号窯跡窯体縦断面土層奥壁側（北から）
- (37) 70地点2号窯跡杭2-A付近土層（西から）
- (38) 70地点2号窯跡横断面土層（北西から）
- (39) 70地点2号窯跡灰原横断面土層杭2B-2H（北西から）
- (40) 70地点2号窯跡灰原縦断面土層杭2B-2C（北東から）
- (41) 70地点3号窯跡全景（北西から）
- 図版6 (42) 70地点3号窯跡焚口左側壁（西から）
- (43) 70地点3号窯跡焚口土層3-SA～SB（北西から）
- (44) 70地点3号窯跡窯内横断面土層（北から）
- (45) 70地点3号窯跡焚口縦断面土層（北東から）
- (46) 70地点3号窯跡横断面土層（北から）

- (47) 70地点3号窯跡窯体内土層（北から）  
(51) 70地点3号窯跡内粘土検出状況（北から）
- 図版7 (48) 70地点3号窯跡遺物出土状況（北から）  
(49) 70地点3号窯跡窯体内粘土検出状況（北から）  
(50) 70地点3号窯跡窯体内粘土検出状況（北から）  
(52) 70地点3・4号窯跡灰原（杭1-DN～1-D）（北から）  
(53) 70地点3・4号窯跡灰原5区土層（北東から）
- 図版8 (54) 70地点3・4号窯跡灰原（杭1-D～1-DS）（北西から）  
(55) 70地点3・4号窯跡灰原3・6区縦断面土層（北東から）  
(56) 70地点3・4号窯跡灰原6区縦断面土層（北東から）  
(57) 70地点3・4号窯跡灰原4・5区間土層（北東から）  
(58) 70地点4号窯跡完掘状況（北から）  
(59) 70地点4号窯跡焚口部（南から）  
(60) 70地点4号窯跡土坑（南西から）  
(61) 70地点4号窯跡左側壁（西から）
- 図版9 (62) 70地点4号窯跡右側壁（東から）  
(63) 70地点4・5号窯跡焚口部検出状況（北から）  
(64) 70地点4号窯跡遺物出土状況（北から）  
(65) 70地点4号窯跡4A-4B縦断面土層（東から）  
(66) 70地点4号窯跡焚口部縦断面土層（北から）  
(67) 70地点4号窯跡縦断面土層（北から）  
(68) 70地点4号窯跡横断面土層（北西から）
- 図版10 (69) 70地点4号窯跡完掘状況（北西から）  
(70) 70地点4号窯跡焼台設置状況（北西から）  
(71) 70地点4号窯跡遺物復元風景（北西から）  
(72) 70地点5号窯跡完掘状況（北西から）  
(73) 70地点5号窯跡焚口部（西から）  
(74) 70地点4・5号窯跡土層（杭3B東側）（西から）  
(75) 70地点5号窯跡焚口部検出状況（北西から）
- 図版11 (76) 70地点5号窯跡縦断面土層（北西から）  
(77) 70地点5号窯跡煙道部（西から）  
(78) 70地点5号窯跡掘削状況復元（北から）  
(79) 70地点6号窯跡全景（北西から）  
(80) 70地点SX02全景（北から）  
(81) 70地点SX02（A-B土層）（東から）
- 図版12 (82) 71地点調査前（北西から）

- (83) 71地点調査後全景（北西から）  
(84) 71地点遺構検出状況（北西から）  
(85) 71地点遺構検出状況竈体近景（北西から）  
(86) 71地点谷部遺構検出状況（北西から）  
(87) 71地点1号窯跡全景（北西から）  
(88) 71地点長頸壺出土状況（東から）
- 図版13 (89) 71地点1号窯跡土層（南西から）  
(90) 71地点1号窯跡煙道部土層（南西から）  
(91) 71地点1号窯跡焚口部土層（北から）  
(92) 71地点1号窯跡竈体内煙出し縦断面土層（北東から）  
(93) 71地点1号窯跡内煙道土層（南西から）  
(94) 71地点1号窯跡内横断面土層（北西から）  
(95) 71地点1号窯跡竈内K-K'土層（北西から）
- 図版14 (96) 71地点1号窯跡灰原土層（北西から）  
(97) 71地点1号窯跡灰原J-Ja土層（北西から）  
(98) 71地点1号窯跡灰原g-gb土層（北西から）  
(99) 71地点1号窯跡灰原ga-gb土層（北西から）  
(100) 71地点1号窯跡灰原g-ga土層（北西から）  
(101) 71地点1号窯跡灰原h-hb土層（北西から）  
(105) 71地点谷部b-ba土層（北西から）  
(106) 71地点谷部土層（北から）
- 図版15 (107) 72地点調査前（南から）  
(108) 72地点完掘状況（東から）  
(109) 72地点炭窯跡全景（東から）  
(110) 72地点炭窯跡煙道完掘状況（東から）  
(111) 72地点炭窯跡竈内（東から）  
(112) 72地点炭窯跡煙出し（東から）  
(113) 72地点炭窯跡煙道（東から）
- 図版16 (114) 72地点炭窯跡焚口下部土層（北東から）  
(115) 72地点炭窯跡焚口部縦断面土層（北から）  
(116) 72地点炭窯跡内縦断面土層（北から）  
(117) 72地点道路側土層（西から）  
(119) 74地点調査後全景（北東から）  
(120) 74地点SX01遺物出土状況（南東から）  
(121) 74地点SX01完掘状況（北東から）  
(122) 74地点SX05完掘状況（北から）

- 図版17～24 68地点1号窯跡出土遺物①～⑧  
 図版25 68地点1号窯跡出土遺物⑨、69地点出土遺物  
 図版26～31 70地点1号窯跡出土遺物①～⑥  
 図版32～37 70地点2号窯跡出土遺物①～⑥  
 図版38～41 70地点3号窯跡出土遺物①～④  
 図版42 70地点4号窯跡出土遺物①  
 図版43 70地点4号窯跡出土遺物②、70地点3・4号窯跡灰原出土遺物①  
 図版44～49 70地点3・4号窯跡灰原出土遺物②～⑦  
 図版50 70地点3・4号窯跡灰原出土遺物⑧、70地点5号窯跡出土遺物①  
 図版51・52 70地点5号窯跡出土遺物②・③  
 図版53 70地点5号窯跡出土遺物④、70地点SX01出土遺物①  
 図版54～57 70地点SX01出土遺物②～⑤  
 図版58 70地点SX02・SP06・谷部下層出土遺物、71地点1号窯跡出土遺物①  
 図版59～61 71地点1号窯跡出土遺物②～④  
 図版62 71地点1号窯跡出土遺物⑤、74地点試掘トレンチ出土遺物

## 挿 図 目 次

第1図	68～72・74地点位置図 (1/2,500) ( )内は試掘調査時の地点名	4
第2図	周辺遺跡分布図 (1/62,500)	7・8
第3図	68地点地形測量図 (1/100)	12
第4図	1号窯跡実測図 (1/40)	13・14
第5図	1号窯跡土層断面実測図 (1/60)	15
第6図	1号窯跡窯体内埋土最下層 (5層) 出土遺物実測図 (1/3)	17
第7図	1号窯跡窯体内埋土上層 (1～3層) 出土遺物実測図 (1/3)	18
第8図	1号窯跡掘下時出土遺物実測図 (1/3)	19
第9・10図	1号窯跡灰原A区出土遺物実測図①② (1/3)	20・21
第11・12図	1号窯跡灰原B区出土遺物実測図①② (1/3)	23・24
第13～15図	1号窯跡灰原C区出土遺物実測図①②③ (1/3)	26～28
第16図	1号窯跡灰原D区出土遺物実測図 (1/3)	29
第17図	1号窯跡灰原出土遺物実測図 (1/3)	31
第18図	2号窯跡実測図 (1/40)	33・34
第19図	2号窯跡床面出土遺物実測図 (1/3)	36
第20図	2号窯跡床面・窯体内・榎出奥部埋土出土遺物実測図 (1/3)	37
第21図	3号窯跡実測図 (1/40)	38

第22图	3号窑跡出土遺物実測図 (1/3) .....	39
第23图	69地点地形測量図 (1/100) .....	41·42
第24图	1号窯跡実測図 (1/40) .....	43
第25图	焼土坑実測図 (1/40) .....	43
第26图	69地点出土遺物実測図 (1/3) .....	44
第27图	70~72·74地点調査地配置図 (1/1,000) .....	46
第28图	70地点地形測量図 (1/150) · 1~6号窯跡配置図 (1/300) .....	49·50
第29图	1号窯跡最終作業面実測図 (1/40) .....	51·52
第30图	1号窯跡貼床除去後遺物出土状況実測図 (1/40) .....	53
第31图	1号窯跡灰原土層断面実測図 (1/60) .....	54
第32图	1号窯跡窯体内出土遺物実測図 (1/3) .....	55
第33·34图	1号窯跡前庭部出土遺物実測図①② (1/3) .....	56·57
第35·36图	1号窯跡灰原出土遺物実測図①② (1/3) .....	58·59
第37图	2号窯跡実測図 (1/40) .....	61·62
第38图	2号窯跡土層断面実測図 (1/60) .....	63
第39图	2号窯跡窯体内埋土出土遺物実測図 (1/3) .....	64
第40图	2号窯跡前庭部出土遺物実測図 (1/3) .....	65
第41图	2号窯跡灰原1区出土遺物実測図 (1/3) .....	66
第42图	2号窯跡灰原2区出土遺物実測図 (1/3) .....	67
第43·44图	2号窯跡灰原3区出土遺物実測図①② (1/3) .....	68·69
第45·46图	2号窯跡灰原4区出土遺物実測図①② (1/3) .....	70·71
第47图	3号窯跡実測図 (1/40) .....	73·74
第48图	3号窯跡遺物出土状況実測図 (1/40) .....	75
第49~52图	3号窯跡出土遺物実測図①~④ (1/3) .....	77~80
第53图	4号窯跡実測図 (1/40) .....	83·84
第54图	4号窯跡遺物出土状況実測図 (1/40) .....	85·86
第55图	4号窯跡出土遺物実測図 (1/3) .....	87
第56图	3·4号窯跡灰原土層断面実測図 (1/60) .....	89·90
第57·58图	3·4号窯跡灰原1区出土遺物実測図①② (1/3) .....	91·92
第59图	3·4号窯跡灰原2·3区、3区、4·5区出土遺物実測図 (1/3) .....	94
第60~65图	3·4号窯跡灰原4区出土遺物実測図①~⑥ (1/3) .....	95·97~101
第66~68图	3·4号窯跡灰原5区出土遺物実測図①~③ (1/3) .....	103~105
第69~72图	3·4号窯跡灰原6区出土遺物実測図①~④ (1/3) .....	107~110
第73图	5号窯跡実測図 (1/40) .....	113·114
第74图	5号窯跡遺物出土状況実測図 (1/40) .....	115·116
第75·76图	5号窯跡窯体内·焚口手前出土遺物実測図①② (1/3) .....	117·118

第77図	6号窯跡実測図(1/40)	119・120
第78図	6号窯跡出土遺物実測図(1/3)	122
第79～83図	SX01出土遺物実測図①～⑤(1/3)	123～125・127・128
第84図	SX02実測図(1/60)	129
第85図	SX02出土遺物実測図(1/3)	130
第86図	SP、谷部下層、1・2号窯跡出土遺物実測図(1/3)	132
第87図	1号窯跡灰原土層断面実測図(1/60)	136
第88図	71地点地形測量図(1/100)	137・138
第89図	1号窯跡実測図(1/40)	139・140
第90図	谷部A-2須恵器出土状況実測図(1/40)	141
第91図	1号窯跡出土遺物実測図(1/3)	142
第92図	1号窯跡前庭部出土遺物実測図(1/3)	143
第93図	1号窯跡灰原出土遺物実測図(1/3)	144
第94図	SX04・谷部出土遺物実測図(1/3)	145
第95図	72地点地形測量図(1/100)	148
第96・97図	炭窯跡実測図①②(1/40)	149～152
第98図	74地点地形測量図(1/100)	155
第99図	SX01実測図(1/40)	156
第100図	SX05実測図(1/40)	157
第101図	SX06実測図(1/40)	157
第102図	SX01・SX05・その他出土遺物実測図(1/3)	158
第103図	牛頭後田窯跡群のこれまでの調査地点と小田浦窯跡群79地点の調査地点(註6より転載、一部改変)	211
第104図	68地点2号窯跡窯詰指定図(1/40)	213
第105図	牛頭後田窯跡群77地点1号窯跡実測図(S=1/80)(註6より転載)	214
第106図	観音山古墳群中原IV群31号墳(「観音山古墳群II」より転載)	216
第107図	瀬戸内市寒風古墳石室(「史跡寒風古墳跡群」より転載)	217
第108図	瓦窯内箱型小石室(スケッチ)(「福岡県史蹟名勝天然記念物調査報告書第八輯」から転載)	217
第109図	牛頭窯跡群・大宰府出土須恵器杯d(1/4)	221

## 表 目 次

表1	68地点出土遺物重量表	39
表2	69地点出土遺物重量表	45



表3	70地点出土遺物重量表	133
表4	71地点出土遺物重量表	146
表5	68地点出土遺物観察表	159~169
表6	69地点出土遺物観察表	169・170
表7	70地点1号窯跡出土遺物観察表	170~174
表8	70地点2号窯跡出土遺物観察表	174~178
表9	70地点3号窯跡出土遺物観察表	179~182
表10	70地点4号窯跡出土遺物観察表	182・183
表11	70地点3・4号窯跡灰原1区出土遺物観察表	184~186
表12	70地点3・4号窯跡灰原2・3区出土遺物観察表	186
表13	70地点3・4号窯跡灰原3区出土遺物観察表	186
表14	70地点3・4号窯跡灰原4・5区出土遺物観察表	186
表15	70地点3・4号窯跡灰原4区出土遺物観察表	187~192
表16	70地点3・4号窯跡灰原5区出土遺物観察表	192~194
表17	70地点3・4号窯跡灰原6区出土遺物観察表	194~196
表18	70地点5号窯跡出土遺物観察表	196~199
表19	70地点6号窯跡出土遺物観察表	199
表20	70地点SX01出土遺物観察表	199~203
表21	70地点SX02出土遺物観察表	204
表22	70地点SP出土遺物観察表	204・205
表23	70地点1・2号窯跡出土遺物観察表	205
表24	71地点出土遺物観察表	205~208
表25	74地点出土遺物観察表	208・209
表26	牛頭後田窯跡群68~71・77地点の窯跡各部計測表	212
表27	牛頭窯跡群・大宰府出土須恵器杯d一覽	220

## 巻頭図版目次

巻頭図版1	上 70地点1・3~5号窯跡全景
	下 70地点出土ヘラ書須恵器「大」
巻頭図版2	68地点出土須恵器

# I. はじめに

## 1. 調査に至る経過

牛頭後田窯跡群は、牛頭窯跡群全体の中でも西側に位置する一群を指す。これまで月の浦団地の造成工事など周辺の開発を進める牛頭土地区画整理事業地内で、多くの須恵器窯跡が確認され、45・46・59・60・63地点（昭和61年度）を皮切りに、61・65・66地点（昭和62年度）、68・69地点（平成8年度）、70～72・74地点（平成11年度）と実施してきた。

今回報告を行う68～72・74地点の調査は、大野城太宰府環境処理施設組合が所有する大野城環境処理センターのすぐ東側に位置する。調査地周辺は、脊振山から北側に伸びる標高120～150mの丘陵地である。

この場所において、東側に位置する籠華霊園より霊園拡張の申し入れがあり、対象地を手掘りによる試掘調査を実施したところ、A～Hの8地点で須恵器の出土や、灰原・窯体確認をすることができた。霊園は丘陵部を造成して行われ、遺構の保存は困難であったことから、発掘調査を実施した。なお、工事は1工区（68・69地点）、2工区（70～72・74地点）に分けて行っており、調査期間や面積等については下記の表のとおりである。

遺跡名	発掘調査期間	開発面積（㎡）	調査面積（㎡）	調査担当
後田窯跡群 68・69地点	平成8年10月24日 ～12月20日	43,305	350	徳本洋一
後田窯跡群 70～72・74 地点	平成11年1月11日 ～6月1日	45,357	1,100	石木秀啓

（石木・澤田）

## 2. 調査体制

平成8年度及び平成10年度における現場発掘調査体制は以下のとおりである。また、令和5年度の事業として整理作業を株式会社イビソク福岡営業所に業務委託し、本書の刊行を行った。

[平成8年度（68・69地点調査）]

大野城市教育委員会	教育長	久野 英彦
	教育部長	後藤 幹生
	社会教育課長	岡部 弥之助、關 隆明
	課長補佐	白水 岩人
	主査	舟山 良一
	同	浦山 敏弘（庶務担当）
	主任技師	向 直也
		徳本 洋一（調査担当）

嘱 託 岸野 和子

その他発掘作業員さん多数のご協力を得た。

[平成11年度 (70～72・74地点調査)]

大野城市教育委員会	教育長	堀内 貞夫
	教育部長	高橋 正治、青木 克正
	社会教育課長	片岡 猛
	文化財担当係長	舟山 良一
	主 査	徳本 洋一
	主任技師	向 直也
		石木 秀啓 (調査担当)
		丸尾 博恵
	技 師	林 潤也
	主 事	大道 和貴 (庶務担当)
	嘱 託	元吉 知子、明永 美和

その他発掘作業員さん多数のご協力を得た。

また、現場での発掘調査の費用を負担頂いた宗教法人龍華寺をはじめ、区画整理関係者並びに地元関係者各位にご理解・ご協力いただきましたことをお礼申し上げます。

[令和5年度 (整理・報告書刊行)]

大野城市	市長	井本 宗司
	地域創造部長	日野 和弘
	大野城心のふるさと館	
	館長	赤司 善彦
	心のふるさと館文化財担当課長	石木 秀啓
	係長	林 潤也 (保護啓発担当)
	係長	上田 龍児 (発掘調査担当)
	主任主事	濱田 裕之 (庶務担当) (4～6月)
		下川 みお (庶務担当) (7月～)
	主任技師	龍 友紀
		山元 瞭平
	会計年度任用職員	澤田 康夫 (委託業務担当)
		石川 健 (発掘調査担当)
		深町 美佳 (保護啓発担当)
		山村 智子 (同 上)
		尾川 絢香 (同 上)
		清水 康彰 (庶務担当)

会計年度任用職員	藤田 香 (庶務担当)
	小畑 貴子 (整理作業)
	古賀 栄子 (同 上)
	小嶋のり子 (同 上)
	眞田 萌世 (同 上)
	篠田千恵子 (同 上)
	津田 りえ (同 上)
	仲村 美幸 (同 上)
	氷室 優 (同 上)
	松本友里江 (同 上)

受託事業者 株式会社イピソク福岡営業所 (統括・製図：稗田、遺物原稿：藤島)

(澤田)



## II. 位置と環境

### 1. 地理的環境

大野城市が位置する福岡平野は、南を脊振山地、東を三郡山地に挟まれ、北は博多湾に面している。平野中央部に那珂川・御笠川が貫流し、広大な沖積平野を形成する。大野城市は福岡平野東南の最奥部に位置し、最も平野が狭くなる地峡部にあたる。古代以来この地峡部は交通の要衝で、現在でも九州縦貫自動車道・JR鹿児島本線・西鉄大牟田線・国道3号線など九州の南北を結ぶ幹線道が走っている。市域は東側を月隈丘陵に連なる乙金山・四王寺山、南側を牛頸山に挟まれ、中央に御笠川が貫流する。山地は早良花崗岩からなり、風化が著しく真砂土となっており、山麓部から平地丘陵部にかけて段丘が発達する。高位段丘は開析がすすみ、中位段丘は平坦部も多く、平野部では沖積地が広がる。

### 2. 歴史的環境

**旧石器時代** 市域北東部の松葉園遺跡、薬師の森遺跡、原口遺跡、雉子ヶ尾遺跡、釜蓋原遺跡や市域南部の出口遺跡、横峰遺跡、本堂遺跡など丘陵上の遺跡でナイフ形石器・細石刃が確認される。周辺では南八幡遺跡、諸岡遺跡、井尻B遺跡、門田遺跡などで後期旧石器時代の遺物が分布する。

**縄文時代** 市域で草創期の遺構・遺物は確認されていないが、周辺では門田遺跡で爪形土器が出土している。早期になると遺跡の数が増加し、市域北東部の善一田遺跡、古野遺跡、薬師の森遺跡、雉子ヶ尾遺跡、釜蓋原遺跡や市域南部の本堂遺跡といった丘陵地で押型土器や石器が出土するほか、石勺遺跡などの平野微高地にも遺跡が展開する。前期～中期の遺跡は市域では確認されておらず、周辺でも遺跡の数が減少する。後・晩期の遺跡として牛頸塚原遺跡・日ノ浦遺跡で後期後半～晩期の住居等が確認できるほか、善一田遺跡、古野遺跡、原口遺跡、薬師の森遺跡で後・晩期の遺物が分布する。なお、薬師の森遺跡や石勺遺跡では落とし穴状遺構を確認しており、これらは縄文時代の所産である可能性が高い。

**弥生時代** 弥生時代には福岡平野全域で遺跡が増加し、沖積地にも遺跡が展開する。市域では北部～中央部の丘陵・平野部に遺跡が多い。

**【前期】** 川原遺跡や薬師の森遺跡で板付I式期にさかのぼる集落がある。墳墓は御陵前ノ楯遺跡(前期中頃)、中・寺尾遺跡(前期中頃～中期)、塚口遺跡(前期後半～末)で甕棺墓・土坑墓・木棺墓などが展開する。南部では牛頸日ノ浦跡で前期後半の甕棺墓・土坑墓がある。また御陵遺跡では前期中頃～末の集落が確認されている。前期末頃には仲島遺跡、石勺遺跡、ヒケシマ遺跡など平野部で集落の数が増加し、これらの多くは中期に継続する。なお、周辺地域では板付遺跡や那珂遺跡で早・前期の環壕集落が成立し拠点集落となる。

**【中期】** 市域では平野部の仲島遺跡、石勺遺跡、ヒケシマ遺跡が前期末から中期を通して継続する集落である。丘陵地でも北部の中・寺尾遺跡、森園遺跡で中期前半～後半に集落が展開し、南部でも本堂遺跡で小規模な集落がある。墳墓遺跡は前期から継続する中・寺尾遺跡や、森園遺跡で中期後半を中心にした甕棺墓群があるほか、平野部の石勺遺跡や瑞穂遺跡で甕棺墓を主体とする墳墓が

展開する。周辺では春日丘陵に大規模な集落・墳墓が出現し、青銅器生産も開始される。特に須玖岡本遺跡D地点甕棺は約30面の前漢鏡・ガラス璧・多数の青銅器を副葬し「王墓」と称される。

**【後期】** 中期以来の集落である仲島遺跡、石勾遺跡、中・寺尾遺跡、森園遺跡、松葉園遺跡、本堂遺跡などが継続するほか、村下遺跡、榎町遺跡で新たな集落が出現する。仲島遺跡では貨布・銅鏡片や青銅器鋳型などが出土しており拠点的な集落となる。周辺地域では中期以降春日丘陵一帯や那珂・比恵遺跡群が拠点集落として継続しており、特に春日丘陵一帯は『三国志』『魏書』東夷伝倭人条に記された「奴国」の中心的地域と位置づけられる。

#### 古墳時代

**【前期】** 古墳時代になると福岡平野でも前方後円墳が出現し、那珂川流域を中心に首長墓級の前方後円墳が分布する。福岡平野最古式の前方後円墳として、三角緑神甕鏡が出土した那珂八幡古墳（全長75m）がある。これに後続する盟主墳として安徳大塚古墳（全長62m）や三角緑神甕鏡が出土したとされる卯内尺古墳がある。市域において明確な前方後円墳は確認されていないが、御陵古墳群周辺にはかつて前方後円墳があったという指摘があるほか、江戸時代には三角緑神甕鏡が出土しており、有力な在地勢力が存在したと考える。

集落では、福岡平野の拠点集落として博多湾沿岸の西新町遺跡、博多遺跡群や那珂・比恵遺跡群がある。市域では仲島遺跡、石勾遺跡、村下遺跡が弥生時代後期から継続し、瑞穂遺跡、原ノ畑遺跡などでも集落が出現する。この他、森園遺跡や本堂遺跡でも再び集落の形成が認められる。

**【中期】** 福岡平野の盟主墳として初期横穴式石室を導入した老司古墳（全長76m）があり、博多遺跡群でも博多1号墳（全長56m）が築造される。また剣塚北古墳、井尻B1号墳、野藤1号墳、貝徳寺古墳など中規模の前方後円墳・円墳がある。市域では5世紀前半の笹原古墳（円墳：30m）があり、隣接して5世紀後半の成屋形古墳（帆立貝式前方後円墳：32m、太宰府市）が築造され、御笠川流域の盟主墳と考えられている。5世紀後半には牛頭塚原古墳群や古野古墳群で群集墳の形成が始まる。このうち古野古墳群では、鏡・鈴・鉄剣・農具類といった豊富な副葬品を有する古墳もあり、成屋形古墳につくような有力な人物がいたことを示す。

集落遺跡は福岡平野全域で非常に希薄で、前代までの拠点集落である那珂・比恵遺跡群や西新町遺跡は消滅する。周辺では高畑遺跡、立花寺B遺跡などで滑石製品の生産を伴う集落が展開する。市域では石勾遺跡が弥生終末から継続する大規模な集落で、初期のカマドや朝鮮半島系の軟質系土器が出土し、滑石製品の生産も伴うことから拠点集落と位置づけられよう。このほか仲島遺跡、中・寺尾遺跡、森園遺跡、金山遺跡、原田遺跡、上園遺跡などで集落が展開する。

**【後期】** 福岡平野の盟主墳として6世紀中頃築造の東光寺剣塚古墳（75m）や日拝塚古墳（46m）といった前方後円墳がある。6世紀後半には大型前方後円墳は姿を消し、これに代わり6世紀後半以降、福岡平野一帯の丘陵上には直径10mほどの小円墳を主体とした群集墳が爆発的に増加する。市域では月隈丘陵から乙金山・四王寺山麓にかけて大規模な群集墳が展開し、善一田古墳群・王城山古墳群をはじめとする乙金山古墳群がこれに該当する。善一田古墳群は朝鮮半島系資料や鉄器生産に関わる資料が豊富であり、王城山古墳群では7世紀を中心とした新羅土器が集中することが特徴である。このうち、善一田18号墳が最古・最大（6世紀後半築造・直径約25mの円墳）で、豊富





な副産品を有することから当地域の盟主的な墳墓に位置づけられる。また市域南部では須恵器工人の墓と考えられる牛頭中通・後田・小田浦古墳群や、6世紀後半の大型円墳である日ノ浦1号墳がある。また、特殊な墳墓として梅頭窯跡では窯跡を転用した墳墓があり象嵌大刀を副葬する。これらの横穴式石室を主体部とする古墳や群集墳は6世紀後半～7世紀にかけて築造し、8世紀代まで追葬を行うものもある。

集落は6世紀中頃以降、福岡平野の各地で再び増加する。比恵遺跡群では6世紀後半に大型建物群が出現し、「那津官家」の可能性が指摘される。市域では仲島遺跡、塚原遺跡、日ノ浦遺跡、上園遺跡、梅頭遺跡、本堂遺跡、薬師の森遺跡などで集落が展開し、7世紀代まで継続するものが多い。仲島遺跡は集落規模が大きく、多数の掘立柱建物の存在や多量の馬骨・子持ち勾玉などの存在から、拠点的な集落と考えられる。牛頭窯跡群周辺の塚原遺跡、日ノ浦遺跡、上園遺跡、梅頭遺跡、本堂遺跡などは須恵器工人集落と位置づけられる。薬師の森遺跡は一部に渡来人が居住し、鉄器生産・須恵器生産に関わる集落であることが明らかになっており、先述の乙金古墳群との対応関係が確実視できる。

なお、牛頭窯跡群の開始は6世紀中頃に求められ、乙金・四王寺山麓の乙金窯跡・雉ヶ尾窯跡もこれに近接した時期に須恵器生産を開始する。

**飛鳥時代** 7世紀前半代は集落・墳墓ともに古墳時代後期の様相を踏襲する。墳墓で注目すべきは大野城市と福岡市博多区の境界に位置する今里不動古墳で、7世紀前半前後の大型円墳（直径約30m）とされ、御笠川右岸地域盟主墳である。また6世紀後半の比恵遺跡群に展開した大型建物群は那珂遺跡群に移動する。この時期、牛頭窯跡群の須恵器生産はひとつのピークを迎える。また野添窯や月ノ浦窯などでは初期瓦を生産しており、那津官家比定地の那珂遺跡に供給されたことが知られる。牛頭窯跡群周辺では集落の数や住居の数が飛躍的に増加し、牛頭塚原遺跡、日ノ浦遺跡、上園遺跡などは前代から継続する須恵器工人集落と考えられている。

7世紀中頃～後半には、中国・朝鮮半島を含む東アジア世界が激動の時代をむかえる。日本も白村江の戦（663年）で敗戦を経験し、日本史上初の国際的な危機に直面する。これに伴い664～665年にかけて水城・大野城が相次いで築造される。国内情勢でも壬申の乱（672年）が起り、これを機に律令体制に基づく本格的な中央集権国家を形成していくことになる。また大宰府では第1期政庁が成立する。

このような時代背景の中で、市域全体で遺構・遺物の減少が認められる。例えば、薬師の森遺跡では7世紀中頃～後半段階に一時的に遺構・遺物が希薄となる。乙金古墳群では6世紀末～7世紀初頭前後に古墳築造のピークを迎え、7世紀後半にかけて順次築造数が減少していく。また、牛頭窯跡群における窯の数も減少し、一時的に須恵器生産も停滞期を迎える。

**奈良時代** 奈良時代になると律令国家が成立し、九州も大宰府を中心とした支配体制が整い、各地に官衙が設置される。またこの時期には官道も整備され、井相田C遺跡、板付遺跡、那珂久平遺跡や谷川遺跡、先ノ原・春日公園内遺跡などで道路状遺構が確認されている。集落遺跡として市域では仲島遺跡や隣接する井相田C遺跡で掘立柱建物を中心とした集落が展開する。周辺の高畑遺跡は「高畑庵寺」あるいは那珂郡衙の可能性が指摘され、麦野遺跡・南八幡遺跡で大規模な村落が成立し、

御笠川中流域の官道沿いに官衙や村落在展開している景観が復元できる。牛頸窯跡群では8世紀前半に窯の数が増加し、供膳具を中心に大量生産がおこなわれる。この他、本堂遺跡群では村落内寺院と考えられる遺構が確認されている。また、薬師の森遺跡では集落の経営を再開し、鈔金具・ヘラ書き須恵器・越州窯系青磁・製塩土器などの特殊遺物が分布する。鍛冶炉に加え、須恵器窯に関連する遺構もあり、古墳時代に引き続き手工業生産に関わる集落と考えられる。

なお、水城では8世紀前半に門の建て替えがあり、東西門や欠堤部周辺を中心に水城に関わる遺構・遺物が展開する。

**平安時代** 平安時代前半の9・10世紀代は福岡平野全域で遺跡数が減少する。牛頸窯跡群も規模が縮小し、9世紀中頃には操業を停止する。市域の遺跡も減少し、前代に見られた仲島遺跡、井相田C遺跡や支野遺跡の集落も9世紀代に消滅する。9～10世紀代では牛頸月ノ浦窯跡、本堂遺跡、塚口遺跡、中・寺尾遺跡で土坑墓、薬師の森遺跡で土坑墓や掘立柱建物が発見される。

なお、9世紀前半に改称した鴻臚館は対外交渉の窓口として機能し、9世紀後半以降は中国商人の滞在・交易施設となり、初期貿易陶磁器が大量に出土している。

平安時代後半になると、11世紀中頃～後半に大宰府政庁・鴻臚館が廃絶し、かわって博多遺跡群において中世都市「博多」が成立する。律令制は完全に崩壊し、各地で武士が活躍する時代を迎える。市域においては塚口遺跡、森園遺跡、松葉園遺跡で輸入陶磁器を埋納する土坑墓が確認されており、有力者の存在を示す。集落は松葉園遺跡、御笠の森遺跡、宝松遺跡・上園遺跡で確認されている。なお、水城の外濠は平安時代末頃にほぼ埋没し、西門周辺では経塚の形成や棒状土製品など土器生産に関わる遺物が集中することから、律令制の弛緩とともに本来的な役割が終焉を迎えていくこととなる。なお、土師器・瓦器焼成に関わる棒状土製品は、水城西門周辺～上園遺跡・本堂遺跡周辺にかけて濃密に分布し、牛頸窯跡群終焉以降の土器生産の再開を示す。

**鎌倉時代～戦国時代** 市域では御笠の森遺跡、本堂遺跡、石勺遺跡、川原遺跡、薬師の森遺跡などで当該期の遺構が確認されている。薬師の森遺跡では12世紀後半～14世紀にかけての中世墓が多数営まれているほか、集落を囲むと考えられる区画溝やピット群が広範囲に広がっており、比較的有力な集団が存在していたと考えられる。御笠の森遺跡は11世紀後半以降継続して集落が営まれる。16世紀後半～17世紀中頃に多数の方形区画溝が展開し、有力農民層の集落跡と考えられている。

なお、市域には戦国期の山城として乙金の唐山城、牛頸の不動城があるが、未調査のため詳細は不明である。

**近世** 後原遺跡、御笠の森遺跡、雑餉隈遺跡、村下遺跡、川原遺跡、屏風田遺跡などで遺構・遺物が確認されるが、当該期の遺跡の多くは現在の集落域と重複していると考えられる。このうち、市域中央部の後原遺跡は「白木原村」の本村にあたり、屋敷地や墓地在確認されており、地祇神社を中心とした集落景観が復元できる。また、市域東北部の薬師の森遺跡・原口遺跡・古野遺跡では近世～近現代にかけての墓地在展開し、乙金村の集団墓地在位置づけられる。

**近代・現代** 市域東北部の王城山遺跡・古野遺跡・原口遺跡で太平洋戦争時の防空壕跡を調査しており、このうち王城山遺跡のものは規模や遺物の内容から地下疎開工場と位置づけられる。また、市域中央部の野添遺跡では、本土決戦に備え野砲を設置したと考えられる洞窟壕が確認されている。

(上田)

### Ⅲ. 調査の成果

#### 1. 68地点の調査

##### (1) 調査概要 (第3図、図版1)

後田窯跡群68地点は、今回の開発対象地の中でも最も東側にあり、北東側にのびる丘陵の南側斜面に位置する。既存の龍草堂園から工事予定地に入る道に面しており、丘陵北側と東側は既に削平されていた。試掘調査で灰原が確認されたA地点にあたり、発掘調査を実施した結果3基の須恵器窯跡を確認した。

窯跡は、斜面中腹に位置すると考えられるが、斜面上方が既に削平を受けて失われており、詳細は明らかにできない。調査地の東側に最も規模が大きい1号窯跡、1号窯跡と前庭部を共有するように1号窯跡の西側約5mの所には小型の2号窯跡、1号窯跡の北西側約2mには3号窯跡が位置する。

発掘調査では、1号窯跡を中心に広がる灰原を確認し、A～D区に分けて掘り下げを行った。灰原の掘り下げの途中、2号窯跡の煙道と側壁を確認している。調査の結果、68地点からは須恵器が出土し、窯跡以外の遺構は確認できなかった。(石木)

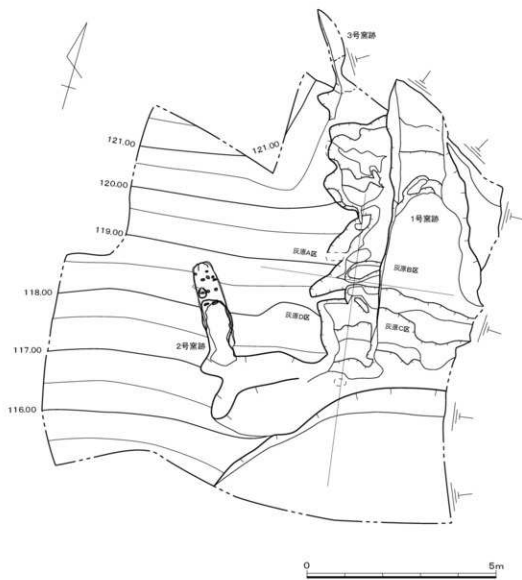
##### (2) 68-1号窯跡 (第4・5図、図版1・2)

1号窯跡は、調査地の東側で検出された。削平により窯体はほぼ失われており、確認できたのは焚口から燃焼部の一部のみである。窯体の残存部は、削平部から床面の傾斜が傾斜変換する地点まで、主軸上で1.5m(註1)、主軸はN-16°-Wをとる。窯体の平面プランは、左側壁の残存部が緩くふくらむことから、胴張りになると考えられる。

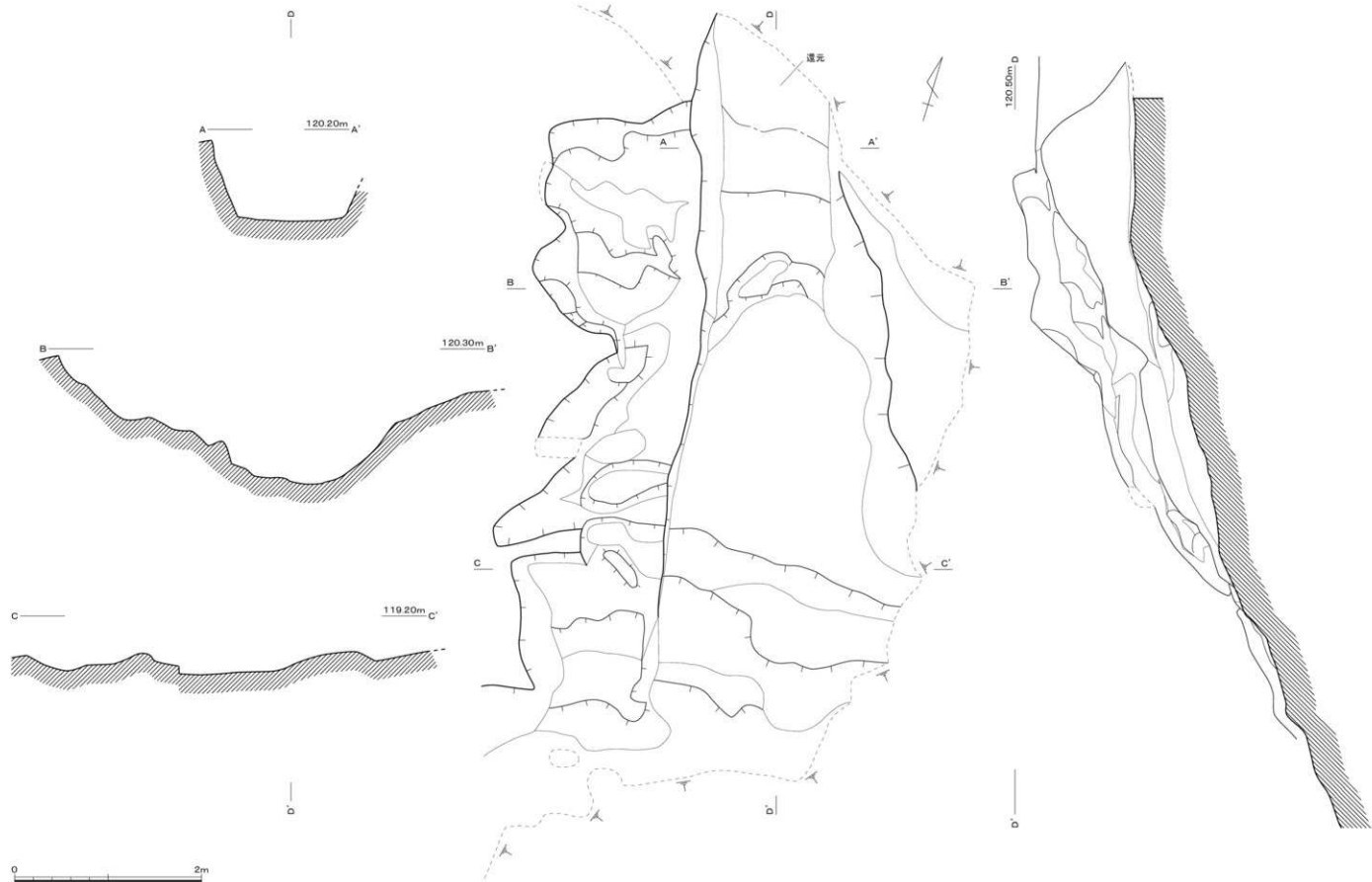
**焚口・燃焼部** 焚口部を傾斜が変換する地点ととらえると、床面幅は1.17m。燃焼部は、床面と側壁が還元または赤く酸化する範囲で、主軸上で削平部から長さ0.85mを測る。床面は、3°焼成部側にむかって下る。燃焼部の床面幅は1.25m、焼成部側は強く還元する。側壁はほぼ直立しており赤く焼ける。このことから、この部分は掘り抜きの天井はないものと考えられる。

**前庭部** 傾斜変換点から20°で斜面下方に下る。長さ4m、幅0.98～2.32mで斜面下方に向かって緩やかに広がっており、断面は浅い鍋底状になる。また、前庭部の西側は幅0.9～1.8mの範囲で不連続に掘り込まれ段状となり、東側も削平され、全形は不明であるが、掘り広げられている。

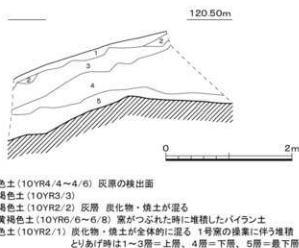
**灰原** 灰原は、おおむね長さ10m×幅5mの範囲で確認することができた。平面で検出した際には、1～3号窯の灰原が重複している状況は確認できなかった。1号窯跡の燃焼部から前庭部にかけて設定した土層からは、床面直上の厚さ10～40cmの灰層(第5図、5層)が確認できた。その上層には、花崗岩パイラン土の堆積が認められ、さらにその上層(第5図、3層)には厚さ20～40cmの灰層を確認した。1号窯跡に伴うものは5層と考えられるが、その上層の3層が1号窯跡の床面のかさ上げを行ったものか、3号窯跡やその他に作られた窯跡に伴うものかは調査では確認できなかった。(石木)



第3图 68地点地形测量图(1/100)



第4图 1号窟跡实测图 (1/40)



第5図 1号窯跡土層断面実測図 (1/60)

### (3) 出土遺物

#### 窯体内埋土最下層 (5層) (第6図、図版17)

**杯蓋 (001~003)** いずれもかえりを有する杯B蓋である。001は天井部が平らで、山形の擬宝珠様のつまみを付ける。天井部外面は回転ヘラケズリ。002・003は天井部が平坦で受部を袋状とする。001とは異形のものである。天井部外面は回転ヘラ切り。いずれも天井部を欠損しているため、つまみが付くか不明である。

**小壺 (004)** 頸部は直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに開く。体部最大径は中位よりやや上位にある。底部外面は回転ヘラ切り未調整である。

**甕 (005・006)** 体部のみの破片である。005は外面は平行タタキ、内面に同心円文当て具痕が残る。006は外面に擬格子タタキ、内面には同心円文当て具痕が残る。

#### 窯体内埋土上層 (1~3層) (第7図、図版17・18)

**杯蓋 (007~018)** 007はかえりを有し、扁平で、天井部外面はヘラケズリを施す。中央に小突起のある擬宝珠様のつまみが付く。008~018はかえりがなく端部を下方に折り曲げる。008~013は天井部が丸味を帯び、014~016・018は天井部が扁平な形態である。017は焼け歪みが著しい。008~018は天井部外面に回転ヘラケズリを施す。008~011・015は擬宝珠様のつまみが付き、008は中央が比較的高く突出している。009~011・015は中央が低く、特に010・011・015は扁平でボタン状のつまみに近い。012~014・016~018はボタン状のつまみが付く。

**杯身 (019~024)** 019は杯G身で、口縁部がやや外傾し直線的に立ち上がる。体部下外面は回転ヘラケズリ、底部はヘラ切り未調整。口縁部と底部との境がやや明瞭である。020~024は杯B身である。020・024は、体部はほぼ直線的に開く。022は口縁部がやや内湾する。023は口縁端部が外反する。020~022は、高台は外へ踏ん張り、やや低い。020・021は底部外面は回転ヘラ切り、023は回転ヘラケズリ。

**皿 (025)** 025は、体部はやや内湾する。口縁端部は肥厚し丸く仕上げる。底部は回転ヘラ切り、

口縁部は内外面とも回転ナデ。口縁部と底部の境は丸味をおび不明瞭である。

**高杯 (026)** 杯部は直線的に外方に開き、脚端部は下方に嘴状につまみ出す。

**壺 (027~030)** 027は口縁部のみで、口縁部内面はわずかに窪む。口縁部外面は強い回転ナデにより段が付く。028・029は高台のみの資料で、高台はハの字状に外方に踏ん張る。030は丸味のある体部下半である。028は、高台が高くわずかに外反し、029・030は、高台はやや低く断面方形を呈する。

**甕 (031)** 口縁部の破片である。頸部は短く、口縁部は端部を肥厚させ、上方につまみ出す。甕部は内外面ともに回転ナデにより仕上げる。

#### 掘下時 (第8図、図版19)

**杯蓋 (032~034)** 032・033はかえりが付く。天井部外面は丸味をおび、受部はやや外反し接地する。032は杯G蓋。つまみが付かず、天井部外面は回転ヘラ切り後ナデ。033は杯B蓋、かえりが口縁端部より短くおさまるもので、天井部外面に回転ヘラケズリを施す。丸味のある天井部中央にボタン状のつまみが付く。034はかえりのないもので、器高が低く扁平な形状である。口縁端部は断面嘴状で下方に明確に引き出し、わずかに内傾する。天井部外面は回転ヘラケズリを施す。ボタン状のつまみが付く。

**杯身 (035・036)** いずれも杯B身である。035は口縁部がやや外反する。高台はやや高く、端部は外方に開き、ハの字状に踏ん張る。体部外面は下半に回転ヘラケズリを施しており、口縁部と底部の境にわずかに稜がつく。036は体部が直線的に開き、高台は低く、ハの字状に踏ん張る。

**穿孔土器 (037)** 外面はヘラケズリ後ナデ、内面は摩滅しており調整は不明である。杯底部に焼成前に穿たれたと思われる穿孔が、現存で1ヶ所認められる。焼成は不良である。

#### 土師器

**甕 (038)** 口縁部の小片である。口縁部は、大きく、くの字状に開く。口縁部内外面にハケメが残る。

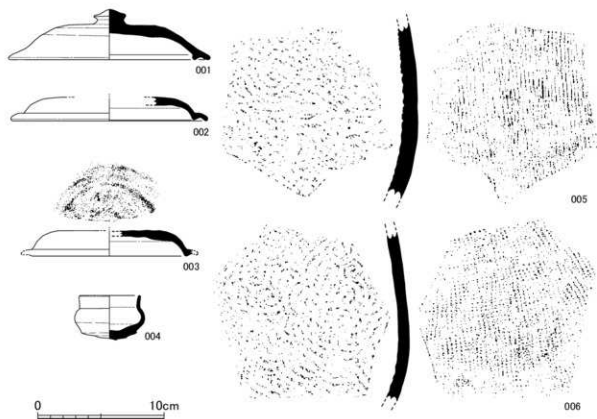
#### 鉄製品

**鉄鍬 (039)** 039は方頭斧箭式鉄鍬である。覆土掘り下げ時に出土し、ほぼ完形の鍬身部の資料であるが、茎部がわずかに欠損する。閼部はなく、鍬身部・茎部ともに断面方形を呈する。鍬身部長8.2cm、刃部長2.5cm、最大厚0.3cmを計る。茎付近に3本の鍬が鑄着したと思われる茎片が確認される。本来は複数本あったと思われる。

#### 灰原A区 (第9・10図、図版19・20)

**杯蓋 (040~045)** いずれもかえりがある蓋で、器高が低く扁平である。040は杯G蓋、他は一応杯B蓋としておく。040・042・044はかえりが受部より下方に出ており、他は焼き歪みが著しく不明瞭である。040・042は、天井部外面は回転ヘラ切り後ナデを施し、042は口縁部外面に手持ちヘラケズリが見られる。041は、天井部外面は回転ヘラ切り未調整で、板状の圧痕が残る。043~045は天井部外面に回転ヘラケズリを施し、擬宝珠様のつまみが付く。つまみは、043・044は中央が突出し、045は乳頭状を呈する。

**杯身 (046~054)** 046~048は杯G身である。046は口縁部をわずかに外反させ、底部は丸味をお



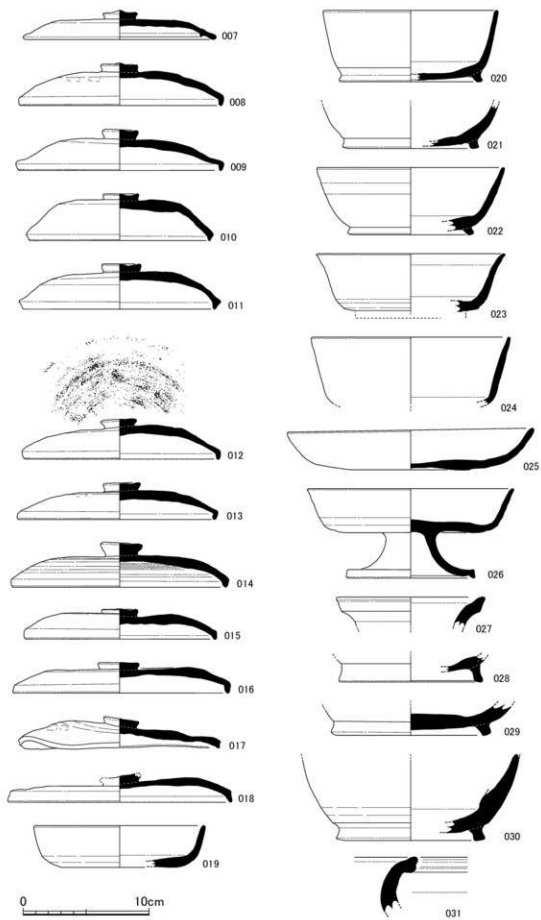
第6図 1号窯跡窯体内埋土最下層（5層）出土遺物実測図（1/3）

びる。体部と底部との境はやや不明瞭である。底部外面は回転ヘラ切り後、ナデを施す。底部外面にヘラ記号と思われる平行する沈線が認められ、6条確認される。047は全体的に丸味を持ち、口縁部は内湾気味に立ち上がり端部をわずかに外反させる。全体的に摩滅しており調整は不明瞭であるが、底部外面に回転ヘラ切り後ナデが見られる。体部外面上半に「×」のヘラ記号が認められる。048は底部が平坦で、体部は屈曲して内湾しながら立ち上がり、口縁部は小さく外反する。底部外面は回転ヘラ切りで、口縁部と底部との境は丸い。049～054は杯B身である。049は器高が低く比較的小型の資料である。体部と底部の境は丸く、口縁部は直線的に外方に開く。高台は尖り気味に外方に開く。050は口縁部は外反する。高台は欠損しているため形態は不明である。051は口縁部が直線的に大きく開き、口縁端部はわずかに肥厚し外傾する。高台は高くハの字状に踏ん張る。052は底部は欠損するが、高台が割かれた痕跡が認められる。口縁部は直線的に外方に開き、端部は細くつまみ出される。053は口縁部を欠くが直線的に外方に開く。高台は高く、ハの字に開き断面方形を呈する。054は底部が穿孔される。穿孔は中央よりやや右にずれており、焼成前に穿たれている。高台はやや低くハの字状に外方に踏ん張る。摩滅が著しく、焼成は不良。050・051は口縁部外面下半まで回転ヘラケズリが施されており、体部と底部の境に穢がつく。

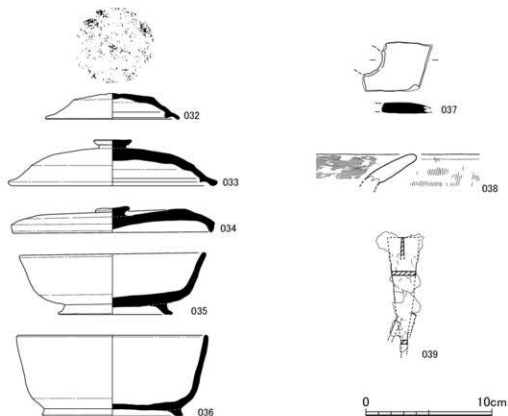
**高杯（055）** 脚部のみ破片で、裾部は水平に引き延ばした後、脚端部を下方に折り曲げ、断面喙状を呈する。

**壺（056・057）** 056は口縁部のみ資料で、頸部は外方に開き、口縁部下で内湾し、端部は直





第7图 1号窯跡窯体内埋土上層(1~3層)出土遺物実測図(1/3)



第8図 1号竈跡掘下時出土遺物実測図(1/3)

立気味に立ち上がる。瓶類の可能性もある。口縁部外面に2条の沈線を施す。口縁端部は丸く仕上げられる。057はミニチュア様である。口縁部は直線的に外方に開く。全体に回転ナデを施すが、口縁端部外面を強くナデることにより段がつく。

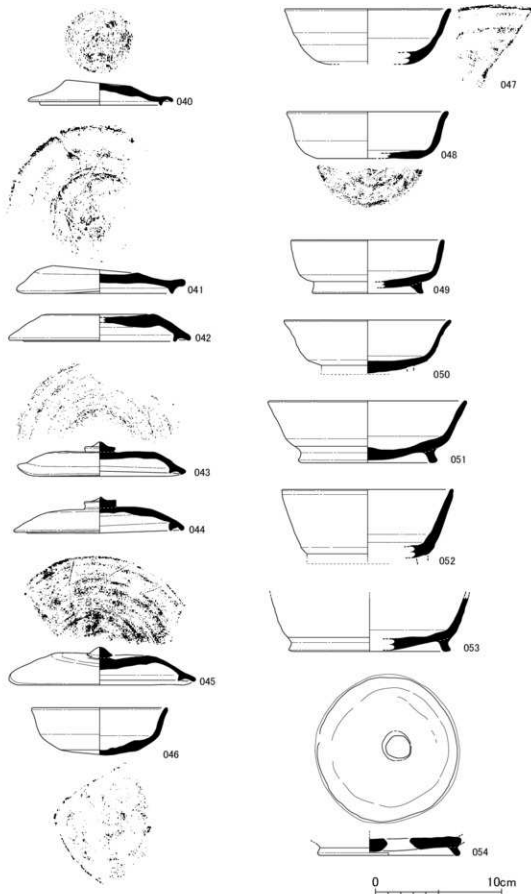
**鉢 (058)** 体部は内湾し、中位からさらに内湾して口縁部にいたる。口縁端部をつまみ出しわずかに外反させる。底部は丸味のある平底をなす。体部下半～底部外面にかけて回転ヘラケズリを施し、底部内面は当て具痕が残存する。口縁部外面に1条の沈線を施す。

**甕 (059)** 口縁部だけの破片で、口縁端部下に断面三角形の突起を1条巡らせ、沈線を口縁端部に1条、突起下に2条施す。2条の沈線下に細かい波状文が巡る。

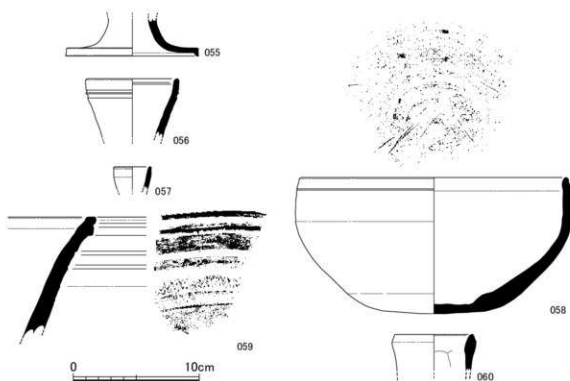
**不明土器 (060)** 口縁部だけの小片である。端部は肥厚し、直立する。体部外面はナデを施し、体部内面下半はユビオサエで成形する。

#### 灰原B区(第11・12図、図版20～22)

**杯蓋 (061～076)** 061～063は杯G蓋、064～076は杯B蓋。062・063～066・068・071・072は天井部から口縁部にかけて丸味をおびながら下り、天井部は丸い。061は焼き歪みのせいか、中央がやや凹む。061・062は、かえりが口縁端部より下方に突出しており、063～072はかえりが口縁端部より下方に出ない。067は焼き歪みが激しく変形が著しい。小型でつまみが付く。つまみの形状は、乳頭状に近く端部を丸くおさめる。061～066は天井部外面に回転ヘラ切り後ナデが施され、067～072は天井部外面に回転ヘラケズリを施す。069・070は天井部が平坦で受部にかけて丸味をおび、



第9图 1号窯跡灰原A区出土遺物実測図①(1/3)



第10図 1号窯跡灰原A区出土遺物実測図②(1/3)

扁平な形態である。いずれも擬宝珠様のつまみが付く。068～071はつまみの形状はほぼ同じで、扁平で中央が少し突き出す。072のつまみは全体が山形に盛り上がる形態である。073～075はかえりのつかない蓋である。073は天井部から口縁部まで平らに近く、口縁端部を下方につまみ出し断面三角形を呈する。宝珠様のつまみが付き、やや扁平だが中央部が小さく突き出す。074は天井部と体部の境は屈曲し、端部をつまみ出し断面三角形を呈する。075は扁平な形態で口縁端部をわずかに下方に突出させ丸くおさめる。いずれも天井部外面に回転ヘラケズリを施す。076は天井部と体部の境は屈曲し天井部は平坦である。天井部外面は回転ヘラケズリを施し、高さのある特徴的な宝珠様のつまみを持つ。口縁部を欠き、口縁端部の形態は不明だが、大型のもので、通常の杯B蓋とは異なるものと考えられる。

**杯身(077～093)** 077～080は杯G身である。081～084は底部が突出し、体部と底部の境に稜を有するなど通常の杯G身とは異なっている。077は、底部は平らで口縁部は外反する。底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。底部外面にはヘラ記号が認められる。078は、体部は内湾気味に短く立ち上がる。口縁部は肥厚し端部を丸くおさめ、体部と底部との境は丸い。底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。079は平底の底部から体部は、直線的に外方へ開き口縁部にいたる。底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。080は底部がやや丸みをおび、体部は大きく外方へ開き、口縁部はわずかに外方へ開く。体部と底部との境は不明瞭である。底部外面は回転ヘラ切りが施され、底部外面に簾状の圧痕が残る。081～083は径14～15cmほどのほぼ同型のものである。体部は直線的に外方へ開き、底部はやや尖り気味で丸みをおびる。口縁部と底部との境は屈曲し明瞭である。いずれも、底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。084は、口縁端部はわずかに外反する。085～092は杯

B身である。085は口縁部が大きく外反する。高台は低く断面方形を呈する。086は口縁部は外反し、端部は肥厚し丸くおさめる。高台は低く断面方形を呈する。087・090・091は底部は丸く、丸みを持って体部にいたる。口縁端部は外反する。いずれも高台は高くハの字状に踏ん張る。088は底部の丸みは少なく、体部は外方に開き、口縁部はわずかに外反する。底部には、高台が剥がれた痕が見られ、図上で復元した。089は、体部は直線的に開き、高台は低く断面方形を呈する。092は底部は丸く、体部は外反しながら開く。底部には、高台が剥がれた痕跡が見られ、図上で復元した。093は杯身の小片で、全形は不明である。底部は回転ヘラ切り後ナデ。体部と底部の境は丸くなる。

**高杯 (094~097)** いずれも脚部から裾部にかけて大きく外反し、ラッパ状に開く。094は脚端部を下方につまみ出し、断面三角形を呈する。095~097は脚端部を下方に折り曲げ、095・096は断面嚙状を呈し、097は脚端部を折り曲げ、外面に三角形の突出を作り出すことで沈線状とする。

**壺 (098~100)** 098は口縁部の断片である。口縁部はゆるく外反し、強い回転ナデにより口縁部端部外面に断面三角形を呈するわずかな段を作り出す。099は頸部が直線的に外へ開き、口縁部は短く内湾し端部を丸く仕上げ。瓶類の口縁部か。100は小型の壺か。球形に内湾する体部の端部を短く外上方へつまみ出している。内外面回転ナデで、内面は降灰のためか黒色化している。

**甕 (101・102)** 101は頸部が短く直立した後、ゆるく外反して口縁端部にいたる。口縁部は外傾する小さな平坦面をなす。口縁部外面には回転ナデにより断面三角形を呈する小突起を作り出す。体部外面に擬格子タタキ、内面に同心円文当て具痕が残る。102は頸部からゆるく口縁部に向かって外反し、端部は丸くおさめる。胴部外面に擬格子タタキ、内面に同心円文当て具痕が見られる。

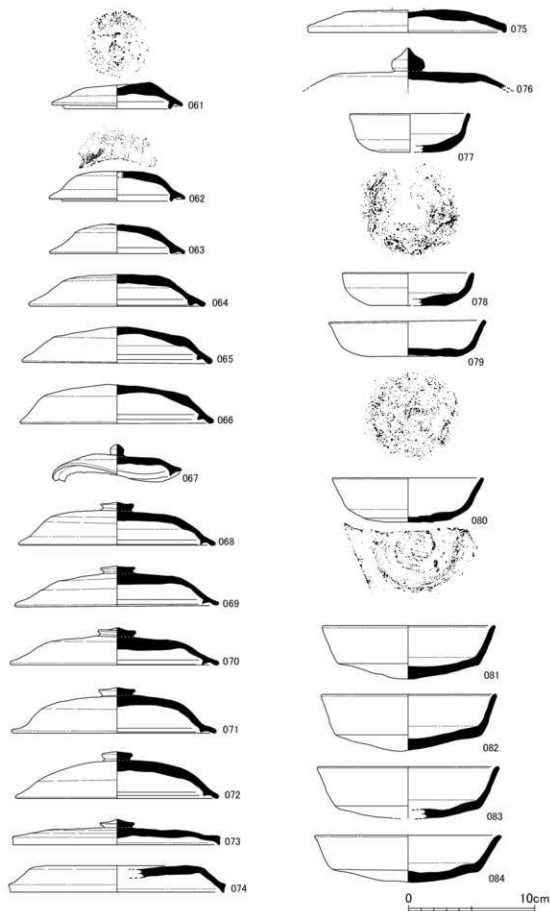
#### 土師器

**甕 (103)** 口縁部から体部上半の資料で、口縁部は大きく直線的に外方に開き、端部を丸く仕上げ。体部は直線的に開く。体部内面はヘラケズリにより口縁部との境に稜がつく。口縁部内面及び体部外面にはハケメが見られる。

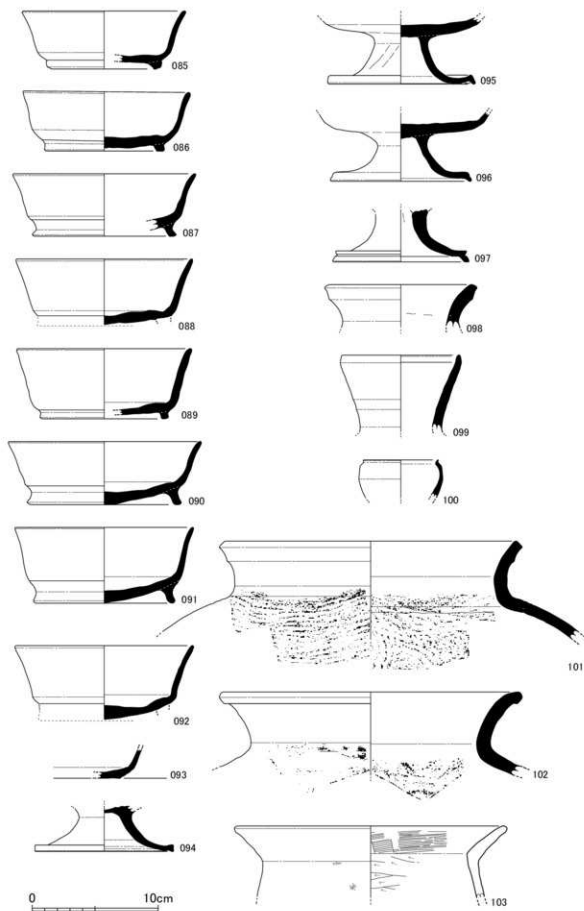
#### 灰原C区 (第13~15図、図版22~24)

**杯蓋 (104~117)** 104~107は杯G蓋、108~116は杯B蓋、117は杯H蓋である。104~107・109は扁平で、天井部は平坦になる。104・110~116は天井部から受部にかけて丸味をおび、扁平に近い形状である。106・108~110・112~116はかえりが口縁端部より下方に出ており、他はかえりが短い。104~111は天井部外面は回転ヘラ切り、112~116は天井部外面に回転ヘラケズリを施す。112~115は擬宝珠様のつまみを有し、112は高い乳頭状を呈す。113~115のつまみは中央が盛り上がり、山状をなす。116は中央が凹み、低く扁平なボタン状のつまみが付く。117は天井部は丸みを持ち、口縁部はやや開く。天井部外面は、1/3ほど回転ヘラケズリし、後ナデを施す。口縁部内面は強い回転ナデにより凹線状をなす。

**杯身 (118~129)** 118~123は杯G身である。118・119は口縁部が外反し、口縁端部を丸くおさめる。体部と底部との境は丸く、底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。119は体部と底部の境を回転ヘラケズリする。120は体部は直立気味に立ち上がる。体部と底部との境は丸く、底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。121~123は体部は外方に開き、口縁部はやや外反し、端部を丸くおさめる。底部はやや丸味を持つ。121・122は底部外面に回転ヘラ切り後ナデを施す。123の底部外



第11图 1号窑跡灰原B区出土遺物実測図①(1/3)



第12图 1号窯跡灰原B区出土遺物実測図②(1/3)

面は回転ヘラ切り後未調整である。口縁部との境を回転ヘラケズリし、わずかに稜を作り出す。124は底部の破片資料で、大型のものと考えられる。底部は丸く、比較的肉厚で、鉢と考えられる。底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。125～129は杯B身である。126は体部は丸味を持って立ち上がり、口縁部は外反する。焼き歪みがあり、形状がいびつである。125・128・129は体部が直線的に外方に開く。127は体部は丸みをおびながら外方に開き、口縁端部はわずかに外反する。125は内外面に降灰があり、歪みが見られる。129は焼成不良で器面の摩擦が著しい。いずれも高台は高く、ハの字状に外に広がる形態である。

**高杯 (130・131)** 130は杯部は直線的に外方に開く。脚部は外方に開き、端部を丸くおさめる。脚部には3条の沈線が巡り、杯底部外面および脚部上半にはカキ目を施す。131は脚部下半の破片資料である。裾部は大きく外反し、端部を下方へ折り曲げ、断面嘴状を呈する。また、端部外面上半は突出し、段を有する。

**壺蓋 (132)** 132は杯G蓋。体部は厚く、口縁部は端部の内角を小さく引き出して、かえり風としている。天井部外面は回転ヘラ切りし、ヘラ記号を有する。

**甕 (133・134)** 133は大きく外方に開く。口縁端部は平坦に仕上げられ、口縁部下に断面三角形を呈する突帯を2条巡らせる。頸部外面上半はカキ目、下半は波状文を施す。134は口縁部へ向かって直線的に外方へ開き、端部を平坦に仕上げる。口縁端部下に断面三角形の突帯を貼り付ける。外面は口縁下に2段の段差をつくり、波状文を巡らせ、下位に沈線を1条巡らす。沈線の下位にはカキ目を施す。

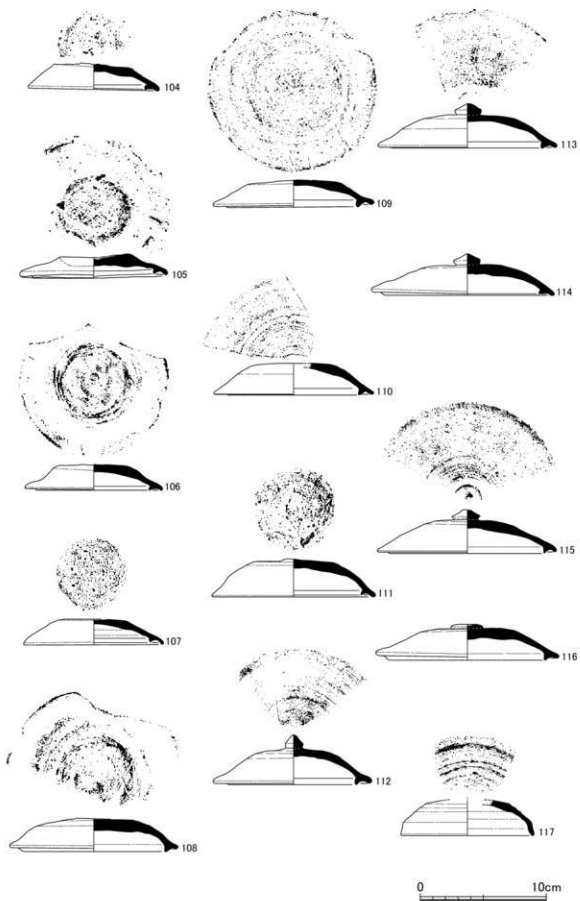
**穿孔土器 (135)** 扁平な土器片で焼成前穿孔が2ヶ所認められる。表面は板状工具によるナデを施し、裏面はナデ。穿孔を囲むように丸く沈線が巡らされるが、ヘラ記号か、穿孔の目安として施したかは不明である。焼成は良好である。

#### 灰原D区 (第16図、図版24・25)

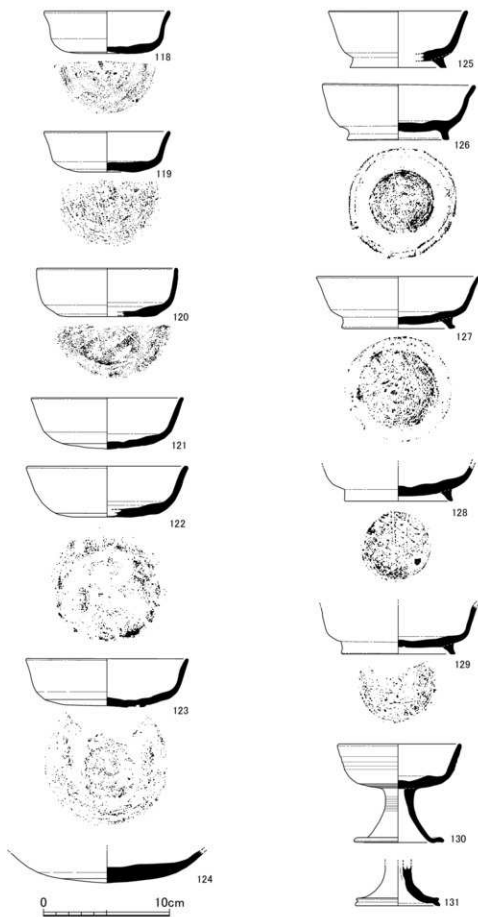
**杯蓋 (136～142)** いずれも杯B蓋でかえりを有する。136・137は扁平で、天井部はわずかに丸味をおびるが平らに近い。136はかえりが口縁端部よりわずかに下方に出ているが、137は口縁端部が受部よりも上方にある。焼き歪みによるものなのか、意図したものなのかは不明である。天井部外面は回転ヘラ切り後ナデが施される。138～142は天井部が全体的に丸味をおびる。138・141は天井部から口縁部にかけて丸味をおびドーム状を呈する。139・140・142は天井部から口縁部にかけて丸味をおび、天井部は平坦である。138・142はかえりが受部よりも下方に突出し、他はかえりが受部よりも内にあり、受部が緩地する。いずれも天井部外面は回転ヘラケズリ。擬宝珠様のつまみをつけるが、138・139・141・142は高く乳頭状を呈し、139はやや低く山形を呈する。140は扁平で中央部を突起させる。

**杯身 (143～148)** 143～145は杯G身である。いずれも体部は直立気味に立ち上がり、口縁部は外反する。144は全体の器壁が厚い。145は底部に丸味をもつ。いずれも底部外面を回転ヘラ切り後ナデしており、内面は回転ナデを施した後、一部をナデる。146～148は杯B身である。146・147は体部は大きく開いた後に口縁部は外反する。高台は高く外方に開き、ハの字状に踏ん張る。146は体部下半に回転ヘラケズリを施しているため、底部との境に稜をなし、底部は焼成前に1ヶ所穿

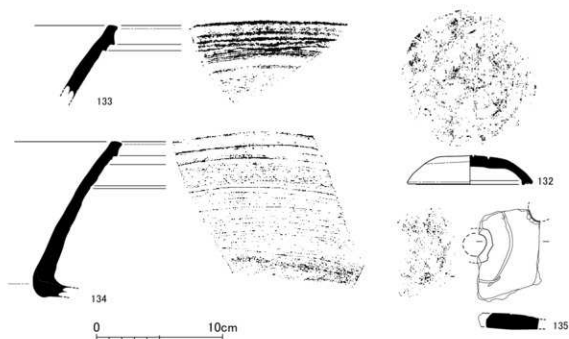




第13图 1号窑址灰原C区出土文物实测图①(1/3)



第14图 1号窯跡灰原C区出土遺物実測図②(1/3)



第15図 1号窯跡灰原C区出土遺物実測図③(1/3)

孔されている。148は体部が直線的に伸び外傾する。高台は直立気味で端部を少し外方へはねる。口縁部と底部との境は回転ヘラケズリにより、稜をなす。

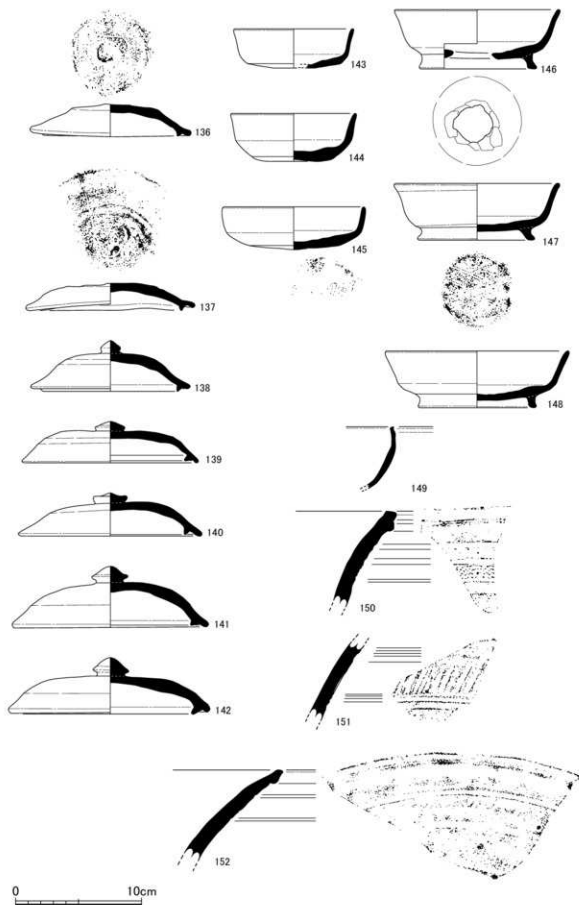
**鉢 (149)** 体部は内湾しながら立ち上がり、口縁端部を外方に短くつまみ出す。体部下半は回転ヘラケズリ、その他は回転ナデを施す。口縁部は強い回転ナデにより外面に稜が入る。全体の器壁は薄い。

**甕 (150~152)** いずれも口縁部のみである。150は大きく外方に開き、口縁端部上面を平らに仕上げる。口縁部下には、断面三角形の突帯を貼り付け、3条の沈線を巡らし、中・下段の沈線の間には細かい波状文を入れる。151は口縁部を欠く。外面は連続斜線文を施し、上下に2条ずつ沈線を巡らす。152は口縁部に向かって開き、口縁端部を薄く仕上げる。外面は断面三角形の突帯を施し、2条の沈線の間には粗い波状文を施す。頸部外面に擬格子タキキ痕が残る。

灰原(第17図、図版25)

**杯蓋 (153~155)** いずれも杯B蓋で、かえりを有する。153はやや丸味をおびる形態で、天井部は平坦である。かえりは受部内におさまり、受部が接地する。天井部外面はヘラ切り未調整で、中央に焼成前に穿孔を1ヶ所穿つ。154・155は002・003と同様の形態を示す。天井部が平坦でかえりを大きく折り曲げ、さらに外に湾曲させ受部を袋状とする。天井部外面に回転ヘラ切り痕を残す。いずれも天井部中央を欠損しているため、つまみが付くか不明である。

**杯身 (156~161)** 156・157は杯G身である。156は体部が直線的に外方に開く。157は口縁部が外反する。158は杯。底部が平坦で、大きく外反し口縁部にいたる。156・158は底部外面は回転ヘラ切り後ナデ、157はヘラ切り未調整である。159~161は杯B身である。159は体部をS字状に屈曲させ口縁部は外反する。高台は高く、ハの字状に踏ん張る形態をなす。160は体部中位から外反



第16图 1号窯跡灰原D区出土遺物実測図(1/3)

する。底部に高台の刻かれた痕跡が認められる。161は体部が外方に直線的に開き、杯部は深い。高台は低く、端部を外方に引き出し突出させる。

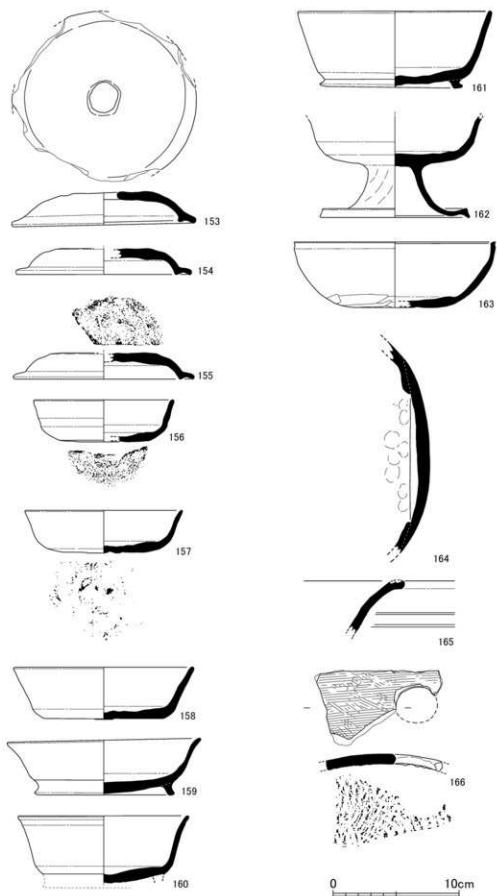
**高杯 (162)** 口縁端部を欠くが、杯底部から内湾気味に立ち上がり中位から外反する。脚部はラッパ状に開き、脚裾部は横方向へ引き出し、端部は下方に折り曲げ、断面嘴状を呈する。杯底部外面には回転ヘラケズリが施され、脚柱部にシボリ痕が見られる。

**鉢 (163)** 体部は内湾し、口縁端部近くで上方へ立ち上り、端部は内傾する。底部は平底で、外面は回転ヘラ切り後ナデ、内面は回転ナデ後不定方向のナデを施す。底部と体部との境付近は手持ちヘラケズリされる。

**横瓶 (164)** 体部の破片で閉塞部分の資料である。外面はナデ調整、内面貼付け部にユビオサエが残る。

**甕 (165)** 口縁部は大きく外反し、端部はやや肥厚し丸くおさめる。外面に2条の沈線を施す。

**穿孔土器 (166)** 焼成はやや不良で、甕体部片と考えられる。現存で1ヶ所穿孔が確認される。表面はハケメを施し、裏面は同心円文当て具痕が見られる。(藤島)



第17图 1号窯跡灰原出土遺物実測図(1/3)

## (4) 68-2号窯跡 (第18図、図版2)

2号窯跡は、調査地のほぼ中央で検出された。灰原を検出した際には確認できなかったが、掘り下げ中に排煙口と側壁を確認し、窯跡の存在が明らかになった。窯体は焼成部下方の天井が失われていたが、ほぼ完存に近い。窯体は右側壁の焚口部がオーバーハングしており、この部分で測ると全長2.77mである。しかし、左側壁では2.33mとなり、オーバーハングする状況は認められない。このため、どこを焚口部とするかは難しいが、とりあえず右側壁の部分とし、全長は2.77mとしておく。主軸はN-30°-Wをとり、平面プランは長方形に近く、焼成部中位でややふくらむ。排煙口は、窯体中央部のやや左側にあげられている。奥壁より直上には、径27cm、高さ10~20cmほどの円孔が上方に掘りかけられており、奥壁に沿って煙道を掘りぬこうと試みたようであるが貫通していない。窯体内はよく焼けており、燃焼部と焼成部の境にあたる傾斜変換点から焚口側では、床のかさ上げが行われている。また、焼成部下位の床面直上には、須恵器杯蓋・杯身・杯・甕が置かれていた。杯蓋・杯身が多く、隙間なく4~5段伏せて置かれている。完形品は少なく、多くは破片であることから、焼成後、集められたようである。2号窯跡に伴う灰原は確認することができなかったが、1号窯跡灰原D区の一部にあたると思われる。ただし、あまり厚くはなかったようである。

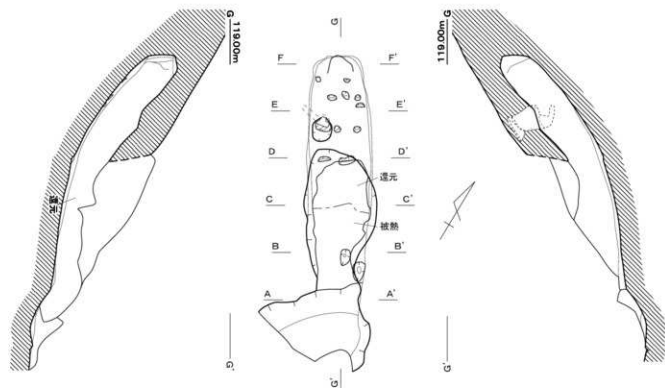
**焚口・燃焼部** 燃焼部の最終床面は、最も幅が狭い焚口部で48cm、焼成部との境で60cmである。長さは1.18mで、当初床面に炭や焼土を含んだ土を3~15cm程度かさ上げし、前庭部まで埋めている。最終床面の傾斜角度は4°である。当初操作時の床面は、最も幅が狭い所で48cm、焼成部との境で0.6mである。長さは0.88mで、最終床面より30cm短い。当初床面の傾斜角度は5°である。床面は被熱しており、焼成部境より奥壁側は還元している。

**焼成部** 焼成部の床面は中位で0.65mと最もふくらんでおり、窯尻に至ると幅45cmとなる。焼成部の長さは1.57m、床面の傾斜角度は、13~40°と窯尻に行くにしたがい急になる。床面には、長さ4~8cm、幅4~17cmのくぼみが4列9個確認できる。焼成部には、貼床は確認できなかった。窯内の高さは、煙道が開けられている所が最大で50cm、奥壁側で34cmである。

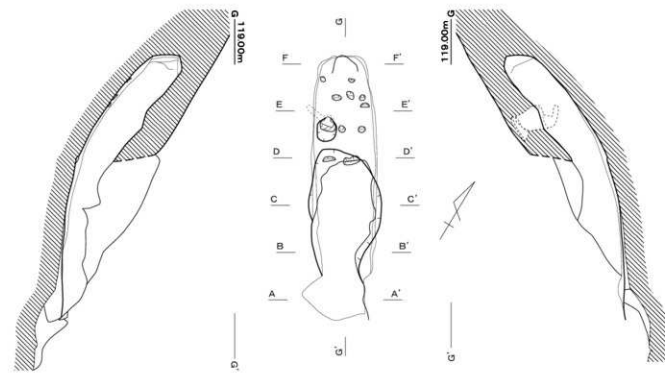
**排煙部** 焼成部中位やや左側に、平面プランが楕円形の排煙口をあげている。排煙口で径20~26cm、中位で径11~18cm、焼成部側の入口で径15cmである。煙出口と取り入れ口はしっかりと焼結しているが、側壁は大きくくえられており、通常の直立煙道窯のような状況ではなかった。煙道の長さは33cm、排煙口からやや掘り下げたところからは、須恵器片が出土した。

**前庭部** 窯体の前面部を、長さ0.94m×幅1.1mで方形に近く掘り込んでいる部分を前庭部とした。平坦面をもち、当初の操作時には機能していたと考えられるが、最終操作時には埋められている。

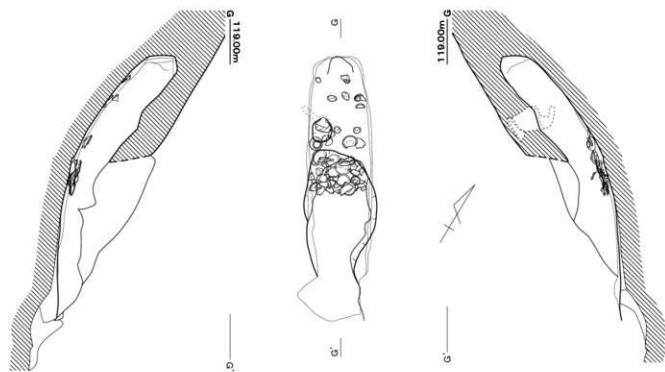
(石木)



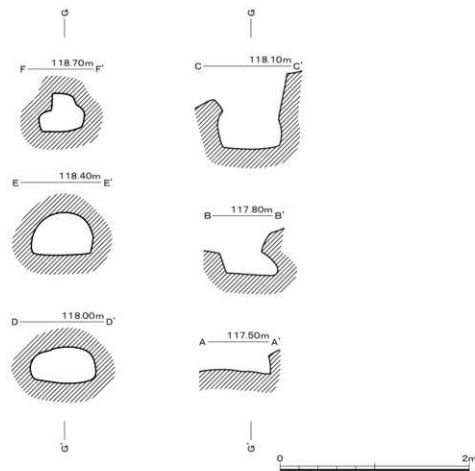
據業当初床面様出状況



最終據業床面様出状況



最終床面遺物出土状況



第18图 2号窟跡実測图 (1/40)



## (5) 出土遺物

### 床面 (第19・20図)

**杯蓋 (167～194)** 183・184は口縁部を欠くので不明だが、他はかえりを有する蓋である。168・171・172・174～181・185は丸味があり、天井部はドーム状を呈する。167・169・170・173・189は扁平な形状で、天井部はやや平坦である。170はかえりが口縁部より下方に出ており、167～169・170・172・173・175～182・185～194は口縁部よりかえりがわずかに下方に突出する。171・174は短いかえりを有する。167～169・171～184は天井部外面に回転ヘラケズリを施し、170は天井部外面に回転ヘラ切り後回転ナデを施す。170・171・173・175・177～179・181・183・184は擬宝珠様のつまみが付き、中央が高く山形をなす。

**杯身 (195～205)** 195～201は杯B身である。202～205は体部下欠損のため不明である。195は体部が丸味をおび、口縁部との境で屈曲し口縁部はゆるく外反する。196は底部のみの資料で、外へ突き出すように開く高台である。底部外面にヘラ記号をつける。197・198も高台のみの資料だが、197の高台は厚く、198の高台は薄手である。いずれも外へ踏ん張る形状である。199～202は体部のみの資料である。丸味をおびながら、やや外反し立ち上がる。199は体部下半に回転ヘラケズリを施すため体部中位下に稜をなす。201は体部下半が内湾し、中位からゆるく外反する。202はS字状に屈曲しながら外反する。器壁が薄く、内外面とも回転ナデを施す。203・205は屈曲しながら外反する口縁部である。203は体部下半に回転ヘラケズリを施す。204は厚手で丸味をおび、内湾気味に外方に傾く口縁部である。

**甕 (206)** 体部下半の破片資料であり、形状から底部に近いと思われる。外面に、格子目タタキ痕が残る。内面は同心円文当て具痕が残る。

### 窯体内 (第20図)

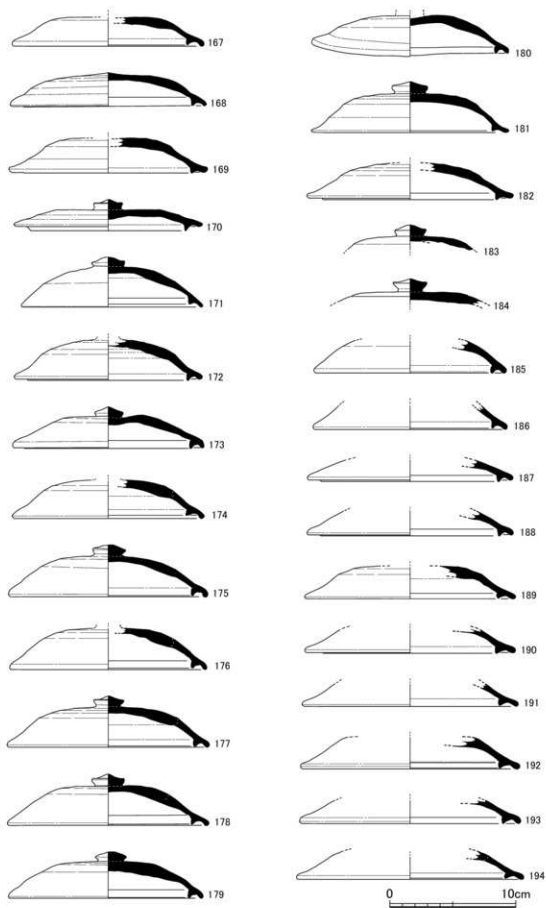
**杯蓋 (207～209)** かえりを有する杯B蓋である。207・208は天井部から受部にかけて丸味をおび、ドーム状を呈する。209は焼け歪みがあり、やや扁平な形態であるが、天井部は直線的である。207・208はかえりが受部より下方にわずかに出ており、209は受部が接地する。207～209は天井部外面に回転ヘラケズリを施す。208はボタン状に近い山形のつまみが付き、内面は回転ナデ後ナデを施す。207・209はやや尖り気味の擬宝珠様のつまみで、中央が高く山形を呈する。

**杯身 (210～214)** いずれも杯B身である。210・211は口縁部が直線的に外方に開く。212は口縁部が直線的に立ち上がり外傾する。213・214は体部中位で屈曲しながら外反する口縁部である。210・211・213・214の高台は高く、いずれも端部を屈曲させ外へ引き出し突出させる。212は断面方形の低い高台が直立する。

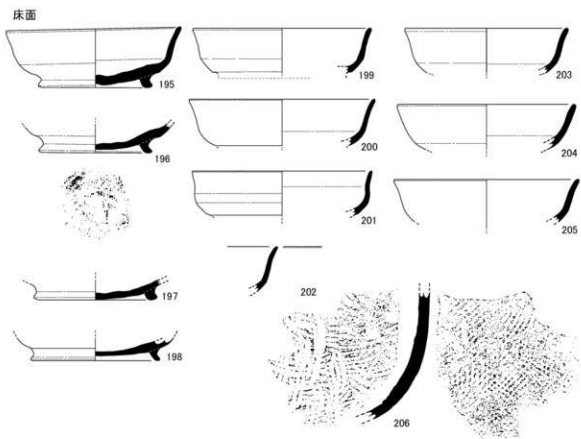
**高杯 (216)** 器壁が厚く、ゆるやかに開いて短い脚裾部にいたる。脚裾部は回転ナデにより下方にわずかに突出させる。

### 煙出奥部 (第20図)

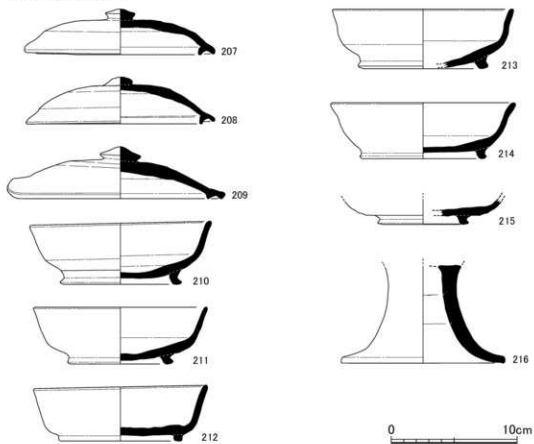
**杯身 (215)** 杯B身である。高台は平坦な底部の中心付近に寄る。口縁部を欠くが、底部との境は回転ヘラ切り後回転ナデを施す。高台は端部を短く引き出し突出させる。(藤島)



第19图 2号窟跡床面出土遺物实测图(1/3)



竈体内・煙出奥部埋土



第20图 2号竈跡床面・竈体内・煙出奥部埋土出土遺物実測図(1/3)

## (6) 68-3号窯跡 (第21図、図版2)

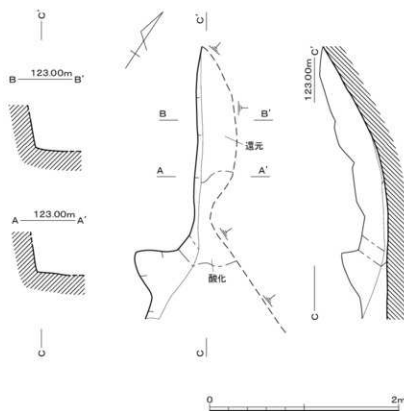
3号窯跡は、1号窯跡の窯体内の埋土除去中に確認された。前庭部から焼成部の一部が残っていたが、ほとんどは削平により失われている。窯体の残存長は、被熱部分から測って2.35m、残存幅は35cmである。主軸は正確には分からないが、左側壁の延長方向を参考にとると、N-33°-Wとなり、2号窯跡と同じような方向をとる可能性が高い。窯体内は強く還元している。

**燃焼部** 燃焼部は、床面と側壁が還元または赤く酸化する範囲で、残存長は1mである。床面はほぼ水平で赤く酸化しているが、側壁は強く還元する。

**焼成部** 床面及び側壁は強く還元している。残存長は1.35m、残存幅は35cm。傾斜角度は17~28°である。

**前庭部** 燃焼部の被熱範囲からハの字にゆるく開く部分にあたり、残存長は0.59mである。

**灰原** 1号窯跡の土層観察によれば、1号窯跡と重なるように他の窯が作られている。灰層の厚さは最大40cmで生産量も相当あったと考えられる。この灰層が3号窯跡に伴うかどうかは明らかにできないが、灰原の厚さを考えると複数の窯が営まれた可能性もある。(石木)



第21図 3号窯跡実測図 (1/40)

## (7) 出土遺物 (第22図)

**杯蓋 (217)** 天井部は平坦な形態を呈する。天井部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。口縁部を欠くため全様は知れない。わずかに中央が隆起するボタン状のつまみを有する。

**杯身 (218)** 杯B身である。口縁部は直線的に立ち上がりゆるやかに外へ開く。高台は低く断面方形である。焼き歪みが著しい。(藤島)



第22図 3号窯跡出土遺物実測図(1/3)

## (8) 出土遺物の数量

表1 68地点出土遺物重量表

種別名	器種別																土師器		焼成品	合計
	杯蓋	杯身	壺	蓋	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	鉢	土師器	土師器		
68地点	1号窯	0.840	1.540	2.100	0.380	2.100	0.000	0.000	0.200	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	27.281
	2号窯	3.220	4.440	4.320	0.700	2.760	0.7	2.220	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	27.760
	3号窯	0.000	2.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	3.000
	4号窯	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	5号窯	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	6号窯	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	7号窯	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	8号窯	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	9号窯	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	10号窯	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
合計	18.620	32.472	15.880	0.2810	17.200	1.080	7.080	0.280	0.180	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	196.828
%	8.1%	18.3%	8.8%	0.1%	8.8%	0.5%	3.8%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

68地点の出土重量総量は196.828kgを測る。器種別にみると、甕は全体の重量比で44.2%と、半数近くを占める。次いで蓋が32.6%、杯14.7%である。このほか、皿や高杯、壺類等も出土しているが先述の3器種に比べると量は少なく、本地点では蓋・杯・甕が全体の91.5%を占め、これらの上に特化した点も考えられる。また、甕の1個体あたりの完存時の重量が蓋や杯に比べはるかに大きい点を考慮すると、蓋と杯の全体に占める割合から、両者の個体数が圧倒的に多かったことを物語る。さらに、杯、蓋は量法が近似することから、両者の生産時の損耗率が同じだと仮定すると、上記の割合は、そのまま個体数の割合を示していると考えられ、甕1に対し、単純に杯・蓋はこの3倍の量が生産されていたと考えられる。(稗田)

## (5) 小結

68地点では3基の須恵器窯跡が確認された。削平により明らかにできないが、窯跡の数はさらに多かった可能性もある。3基の窯跡のなかで最も早く作られたのは1号窯跡である。1号窯跡に伴うと考えられるのは5層出土遺物であり、Ⅵ期にあたる。また、灰原出土遺物を見ていくと、杯Gに加え、少量ながら杯Hが含まれている。このことから、1号窯跡はⅤ～Ⅵ期にあたり、杯蓋・

杯身・高杯に加え大甕も焼かれている。

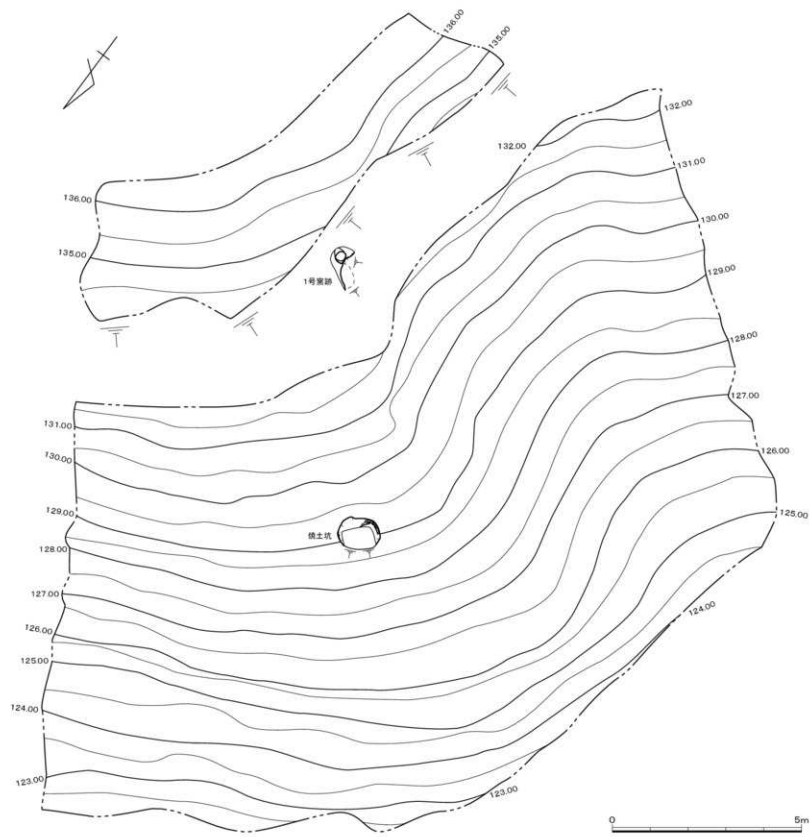
2号窯跡は、窯内の出土遺物はⅥ期にあたる。杯蓋・杯身・高杯が出土しており、窯の廃棄時に集めて置かれたものと考えられる。窯体の構築にあたっては、直立煙道を焼成部中位にあける特異な形態をとっている。こうした事例は他になく、後田61-Ⅱ号窯跡のように奥壁よりやや焚口側の窯体の最高所に煙道を開けるものがあるくらいである。排煙口が窯体の最高所にないと、火の引きが悪く、窯内の温度が十分に上がらず、効率の悪い操業になると考えられることから、長期間操業されたと考えることはできない。

3号窯跡の出土遺物はⅦB期にあたる。しかし、1号窯跡窯体内埋土1～3層の出土遺物はⅦA期のものが主体を占めており、ⅦB期に下るものはない。窯体の残存状況が極めて悪いことからこれ以上明らかにすることはできないが、1号窯跡に後出する複数の窯があったと考えておきたい。

上記のことから、68地点ではやや規模の大きな1号窯跡が最初に操業され、後に2・3号窯跡の操業が行われる。2・3号窯跡の前後関係について、遺構からは明らかにできないが、遺物から1→2→3号窯跡の順で操業されたと考えられる。

(石木)

註1 須恵器窯跡の部位名称と計測箇所と編年については、舟山良一・石川健2008『牛頭窯跡群Ⅰ』大野城市文化財調査報告書第77集に従う。



第 23 图 69 地点地形测量图 (1 / 100)

## 2. 69地点の調査

### (1) 調査概要 (第23図、図版2)

後田窯跡群69地点は、今回の開発対象地の中央部の丘陵西側斜面に位置する。試掘調査で窯体が確認されたB地点にあたる。窯体は作業道により大きく削平されていたが、発掘調査の結果、須恵器窯跡1基と焼土坑1基を確認した。

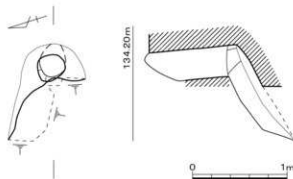
窯跡は、斜面上方に位置しており、土坑はその斜面下方で確認された。焼土坑の側壁は、一部還元もしくは被熱を受けて赤く焼けている。発掘調査では、それぞれ掘り下げを行い、1号窯跡、焼土坑からはそれぞれ須恵器が出土した。

### (2) 69-1号窯跡 (第24図、図版2)

1号窯跡は、調査地の上方にあたり、作業道の掘削範囲で確認された。削平により窯体はほぼ失われており、確認できたのは焼成部から奥壁・煙道部のみである。窯の構造は直立煙道窯で、主軸はN-108°-Eをとる。窯体の残存長は最大0.77m。左側壁はややふくらむことから、胴張りプランをとると考えられる。

**焼成部** 焼成部は、床面は奥壁側は丸く、残存部で長さ最大0.77m、幅0.7mを測り、傾斜角度は30°である。室内は還元しており、貼床・貼壁は確認できなかった。

**排煙部** 焼成部奥壁からやや内傾し、直立煙道である。排煙口は径26~32cm、焼成部側の入口は27~35cmの円孔で、煙道の長さは0.5~0.72mで円筒状を呈する。貼壁は確認できなかった。



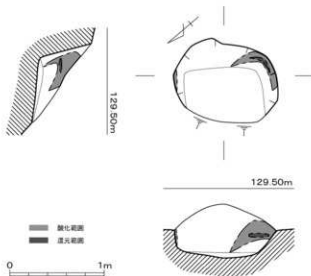
第24図 1号窯跡実測図 (1/40)

### (3) 出土遺物 (第26図、図版25)

#### 1号窯跡

**杯蓋 (219・220)** いずれも扁平な形態で、天井部が平坦である。口縁端部外面は強い回転ナデにより段を有し、端部は下方に引き出し丸くおさめる。天井部外面は回転ヘラケズリを施す。219は天井部に、つまみが付いていたと考えられる。

**杯 (221)** 221は太宰府分類土師器杯dに類似する杯で、底部外面を水平に回転ヘラケズりする。口縁部は端部を欠くが内湾気味に立ち上がる。底部と体部の境は



第25図 焼土坑実測図 (1/40)



回転ヘラケズリにより明瞭である。内面は回転ナデにより、器壁を薄く仕上げる。

**杯身 (222)** 222は杯B身である。体部は直線的に外方に開く。高台は断面方形を呈する。

#### 1号窯跡灰原

**杯蓋 (223)** 扁平な形態で、口縁端部を下方に短く折り曲げ、丸くおさめる。天井部外面は回転ヘラケズリを施す。扁平で、中央がわずかに盛り上がるボタン状のつまみを付ける。

#### (4) 焼土坑 (第25図、図版2・3)

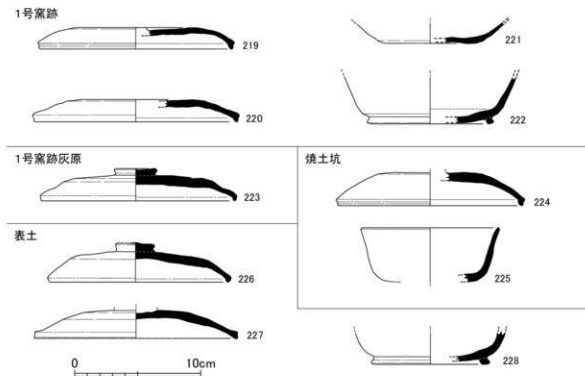
焼土坑は、1号窯跡の下方で確認された。長さ0.83m×幅1.1mで、平面プランは箱型に近く、床面は平らである。側壁は一部被熱しており、還元する部分もあるが、焼け締まりは弱い。斜面下方の埋土は褐色土であるが、著しい炭や焼土の堆積は認められなかった。(石木)

#### (5) 出土遺物 (第26図、図版25)

##### 焼土坑

**杯蓋 (224)** 天井部から口縁部にかけてやや丸みをおびる。口縁端部は短く下方に折り曲げ、丸くおさめる。口縁端部外面は回転ナデにより段が付き、天井部外面は回転ヘラケズリを施す。天井部外面につまみが剝かれた痕跡が残る。

**杯身 (225)** 口縁部はゆるく外反しながら開く。底部を欠くため、不明な点はあるが、杯B身と考えておく。



第26図 69地点出土遺物実測図 (1/3)

## 表土

**杯蓋 (226・227)** 226は口縁端部を下方に折り曲げ、わずかに引き出し断面三角形を呈する。227は天井部がやや丸みをおびる。口縁端部は断面三角形を呈する。天井部外面に回転ヘラケズリを施す。226は扁平な中央がわずかに高く突出する擬宝珠様のつまみが付く。227は天井部につまみが剥落している痕跡が認められる。

**杯身 (228)** 杯B身である。体部は直立気味に立ち上がる。高台は低く断面方形を呈するが、端部をわずかに外方へ引き出し突出させる。(藤島)

## (6) 出土遺物の数量

表2 69地点出土遺物重量表

遺物名	器種別 (g)																	合計		
	杯蓋B	杯蓋A	蓋 (不明)	蓋A	杯A	杯A 不明	杯 蓋	杯身	杯 身	杯 身	杯 身	杯 身	杯 身	杯 身	杯 身	杯 身	土師器			
土師器内	210	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	230
土師器外	150	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	150
出土土師土	40	0	10	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	70
表土	240	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	240
合計	640	0	10	0	20	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	890
%	75.2%	0.0%	1.2%	0.0%	2.3%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

69地点の出土総重量は40.85kgである。杯B蓋が全体の75.3%を占めており、ついで杯B身が10.6%であった。器種が不明な破片が3.5%あるものの、杯B蓋、杯A、杯B身以外の器種の出土は認められない。本地点は、他地点に比べ出土総量が極端に少なく、比較は難しいが、蓋や杯を主体に生産が行われていた可能性が高いと考えられる。(稗田)

## (7) 小結

69地点では、須恵器窯跡と焼土坑が1基ずつ確認された。窯跡は、ほとんど失われていたことから、直立煙道窯であること以外、規模についてはまったく不明である。また焼土坑も単独で立地しており、窯跡との関係等は不明である。出土遺物から、1号窯跡はⅦA期、焼土坑も同様の時期であり、それ以外の遺構は確認できないことから、短期間の操業であったと考えられる。(石木)



第27図 70～72・74地点調査地配置圖 (1/1,000)

### 3. 70地点の調査

#### (1) 調査概要 (第27・28図、図版3)

後田窯跡群70～74地点は、龍華堂園の霊園拡張工事第2工区の開発にもなつて行われ、68・69地点の調査が行われた第1工区の南側にあたる。68地点から南側に入り込んだ谷部に灰原や須恵器の出土が認められ、北側から順に70～74地点の地区割りが行われたが、73地点は表土剥ぎを行った結果、遺構は確認されなかったことから、欠番としている。

70地点は北側にのびる丘陵西側斜面に位置する。試掘調査で灰原が確認されたG・H地点にあたり、発掘調査の結果、5基の窯跡が確認された。いずれも斜面中位に位置する。3～5号窯跡は並んで作られており、1号窯跡築造時に埋められている。なお、6号窯跡については、須恵器窯跡前庭部のような土坑が確認されたことから、調査時に窯跡の可能性を考えたが、窯体や焼土は確認できなかったことから、窯跡ではないと考えられる。

#### (2) 70-1号窯跡 (第29～31図、図版3・4)

1号窯跡は、調査地のほぼ中央で検出された。窯は全長264m、主軸はN-42°-W、焚口部は幅0.92m、焼成部の最大幅は1.12mである。窯の平面プランは、側壁が緩くふくらみ、奥壁は丸くなる。焚口部の右側には、高さ18cm、幅24cmの石が立てられている。前庭部は、床面が径0.9mほど落ち込んでいた。この落ち込みは、4号窯跡の排煙口部分にあたり、4号窯跡埋没後に1号窯跡の操業が行われ、1号窯跡の操業終了後に落ち込んだものと考えられる。前庭部の左右には土坑が掘られており、特に右側からは須恵器蓋杯などのほか粘土塊焼台が集められた状態で多数出土している。

**焚口・燃焼部** 焚口部は幅0.92mで、床面は10°奥壁側にむかって上がる。主軸上で1.26mの所から床面の傾斜角度が変わることから、ここが燃焼部と焼成部の境としておきたい。焼成部境の幅は1.1mである。側壁は貼壁が認められ、焚口部から約0.8mの所からオーバーハングすることから、窯体入口はこのあたりにあったと考えられる。断割の結果、床面には貼床(貼床a)が認められ、これを掘り下げると長さ0.84m×幅0.52m×深さ19cmの舟底状ピットが確認された。舟底状ピットからは須恵器杯蓋などが出土した。

**焼成部** 焼成部の平面プランは緩やかにふくらんでおり、最大幅は1.14m、燃焼部境から奥壁までの長さは1.38mである。床面の傾斜角度は25～35°と窯尻に行くに従い急になる。側壁は中位ほどまで貼壁が認められ、床面の貼床は色調や砂粒の状況から、a・b・c・gに分けることができた。床面に焼台のくぼみは認められなかった。奥壁は丸く掘り上げられ、高さ24cmで排煙口にいたる。天井部が失われているため、正確な高さは明らかでないが、焼成部中位の最も残りの良い部分で高さ46cmである。

**排煙部** 丸い奥壁から続き、煙道は長さ0.62mが残る。煙道はやや焚口側に傾斜しており、焚口部は失われているため、排煙口の径は明らかにできない。

**前庭部** 窯体の前面部はハの字にひらき、長さ1m×幅2mである。床面は還元され、灰白色になる。床面で確認された径0.9mの落ち込みは、4号窯跡の煙道部に落ち込んでおり、1号窯跡の

灰原が続くことから4→1号窯跡の順で採集されたと考えられる。西側の土坑は、長さ2.53m×幅3.04mで大きく掘り広げられる。深さは約1.4mで、平坦面には須恵器と焼台が集積されていた。須恵器・焼台の集積は前庭部よりも高い位置にある。左側土坑は、長さ1.37m×幅0.75m、深さは最大1.77m掘り込まれる。

灰原 検出時、窯跡の下方長さ約11m×幅約12mの範囲に大きく広がることを確認した。直下にある3～5号窯跡を埋めており、一部は4号窯跡室内におよぶ。灰層の状況は、3～5号窯跡の項で述べる。(石木)

### (3) 出土遺物

#### 窯体内 (第32図、図版26)

杯蓋 (229・230) 舟底状ビットから出土した。口縁端部を短く引き出し断面三角形を呈する。天井部外面に回転ヘラケズリを施し、ボタン状のつまみを有する。230は天井部がわずかに丸味をおびる。口縁端部はわずかにつまみ出す。天井部外面は回転ヘラケズリを施す。

皿 (231) 口縁部は直線的に大きく開く。底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施し、体部と底部との境は明瞭である。

不明製品 (232) 方形を呈し、上下ともに欠損しているため詳細な形態は不明である。表・裏面はケズリ調整を施し、右左側面は面取りをしている。残存長は3.5cm、幅1.5cm、厚さ0.8cmを測り、用途は不明である。

#### 前庭部 (第33・34図、図版26～29)

杯蓋 (233～251) 丸味をおびドーム状を呈する形態と、扁平なものの2種類に分類される。いずれも口縁端部は短く引き出し、断面三角形を呈するが、233は引き出さず、端部を丸くおさめ、240はわずかに突出させる。234・235・237～239・247・248・250は天井部外面に回転ヘラ切りし、その中でも247は回転ヘラ切り後板状工具によるナデが見られる。他は回転ヘラケズリ後ナデを施す。いずれも擬宝珠様のつまみを有する。中でも235・244・245・249は中央が高く山形で、248は菱形を呈する。その他は扁平な形状である。250は口縁端部外面に1条の沈線を施す。251は復元口径が29.4cmを測り大型で、皿の蓋と考えられる。

杯 (252～259) 杯Aである。252～258は口縁部が直線的に開き外反する。259は口縁部が丸味をおび、外方に引き出すことにより外面にわずかな段が入る。いずれも底部外面に回転ヘラ切り後ナデを施す。253は底部外面に簾状の圧痕が残り、258は板状の圧痕が見られる。

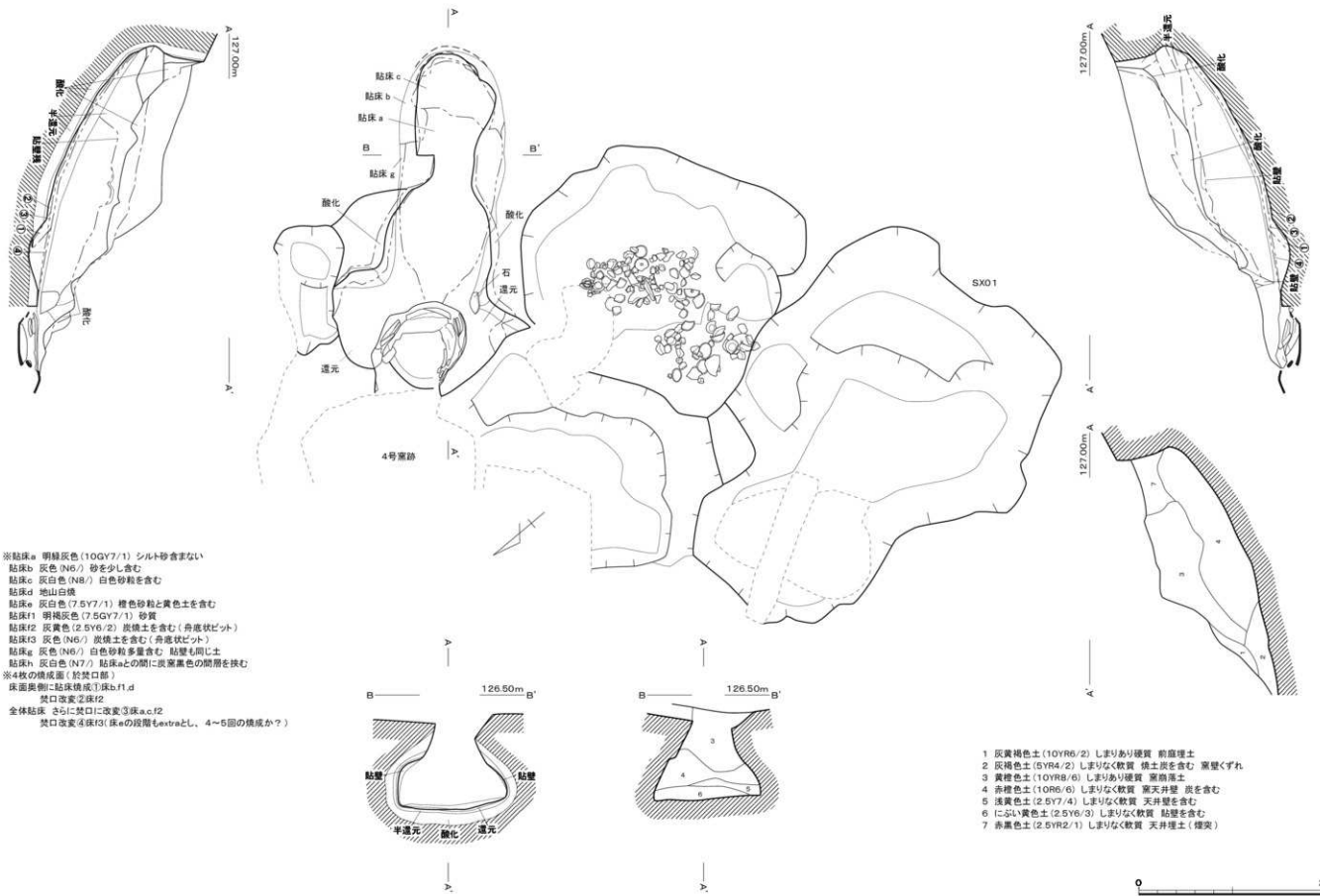
杯身 (260～270) 杯B身である。いずれも口縁部がやや直線的に開き、特に261・264・266・270は口縁部がわずかに外反し、260・262・263・265・267～269は丸くおさめ。高台は低く断面方形を呈する。262は見込みに重ね焼き痕が残る。265は底部外面に簾状の圧痕、266は板状の圧痕が見られる。267は口縁部外面に工具による回転ナデにより沈線が巡る。

皿 (271～273) いずれも体部が大きく開く。底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施し、272は底部外面に工具痕が見られる。

高杯 (274) 杯部のみ資料である。口縁部を強く屈曲させ、やや外傾しながら口縁端部にいたる。



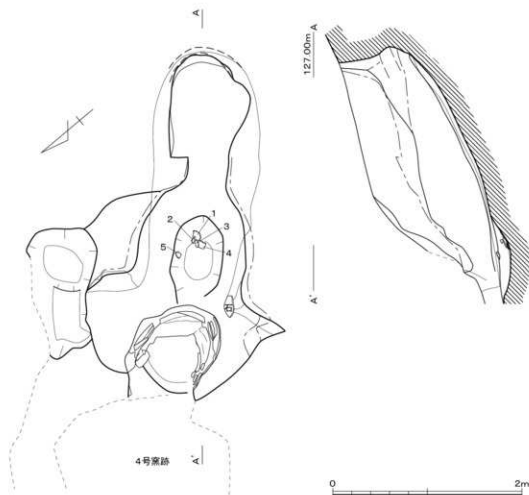
第28图 70地点地形测量图 (1/150) · 1~6号黑跡配置图 (1/300)



※粘床a 明褐色(10GY7/1)シルト砂含まない  
 粘床b 灰色(N6/)砂を少し含む  
 粘床c 灰白色(N8/)白色砂粒を含む  
 粘床d 地山白礫  
 粘床e 灰白色(7.5Y7/1)褐色砂粒と黄色土を含む  
 粘床f1 明褐色(7.5GY7/1)砂質  
 粘床f2 灰黄色(2.5Y6/2)炭焼土を含む(舟底状ヒツト)  
 粘床f3 灰色(N6/)黄粘土を含む(舟底状ヒツト)  
 粘床g 灰色(N6/)白色砂粒多量含む 粘壁と同じ土  
 粘床h 灰白色(N7/)粘床aとの間に炭黒色の隙層を挟む  
 ※4枚の積層面(於釜口部)  
 床面奥側に粘床積層①床b,f1,d  
 粘床積層②床f2  
 全体粘床 さらに其口に改変③床a,c,f2  
 釜口改変④床f3(床aの隙層もextraとし、4~5回の積層か?)

- 1 灰黄褐色土(10YR6/2) しまりあり硬質 前庭埋土
- 2 灰褐色土(5YR4/2) しまりなく軟質 積土層を含む 窯壁くずれ
- 3 黄褐色土(10YR6/6) しまりあり硬質 窯筒落土
- 4 赤褐色土(10R6/6) しまりなく軟質 窯天井壁 炭を含む
- 5 淡黄色土(2.5Y7/4) しまりなく軟質 天井壁を含む
- 6 近い黄色土(2.5Y6/3) しまりなく軟質 粘壁を含む
- 7 赤黒色土(2.5YR2/1) しまりなく軟質 天井埋土(煙灰)

第29図 1号窯跡最終操業面実測図(1/40)



第30図 1号窯跡貼床除去後遺物出土状況実測図 (1/40)

口縁端部は外方につまみ出し断面嘴状を呈する。

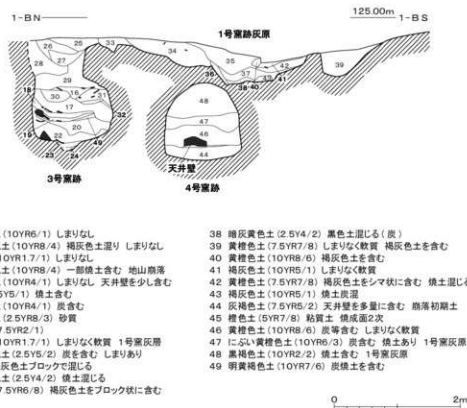
**壺 (275・276)** 275は長頸壺の体部、276は短頸壺である。275は肩部が強く張り、稜が付く。体部は回転ヘラケズリを施し、肩部に別個体の融着片が確認される。276は口縁部が直立し端部を外方にややつまみ出す。体部最大径を上半にとり、下半は外面に回転ヘラケズリを施す。

**穿孔土器 (277)** 平坦な形態で、焼成前に穿孔を1ヶ所施す。焼成不良で、摩滅が著しく調整不明瞭である。

**灰原 (第35・36図、図版29～31)**

**杯蓋 (278～292)** 天井部が丸みをおびる形態とドーム状を呈するものの2種類に分類される。278～282・286～290は口縁端部が下方に短く引き出し、断面三角形を呈す。283はわずかに下方に引き出し丸くおさめ、285はわずかに突出させる。278～283・285・287～289・291は天井部外面に回転ヘラ切り後ナデを施し、その他は回転ヘラケズリを施す。つまみは擬宝珠様で、他は宝珠様に分かれる。278は中心からずれて貼り付けられ、288は中央が高くわずかに乳頭状をなし丸くおさめる。290は全体が丸く、つまみと天井部との境が明瞭である。291・292は重ね焼きにより融着した資料である。





- 25 褐灰色土 (10YR6/1) しまりなし  
 26 淡黄褐色土 (10YR8/4) 褐灰色土混じり しまりなし  
 27 黒色土 (10YR1.7/1) しまりなし  
 28 淡黄褐色土 (10YR8/4) 一部焼土含む 地山崩落  
 29 褐灰色土 (10YR4/1) しまりなし 天井壁を少し含む  
 30 灰色土 (5YR/1) 焼土含む  
 31 褐灰色土 (10YR4/1) 炭を含む  
 32 淡黄色土 (2.5YR8/3) 砂質  
 33 黒色土 (7.5YR2/1)  
 34 黒色土 (10YR1.7/1) しまりなく軟質 1号窯灰層  
 35 暗灰黄色土 (2.5Y8/2) 炭を含む しまりあり  
     黄色土褐灰色土ブロックで混じる  
 36 暗灰黄色土 (2.5Y4/2) 焼土混じる  
 37 褐色土 (7.5YR6/8) 褐灰色土をブロック状に含む  
 38 暗灰黄色土 (2.5Y4/2) 黒色土混じる (炭)  
 39 黄褐色土 (7.5YR7/8) しまりなく軟質 褐灰色土を含む  
 40 黄褐色土 (10YR8/6) 褐灰色土を含む  
 41 褐灰色土 (10YR5/1) しまりなく軟質  
 42 黄褐色土 (7.5YR7/8) 褐灰色土をシマ状に含む 焼土混じる  
 43 褐灰色土 (10YR5/1) 焼土混濁  
 44 灰褐色土 (7.5YR5/2) 天井壁を多量に含む 崩落初期土  
 45 褐色土 (5YR7/8) 粘質土 焼成面2次  
 46 黄褐色土 (10YR8/6) 炭を含む しまりなく軟質  
 47 にぶい黄褐色土 (10YR6/3) 炭含む 焼土あり 1号窯灰層  
 48 黒褐色土 (10YR2/2) 焼土含む 1号窯灰層  
 49 明黄褐色土 (10YR7/6) 炭焼土を含む

第31図 1号窯跡灰層断面実測図 (1/60)

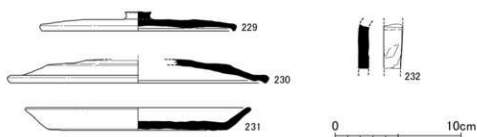
杯 (293) 杯Aで、底部は平らで体部との境は明瞭である。

杯身 (294~302) 杯B身である。294・297~300は体部が直線的に開く。296は口縁部が大きく外反しハの字状を呈し、底部外面に回転ヘラ切り後ナデを施す。301は丸味をおび、ゆるく外反する。302は大きく外方に開き、口縁部にいたる。いずれも高台が低く断面方形を呈する。

皿 (303~306) 303は体部が直線的に外方に開き、304は直線的に外方に開き口縁部はわずかに外反する。いずれも底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。304は板状の圧痕が残る。305・306は台付き皿である。305は口縁部が丸味をおび、やや外反する。306は体部が直線的に大きく外方に開き、逆ハの字状を呈する。いずれも高台が低く断面方形を呈する。306は見込みに重ね焼きの痕跡が見られる。

壺 (307~311) 307~309は短頸壺の蓋である。307は体部が垂直気味にのび、端部を外方につまみ引き出す。308は体部が垂直気味にのび、天井部は平坦でやや凹む。口縁端部は外方につまみ出し屈曲させ、強い回転ナデにより外面に稜が付く。内面はやや丸みをおびて肥厚し、端部には段が付く。天井部外面に回転ヘラを施す。309は体部が垂直気味にのび、口縁端部は平坦に仕上げる。310は長頸壺で、311は短頸壺である。310は胴部下半の破片資料で、肩部が大きく張り断面くの字状を呈する。肩部外面に鎌状の圧痕が残る。311は体部上半の破片資料で、口縁部は直立して立ち上がり、端部を強い回転ナデにより仕上げる。最大径は体部上半に位置すると思われる。

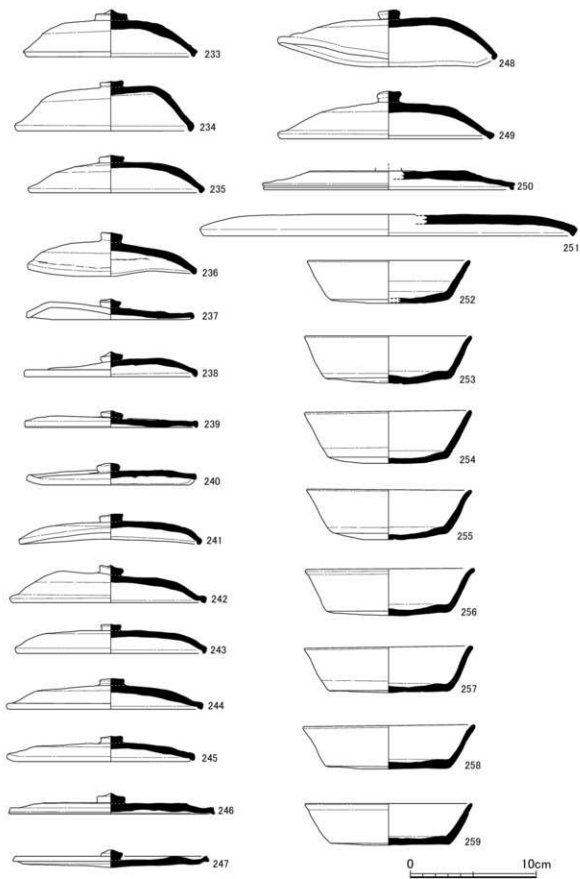
瓶 (312~316) 312は平瓶、313は瓶子、314は双耳瓶である。312は口縁部から頸部の資料である。頸部はやや外反しながらラッパ状に開き、口縁端部を外方につまみ出し大きく外反する。313は口



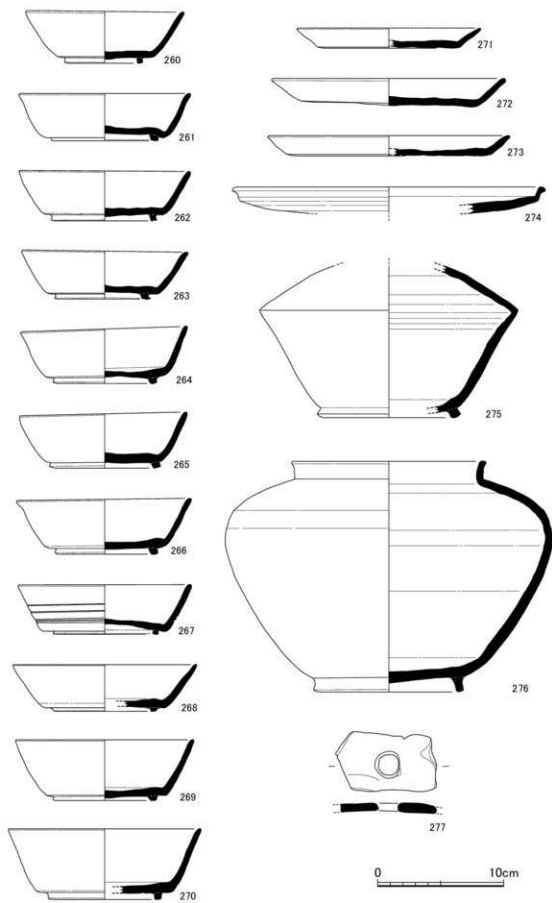
第32図 1号窯跡窯体内出土遺物実測図(1/3)

縁部を大きく外方に引き出し、端部を上方に突出させて断面嚙状にする。体部最大径は体部上半にとる。底部外面に重ね焼き痕が残る。314は肩部に耳か付き、耳部はナデを施す。耳下端部は貼付け時に工具により切り取る。体部外面は回転ヘラケズリ後回転ナデを施す。315・316は底部のみの破片資料である。315・316は体部が直線的にやや開く。316は底部外面に、回転ヘラ切り後板状の圧痕が残る。315は底部外面に回転ヘラケズリを施す。315・316は壺の可能性もある。

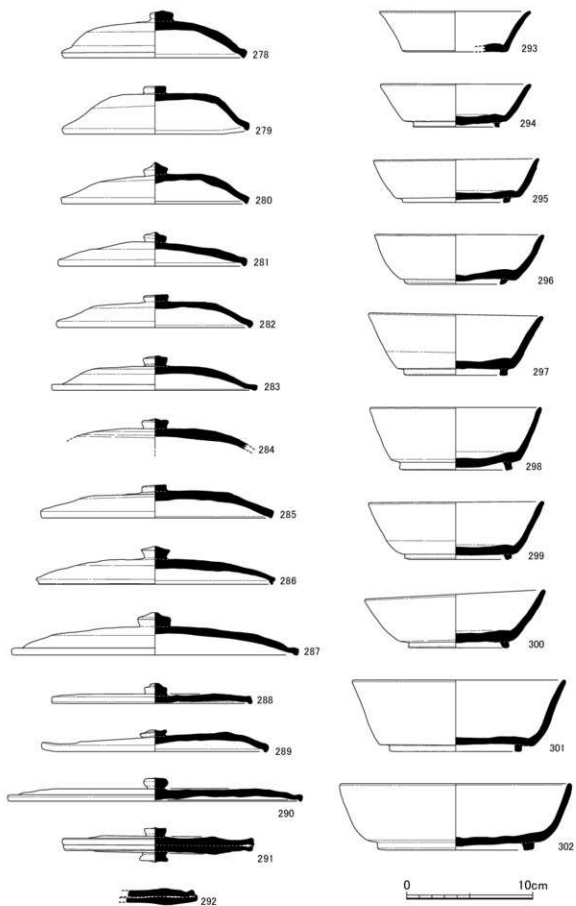
**鉢 (317)** 口縁部から体部にかけて直線的に開き、口縁端部は内湾する。口縁端部は回転ナデにより段をなす。(藤島)



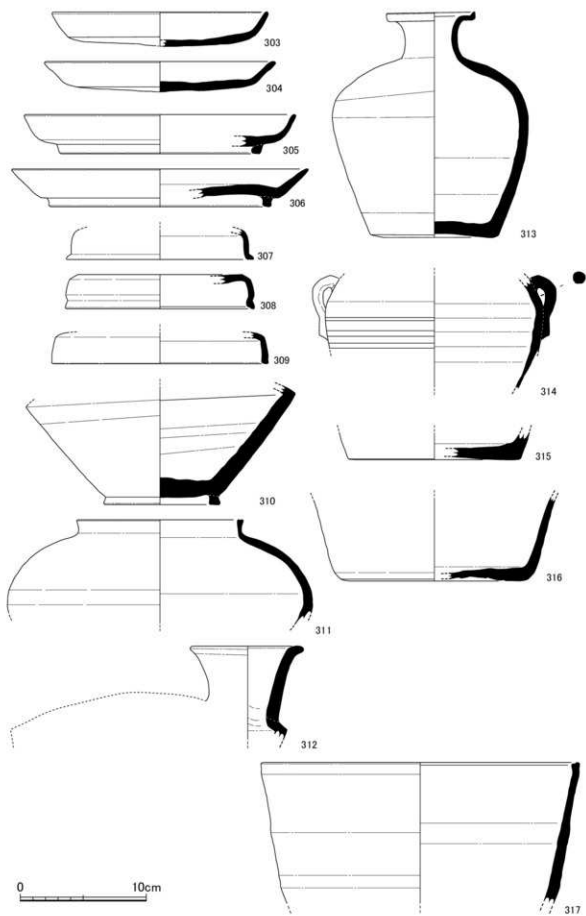
第33图 1号窑址前庭部出土物实测图①(1/3)



第34图 1号窑址前底部出土文物实测图②(1/3)



第35图 1号窑跡灰原出土遺物実測図① (1/3)



第36图 1号窯跡灰原出土遺物実測図②(1/3)

**(4) 70-2号窯跡 (第37・38図、図版4・5)**

2号窯跡は、調査地の東側に単独で位置する。窯は全長2.42m、主軸はN-29°-W、焚口部の幅は0.83m、窯の平面プランは長方形に近いプランをとる。土層の観察より、窯は焼成後まもなく一気に崩壊したようであり、奥壁は地山ごと室内に倒れこんでおり、完全に失われ、煙道部も確認できない。

**焚口・焼成部** 焚口部は幅0.83mで、焼成部との境は明確ではないが、焚口部から0.74mでやや傾斜が急になることから、このあたりと考えられる。この場合、焼成部の床面傾斜角度は12°である。焼成部境の床面幅は0.88mである。両側壁とも貼壁が認められるが、床面の貼床は確認できなかった。窯体の入口は、側壁の還元面の範囲より、焚口部から約40cm奥壁側にあると考えられるが明らかにできない。

**焼成部** 焼成部は長さ1.59mで、ほぼまっすぐ奥壁にむかってのびており、奥壁側の幅は0.82mである。床面の傾斜角度は14~35°で、側壁は貼壁が残る。床面に貼床は認められず、奥壁も失われているが傾斜になるようである。窯内の土層から、床面直上に天井壁の崩落土が認められ、奥壁と考えられる層が倒れ込んでおり、一気に窯が壊れたようである。

**排煙部** 完全に失われており確認できないが、土層観察からは奥壁床面から約1m直立する煙道部があったようである。

**前庭部** 窯体の前面部にハの字に開く。焚口部に長さ1.35m、幅は最大5.05mで平坦面を持ち、斜面下方は階段状に土坑が連続して掘られている。床面は焚口部より前庭部側も約0.5m還元している。

**灰原** 2号窯跡の斜面下方に、長さ約7m×幅約6mの範囲で確認された。厚さは0.2~0.5mで、他の遺構との切り合いは認められなかった。(石木)

**(5) 出土遺物****窯体内埋土 (第39図)**

**杯蓋 (318)** 焼き歪みが激しく詳細な形態は不明である。口縁端部は下方に折り曲げ、断面嘴状を呈する。天井部外面は回転ヘラケズリを施す。宝珠様のつまみを有し、中央が突出する。

**杯身 (319)** 杯B身である。体部は直線的に外方へ開き、高台は低く断面方形を呈する。

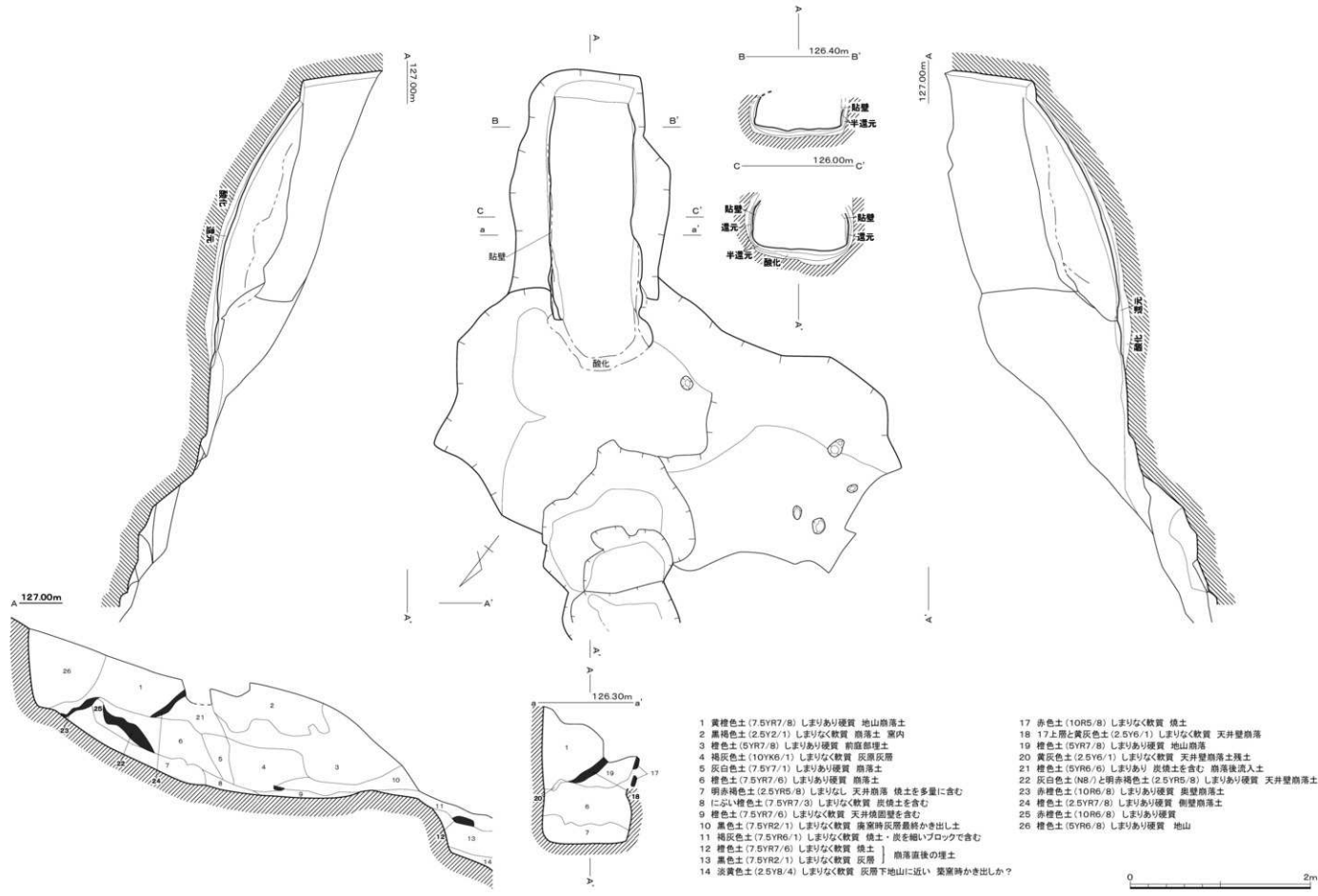
**皿 (320)** 体部は直線的に外方へ開きハの字状に開く。底部は丸みをおび突出する。底部外面は回転ヘラ切り後板状工具によるナデを施し、体部と底部との境はやや不明瞭である。

**壺 (321)** 長頸壺の口縁部から頸部にかけての資料である。口縁端部を外方に突出させ、頸部中位に沈線を2条巡らせる。

**前庭部 (第40図、図版32・33)**

**杯蓋 (322~325)** 322は扁平な形態で器高が低い。口縁端部は下方に引き出し断面三角形を呈する。323は天井部から口縁部にかけて丸みをおびる。324・325は口縁部が丸みをおび、天井部が平坦である。いずれも口縁端部を下方に折り曲げ断面嘴状を呈する。322~325は天井部外面に回転ヘラケズリを施す。323~325は扁平なボタン状のつまみを有し、323・325は中央がわずかに突出する。

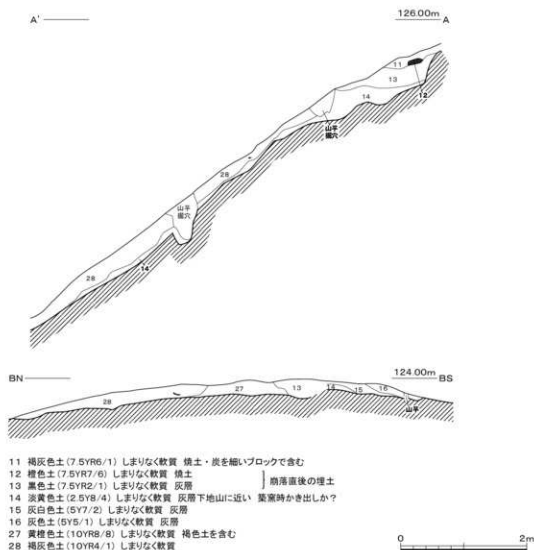
**杯 (326)** 杯Aである。口縁部が直線的にハの字状に開く。底部外面に回転ヘラ切り後ナデを施し、



- 1 黄褐色土 (7.5YR7/8) しまりあり硬質 地山崩落土
- 2 黒褐色土 (2.5Y2/1) しまりなく軟質 崩落土 案内
- 3 棕色土 (5YR7/8) しまりあり硬質 崩落土 案内
- 4 灰白色土 (10Y6/1) しまりなく軟質 灰原灰層
- 5 灰白色土 (7.5Y7/1) しまりあり硬質 崩落土
- 6 棕色土 (7.5YR7/6) しまりあり硬質 崩落土
- 7 明赤褐色土 (2.5YR5/8) しまりなし 天井崩落 焼土を多量に含む
- 8 にぶい褐色土 (7.5YR7/3) しまりなく軟質 灰焼土を含む
- 9 棕色土 (7.5YR7/6) しまりなく軟質 天井後部壁を含む
- 10 黒色土 (7.5YR2/1) しまりなく軟質 崩落土灰層最層かき出し土
- 11 褐色土 (7.5YR6/1) しまりなく軟質 焼土・灰を織り混ぜた土
- 12 棕色土 (7.5YR7/6) しまりなく軟質 焼土 崩落直後の埋土
- 13 黒色土 (7.5YR2/1) しまりなく軟質 灰層
- 14 淡黄色土 (2.5Y8/4) しまりなく軟質 灰層下地山に近い 雲南神かき出し土か？
- 17 赤色土 (10R5/8) しまりなく軟質 焼土
- 18 17上層と黄灰色土 (2.5Y6/1) しまりなく軟質 天井壁崩落
- 19 棕色土 (5YR7/8) しまりあり硬質 地山崩落
- 20 黄灰色土 (2.5Y6/1) しまりなく軟質 天井壁崩落土焼土
- 21 棕色土 (5YR6/6) しまりあり 灰焼土を含む 崩落後流入土
- 22 灰白色土 (N6/1)と明赤褐色土 (2.5YR5/8) しまりあり硬質 天井壁崩落土
- 23 赤褐色土 (10R6/8) しまりあり硬質 崩落土
- 24 棕色土 (2.5YR7/8) しまりあり硬質 側壁崩落土
- 25 赤褐色土 (10R6/8) しまりあり硬質
- 26 棕色土 (5YR6/8) しまりあり硬質 地山

第37図 2号竈跡実測図 (1/40)





第38図 2号窯跡土層断面実測図 (1/60)

口縁部と底部との境は明瞭である。

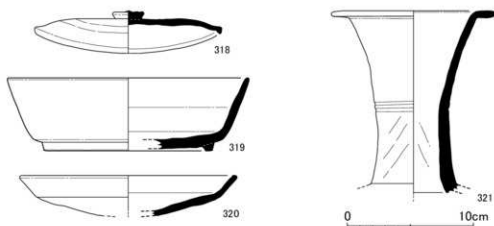
**杯身 (327~330)** 杯B身である。327は体部が大きく開き、体部下は回転ナデにより上半と下半の境に稜をつくる。329・330は体部が直線的に外方に開き、328は体部から口縁部にかけてわずかに外反する。327~330は高台が低く断面方形を呈する。

**高杯 (331)** 杯部は浅く、口縁部は直立し端部を平坦におさめる。脚部はラッパ状に開き、脚端部は下方にわずかに突出し丸くおさめる。

**壺 (332)** 短頭壺の蓋である。天井部から口縁部にかけて垂直に下げる。口縁端部は外方へつまみ出し丸くおさめる。

#### 灰原1区 (第41図、図版33)

**杯蓋 (333~336)** 333は天井部がやや高く、口縁部にかけて下り、端部をやや内側に折り曲げる。334は天井部から口縁部にかけて丸みをおびドーム状を呈する。口縁端部は下方へ折り曲げ、断面喇叭状を呈する。天井部外面に回転ヘラケズリを施し、外面は強い回転ナデにより沈線状の稜が巡る。



第39図 2号窯跡窯体内埋土出土遺物実測図(1/3)

335は焼け歪むが、扁平で器高が低い。口縁端部を下方につまみ引き出し丸くおさめ、天井部外面に回転ヘラケズリを施す。336は扁平で器高が低く、天井部から口縁部にかけて平坦である。口縁端部は下方にわずかに突出し、回転ヘラ切り後板状工具によるナデが見られる。336は菱形の擬宝珠様のつまみを有し、334・335は扁平なボタン状のつまみが付く。

**杯身 (337・338)** 杯B身である。337は体部が丸みをおび、口縁部はわずかに外反する。高台はやや高く断面方形を呈し、端部を外方に短くつまみ出す。338は体部が直線的に立ち上がり、わずかに内傾しながら口縁部にいたる。高台は低く断面方形を呈する。

**皿 (339・340)** 339は体部が内湾しながら立ち上がる。底部外面は回転ヘラ切り後板状工具によるナデを施し、口縁部と底部との境は丸い。340は高台を有し大型の資料である。高台は低く断面方形を呈し、底部外面は回転ヘラ切り後板状工具によるナデを施す。

**高杯 (341)** 杯部は浅く、体部から口縁部にかけて大きく広がる。口縁部は直立する。口縁端部外面は外方にわずかにつまみ出し平坦に仕上げる。脚部は短く、ハの字状に開きながら裾部は大きく開く。脚端部は下方につまみ出し、断面三角形状を呈する。脚部の内外面にシボリ痕が残る。

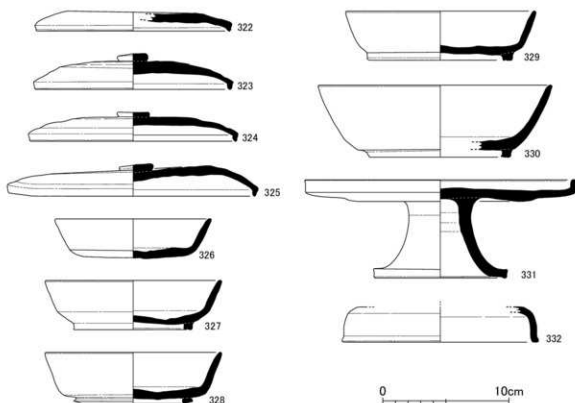
**壺 (342)** 短頸壺である。口縁部は直立し、端部は強い回転ナデにより段を付ける。体部の最大径は上半に位置し、底部は丸く、高台よりも下方に突出する。体部下半は回転ヘラケズリを施す。

**瓶 (343)** 双耳瓶である。肩部対になる把手を有する。頸部は外方に開き、口縁部は外方に大きく開き、再度屈曲させ直立する。頸部下に2条、肩部に2条沈線を施す。頸部にはシボリ痕が残る。

#### 灰原2区(第42図、図版34)

**杯蓋 (344~348)** いずれも扁平な形態である。344~346は口縁端部を下方に折り曲げ断面嘴状を呈する。347・348は天井部から口縁部にかけて扁平な形状で、焼け歪み、天井部は中央が凹む。口縁端部は下方につまみ出し丸くおさめる。344~348はいずれも天井部外面に回転ヘラケズリを施す。346~348は擬宝珠様のつまみを有する。346は中央が高く山形を呈し、347・348は中央がわずかに高く突出する。344・345はボタン状のつまみが付き、344は高く、345は扁平である。

**杯身 (349)** 杯B身である。口縁部が直線的に外傾し、口縁端部下はゆるく内湾しながら立ち上



第40図 2号竈跡前庭部出土遺物実測図(1/3)

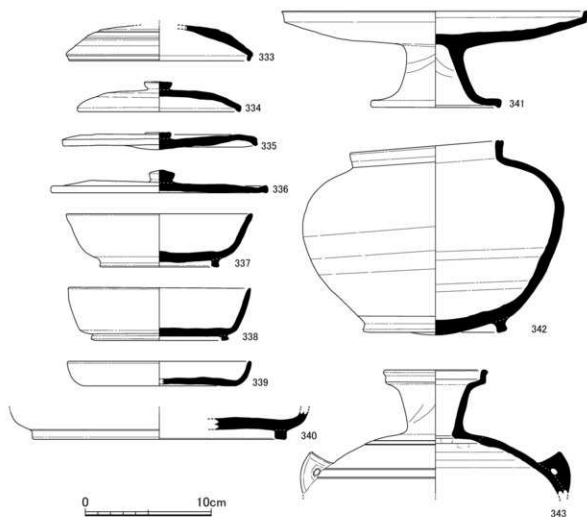
がる。高台はやや低く断面方形を呈する。

**穿孔土器(350)** 平坦な形態を呈し、焼成前に穿孔を1ヶ所施す。表裏面にナデを施し、焼成は不良である。

**灰原3区(第43・44図、図版34~36)**

**杯蓋(351~367)** 351~353は天井部から口縁部にかけて丸味をおびる形態でドーム状を呈する。354~367は扁平な形態である。362~364・367は天井部から口縁部にかけて平坦で、器高が低い。365・366は口縁部から天井部中央にかけて大きく凹み、焼け歪んでいる。351・353・356~360・363・365~367は口縁端部を下方につまみ出し、断面三角形を呈する。352・354・355は下方につまみ出す。362・364は口縁端部をわずかに下方につまみ出す。361は下方に折り曲げ、口縁部外面に強い回転ナデを施し、段を有する。351~358・360~364・367は天井部外面に回転ヘラケズリを施し、359・365・366は回転ヘラ切りを施す。352・353・356・357・362・365~367は擬宝珠縁のつまみを有する。353・362は中央が高く山形を呈する。352・365・366は中央がやや高く扁平である。356・357・367は中央がわずかに高く突出する。354・355・358~361・363・364はボタン状のつまみが付く。355・358・360・361は扁平な形態で、364は中央がわずかに膨らむ。354は天井部に焼成前穿孔が現存で1ヶ所確認される。367は天井部外面に輪状に当たる工具痕が見られる。

**杯(368)** 杯Aである。2枚の杯が附着した重ね焼きの資料である。焼き歪みがあるが、口縁部から底部にかけてやや内湾させ端部を丸くおさめる。底部外面は回転ヘラ切り後板状工具によるケズリ、体部下半は板状工具による回転ナデを施す。



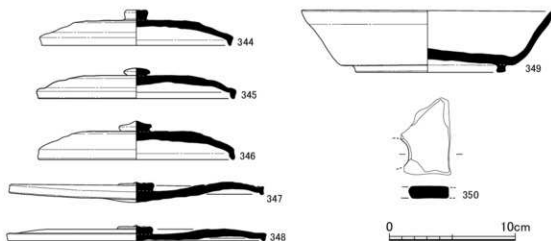
第41図 2号窯跡灰原1区出土遺物実測図(1/3)

**杯身(369~376)** 杯B身である。369は底部から直線的に外方に開く。高台はやや高く断面方形を呈し、杯底部端に貼り付けられる。370・371・373は体部が外方に開き、口縁端部は外反する。372・375は体部に丸みを持ち外方に開く。374・376は体部が外方に開き、口縁部にいたる。いずれも高台が低く断面方形を呈する。

**皿(377)** 台付皿である。高台は短く、外端面で接地する。底部外面は回転ヘラケズリを施す。

**高杯(378~382)** 378・379は杯部の破片資料、380~382は脚部の破片資料である。378・379はいずれも浅く、378は杯部が大きく開き、口縁部を短く直立させ、口縁端部を平坦に仕上げる。底部外面は回転ヘラケズリを施す。379は杯部が大きく開き、口縁部は短く直立する。口縁端部は強い回転ナデにより段が付く。外面の調整は降灰により不明瞭である。380~382は脚部がラッパ状に開く。380は、裾部が大きく外反し端部を下方に折り曲げ断面嘴状を呈する。381は裾部が大きくラッパ状に開き、端部を下方に折り曲げ断面嘴状を呈する。脚部内外面にシボリ痕を残す。382は脚裾部が短く、裾部は大きく開き、端部は下方に短くつまみ出す。

**壺(383・384)** 383は短頸壺の蓋である。体部が垂直に下り、口縁端部は外反する。天井部外面に回転ヘラケズリを施す。扁平な擬宝珠様のつまみを有する。384は短頸壺である。口縁部はやや



第42図 2号窯跡灰原2区出土遺物実測図(1/3)

外方に開き、端部を平坦に仕上げる。肩部が張り、体部最大径を上半にとる。

**甕 (385)** 口縁部の資料で、外方に開く。口縁部下に断面三角形の突帯を2条巡らせ、口縁端部を平坦におさめる。外面に降灰が認められる。

**不明製品 (386・387)** いずれも脚部と考えられる資料である。386は大型の資料と考えられ、外反しながら伸び、端部は外方に引き出し平坦に仕上げる。内外面回転ナデを施す。387は小型のもので、裾部は大きく屈曲し、端部をわずかに内湾気味に丸くおさめる。内外面回転ナデを施す。

**穿孔土器 (388)** 扁平な資料で、1ヶ所焼成前穿孔が見られる。表面は回転ヘラケズリ、裏面は回転ナデ後ナデを施し、焼成は良好である。杯蓋の可能性がある。

#### 灰原4区(第45・46図、図版36・37)

**杯蓋 (389~395)** 389は天井部が平坦であるか高さのある資料である。口縁端部を下方に折り曲げ断面嘴状を呈する。390~392は扁平な形態である。393~395は丸みを持つ形態である。390・393・394は口縁端部を下方に折り曲げ断面嘴状を呈し、391・392・395は口縁端部を下方につまみ出し、端部は丸くおさめる。いずれも天井部外面は回転ヘラケズリを施す。391・392は扁平な擬宝珠縁のつまみで、中央がわずかに突出する。その他はボタン状のつまみが付く。

**杯身 (396~401)** 杯B身である。いずれも体部は丸みを持ち、396・397・400・401は口縁部が緩く外反し、398・399は直線的に外方に開く。いずれも高台が低く断面方形を呈する。

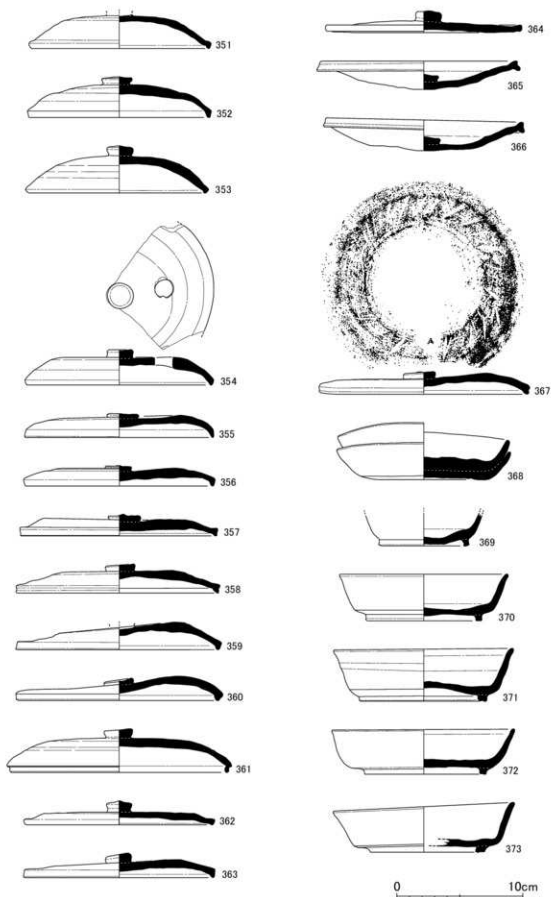
**高杯 (402)** 脚部中位がすぼまり裾部にかけてラッパ状に開く。脚端部を下方にわずかにつまみ出し丸くおさめる。脚部内面にシボリ痕と接合痕が残る。

**壺 (403)** 長頸壺の体部である。肩部は大きく張り、強く稜が付く。

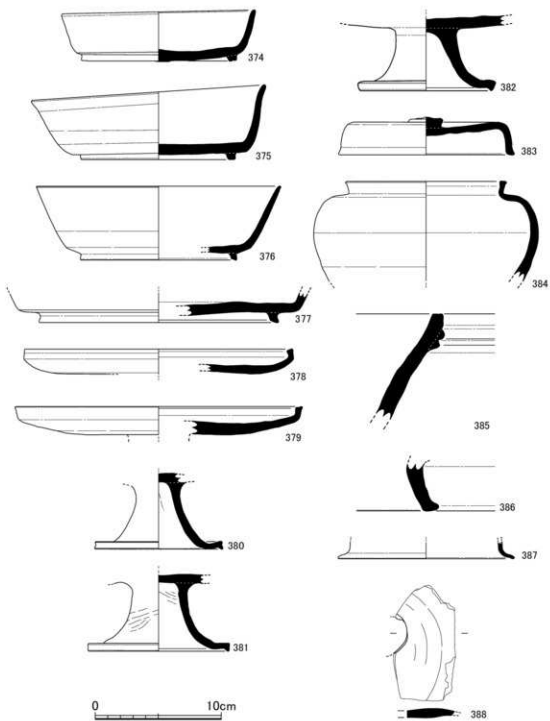
**鉢 (404)** 鉄鉢である。口縁部から体部上半にかけて内湾し、底部は突形を呈する。口縁端部外面をわずかにつまみ出し、端部は内傾する。

**焼台 (405・406)** 粘土を固めた粘土塊焼台である。いずれも窯の床面に貼り付けた際に、上面が平らになるように表面を平坦に成形し、ナデ・ユビオサエでの調整を施す。下面は未調整である。

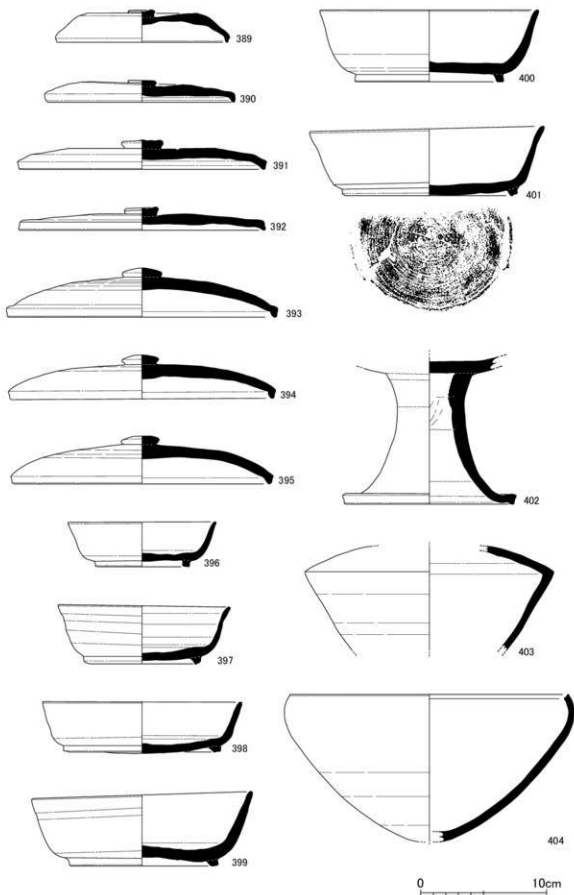
(藤島)



第43图 2号窯跡灰原3区出土遺物実測図①(1/3)

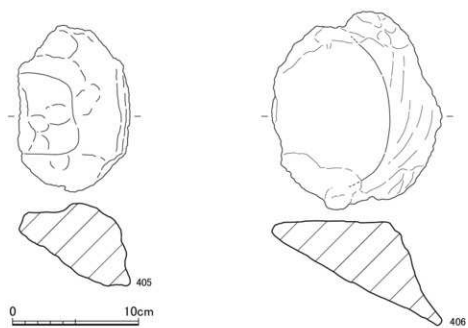


第44图 2号窟跡灰原3区出土遺物実測図②(1/3)



第45图 2号窑迹灰原4区出土文物实测图①(1/3)





第46图 2号窟跡灰原4区出土遺物実測図②(1/3)

**(6) 70-3号窯跡 (第47・48図、図版3・5～7)**

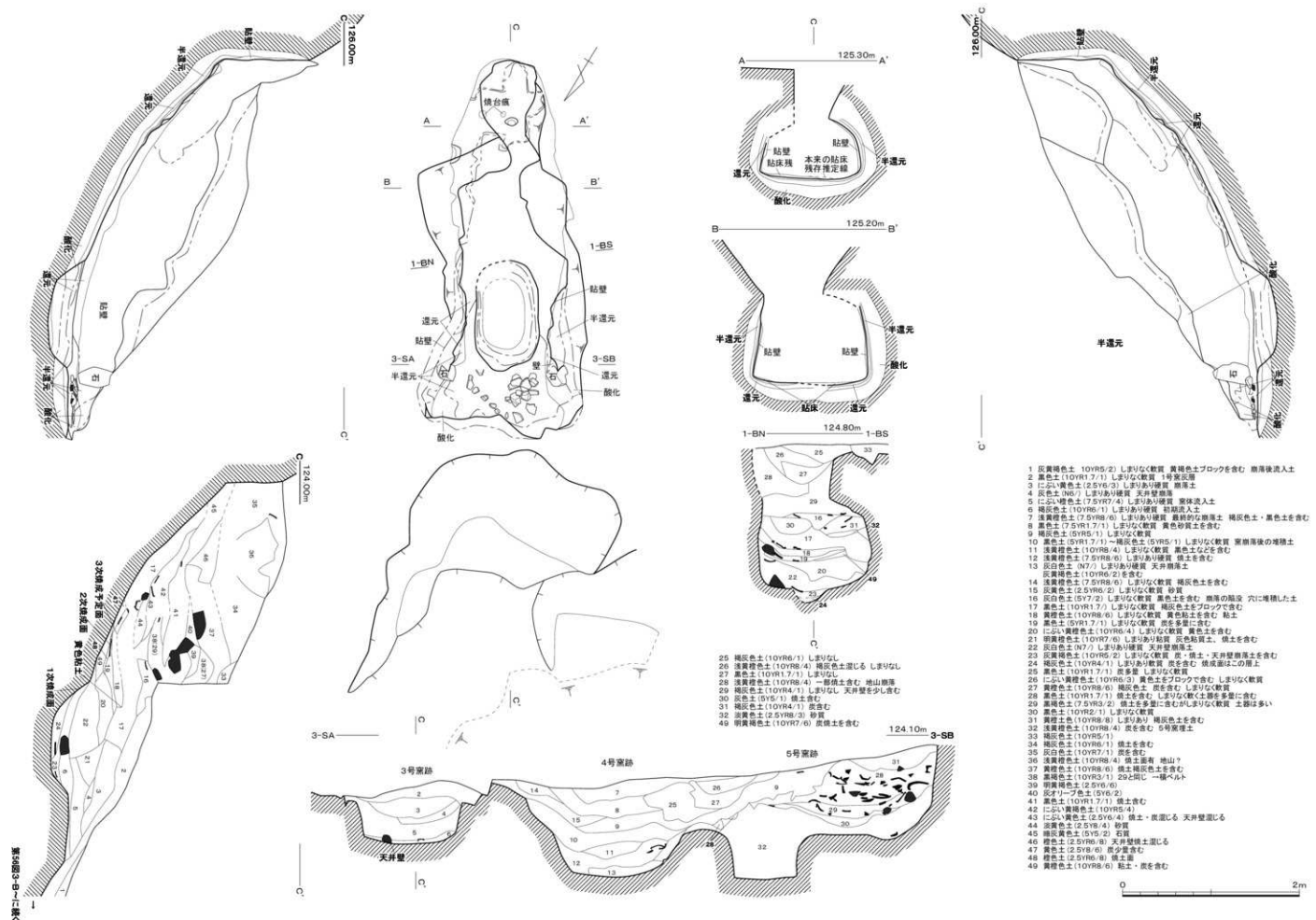
3号窯跡は、調査地の中央で確認された。窯は全長3.66m、主軸はN-25°-W、焚口部の幅は1.13m、窯の平面プランは焼成部中位がゆるやかにふくらみ、奥壁は丸くなる。焚口部には両側壁に石が立てられている。窯は1号窯跡の灰層に覆われていた。掘り下げを進めると、床面から約30cmの所で、黄色粘土が確認された。黄色粘土は、焼成部の主に右半部で確認され、上面からは多くの遺物が出土した。粘土は最大10cmの厚さがあり、意図的に敷かれたものと考えられ、あるいは床面のかさ上げが行われ、未焼成で終わったものである可能性もあるが詳細は不明である。床面には舟底状ピットが確認されており、作業時は一部(24層)埋めていたと考えられる。

**焚口・燃焼部** 焚口部は幅1.13mで、焼成部との境は舟底状ピットの奥壁側にあたと考えられる。焚口部から舟底状ピットまでの傾斜角度は1°、舟底状ピット上端の傾斜角度は8°である。燃焼部の長さは1.4m、焼成部境の幅は1.26mである。舟底状ピットは、長さ1.18m×幅0.7m、深さ約30cm。調査時に一部掘りすぎたが、楕円形プランを呈する。側壁・床面からは、貼壁・貼床が確認された。**焼成部** 焼成部は長さ2.26mで、奥壁にむかってゆるくすぼまっている。奥壁の幅は0.68m。床面の傾斜角度は22~44°で、側壁・床面には貼壁・貼床が施される。右半部で確認された黄色粘土は舟底状ピット付近から奥壁にかけて確認され、窯内の掘り下げを行った時はまだやわらかい状態であった。黄色粘土の上面からは、須恵器蓋杯・粘土塊焼台が出土したが、粘土を敷いた後に置かれたものである。なお、須恵器蓋杯はすでに焼成されたものであり、焼成部全体に置かれていた。無造作に置かれたようであり、規則性はない。また、奥壁側の貼床上からは、径10cm弱の粘土塊焼台の痕跡が認められた。焼成部の高さは明らかにできないが、残存部で0.6~0.83mである。

**排煙部** 奥壁から直立しており、床面からの残存高は0.96mである。煙道部から排煙口は失われており、明らかにできない。

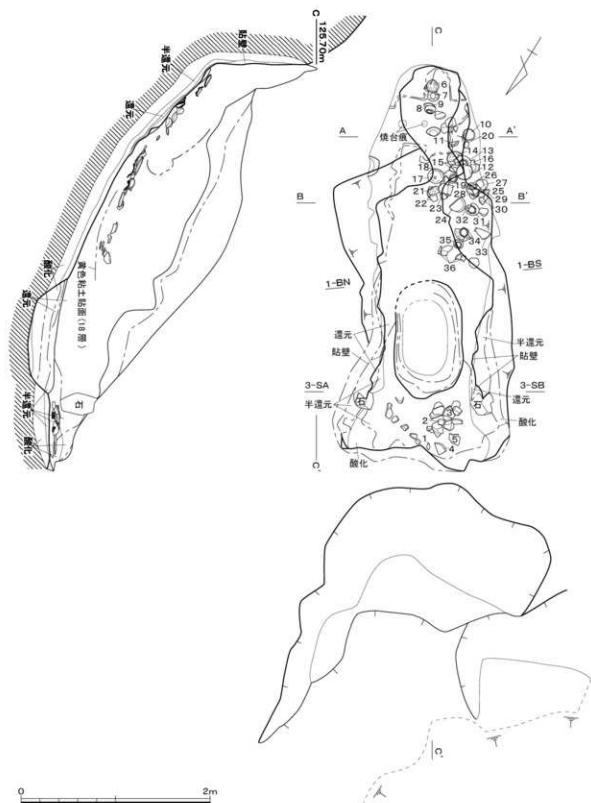
**前庭部** 焚口部から続く床面は還元している。この部分はハの字に開き、長さ0.6m×幅1.43mである。床面からは、須恵器蓋杯や粘土塊焼台が出土している。焼成部に置かれていたものと一連のものかは、調査では明らかにできなかった。下方には長さ約2.5m×幅3.05mの掘り込みがあり、平坦面を作らず、ゆるく下っていく。

**灰原** 3号窯跡室内縦断土層の観察からは、3号窯跡に伴う天井崩落土(C-C'3層)を覆うように1号窯跡に伴うと考えられる灰層(C-C'2層)が確認された。この層は3号窯跡前庭部で厚さ10cm程度であるが、斜面下方に行くと淡黄色土(第56図3-B・D断面6層)上に止まっているので、ここまでが1号窯跡に伴う灰層である可能性が高い。淡黄色土(第56図3-B・D断面6層)の下層で確認される黒褐色土(第56図3-B・D断面9層)からが3号窯跡に伴う灰層と考えられる。なお、谷部には約0.7mの厚さで黒色土(第56図3-B・D断面24層)を中心とする灰層が確認できるが、縦断土層(第56図1-D-E・3-B-D)の観察からは、1号窯跡、3~5号窯跡のいずれに伴うかは明らかにできない。また、横断土層(第56図3-SA~SB、1-DN~DS)からは4号窯跡との切り合いは明らかにできなかった。(石木)



- 1 灰黄褐色土 (10YR5/2) しまりなく散見 黄褐色土ブロックを含む 階層状流入土
- 2 黄土色 (10YR7/1) しまりなく散見 階層状流入土
- 3 にぎり黄色土 (2.5Y6/3) しまりあり硬質 階層土
- 4 灰色土 (N7) しまりあり硬質 天井壁層土
- 5 にぎり褐色土 (7.5YR7/4) しまりあり硬質 階層状流入土
- 6 黄土色 (10YR6/0) しまりあり硬質 階層状流入土
- 7 黄褐色土 (7.5YR6/6) しまりあり硬質 最層的な階層土 褐色土・黄土色土を含む
- 8 黄土色 (7.5YR7/1) しまりなく散見 黄色砂土を含む
- 9 黄褐色土 (5YR5/1) しまりなく散見
- 10 黄土色 (5YR7/1) 一層状黄土 (5YR5/1) しまりなく散見 階層状流入土
- 11 黄褐色土 (10YR6/4) しまりなく散見 黄土色土を含む
- 12 黄褐色土 (7.5YR6/6) しまりあり硬質 黄土を含む
- 13 灰色土 (N7) しまりあり硬質 天井壁層土
- 14 灰黄褐色土 (10YR6/2) を含む
- 15 灰黄色土 (2.5YR6/2) しまりなく散見 砂質
- 16 灰色土 (5Y7/2) しまりなく散見 黄土色土を含む 階層の陥没 穴に埋積した土
- 17 黄土色 (10YR7/1) しまりなく散見 褐色土をブロックで含む
- 18 黄褐色土 (10YR6/6) しまりなく散見 黄土色土を含む 粘土
- 19 黄土色 (5YR7/1) しまりなく散見 黄土を含む
- 20 にぎり黄褐色土 (10YR6/4) しまりなく散見 黄土を含む
- 21 明黄褐色土 (10YR7/6) しまりあり硬質 灰色土・黄土を含む
- 22 灰色土 (N7) しまりあり硬質 天井壁層土
- 23 灰黄褐色土 (10YR6/2) しまりなく散見 黄土・黄土・天井壁層土を含む
- 24 褐色土 (10YR4/1) しまりなく散見 黄土を含む 階層状流入土の層上
- 25 黄土色 (10YR7/1) しまりなく散見
- 26 にぎり黄褐色土 (10YR6/4) 褐色土をブロックで含む しまりなく散見
- 27 黄褐色土 (10YR6/6) 褐色土 赤土を含む しまりなく散見
- 28 黄土色 (10YR7/1) 黄土を含む しまりなく散見 土層を多量に含む
- 29 黄褐色土 (7.5YR6/2) 黄土を含む しまりなく散見 土層を多量に含む
- 30 黄土色 (10YR4/1) 赤土を含む
- 31 黄土色 (10YR6/3) 砂質
- 32 黄褐色土 (2.5YR6/3) 砂質
- 33 明黄褐色土 (10YR7/6) 黄土土を含む
- 34 褐色土 (10YR6/1) 黄土を含む
- 35 反白色土 (10YR7/1) 黄土を含む
- 36 黄褐色土 (10YR6/4) 黄土を含む 地山?
- 37 黄褐色土 (10YR6/6) 黄土層状土を含む
- 38 黄土色 (10YR5/1) 2.0cm以上 一層のみ?
- 39 明黄褐色土 (2.5Y6/6)
- 40 反白色土 (10Y6/2)
- 41 黄土色 (10YR7/1) 黄土を含む
- 42 にぎり黄褐色土 (10YR6/4) 砂質
- 43 にぎり黄色土 (2.5Y6/4) 粘土・炭混じり 天井壁混じり
- 44 黄褐色土 (2.5YR6/4) 砂質
- 45 褐色黄褐色土 (5Y5/2) 砂質
- 46 黄土色 (2.5YR6/6) 天井壁層土混じり
- 47 黄土色 (2.5Y6/6) 砂土を含む
- 48 黄土色 (2.5YR6/6) 黄土・炭を含む
- 49 黄褐色土 (10YR6/6) 粘土・炭を含む

第47図 3号竈跡実測図 (1/40)



第48图 3号窯跡遺物出土状況実測図 (1/40)

## (7) 出土遺物 (第49～52図、図版38～41)

**杯蓋 (407～434)** 丸味をおびドーム状を呈する形態と扁平な形態の2種類に分かれる。407～417・419～423・425・427・429・430・433・434は、口縁端部を下方につまみ出し断面三角形を呈し、418・426・428・431・432は下方にわずかに突出する。天井部外面は、407～412・414・416・417・426～429・431・433は回転ヘラ切り後ナデをし、その他は回転ヘラケズリを施し、中でも434は回転ヘラ切り後板状工具によるナデ、432は回転ヘラ切り後ナデ後板状工具によるナデを施す。いずれも擬宝珠様のつまみが付き、407・422・424・429は中央が高く山形を呈する。413・416は重ね焼きの痕跡が見られ、425は外面に降灰、433は外面に板状の圧痕が認められる。

**杯 (435～442)** 杯Aである。435は体部は直線的に外方へ開く。底部外面は回転ヘラ切り未調整。436～441は体部が直線的に外方へ開き、442は直線的に開いた後口縁端部をわずかに外反させる。いずれも底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施すが、441は全体摩滅により調整不明瞭である。438は内外面に火樫が認められる。440は底部外面に簾状の圧痕が残る。

**杯身 (443～464)** 杯B身である。いずれも体部は直線的に外方に開き、中でも445・449・451・453・454・461～464は口縁部がゆるやかに外反し、452は内湾する。447は焼け歪みが著しいため詳細な形態は不明である。高台はいずれも低く断面方形を呈するが、453は端部外面を外方に短くつまみ出す。451は高台端部に板状の圧痕、453は口縁部内面に火樫が認められ、460は底部に簾状の圧痕が残る。464は重ね焼き。杯蓋を逆さにして、杯身を重ねる。

**皿 (465～479)** いずれも体部は直線的に外方に開き、口縁端部は外方にわずかに外反するが、477は口縁端部を大きく外反させる。465～475は底部外面に回転ヘラ切り後ナデを施し、その他は回転ヘラケズリを施す。474は外面に火樫が認められ、477は底部に1ヶ所、焼成前穿孔が確認される。478・479は台付き皿である。478は高台が低く端部外面をつまみ出し外反させる。479は高台が低く断面方形を呈する。

**高杯 (480)** 杯部のみ資料である。口縁部を強く屈曲させ、やや外傾しながら口縁端部に至る。口縁端部は外方につまみ出し、底部に回転ヘラケズリ後ナデを施す。

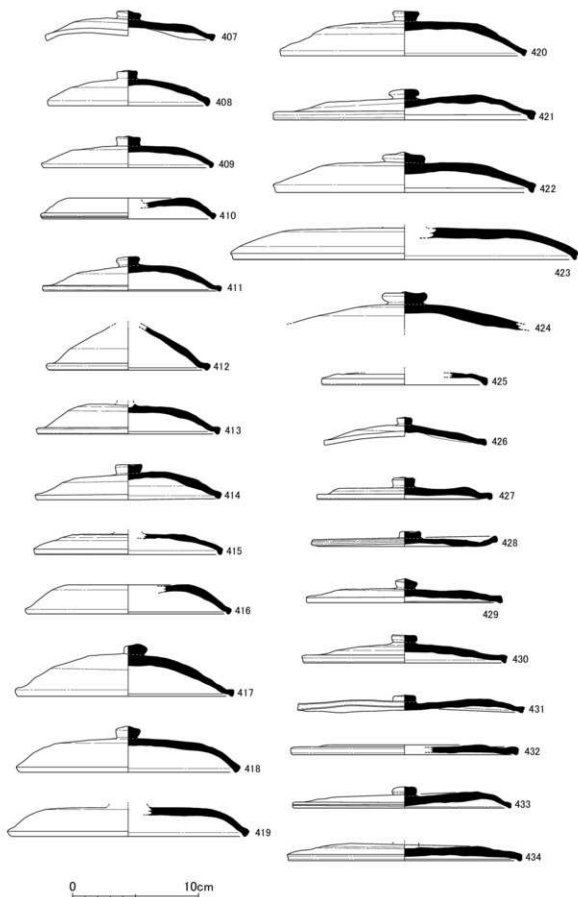
**鉢 (481・482)** いずれも頸部から口縁部にかけて外方に開き、体部最大径は上半に位置する鉢である。体部下半に回転ヘラケズリを施し、481は胴部中位にハケ状のアタリ、底部にハケ状の圧痕が認められる。また、内面に火樫の色変が見られる。

**甕 (483)** 頸部から口縁部にかけて大きく開く。口縁端部外面に断面三角形の小突帯が3条巡る。頸部割れ目に粘土が剥がれた痕跡が認められる。口径は47cmを超える。

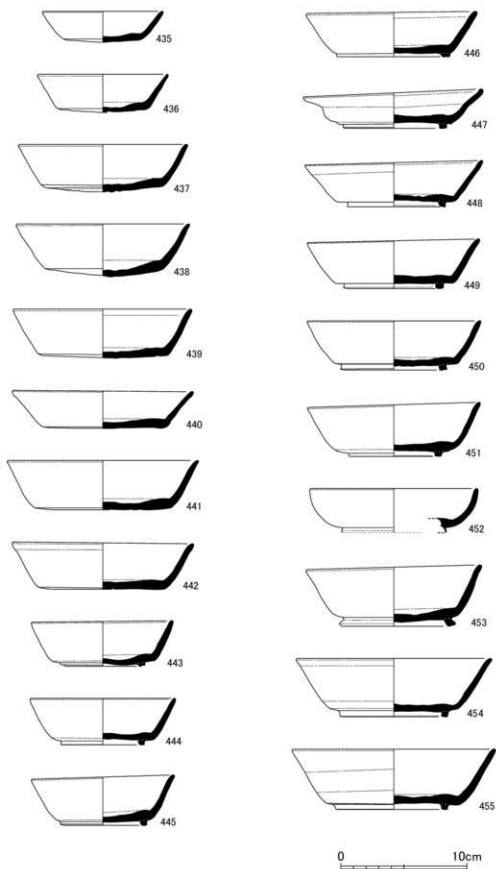
**穿孔土器 (484)** 杯蓋で、口縁部はやや丸みを帯び、天井部はやや平坦である。天井部外面に回転ヘラケズリを施し、天井部に焼成前に1ヶ所孔を穿つ。焼成はやや不良である。(藤島)

## (8) 70-4号窯跡 (第53・54図、図版3・8～10)

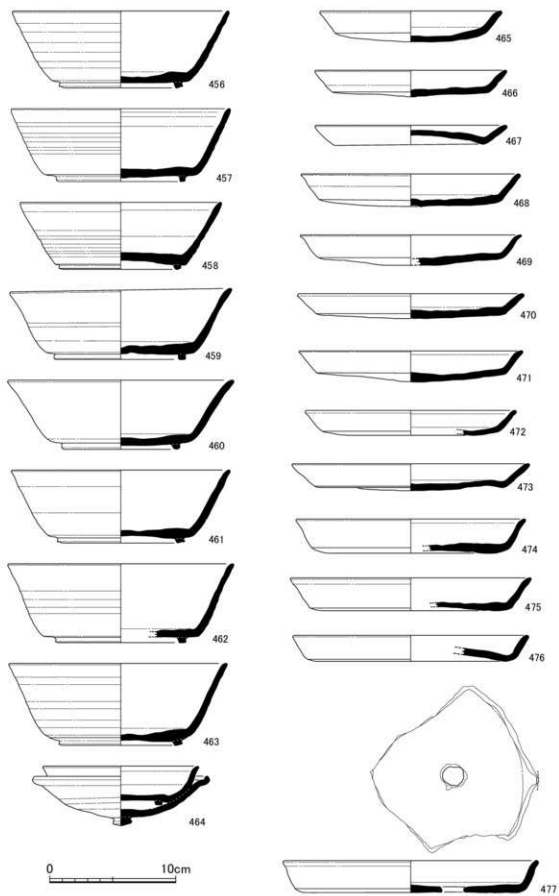
4号窯跡は、調査地の中央で確認され、3・5号窯跡の間に作られる。窯は全長3.91m、主軸はN-31°-W、焚口部の幅は0.95m、窯の平面プランは焼成部中位がゆるやかにふくらみ、奥壁は丸くなる。一部崩落しているが、焼成部の天井が残っており、焼成部上位で床面からの高さは0.85m、



第49图 3号窯跡出土遺物実測図①(1/3)

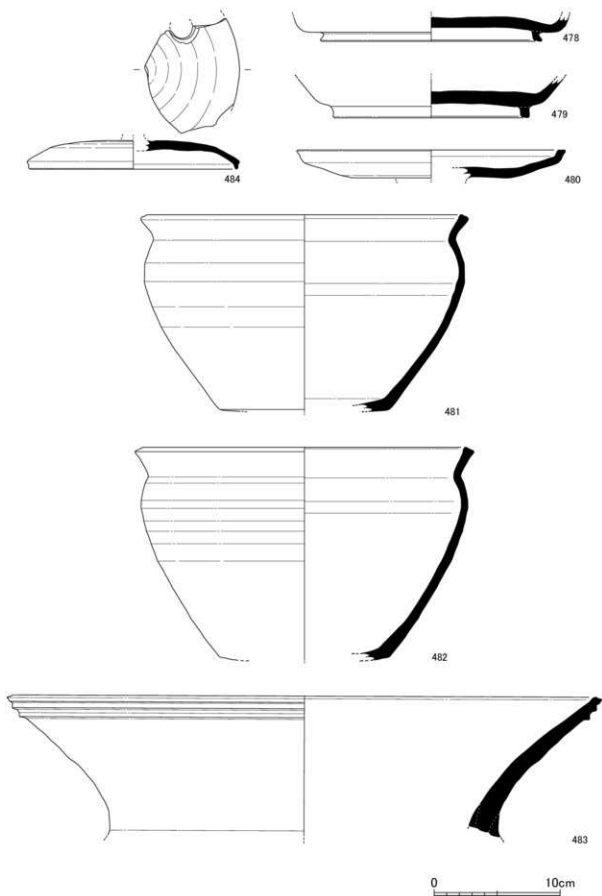


第50图 3号窯跡出土遺物実測図②(1/3)



第51图 3号窯跡出土遺物実測図③(1/3)





第52图 3号窑迹出土遗物实测图④(1/3)

焼成部下位で高さ1.22mである。1号窯跡の項で述べたように、4号窯跡の排煙口を埋めて1号窯跡前庭部としていたようで、焼けしまった床面が4号窯跡の焼成部奥側に落ち込んでいる。このため、4号窯跡の崩落土(D-D'44層)上に間層(D-D'46層)を挟んで1号窯跡の灰層(D-D'48層)が流れ込んでいる。燃焼部の崩落土(D-D'44層)上面からは、遺物の出土が見られた。また、燃焼部床面には舟底状ピットが確認されており、褐灰色土(A-A'面45層)上で最終操業が行われている。

**焚口・燃焼部** 焚口部は幅0.95mで、焼成部との境は舟底状ピットを埋める褐色土(A-A'面45層)が傾斜を変える部分と考えられる。この傾斜変換は舟底状ピット内左側の還元面にも表れている。舟底状ピットの上層に灰層の堆積は認められないため心もとない点はあるが、還元面の傾斜変換点を参考にする、燃焼部の長さは1.12m、床面の傾斜角度は4°、焼成部との境は幅1.02mである。舟底状ピットは、長さ1.2m×幅0.67m、深さ約33cmで楕円形プランを呈し、最終操業時には埋められている。側壁・床面からは、貼壁・貼床が確認された。

**焼成部** 焼成部は長さ2.79mで、中位で最大幅1.3mをとり、奥壁にもかかわらずゆるくすぼまり奥壁は丸くなる。床面の傾斜角度は19~50°で、特に焼成部上位は非常に傾斜がきつく、登ることができない。焼成部上位には、貼床を施したのちに粘土塊焼台を設置している。3段分が確認され、一番上の段で3個、2段目で粘土塊焼台と痕跡を合わせて3個確認され、貼床が失われている部分を合わせると4個設置されたと考えられる。設置状況から、貼床の上に直接粘土塊焼台を置き、高さが足りなかったのか、更に粘土塊焼台を設置したものもある。床面の傾斜が急であることから、設置は大変難しかったのではなかろうか。焼成部の高さは0.85~1.22mで奥壁にもかかわらず低くっており、煙道部あたりでは50cmくらいと考えられる。側壁は、貼壁が認められる。なお、焼成部と舟底状ピットにおいて、まとまった遺物の出土が認められた。28・44層上にあたり、赤く焼けた面であったことから二次焼成を受けたと考えたが、床面のかさ上げを行ったもので4号窯跡絶に伴う何らかの祭祀と考えられる。

**排煙部** 奥壁から直立するが、煙道部・排煙口は1号窯跡前庭部が作られた際に削平されている。左側壁の還元面の立ち上がりから、煙道部の径は15cm以上と考えられる。排煙部と焼成部上位に1号窯跡の前庭部床面が落ち込んでいる。

**前庭部** 焚口部から続く床面は還元しており、ハの字に開く。長さ0.86m×幅1.85m。下方には、長さ約1.7m×幅約3.2mの掘り込みがあり、ゆるく下っていく。窯跡の左側には、竈体に接するように長さ0.9m×幅0.66mの掘り込みがあり、深さは燃焼部側壁の中位あたりまでで、床面から約20cm浮いた状態で須恵器杯蓋などが出土した。

**灰原** 先に述べたように、4号窯跡内部には1号窯跡灰層が流入しており、4号窯跡に伴う灰層は前庭部下の掘り込みで確認された黒色土(A-A'41~43層)と考えられる。41層の上層(A-A'39層)は、1号窯跡の掘削もしくは4号窯跡絶時に伴うものと考えられ、下層の第56図1-D~E43・52層は4号窯跡に伴うもので、厚さは最大1mを超え、多量の遺物が出土した。

(石木)

## (9) 出土遺物

## 窯体内 (第55図、図版42・43)

489は貼床面からの出土である。第54図の窯体内にある遺物番号、No. 2は494、No. 3は505、No. 4は496、No. 5は486、No. 6は492・497、No. 7は493・503、No. 8は490・500と対応しており、いずれも二次焼成面とした28・44層上からの出土である。また、第54図の焚口部から煙道部に向かって左側にある土坑から出土した遺物は、No. 1は501、No. 2は487、No. 3は506、No. 4は495と対応している。

**杯蓋 (485～497)** 485・488・493・496は扁平で天井部は平坦である。486・487は焼き歪みが著しく天井部の形態の詳細は不明であるが、490は天井部が平坦である。492・494・495は天井部から口縁部にかけて平坦である。485～488・490～496は口縁端部を下方につまみ出し断面三角形を呈する。489は下方にわずかに突出し丸くおさめる。485・487・488・493は、天井部外面は回転ヘラ切り後ナデ、または回転ナデを施す。486・489～492・494～497は天井部外面に回転ヘラケズリを施し、494は外面一部に工具痕が残る。486・487・492～494・497は擬宝珠様のつまみが付く。487は中央が高くやや山形を呈する。486・493は中央がやや高く扁平である。494・497は中央が高く山形を呈する。492は中央が高いが形微化している。485・488・495・496はボタン状のつまみを有する。487・488・495に重ね焼きの痕跡が見られ、490・493は火漕が残る。

**杯 (498・499)** 498は体部が直線的に外方に立ち上がり、口縁部はやや外反する。499は体部が直線的に外方に開く。499は通常の杯と異っており、鉢の可能性もある。498・499は底部外面に回転ヘラ切り後ナデを施し、499は口縁部と底部の境に回転ヘラケズリが見られる。

**杯身 (500～502)** いずれも体部は直線的に外方に立ち上がり、口縁部は外反する。高台は低く断面方形を呈する。

**皿 (503～506)** いずれも体部は外反しながら外方に開く。503は底部外面に回転ヘラ切り後板状工具によるナデを施し、簾状の圧痕が残る。504・505は底部外面に回転ヘラ切り後ナデを施し、506は回転ヘラケズリが見られる。504は口縁部内面に火漕が残る。

## 灰原 (第55図、図版43)

いずれも灰原6区からの出土である。

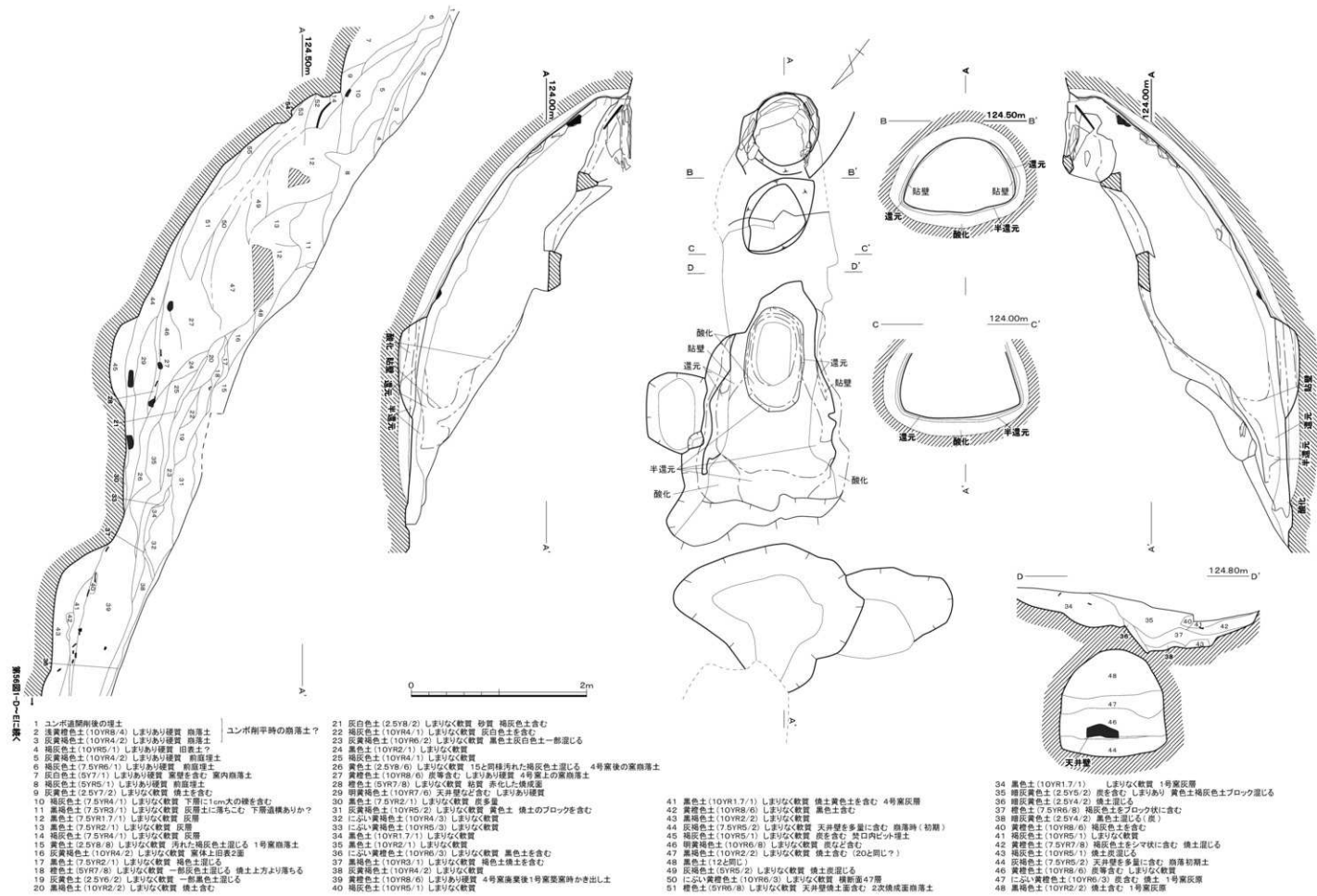
**杯 (507)** 杯Aである。6枚ほど重ね焼きをし融着した資料である。体部は直線的に外方に立ち上がり、わずかに外反しながら口縁部に至る。底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施し、付着物が見られる。

**壺 (508)** 口縁部から頸部みの破片資料である。頸部から口縁部にかけて直線的に外方に開く。口縁部外面を回転ナデにより突出させ、強い稜が入る。広口壺か。(藤島)

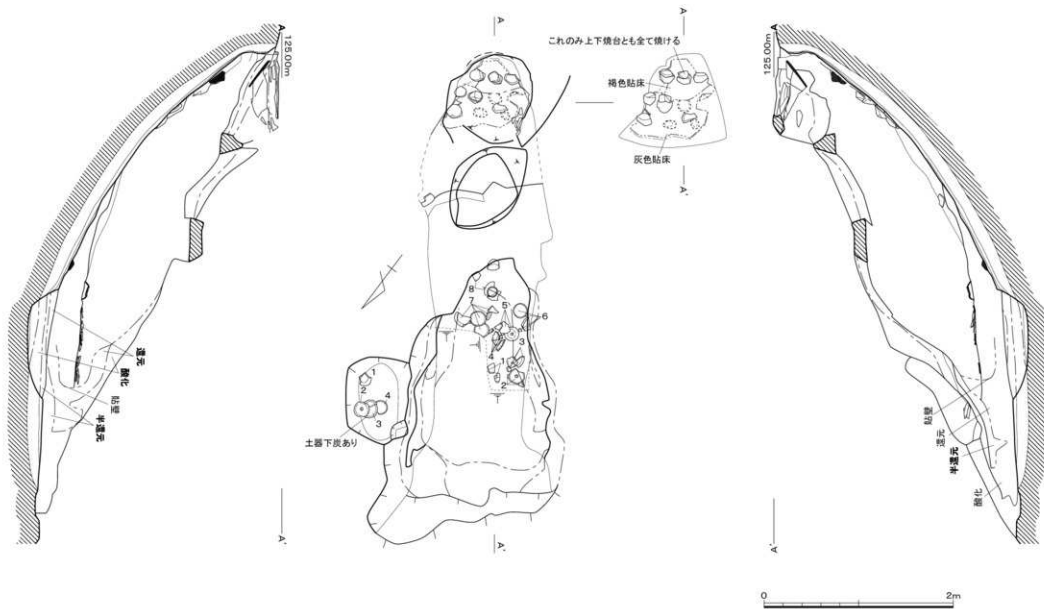
## (10) 3・4号窯跡灰原出土遺物

## 1区 (第57・58図、図版43～46)

**杯蓋 (509～524)** 天井部は丸味を持ちドーム状を呈する形態と、扁平な形態の2種類がある。509・517・518・521は口縁端部を下方に折り曲げ、断面喙状を呈する。511・512・514～516・

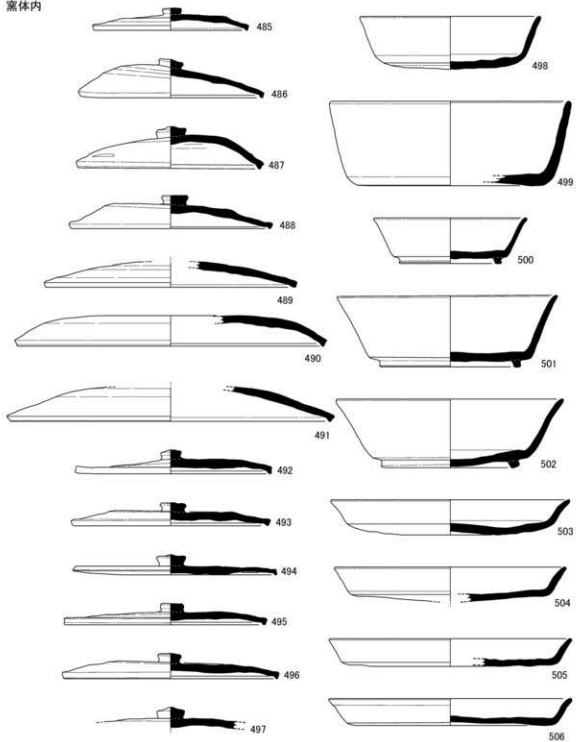


第53図 4号窯跡実測図 (1/40)



第54図 4号竈跡遺物出土状況実測図 (1/40)

窟体内



灰原



第55图 4号窟跡出土遺物実測図(1/3)

520・522・523は天井部外面に回転ヘラ切りを施し、522は回転ヘラ切り後板状工具によるナデ。その他は回転ヘラケズリを施す。焼き歪みの著しい519はナデ後板状工具によるナデ。つまみは扁平な擬宝珠様の形態のものとボタン状があるが、524は宝珠様のつまみが付く。512・513・515・516は重ね焼きの痕跡が見られ、特に512は外面に別個体の破片が付着している。519・521・524は焼き歪みが著しい。

**杯 (525～531)** 525は体部が内湾しながら立ち上がり、口縁端部を丸くおさめる。底部外面は回転ヘラケズリを施す。526～530は体部が直線的に外方へ立ち上がり、底部外面は回転ヘラ切りを施す。525・526・528は降灰が見られ、528は内面に重ね焼き痕が残る。531は太宰府分類土師器杯dに類似する杯で、底部外面はヘラケズリを施す。体部は内湾気味に立ち上がり、底部と口縁部の境は明瞭である。内面は回転ナデで、器壁を薄く仕上げる。内面に重ね焼きの痕跡が見られ、内外面に火漉が残る。

**杯身 (532～536)** 杯B身である。532は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部をわずかに外反させる。533～536は直線的に外方に開く。高台はいずれも低く断面方形を呈するが、533・534は端部を外方に小さくつまみ出す。532は高台端部に工具痕が見られ、535は圧痕が残る。536は底部外面に工具痕と板状圧痕が認められる。

**皿 (537～542)** 537・540は口縁部が大きく外反しながら開き、底部は突出する。538・539は口縁部が直線的に外方に開き、底部は丸味をおびる。541は口縁部が直線的に大きく外に開く。いずれも底部外面は回転ヘラ切りを施す。火漉は、537は内外面に、538は外面に、539・540は内面に残る。また、540は内面に繊維状の付着物が見られる。542は台付皿である。高台はやや高く断面方形を呈するが、焼き歪みのため内傾する。

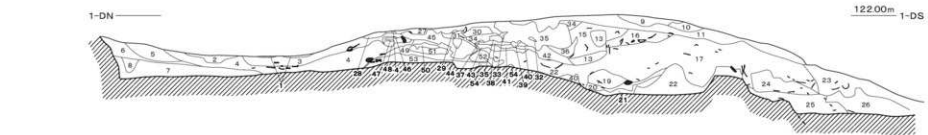
**高杯 (543～545)** 543・544は杯部の資料である。543は口縁端部外面に小突起を巡らせる。544は口縁部は短く直立し、端部を平坦におさめる。545は脚部の資料で、脚部は長く、脚裾端部にかけてラッポウ状に開き、端部を下方に折り曲げ断面嘴状を呈する。

**壺 (546～551)** 546は短頸壺の蓋である。天井部は平坦で、口縁部へ向かって垂直に下り、端部外面をわずかに外に引き出す。高さのあるつまみが付き、上面がわずかに突出する。547～549は口縁部の資料である。547は大きく外反し、口縁端部を上方に屈曲させる。内面にシボリ痕が見られる。548は直線的な頸部から口縁端部を横方向に引き出し、端部を丸くおさめる。外面に降灰が見られる。549・550は長頸壺。549は口縁端部を外方に突出させる。外面にシボリ痕が残る。550は底・体部で、肩が強く張り稜が入る。肩部上半は丸味を持ち、肩部下半は回転ヘラケズリを施す。底部内面に付着物が残る。551は短頸壺である。口縁部は短く立ち上がり、端部は平坦面になる。最大径は上半にあり、下半は回転ヘラケズリを施す。

**瓶 (552)** 体部の資料である。長胴で内湾気味に立ち上がり、外面に沈線を5条施す。

**鉢 (553)** 体部下半から底部の資料で、内湾しながら立ち上がる。底部外面は回転ヘラ切り後ナデにより平坦に仕上げられ、爪形状の圧痕が残る。内面一部に棒状工具によるナデを施す。

**焼土塊 (554)** 業脈痕が残る資料で、裏面にはスサの圧痕が確認される。器壁は薄く、破片のため詳細な形態は不明である。

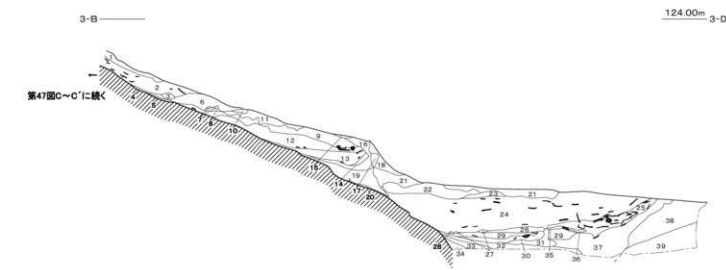


- 1 黄色土 (2.5Y8/8) しまりあり硬質 谷の流入土
- 2 にぶい黄褐色土 (10YR6/6) 谷の流入土
- 3 黒色土 (10YR1/7/1) 反照
- 4 にぶい黄褐色土 (10YR6/4) → 褐色土 汚れた黄褐色土 炭を含む
- 5 明黄褐色土 (10YR7/6) しまりあり硬質
- 6 深黄褐色土 (10YR8/4) 地山に近い しまりあり硬質
- 7 明黄褐色土 (10YR6/6) 硬が混入する
- 8 褐色土 (10YR5/1) ビット?
- 9 褐色土 (10YR4/4) 黄色土ブロックを混じる
- 10 黒褐色土 (7.5YR3/1)
- 11 暗灰褐色土 (2.5Y/2) 汚れた感じ 旧農土上に堆積か? (もしくは反照上?)
- 12 黒褐色土 (2.5Y/3/1)
- 13 明黄褐色土 (2.5YR6/8) 黒褐色土で汚れる 一部黒土混じる

- 14 灰オリーブ色土 (5Y5/2) 砂質
- 15 黒色土 (10YR1/7/1) 塊土・黄色土ブロック多く含む(河らの湧きあり)
- 16 黒色土 (10YR2/1) 15より汚い 塊土・黄色土とも少ない
- 17 黒色土 (10YR1/7/1) 塊土・黄色土含むが15より少ない
- 18 黄褐色土 (10YR8/8) 汚れる
- 19 赤褐色土 (2.5YR4/6) 黒色土を含む(塊土)
- 20 黄色土 (2.5Y8/8) 黒色土にて汚れる
- 21 黒色土 (10YR1/7/1) 炭を多量に含む 汚れる
- 22 明黄褐色土 (10YR7/6) 黒色土を含む 地山の汚れた土
- 23 灰黄褐色土 (10YR4/2)
- 24 黄色土 (5Y8/6) 黒色土にて汚れる 石も含む
- 25 黒褐色土 (7.5YR2/1) 白黄色土(砂質26層)を含み沢の影響をうける?
- 26 淡黄色土 (2.5Y8/3) 砂質 沢の影響による堆積土か

- 27 暗灰黄色土 (2.5Y5/2) 黄褐色土混じる
- 28 淡黄色土 (2.5Y7/3) 白色土混り
- 29 暗黄褐色土 (2.5Y6/8) ブロック
- 30 暗黄褐色土 (2.5Y6/8)
- 31 灰白色土 (10YR7/1) 砂質土(黒混じり)
- 32 灰白色土 (5Y5/1) 25とご
- 33 暗灰黄褐色土 (2.5Y5/2) 黒色土混じる
- 34 明黄褐色土 (10YR6/6) 黒色土混じる
- 35 黒褐色土 (7.5YR3/1) 黄褐色土混じる
- 36 明黄褐色土 (10YR6/6)
- 37 黒褐色土 (7.5YR3/1)
- 38 明赤褐色土 (5YR5/6) 塊土混じる
- 39 灰白色土 (10Y7/1)

- 40 黄褐色土 (2.5Y6/4)
- 41 黒褐色土 (7.5YR3/1)
- 42 黒褐色土 (7.5YR3/1) 塊土混じる
- 43 黄褐色土 (2.5Y6/8)
- 44 灰オリーブ色土 (5Y6/2)
- 45 淡黄色土 (5Y8/3) 砂質土
- 46 淡黄色土 (2.5Y7/4) ブロック
- 47 にぶい黄色土 (2.5Y6/4)
- 48 黒褐色土 (7.5YR3/1) 15と同一
- 49 灰白色土 (2.5Y4/1)
- 50 暗灰黄色土 (2.5Y5/2)
- 51 淡黄色土 (5Y6/2) 砂質土 25と同一
- 52 黄褐色土 (2.5Y6/4) 22と同一
- 53 明黄褐色土 (10YR6/6) 硬をともなう 地山系
- 54 にぶい黄褐色土 (10YR6/4) 地山系



- 1 灰黄褐色土 (10YR5/2) 3号窯全体セウと同じ 塊土を含む
- 2 黒色土 (10YR1/7/1) 3号窯全体セウと同じ 塊土を含む
- 3 黄褐色土 (10YR8/8) 地山の暗層ブロック
- 4 灰白色土 (2.5Y7/2) 炭・塊土混じる
- 5 黒色土 (5YR1/7/1) 反照 3号窯のものか?
- 6 淡黄色土 (2.5Y8/4) 砂質 谷からの流出土
- 7 褐色土 (10YR5/1) 6層にブロックで入る腐食土
- 8 黄褐色土 (10YR6/6) 7層土の上と異なる地山が混れたよ3号土
- 9 黒褐色土 (10YR3/1) 灰黄褐色土混り汚れる 5層続き3号窯反照?
- 10 灰白色土 (2.5Y6/1) 6層下堆積土腐土層
- 11 黄褐色土 (10YR8/8) しまりあり硬質 地山流出土
- 12 黄褐色土 (10YR7/8) 反照し しまりあり硬質 地山陥没流入土
- 13 灰黄褐色土 (10YR6/2) しまりあり硬質 反照し

- 14 淡黄褐色土 (7.5YR8/4) しまりあり 反照し
- 15 灰白色土 (2.5Y6/1) 黄色土混じる
- 16 黄褐色土 (10YR8/8) 炭混じる しまりあり硬質
- 17 黄褐色土 (10YR8/8) しまりあり硬質
- 18 灰白色土 (10YR2/2) 砂質 谷に混れた土
- 19 褐色土 (10YR6/1) 塊土混じる
- 20 黒褐色土 (10YR3/1) しまりなし 下層炭源の塊土
- 21 灰黄褐色土 (10YR6/2) 硬が混入する
- 22 黄褐色土 (10YR6/6) 地山の暗層土
- 23 灰黄褐色土 (10YR5/2)
- 24 黒色土 (7.5YR1/7/1) 20層から炭(反照土)と枝があるか? 土器多量
- 25 褐色土 (5YR6/8) 塊土
- 26 淡黄色土 (2.5Y7/3) 炭・黒色土等混り汚れる

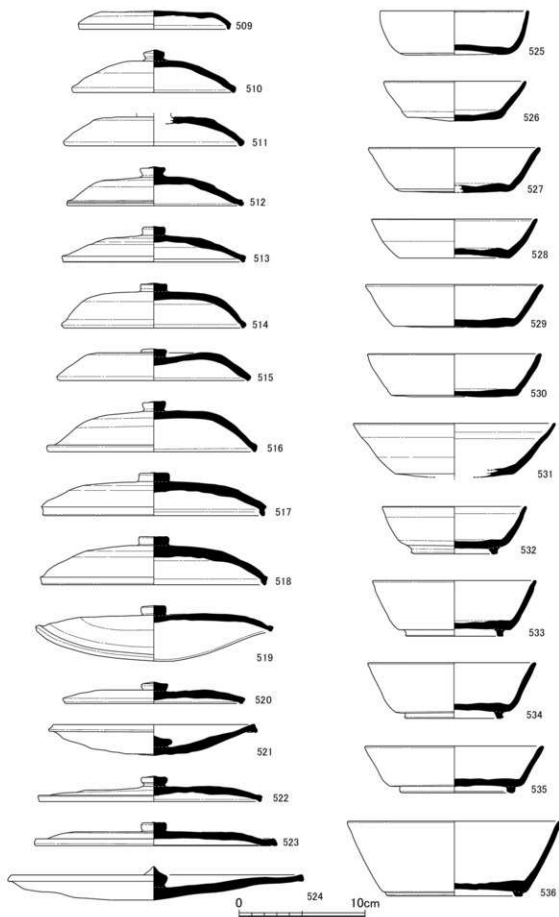
- 27 淡黄色土 (2.5Y8/4) 地山がずれの一部
- 28 灰白色土 (N8/1) 天井壁の一部
- 29 黒褐色土 (5YR3/1) 炭・塊土を含む
- 30 黄色土 (2.5Y8/6) 炭含む
- 31 灰白色土 (2.5Y8/6) 塊土
- 32 灰白色 (N6/1) 粘質 反照として最下層一部含む
- 33 灰白色土 (7.5Y8/1) 砂質 沢の堆積土 一部遺物あり
- 34 黄褐色土 (2.5Y4/1) 粘質がかる 沢の下層へ
- 35 黄色土 (2.5Y8/6) 粘質
- 36 灰白色土 (10Y8/1) 硬くまる 天井壁か?
- 37 黒褐色土 (7.5YR3/1) 炭を含む
- 38 黄色土 (2.5Y8/8) しまりあり硬質
- 39 灰白色土 (2.5Y6/1) 砂質

- 36 にぶい黄褐色土 (10YR6/3) しまりなく軟質 黒色土を含む
- 38 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりなく軟質
- 42 黄褐色土 (10YR6/6) しまりなく軟質 黒色土含む
- 43 黒褐色土 (10YR2/2) しまりなく軟質
- 52 灰褐色土 (7.5YR4/2) しまりなく軟質
- 53 淡黄褐色土 (7.5YR8/3) しまりなく軟質 砂質
- 54 暗黄褐色土 (10YR7/6) しまりあり硬い
- 55 にぶい黄褐色土 (10YR7/2) しまりなく軟質 砂質
- 56 明黄褐色土 (10YR7/6) しまりなく軟質 炭・塊土を含み水が動いた形跡あり
- 57 黄色土 (10Y8/2/1) しまりなく軟質
- 58 にぶい褐色土 (7.5YR6/3) しまりなく軟質 水性堆積
- 59 灰白色土 (7.5YR8/1) しまりなく軟質 砂土
- 60 黒褐色土 (7.5YR3/1) しまりなく軟質 塊土含む
- 61 暗灰褐色土 (7.5YR5/1) しまりなく軟質 水の動いた土の層が水の影響をうける
- 62 淡黄褐色土 (7.5YR8/3) しまりなく軟質 砂質 現在の沢の影響か

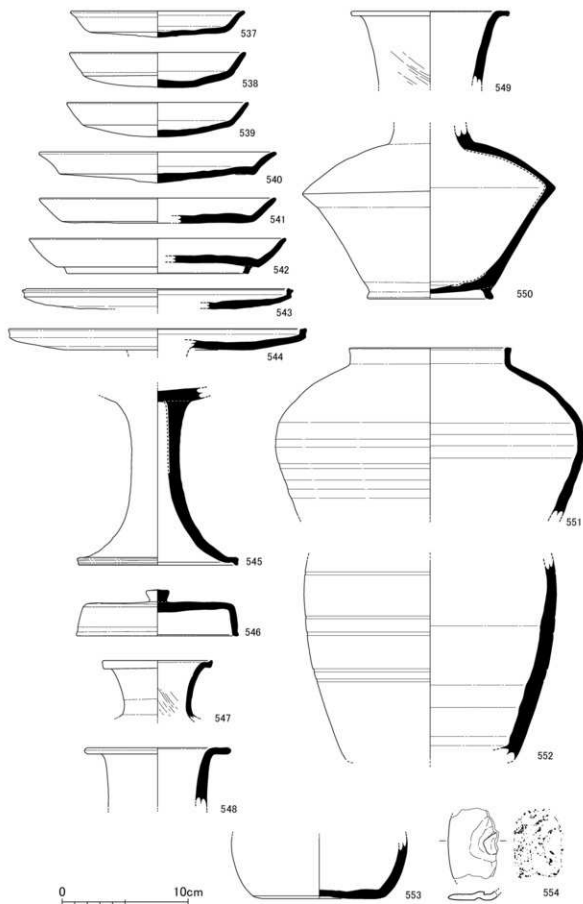


第56図 3・4号窯跡灰原土層断面実測図 (1/60)





第57图 3·4号窯跡灰原1区出土遺物実測図①(1/3)



第58图 3·4号窯跡灰原1区出土遺物実測図②(1/3)

## 2・3区(第59図)

皿(555) 底部はわずかに丸味をおびる。底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。

## 3区(第59図、図版46)

杯蓋(556) 天井部から口縁部にかけて丸味を持ちドーム状を呈する。口縁端部を外方に引き出し下方にゆるく折り曲げ丸くおさめる。天井部外面はナデを施す。

杯(557) 口縁部はわずかに外反する。底部外面は回転ヘラ切りを施す。小型の資料である。

高杯(558) 焼き歪みの激しい資料で杯部の形態は不明確である。脚部は大きくラッパ状に開く。杯部外面は降灰が見られ、脚部内面にシボリ痕が認められる。

壺(559) 体部は丸く内湾しながら立ち上がる。高台は断面方形で、体部外面は回転ヘラケズリを施し、底部外面に回転ヘラ切りを施す。

## 4・5区(第59図)

甕(560) 体部の破片資料で、外面は擬格子タタキ、内面は格子状の当て具痕の痕跡が認められる。上半は被熱による膨張が見られ、下欠損部分には接合痕が残る。

## 4区(第60～65図、図版46～48)

杯蓋(561～590) 丸味を持ちドーム状を呈する形態と扁平な形態の2種類に分かれる。576・579・581・587は口縁端部を下方に折り曲げ、断面嘴状を呈する。その他は下方に短く突出させる。562・563・565～572・574・577・578・580～583・585・586・588・590は天井部外面に回転ヘラ切りを施し、562は工具痕が、578・583は回転ヘラ切り後板状工具によるナデを施す。焼き歪みが著しい580は内外面ともに回転ナデ後、板状工具によるナデを施す。その他は回転ヘラケズリ。つまみは擬宝珠様とボタン状に分かれ、562・588は中央が隆起し山形を呈する。中でも589のつまみは中央が凹む特殊な形態をなす。重ね焼きの痕跡は、内外面に565・568に見られ、外面のみは571・573・575・583、内面のみは572に認められる。583は外面に火罫が見られる。585は天井部外面にヘラ記号が認められる。588は内面に「大」のヘラ書き文字が刻まれる。

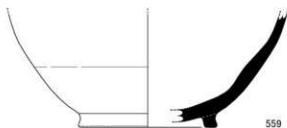
杯(591～611) 591～607は杯Aである。591～595・598～601・603～607は体部が直線的に外方に開く。596・597・602は体部が外方へ開くが、内湾気味で、口縁端部を外反させる。597・603は内面に火罫が、604は外面に見られる。605は底部に焼成前穿孔が1ヶ所認められる。608～611は太宰府分類土師器杯dに類似する。608・609・611は底部外面を回転ヘラケズリし、口縁部との境は明瞭である。内面は回転ナデを施し、器壁は薄い。いずれも火罫が内面に見られる。608は底部外面に重ね焼きの痕が残る。

杯身(612～633) 612・613・621・622・624・628・631は体部が外方に開くが、内湾気味で、口縁端部は外反する。その他は直線的に外方に開く。いずれも高台は低く断面方形を呈する。613・614は内面に重ね焼きの痕跡が残る、特に614は口縁部内面に棒状のアタリが見られる。633は重ね焼きの資料で、杯身にひっくり返した杯蓋が重なっている。焼き歪みが著しく、杯身底部外面には

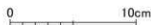
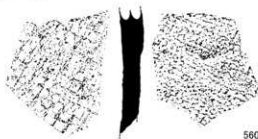
## 灰原2・3区



## 灰原3区



## 灰原4・5区



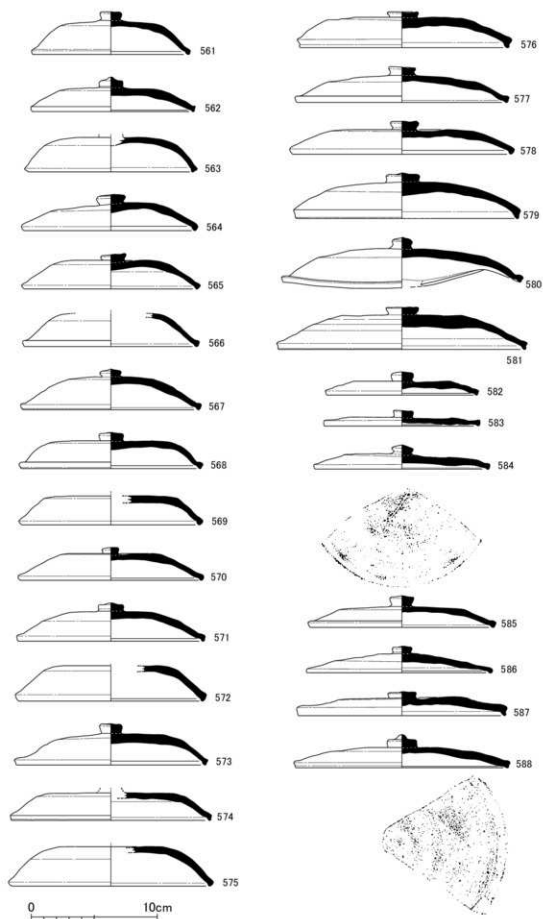
第59図 3・4号窯跡灰原2・3区、3区、4・5区出土遺物実測図(1/3)

簾状の圧痕が残る。

**不明製品 (634~636)** 器種不明なものである。634は体部が内湾しながら外方へ開き、口縁端部は外反する。635は口径9.6cmを測る小型の資料で、口縁部外面に6条の沈線状が巡る。636は体部から口縁部にかけて外反しながら開き、口径22cmを測る大型の資料である。底部内面にユビオサエが残る。

**皿 (637~645)** 637・639~642・644は体部が直線的に外方に開き、638は体部が内湾気味に立ち上がり、643は外反する。642~644は底部が丸みを持つ。639は重ね焼きの資料で、2枚の皿が融着する。640は内外面に火禿が見られ、644は底部外面一部に棒状のアタリが残る。645は台付皿で、内湾しながら立ち上がり、口縁端部がわずかに外反する。高台は低く断面方形を呈する。外面に別個体の破片が付着する。

**高杯 (646~648)** 646は杯部の資料で、口縁部はやや外に開き端部は平坦になる。端部外面は小さくつまみ出し突出させる。647は口縁部が直立し、端部を平坦に仕上げる。脚基部は太く、大きく開く。脚端部は下方につまみ出し、断面三角形を呈する。脚部外面は降灰し、脚部内面にシボリ痕が見られる。648は焼き歪みが著しく全様は不明。杯部内面に重ね焼きの痕跡と、「一」のヘラ



第60图 3·4号窯跡灰原4区出土遺物実測図①(1/3)

記号が見られる。脚部内外面ともにシボリ痕が残る。

**壺 (649~656・658)** 649~651は短頸壺の蓋である。649は口縁部が内傾し、端部外面を外方につまみ出す。650は口縁部がやや外方に下り、端部を小さくつまみ出し突出させる。つまみはボタン状を呈する。651は口縁部が外に開き端部にいたる。中央がわずかに突出する擬宝珠様のつまみが付く。いずれも天井部外面は回転ヘラケズリを施す。651は外面に火櫛が残る。652・653は口縁部の資料で、652は頸部が直立気味に立ち上がり、端部を外方に屈曲させた後上方につまみ出す。内面は回転ナデ。653は口縁部をわずかに外反させ、端部をやや突出させる。内外面回転ナデを施す。654・655は短頸壺である。654は口縁部が直立気味に立ち上がり、端部はやや丸くおさめる。体部最大径は上半に位置し、口径11.4cm、体部最大径14cmを測る小型の資料である。655は口縁部が直立し端部上面を凹線状に仕上げる。体部下半を欠くため詳細は不明だが、最大径は上半に位置すると思われる。656は短頸壺の体部の破片で、体部中位付近が張る資料である。下半外面は回転ヘラケズリを施す。658は突帯付長頸壺の体部の資料である。内外面とも回転ナデを施し、肩部と体部の境に断面三角形の突帯を巡らせる。

**鉢 (657・659・662)** 657は低い高台を有し、バケツ形の鉢の底部の資料で、体部下半は直線的に外方に開く。底部は回転ヘラケズリを施す。659は体部下半から底部の資料である。体部は直線的にやや外方に開き、外面に回転ヘラケズリを施す。662は小型のものである。鉢としてよいか迷うが、一応形態的特徴から、猪口形の鉢と考えた。

**瓶 (660・661)** 660は体部片で、把手が付く資料である。全面回転ナデで、把手はエビオサエトナデで成形する。661は平瓶の把手か。全面面取りをし、内面は手持ちヘラケズリを施す。

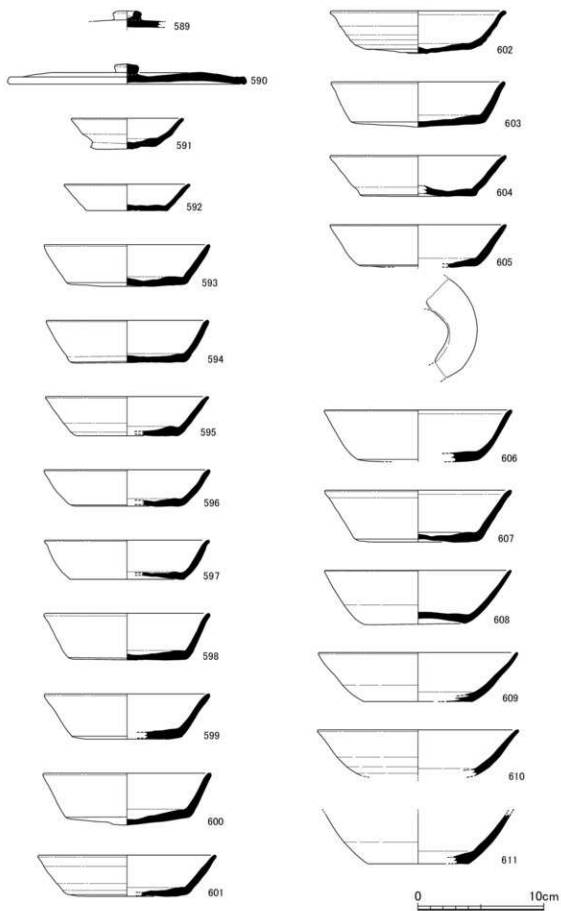
**甕 (663~665)** 663は頸部が直線的に外方に開く。体部外面に擬格子タタキをし、内面に同心円文当て具痕が残る。664は頸部の資料で、外反しながら口縁端部を平坦に仕上げる。端部外面に突帯を3条作り出し、内外面の一部に付着物が見られる。内面には別個体の破片が付着する。665は口縁部の資料で、口縁端部は断面方形状になる。端部内面はエビオサエを施す。

**穿孔土器 (666~668)** 666は杯蓋に穿孔したものである。やや扁平な形態で、口縁端部は下方につまみ出し丸くおさめ、上方を小突起状に巡らせる。天井部外面は回転ヘラケズリを施し、つまみが剥落した痕跡が見られる。天井部に焼成前に穿った孔が1ヶ所認められる。667は杯身に穿孔したものである。口縁部を欠く資料で、高台は低く断面方形を呈する。高台端部は板状圧痕が残る。底部に焼成前の穿孔が1ヶ所見られる。668は高杯の杯部で脚部を欠く。口縁部が直立し、端部を平坦に仕上げる。底部に焼成後の穿孔が1ヶ所見られる。

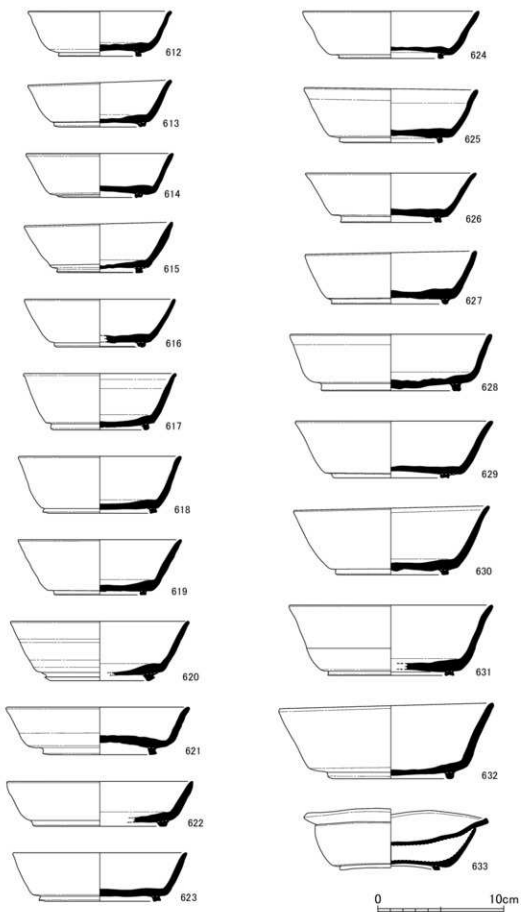
**焼土塊 (669)** 下層黒色土から出土した。裏表面にスサ痕が残り、長さ4.8cm、幅3.4cm、厚さ1.8cmを測る。

## 5区 (第66~68図、図版48)

**杯蓋 (670~682)** 丸味を持ち、ドーム状を呈する形態と扁平な形態の2種類に分かれる。672・674~677は口縁端部が下方に引き出し断面嚙状を呈する。その他は、下方に突出し丸くおさめるものが多い。670~680・682は天井部外面に回転ヘラ切りを施し、678はさらに板状工具によるナデ。

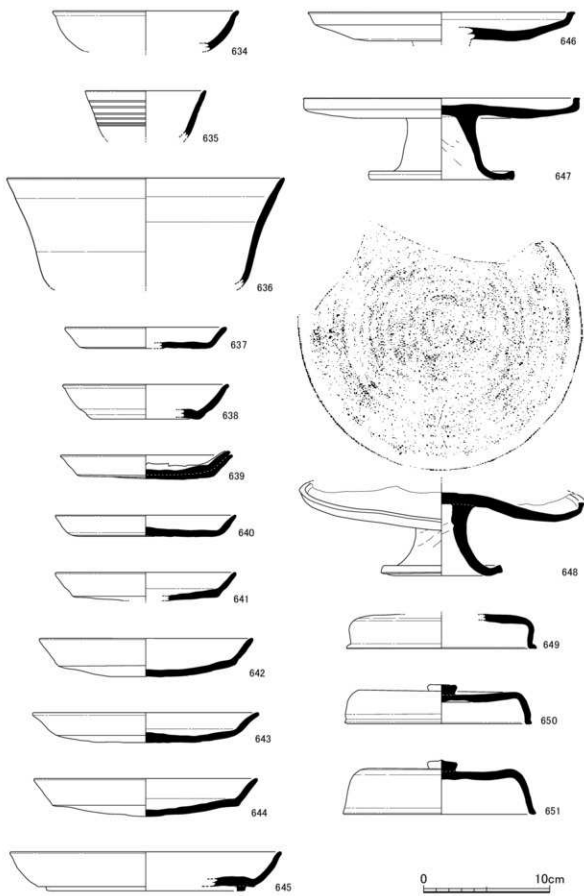


第61图 3·4号窑跡灰原4区出土遺物実測図②(1/3)

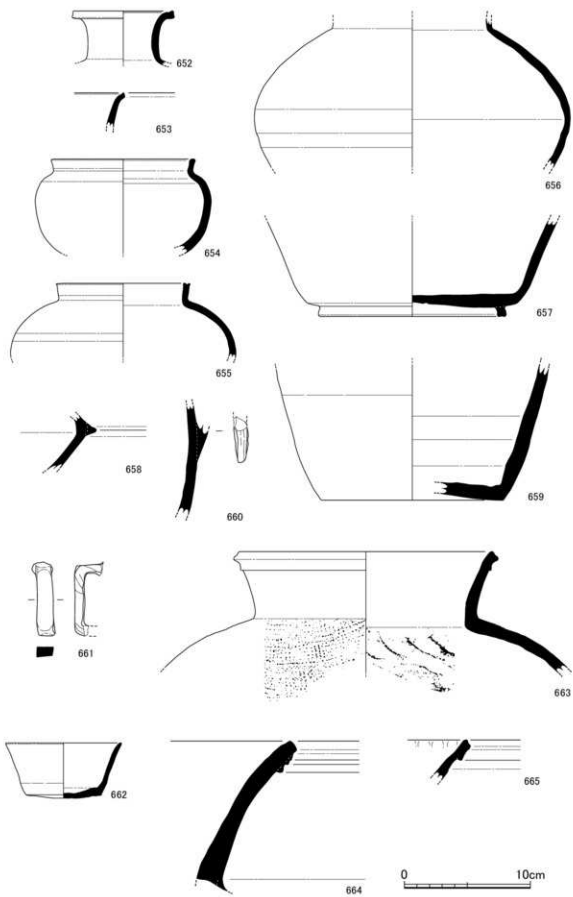


第62图 3·4号窑跡灰原4区出土物実測図③(1/3)

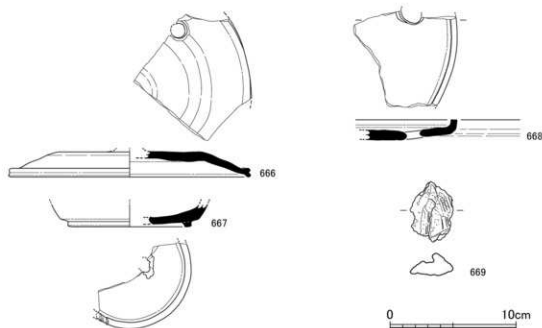




第63图 3·4号窯跡灰原4区出土遺物実測図④(1/3)



第64图 3·4号窑址灰原4区出土遗物实测图⑤(1/3)



第65図 3・4号窯跡灰原4区出土遺物実測図⑥(1/3)

681は回転ヘラケズリを施す。つまみは擬宝珠様とボタン状に分かれ、679は宝珠形を呈する。重ね焼きの痕跡は、673・674・681は外面、670は内面、671・677は内外面に認められる。672は外面に別個体の破片が付着する。681は外面に火槽が残る。

**杯 (683~689)** 683~688は杯 A である。683は口縁部が内傾し立ち上がる。684~687は体部が外方に開き、口縁部は外反する。688は直線的に外方に開き、口縁部はわずかに外反する。いずれも底部外面は回転ヘラ切り、687は板状工具によるケズリが見られる。689は太宰府編年土師器杯 d 類に類似する。体部は内湾気味に外方に開き、底部は回転ヘラケズリを施し、口縁部との境は明瞭である。内面は回転ナデ。器壁は薄い。外面に火槽が見られる。

**杯身 (690~698)** 690は口縁部を欠くが、高台径4.4cmを測る小型のものである。691~693・695・697は体部が外方に直線的に開き、694はやや内湾気味に外方に開き、698は直線的に外方へ開き、口縁部は外反する。696は焼き歪みが著しいため、詳細な形態は不明である。いずれも高台は低く断面方形を呈する。692は外面に重ね焼きの痕跡が残り、降灰が見られる。696は内面に重ね焼きの痕跡が認められる。

**皿 (699)** 口縁部は外反し、底部は丸味を持つ。底部外面に簾状の圧痕が残る。

**高杯 (700~702)** 700は杯部から脚部の資料である。口縁部は短く直立し、端部は平坦面を作り、脚部は外反する。脚部外面から杯部外面にかけて降灰する。701は脚部の破片で、脚部は外反しながら裾部は大きく広がる。脚端部は下方に折り曲げ、断面嘴状を呈する。脚部外面にシボリ痕が見られる。702は杯部から脚部の資料である。脚部は大きく外方へ開きながら、脚端部は外方につまみ出す。脚端部は下方につまみ出し丸くおさめる。脚部内面にはシボリ痕が残る。

**壺 (703~706)** 703は短頸壺の蓋である。天井部からやや外方に開きながら口縁部にいたり、口縁部は外反する。天井部外面は回転ヘラケズリを施す。704は口縁部の資料で、頸部は直立気味

に立ち上がり、端部を外方へ開き、上方に短く引き出す。内面をハケ状工具により回転ナデを施す。瓶の口縁部の可能性がある。705は短頸壺の体部下半の資料で、高台を欠く。肩部は丸く張る。体部外面は回転ヘラケズリを施し、体部内面下半はタテ方向のナデを施す。706は短頸壺の体部下半から高台にかけての資料で、肩部は丸く張り、体部下半は直線的に外方に開く。

**瓶 (707)** 双耳瓶である。頸部は外方に直線的に開き、口縁部は外方に開き、端部は屈曲し上方につまみ出す。胴部最大径は上半に位置し、肩部から底部外面にかけて回転ヘラケズリを施す。把手はナデとユビオサエで成形する。

**甕 (708)** 体部下半の破片で、外面は擬格子タタキを施し、内面は上半に同心円文当て具痕、下半に格子目状の当て具痕が残り、同心円文当て具痕が格子目状当て具痕を切る。外面は降灰が見られる。

## 6区 (第69～72図、図版49・50)

**杯蓋 (709～724)** 丸味を持ちドーム状を呈する形態と扁平な形態の2種類に分かれる。709は口縁端部を下方に折り曲げ丸くおさめる。その他は短く引き出し突出させる。711～716・719～722・724は回転ヘラ切りを施し、711・724はその後板状工具によるナデを施す。他は回転ヘラケズリ。つまみは擬宝珠棟とボタン状を呈する2種類に分かれるが、709は口径8.1cm、器高2.4cmを測る小型の製品で、つまみは高さ1.3cm、径1.2cmと大きめのつまみを付ける。712・714・718は内外面に、711は内面に、713は外面に重ね焼きの痕跡が見られる。715は内面に火槽が残る。

**杯 (725～730)** 杯Aである。725は体部が直線的に外方に開き、体部中位で屈曲し外反しながら端部にいたる。底部外面はヘラ切り未調整。726～730は体部が直線的に外方に開き、口縁端部はわずかに外反する。726は底部が丸味を持ち、その他は平坦である。重ね焼きの痕跡が、725・730の内面に残る。

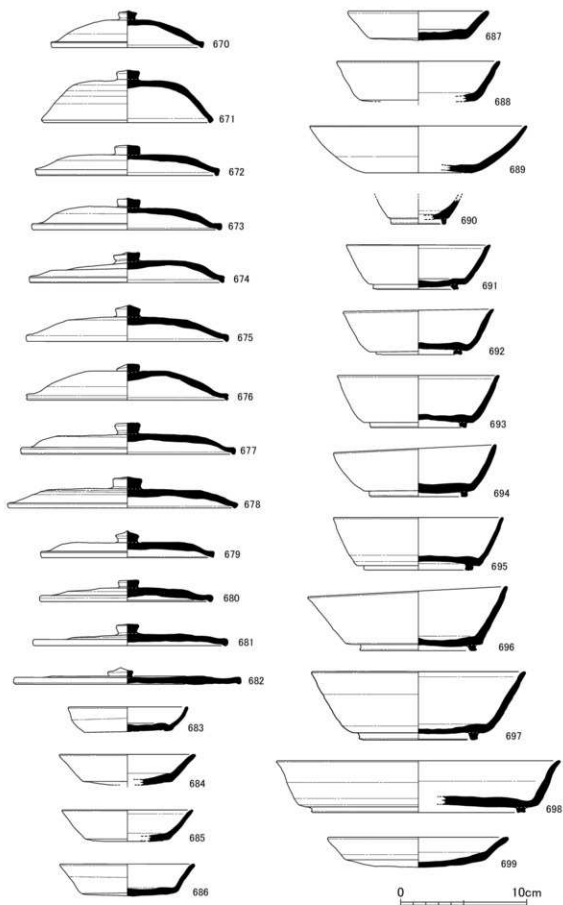
**杯身 (731～735)** 731・732は体部が直線的に外方に開き、口縁端部は外反する。733は体部が直線的に外方に開く。735は内湾しながら立ち上がる。いずれも高台は低く断面方形を呈する。732は底部外面に板状の圧痕が残る。734は焼き歪みが著しいが、全体の調整は丁寧で、底部外面にわずかに重ね焼き痕が残る。口縁部内面は火槽が残る。

**皿 (736)** 台付皿である。口縁部は大きく外方へ開く。高台は低く断面方形を呈する。

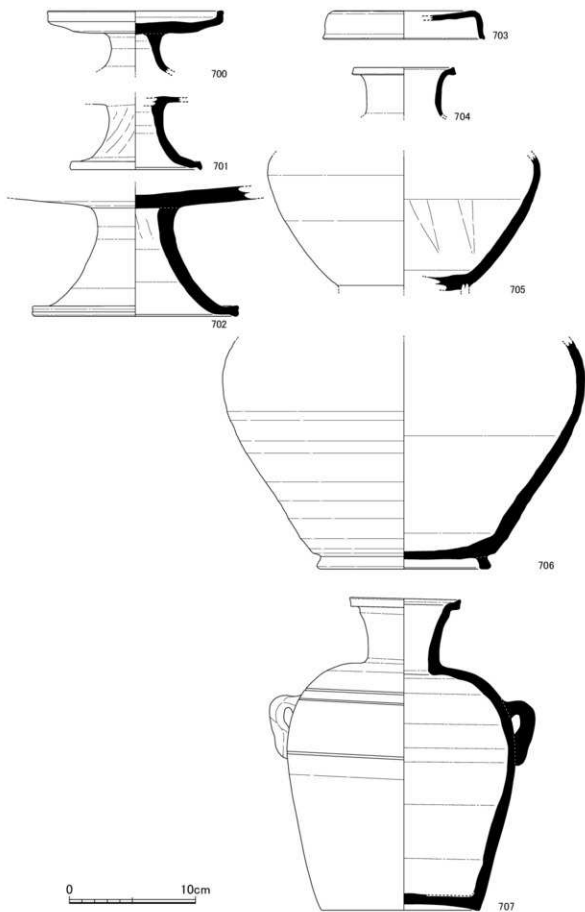
**壺 (737～742)** 737・738は短頸壺の蓋である。いずれも口縁端部は外反する。737は中央がやや突出する擬宝珠棟のつまみが付く。738は中央がわずかに突出する。739～741は頸部のみの資料である。739は口縁部が外反し、口縁端部を上方に引き出す。内面にシボリ痕が見られる。740は頸部が外反しながら開き、口縁端部は短く外方に突出した後上方につまみ出す。741は頸部が直立し口縁端部を屈曲させ上方につまみ出す。頸部に2条、沈線を巡らせる。742は短頸壺で体部下半を欠く。口縁部は直立し、端部を平坦に仕上げず。体部最大径は上半に位置する。

**瓶 (743)** 双耳瓶で体部上半を欠く。把手は体部下半に付けられ、器壁は厚い。ナデとユビオサエで成形する。

**鉢 (744・745)** 744は口径12cm、底径10.4cm、器高5.3cmを測る箱型の鉢である。体部が直立しな



第66图 3·4号窑跡灰原5区出土遺物実測図①(1/3)



第67图 3·4号窯跡灰原5区出土遺物実測図②(1/3)



第68图 3·4号黑陶灰原5区出土器物素描图③(1/3)

がら立ち上がり、口縁端部は外方につまみ出す。底部外面は回転ヘラケズリ。745はバケツ形の鉢でラッパ状に開き、口縁端部に平坦面を作る。体部下半から底部外面にかけて回転ヘラケズリを施す。

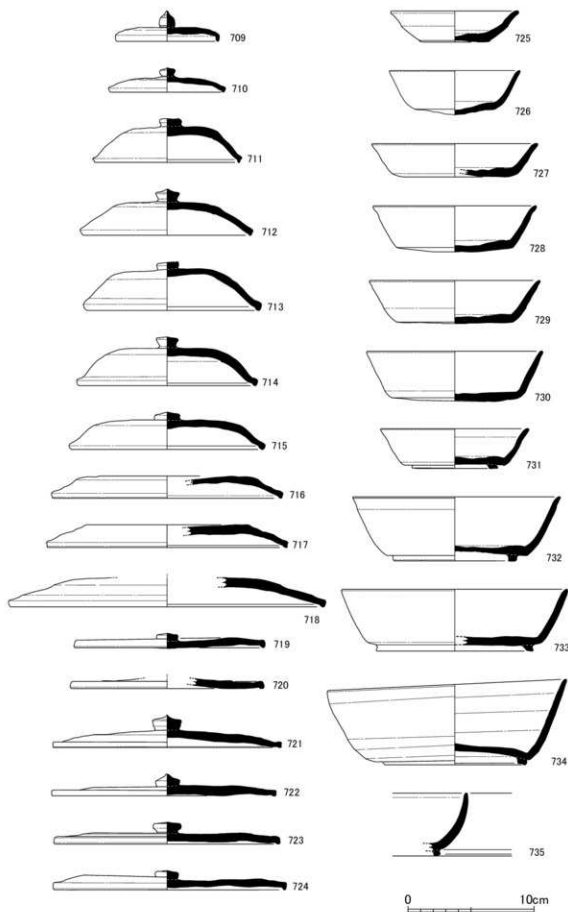
**甕 (746~749)** 746・747は口縁部の資料である。746は体部が直線的に外方に開き、端部は断面方形を呈する。頸部内面に接合痕が見られる。747は頸部が外反しながら立ち上がる。口縁端部外面に断面三角形の貼付突帯を3条巡らせる。748は底部を欠くが、全形を知ることができる資料である。頸部は外反しながら端部に至る。口縁端部下に小突起を巡らせる。体部最大径は上半に位置し、やや肩が張る形態である。体部外面は格子目タタキを施し、内面は同心円文当て具痕が残る。749は体部の資料である。体部最大径は上半に位置するが、748と比べると肩部の張りがゆるやかである。体部外面は格子目タタキを施し、内面に同心円文当て具痕が残る。

**蓋 (750)** 天井部は丸味を持ち、口縁部は屈曲し外方へ大きく引き出す。内外面とも回転ナデ。焼き歪みがある。小田浦38-I号窯跡で同様の蓋があるが、IV A 期にあたる資料であり、本資料の由来には検討が必要である。

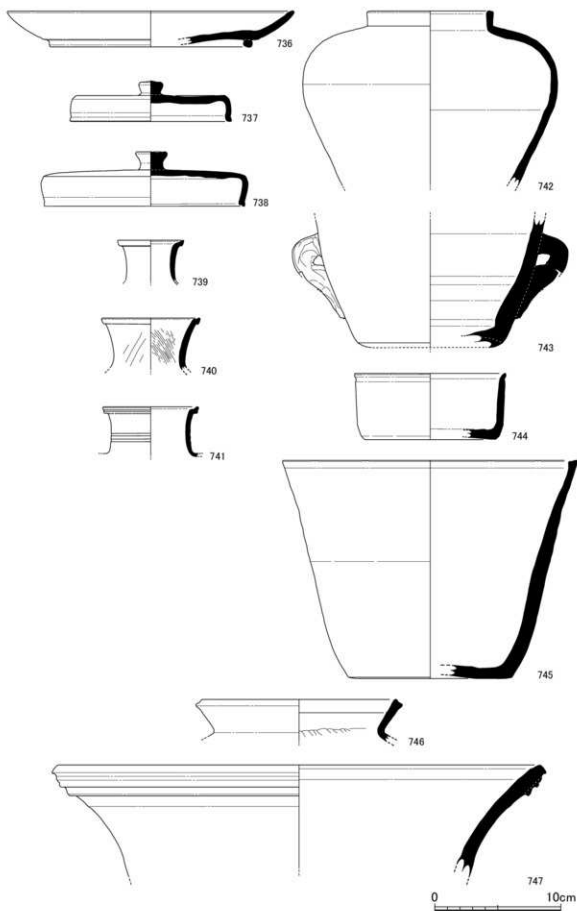
**硯 (751)** 脚部の資料である。直線的に外に開き、口縁端部に断面方形の突帯を巡らせる。脚部には沈線2条を施し、おそらく透かしが入るものと考えられる。

**土製品 (752)** 鳥形を呈する資料である。残存する長さ6.6cm、幅3.7cm、厚さ6.4cmを測り、ナデで成形する。頸部の欠損部分は擬口縁を呈する。頭部にタテガミに似た突帯を貼り付けており、馬形の可能性も考えられる。壺の把手などが。(藤島)

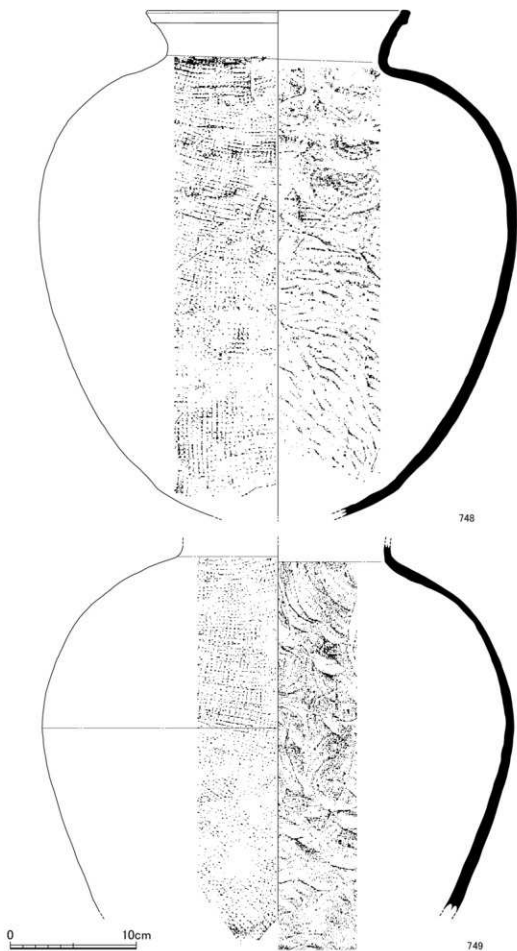




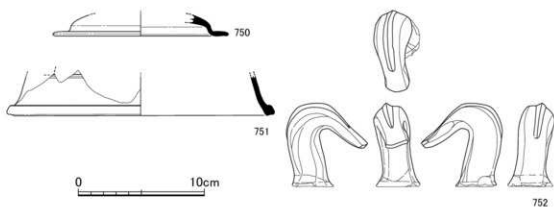
第69图 3·4号窑址灰原6区出土文物实测图①(1/3)



第70图 3·4号窟跡灰原6区出土遺物実測図②(1/3)



第71图 3·4号窑址灰原6区出土遗物实测图③(1/3)



第72图 3·4号窑迹灰原6区出土遗物实测图④(1/3)

## (11) 70-5号窯跡 (第73・74図、図版3・9~11)

5号窯跡は、調査地の中央で確認され、4号窯跡の西側に隣接する。窯の全長は3.18m、主軸はN-30°-W、焚口部の幅は0.82m、窯の平面プランは焼成部中位がゆるやかにふくらみ、奥壁は丸くなる。遺構検出時にはまったく分かっておらず、1号窯跡灰原3区の掘り下げ中に窯体の入口を検出した。このため、前庭部から灰原の土層を確認できなかったが、地山に近い土が堆積しており、灰層は残されていなかったようである。窯は、窯体の入口から排煙部まですべて完存しており、窯内の高さは煙道部下で最も絞り込まれている。両側壁の還元面は、窯体入口の天井部に続き、入口部の被熱痕跡は窯内のみで、前壁には及ばない。仮設天井は確認できなかった。燃焼部から焼成部までの床面からは須恵器蓋杯が出土しており、床面は貼床を除去すると舟底状ピットが確認された。

**焚口・燃焼部** 焚口部は幅0.82m。焼成部との境を床面の傾斜変換点に求めると、舟底状ピットより前庭部側にとることになり、窯体入口の外側で火を焚くことになる。燃焼部の長さは42cm、焼成部との境は幅0.68m、床面の傾斜角度は前庭部側から2°で奥壁側に下ったのち、奥壁にむかって4°上がる。

**焼成部** 焼成部は長さ2.4mで、最大幅1.03mを中位にとり、奥壁にむかって緩く窄まり奥壁は丸くなる。床面の傾斜角度は12~38°で、燃焼部から焼成部床面からは須恵器が出土した。舟底状ピットは、長さ0.55m×幅0.45m、深さ8cm程度と浅い。窯の高さは、窯体入口で0.55m、煙道部下で47cmと最も絞り込まれている。

**排煙部** 奥壁から直立し、横断面で見るとやや左側に傾いている。高さは、奥壁床面から0.88mで排煙口にいたる。長さは0.52m、径は25cmで、円筒状に直立する。

**前庭部** 焚口から続く床面は還元しており、ハの字に開く前庭部全体に被熱がおよぶ。長さ0.78m×幅1.42mで、床面は焚口部にむかって緩く下がっており、浅い皿形になる。このためか、前庭部の最も下がった面に接続するように、長さ0.77m、幅21~23cmの溝が掘られており、排水の役割を果たしたと考えられる。前庭部右側は大きく掘り広げられている。

**灰原** 先に述べたように、5号窯跡に伴う灰原は確認できなかった。(石木)

## (12) 出土遺物

## 窯体内・焚口手前 (第75・76図、図版50~53)

第74図の取り上げ番号は、観察表に記載している。

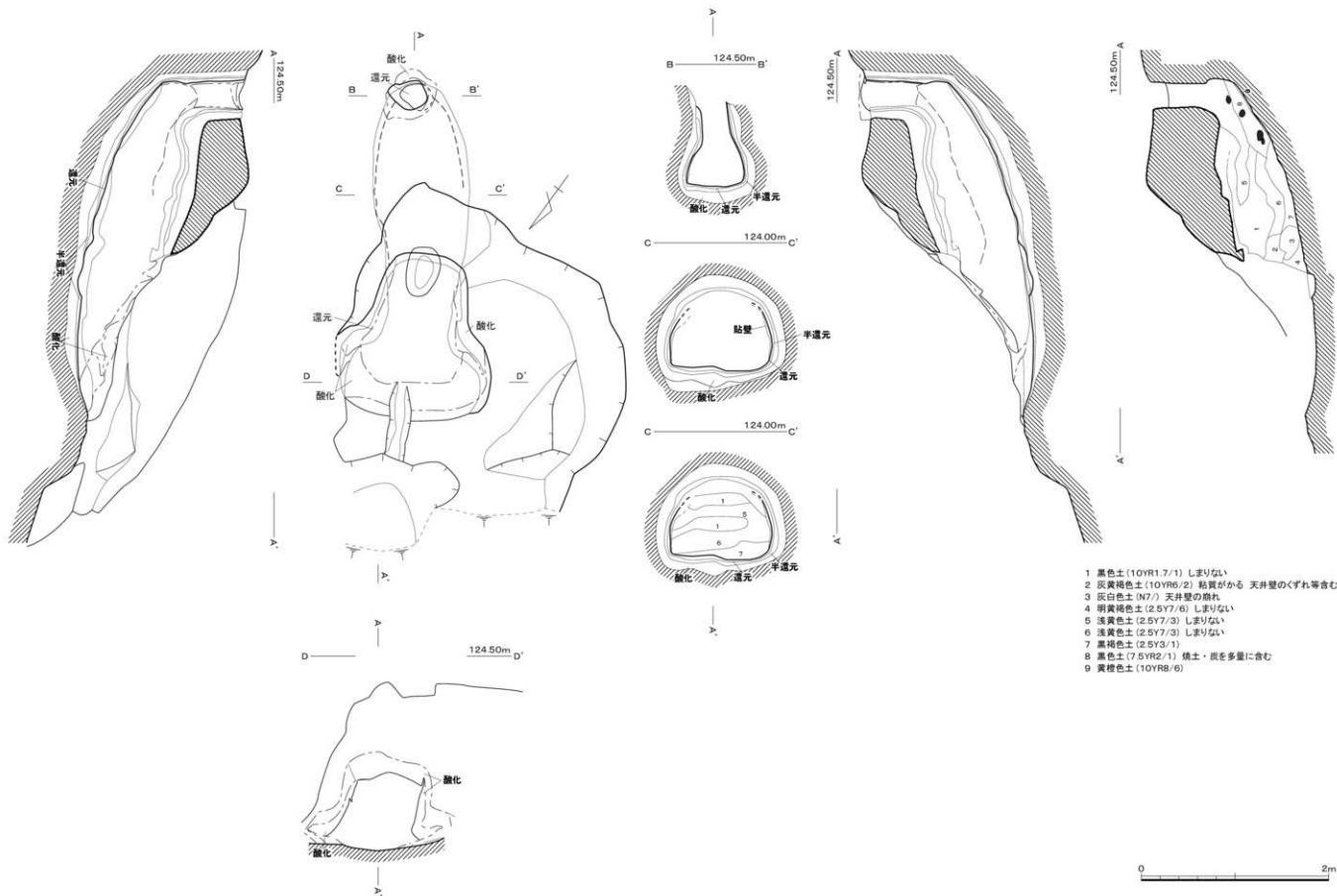
**杯蓋 (753~787)** 丸味をおびドーム状を呈する形態と扁平な形態の2種類に分類される。754~756・758~762は口縁端部を下方につまみ出し、断面三角形を呈す。753・757・763はわずかに突出する。753・755~758・760・761・764~766・771・772・782は天井部外面は回転ヘラ切りし、765・782は板状の工具でナデる。その他は天井部外面に回転ヘラケズリを施す。753・761は内部の一部に重ね焼きの痕跡が認められる。766は天井部外面に板状の圧痕が残る。

**杯 (788~790)** 杯Aである。いずれも体部は直線的に外方へ開き、口縁端部は外反する。底部外面は回転ヘラ切りで、788・789は板状の工具によるナデを施す。

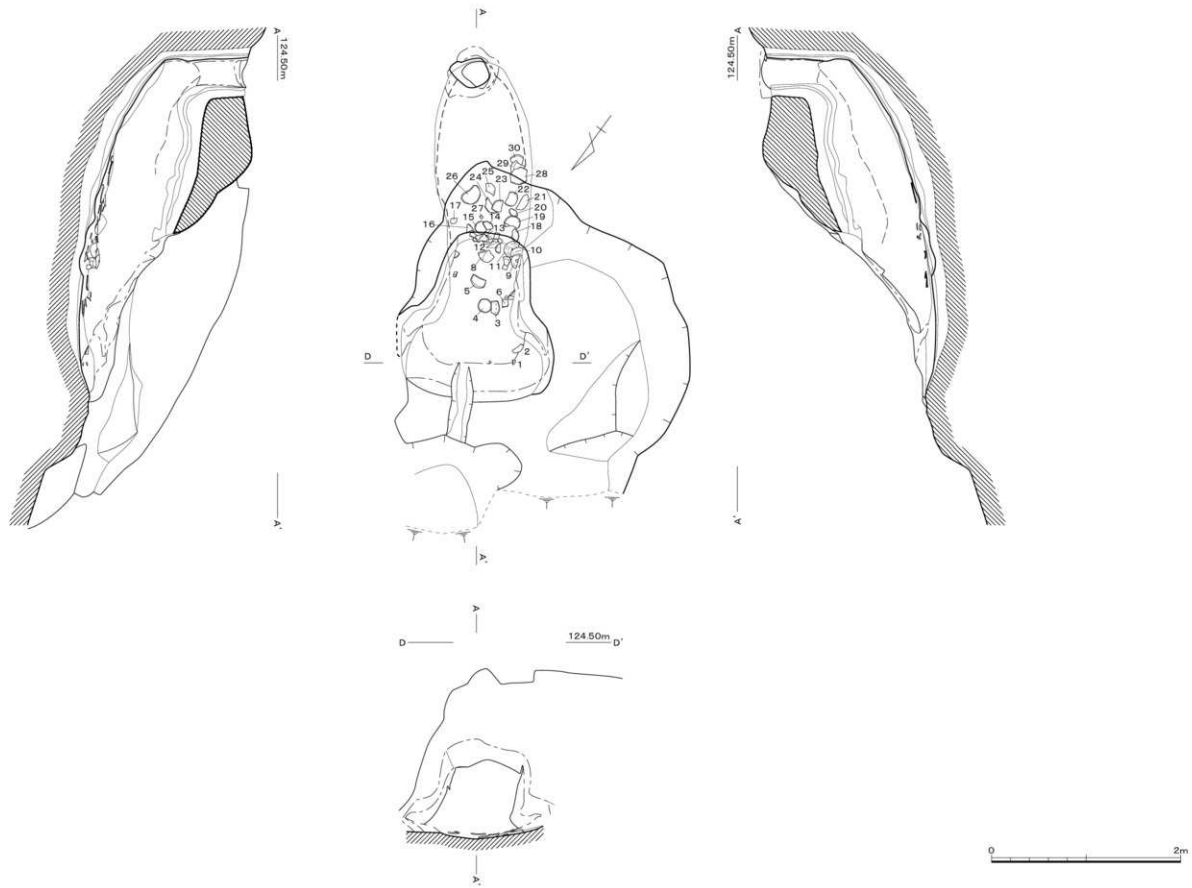
**杯身 (791～795)** 杯 B 身である。791～793は体部が直線的に外方へ開き、791・792は口縁端部を外反させる。いずれも高台が低く断面方形を呈する。793は端部をわずかに外方に突出す。792・794・795は底部外面に簾状の圧痕が認められ、793は板状の圧痕が残る。

**皿 (796～803)** いずれも体部は外方に開き、端部は外反する。797・798・800・801は底部が丸味を持ち、799は尖り気味の形態をなす。796～803は底部外面に回転ヘラ切りが施され、796はヘラ切り後未調整であるが、799・801は板状の工具によりナデを施す。799は底部外面端に重ね焼き痕が認められ、800は底部外面に板状の圧痕が残る。803は内面全体に火罫が確認される。

(藤島)

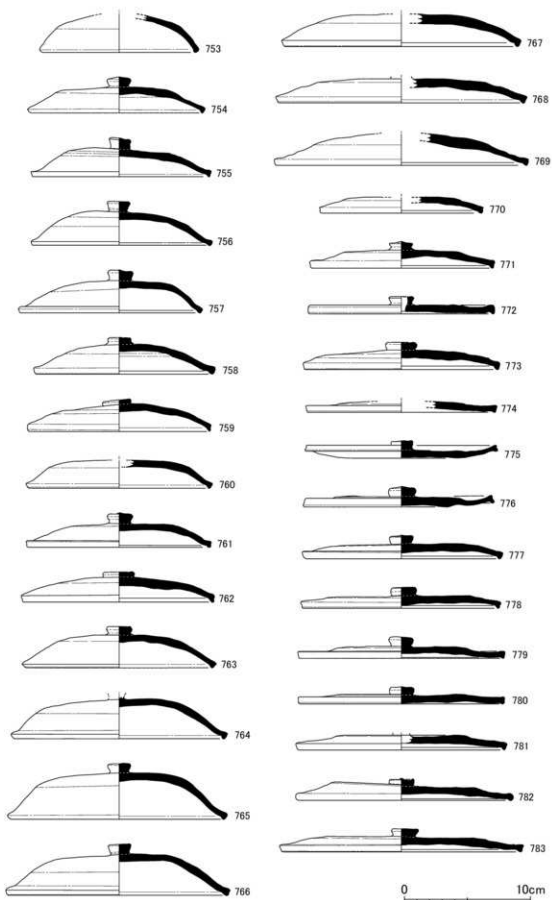


第73図 5号窯跡実測図 (1/40)

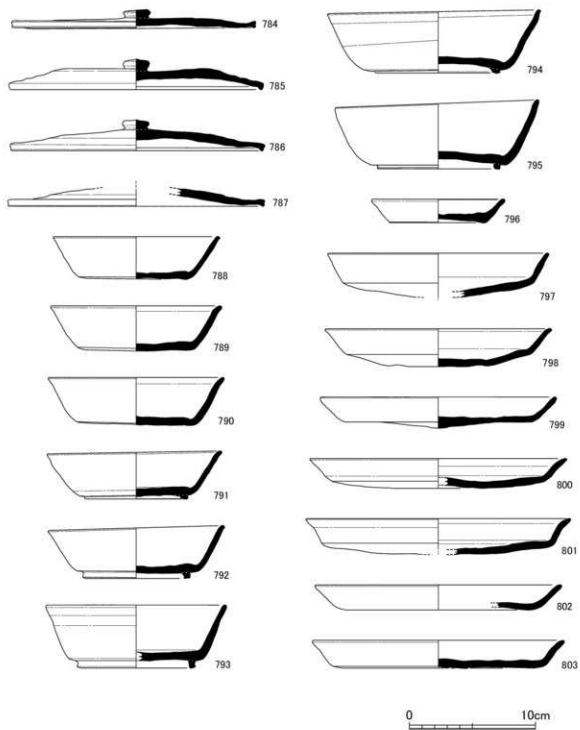


第74图 5号窑迹遗物出土状况 (1/40)

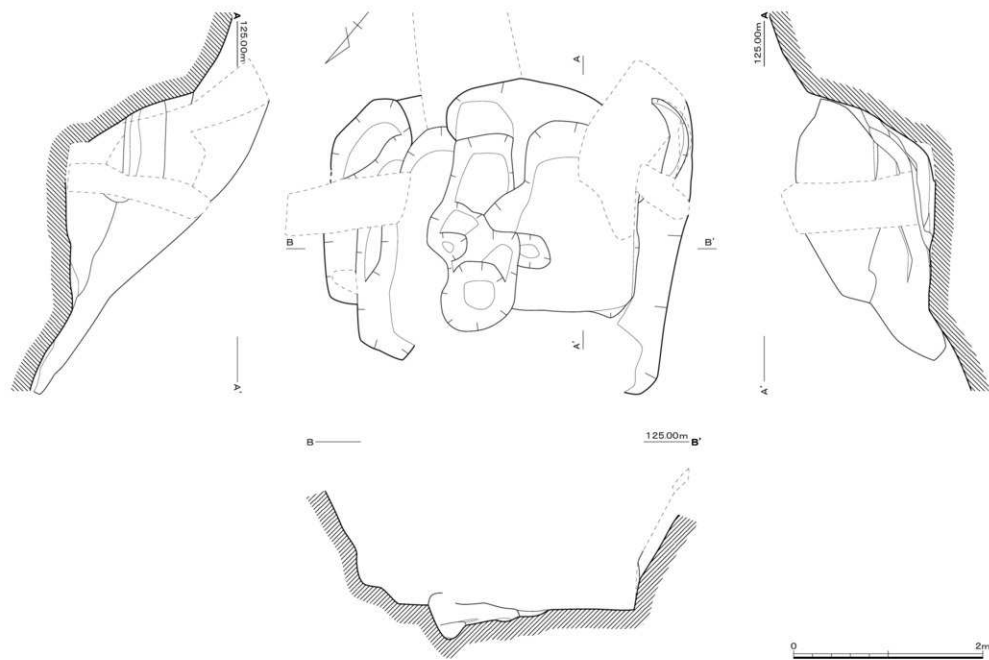




第75图 5号窯跡窯体内・焚口手前出土遺物実測図①(1/3)



第76图 5号窟跡窆体内・焚口手前出土遗物实测图②(1/3)



第77图 6号麻踪实测图 (1/40)

## (13) 70-6号窯跡 (第77図、図版11)

6号窯跡は、調査地の中央で確認され、1・2号窯跡の間に位置する。調査時に、長さ245m×幅3.8mの方形に掘り下げられた箇所があり、床面が平らに近かったことから、前庭部を掘りかきで終わった窯跡の可能性を考えた。掘り込みの深さは約1.2mにおよぶが、焼けた痕跡などはないことから、窯跡ではないと判断される。また、作業時に工人が起居した工房の可能性も考えられるが、柱穴などは確認できず、性格は不明である。(石木)

## (14) 出土遺物

## 竈体内・前庭部 (第78図)

竈体内から804、焚口から煙道部に向かって左側前庭部から805～807が出土している。

**杯蓋 (804)** 扁平な形態をなす。口縁部は下方につまみ出し断面三角形を呈する。天井部外面は回転ヘラケズリを施す。

**杯身 (805・806)** 805は杯B身である。高台が低く断面方形を呈する。806は底部を欠くため杯身であるかは不明だが、体部は直線的に外方に開き、口縁部下を強くナデており、稜をなす。

**皿 (807)** 体部は内湾気味に外方へ開き、口縁部を丸くおさめる。底部外面は回転ヘラケズリ後ナデ。(藤島)

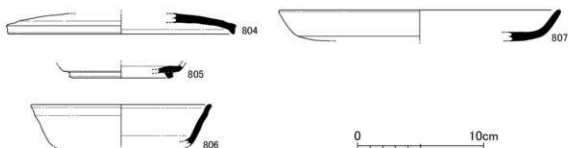
## (15) 70-5X01 (第29図、図版3)

1号窯跡の右側に隣接する土坑のうち、最も右側のものにあたる。長さ4.5m×幅3.0mの大きさで段を成して大きく掘り広げられる。比高差は1.8mを測る。土坑の性格は不明だが、大量の須恵器が出土した。(澤田)

## (16) 出土遺物 (第79～83図、図版53～57)

**杯蓋 (808～834)** 丸味を持ちドーム状を呈する形態と扁平な形態の2種類に分かれる。808～810・813～815・817～829・831～834は口縁部を下方につまみ出し、断面三角形を呈する。その他はわずかに突出させる。822・823・827・832は天井部外面に回転ヘラケズリを施し、他は回転ヘラ切り。重ね焼きの痕跡は、814・816・817・820は内外面に、811・826・834は外面に、808・813は内面に残る。823は口縁部外面から内面全体にかけて火槽が認められ、832は天井部外面に糜状の圧痕が見られる。811は杯身との重ね焼きの資料で、杯身を逆にしてその上に蓋を重ねる。杯身の底部内面には「×」のヘラ記号が認められる。834は焼き歪みが著しく、詳細な形態は不明である。

**杯 (835～847)** 835～842は杯Aである。835は、体部は内湾気味に外方に開き、底部外面は回転ヘラ切り未調整である。836～842は、体部は直線的に外方に開き、838～840・842は、口縁部は外反する。839・840は底部外面に糜状の圧痕が見られる。火槽は、836は口縁部内外面に、838は外面全体に、841は口縁部内面に残る。843～847は太宰府分類土師器杯dに類似する杯で、底部外面をヘラケズリを施す。いずれも口縁部は内湾気味に立ち上がり、846は口縁部が外反する。底部



第78図 6号窯跡出土遺物実測図(1/3)

と体部の境はヘラケズリにより明瞭である。内面は回転ナデを施し、器壁は薄い。843は杯Aを重ね焼きした資料で、外面の一部と内面全体に火樺が見られる。火樺は、844は内外面全体に、845は外面全体と口縁部内面に、846は口縁部内外面に、847は底部外面の一部に認められる。

**杯身(848～873)** 848～871は、体部は直線的に外方に開き、849・851・865～869は口縁部が外反する。872は体部は内湾気味に立ち上がり、端部を丸くおさめる。いずれも高台は低く断面方形を呈し、855は高台内面を小突起状に作る。851は内面に重ね焼きの痕跡が認められる。853・857・870は高台端部に圧痕が残り、857は棒状を呈する。867は底部外面に簾状の圧痕が見られる。873は体部が内湾気味に立ち上がり端部を丸くおさめ、高台は低く断面方形を呈する。土師質である。内外面全体にミガキのような回転ナデを施す。口径21.2cm、器高6cm、高台径14.6cmを測る大型の資料である。

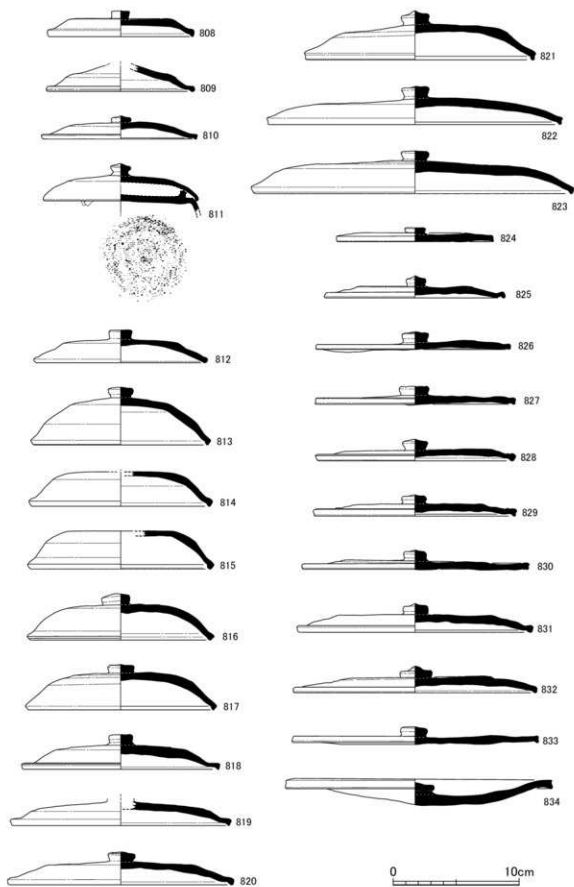
**皿(874～889)** 874・875・877～881・883・885～888は体部が外反しながら開く。876は体部が直線的に外方に開き、底部は丸みをおびる。882は体部は外反しており、底部は丸味を持つ。884は体部は直線的に開き、端部を短く外方に突出する。底部外面は回転ヘラケズリ。874は底部内外面に火樺が見られる。889は台付皿である。体部は内湾気味に外方に開く。高台は低く、端部外面を外方に小さく突き出す形態である。

**高杯(890・891)** 890は脚部が長く、裾部にむかってラッパ状に開く。脚端部は下方に短く折り曲げ、断面喙状を呈する。脚部内外面にシボリ痕が見られる。891は脚部は長く、裾部にむかってラッパ状に開く。脚部端部は下方につまみ出し断面三角形を呈する。脚部外面にシボリ痕が見られる。

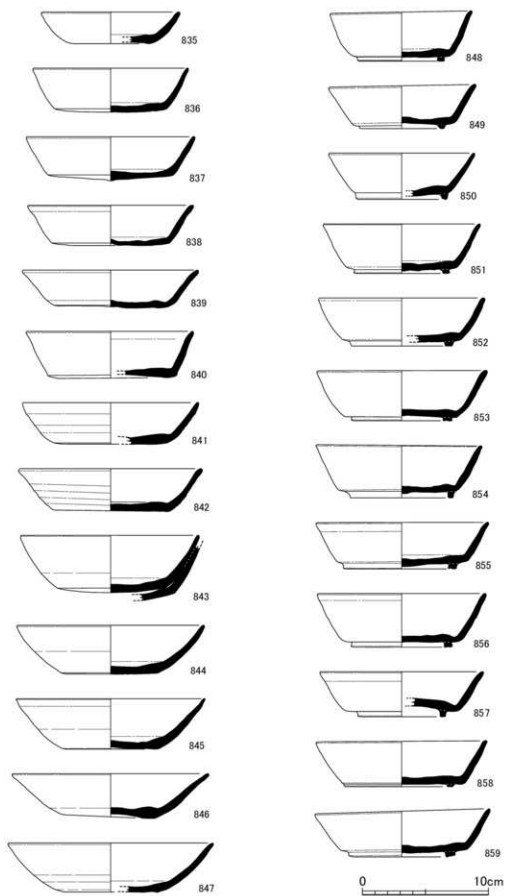
**壺(892・893・897)** 892・893・897は短頸壺である。892は口縁部が直立し、端部は平坦面を作る。体部最大径は上半に位置し、体部下半は回転ヘラケズリを施す。893は体部の資料で、やや肩が張る形態をなす。体部最大径は上半に位置する。897は口縁部から肩部を欠く資料で、体部は外方に開き、肩部は丸味を持つ。高台はやや高い。体部下半内面は回転ナデ後タテ方向の指ナデを施す。高台端部に簾状の圧痕が残る。

**瓶(894～896)** 894・895は頸部のみ資料である。894は口縁部は大きく外方に開き、口縁端部は外反する。895は頸部が直立気味に立ち上がり、端部を外方に屈曲させる。口縁端部に降灰が見られる。896は体部のみ。肩部は丸味を持ち、底部内面はユビオサエをする。

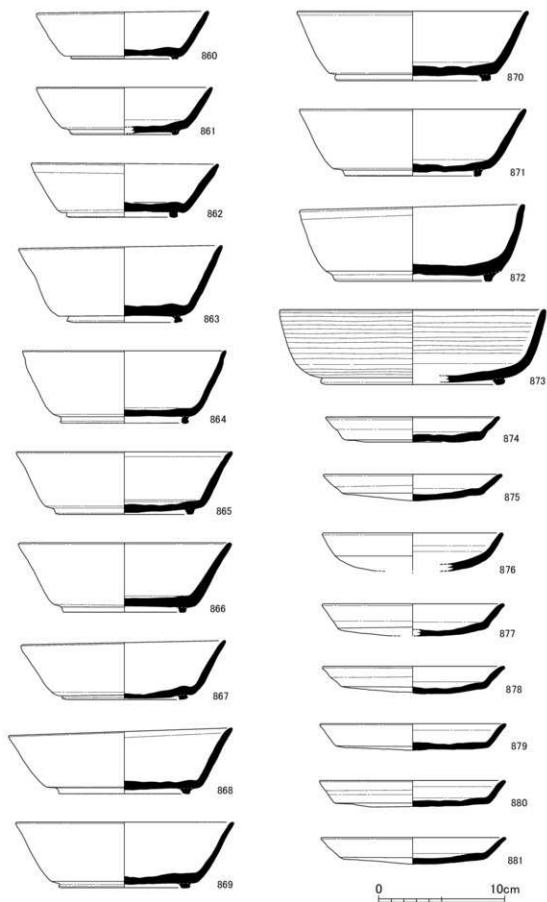
**鉢(898)** バケツ形の鉢で、口縁部を欠く。体部は直立気味に立ち上がる。体部下半から底部外



第79图 SX01出土遺物実測図①(1/3)



第80图 SX01出土遺物実測図②(1/3)



第81图 SX01出土遺物実測図③(1/3)



面にかけて回転ヘラケズリを施し、体部内面下半は回転ナデ後タテ方向のナデを施す。

**甕 (899)** 体部下半を欠く資料である。頸部は外反し、口縁端部外面に断面三角形の突帯が巡る。体部最大径は上半に位置し、肩がやや張る。体部外面は格子目タタキ、内面に同心円文当て具痕が残る。  
(藤島)

#### (17) 70—SX02 (第84図、図版11)

SX02は、6号窯跡上で確認された土坑である。長さ5.72m×最大幅2.75mで不整形に広がる。埋土は褐色土～黒色土で、厚さは最大0.55mで斜面に沿って堆積している。須恵器が出土したことから遺構としたが、丘陵斜面の凹地に堆積したもので、遺構の性格は明らかにできない。

(石木)

#### (18) 出土遺物 (第85図、図版58)

**杯蓋 (900～904)** 900は口径6.3cmを測る小型の資料である。扁平な形態で、天井部は回転ナデを施す。高さのある断面方形のつまみが付く。口縁部外面に重ね焼き痕が残る。901・902・904は丸味を持ち、ドーム状を呈する。口縁端部はいずれも下方にわずかにつまみ出し断面三角形を呈する。901は天井部外面は回転ヘラケズリ後回転ナデを施し、902・904は回転ヘラ切り後ナデを施し、焼け歪みが著しい。903は全体的に扁平で、口縁端部を下方に引き出し、丸くおさめる。天井部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。901・903のつまみは中央が高い扁平な菱形を呈する。902・904は扁平なボタン状のつまみを有する。

**杯身 (905～910)** 905・909は体部が直線的に外方に開き、906～908・910は口縁端部がゆるく外反する。905・906は高台に板状の圧痕が見られ、906の底部外面には輪状に爪が当たった様な痕跡が認められる。910は大型の杯身で、底部内面に回転ナデ後板状工具によるナデを施し、底部外面には簾状の圧痕が認められる。

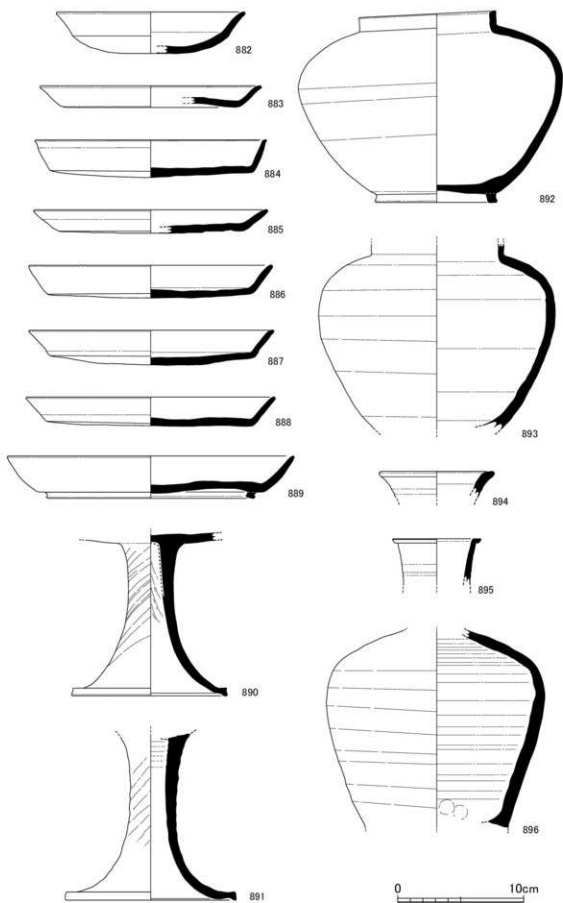
**皿 (911)** 体部は大きく外方に開き、底部は丸味を持つ。底部内面は回転ナデ後、板状工具によるナデを施し、底部外面は回転ヘラ切り後、板状工具によるナデを施す。

**高杯 (912)** 脚部の資料である。脚部は長く、直立気味にのび、裾部は大きく外反し、端部は下方につまみ出し断面三角形状を呈する。脚部上面には、接合痕が認められ、脚部内外面にシボリ痕が残る。

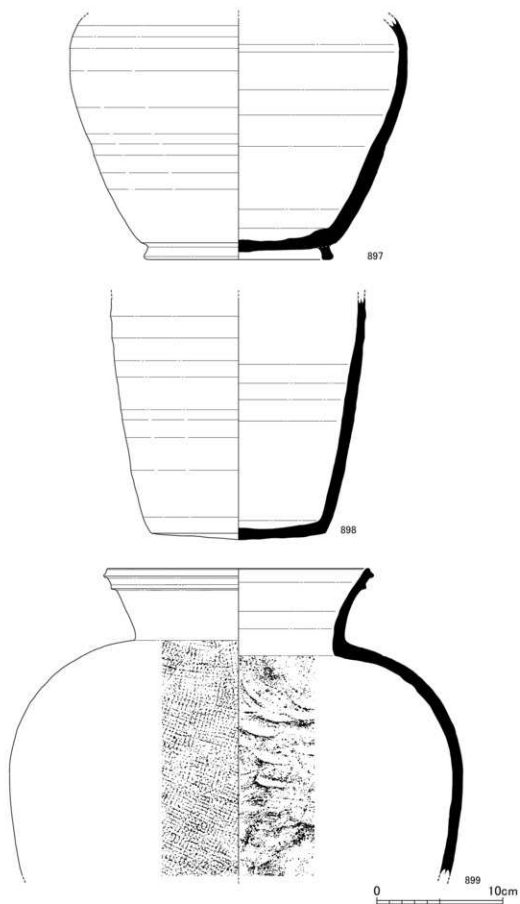
**壺 (913)** 頸頭壺の蓋か。口縁部だけの破片で、外方に直線的に下る。口縁端部は段がつく。

**瓶 (914)** 底部から体部下半の資料で、体部はゆるやかに外方に開き、外面は回転ヘラケズリを施す。底部外面は板状工具によるナデを施す。

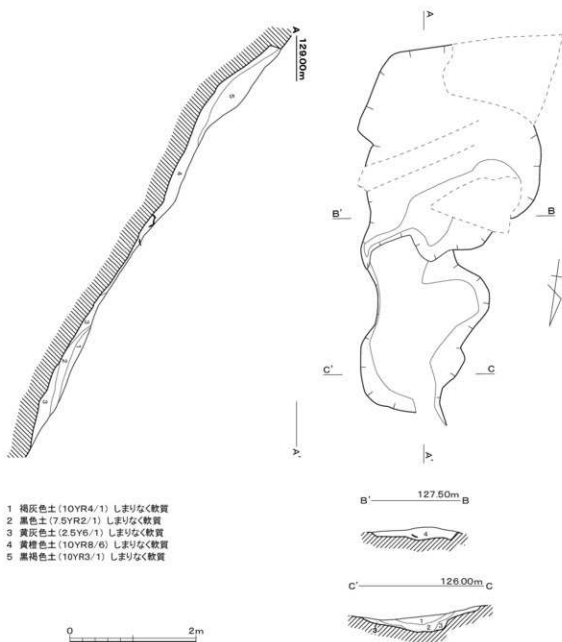
**甕 (915)** 頸部は外方に開き、端部は断面方形になる。体部外面は格子目タタキ、内面には同心円文当て具痕が残る。  
(藤島)



第82图 SX01出土遺物実測図④(1/3)



第83図 SX01出土遺物実測図⑤(1/3)



第84図 SX02実測図 (1/60)

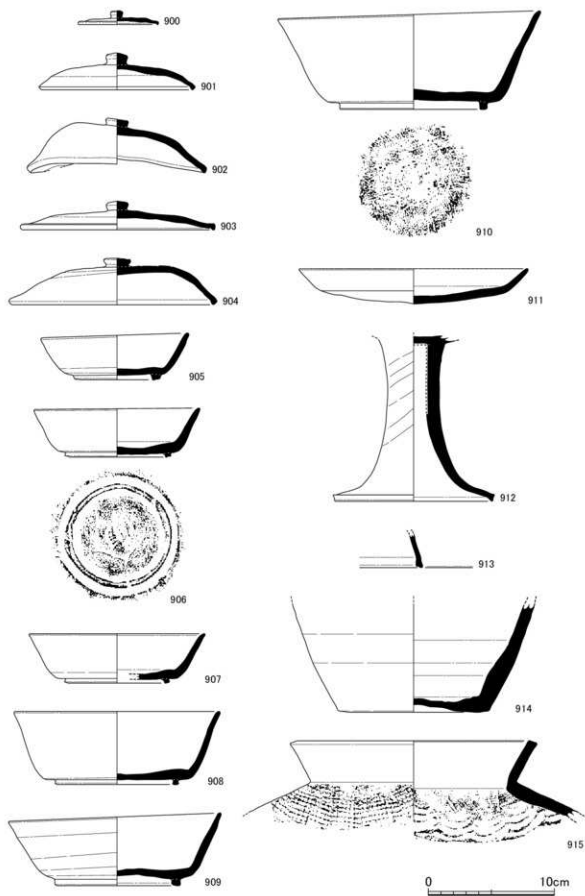
## (19) 出土遺物

## SP03 (第86図)

**杯 (916)** 体部はやや内湾しながら外方に開く。底部外面は回転ヘラ切り後、ナデを施す。

**杯身 (917)** 体部はわずかに内湾しながら外方へ開き、口縁端部は外反する。高台は低く断面方形を呈する。

**壺 (918)** 長頸壺の体部である。肩部は強く張る。高台は端部内面で接地し、断面方形を呈する。体部下半は回転ヘラケズリを施す。



第85图 SX02出土遗物实测图 (1/3)

## SP04 (第86図)

杯身 (919) 体部は直線的に外方に開き、端部はわずかに外反する。高台は低く、断面方形を呈する。

## SP06 (第86図、図版58)

杯蓋 (920) 天井部は平坦で、端部は下方にわずかにつまみ出す。天井部外面は、回転ヘラケズリ後回転ナデを施す。つまみは扁平なボタン状で、上面は板状の工具痕が残る。

杯 (921) 体部は内湾気味に開く。底部外面は、回転ヘラ切り後ナデを施す。

皿 (922) 体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部は外反し、端部を丸くおさめる。底部外面は回転ヘラケズリを施し、内面には火槽が認められる。

高杯 (923) 脚裾部の破片である。裾部はラッパ状に大きく開き、端部はわずかに下方につまみ出す。外面は降灰が見られる。

壺 (924・925) 924は口縁部の資料である。直線的に外方に開き、端部は外方にのびる。内外面とも回転ナデ。925は長頸壺の肩部である。肩部は強く張り、稜が入る。肩部には接合痕が見られる。

## 谷部下層 (第86図、図版58)

高杯 (926) 脚部の資料である。脚柱部は長く、裾部にむかって大きくラッパ状に開き、端部にいたる。脚端部は下方につまみ出される。脚部内外面にシボリ痕が残る。

瓶 (927) 双耳瓶である。体部は直線的に外方に開き、把手の上半は欠損するが、孔が認められる。体部外面は回転ヘラケズリ、底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。

## 70地点1・2号窯跡 (第86図)

甕 (928) 頸部から体部上半にかけての資料である。頸部は直線的にやや外方に開く。体部外面は格子目タタキを施し、内面は同心円文当て具痕が残る。また、頸部内面には、工具痕が認められる。  
(藤島)

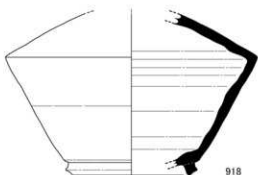
SP03



916



917



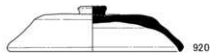
918

SP04



919

SP06



920



921



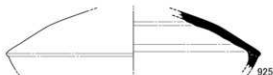
922



923

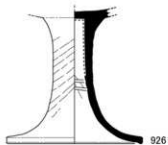


924

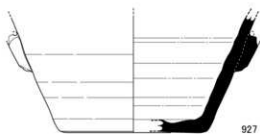


925

谷部下層

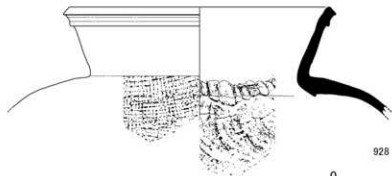


926



927

1・2号窟



928



第86図 SP、谷部下層、1・2号窟跡出土遺物実測図(1/3)





70地点では、窯跡が5基確認されており、それに伴う灰原も広範囲に及ぶ。出土遺物の総重量は1.7トンにのぼる。量的な差異はあるものの、蓋や杯といった供膳具や、壺や甕といった貯蔵具など、ほぼ全ての器種が出土している。

総重量に対する各器種の割合を具体的にみると、供膳具にあたる杯蓋は43.2%、次いで杯身が16.9%、皿8.9%であり、これら3器種の合計は69%である。一方、貯蔵具では、甕が2号窯跡、3号窯跡、4号窯跡の窯体内から出土している。ただし、全体の重量比から見れば甕は3.1%と僅少である。が、3・4号窯跡や灰原の出土量が多く、重量比は52%となり、大半を占める。これは、ごく一部の限られた窯で甕の焼成が行われていた事を示唆するものであり、窯の大きさが焼く対象の大きさと関わることを示すものと考えられる。(稗田)

## (21) 小結

70地点では5基の須恵器窯跡が確認された。特に1・3～5号窯跡は密集しており、調査時には1基と考えていた窯跡が灰原の下から次々と確認され、調査工程を次々と見直さなければならなかった。ところで、このような窯跡が密集することは、奈良時代の牛頭窯跡群では通有の事例である。調査では、谷部まで灰原の掘削を試み、全量を調査できたわけではなかったが、非常に多量の須恵器が出土し、その生産量はどれほどのものであったのだろうか。

さて、遺構の上からは、3～5号窯跡の後に1号窯跡が作られたが、3～5号窯跡の前後関係については、4号窯跡の前庭部を埋める土が5号窯跡を埋めることから、5→4号窯跡の順に作られたと考えられる。また、3・4号窯跡は土層の切り合いはないが、3号窯跡が4号窯跡よりやや高い位置に掘られることを考えると、4号窯跡が先行するのではないか。そう考えるならば、4基の窯跡は5→4→3→1号窯跡の順となる。この変遷はⅦB期の間に行われたものであった。

また、3号窯跡で確認された黄色粘土の役割については明らかにできなかった。床面のかさ上げにしては、精良な粘土が用いられており、直上に須恵器を置く事例もない。自然堆積かとも考えたが、その他の窯跡でそうした粘土は検出されていない。明らかに窯内に持ち込まれたものであるが、その性格・機能については、今後の調査事例の増加を待つこととした。(石木)

## 4. 71地点の調査

### (1) 調査概要 (第88図、図版12)

71地点は北側にのびる丘陵の西側斜面に位置する。試掘調査で灰原が確認されたA地点にあり、発掘調査の結果、1基の窯跡を確認し、谷部より須恵器長頸壺が出土した。窯跡は、斜面中位に位置する。灰原は窯跡の下方に広がっていたが、検出時、谷部埋土との違いはよく分からなかった。長頸壺は、谷部の掘り下げを行っている際に出土したものである。谷部の埋土は20cm程度であったが、長頸壺を埋納するような掘り込みは認められなかった。また、谷部埋土を除くと、長さ25cm×幅10cm、深さ20~40cmで、平面プランは長方形を呈するピットを多数確認したが、おそらく山羊などの掘り穴と考えられる。その他、遺物が出土し、土坑状に大きく掘り広げられたものをSXとしたが、いずれも不整形であったことから遺構とは判断できなかった。(石木)

### (2) 71-1号窯跡 (第87・89・90図、図版12~14)

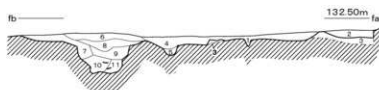
1号窯跡は、調査地の北側に検出された。窯は全長2.54m、主軸はN-46°-W、焚口部は幅0.75m、焼成部の最大幅は0.97mである。窯の平面プランは、側壁がゆるくふくらみ、奥壁はやや平らになる。燃焼部と焼成部の境には溝が掘られており、こうした事例は牛頭窯跡群では確認できない。この溝の左側壁には高さ44cm×幅15cmの石が立てられており、貼壁に塗りこめられていた。窯内の右側壁床面には、粘土塊焼台が寄せ集められており、燃焼部床面には、須恵器杯蓋と皿が置かれていた。窯の作業を終える際の、何らかの祭祀行為と考えられる。前庭部の左右には土坑が掘られており、須恵器が出土した。

**焚口・燃焼部** 焚口部は幅0.75mで、床面は5°奥壁側にむかって上がる。焚口部から38cmの所に溝が掘られており、溝より奥側を焼成部と考えた。溝は焚口側にゆるく湾曲しており、長さ0.88m×幅は12~23cm、深さ14cmで右側壁側は細くなる。窯内の縦断土層の観察からは、最終作業時には埋められていなかったようである。また、灰層は確認できないことから、床面上で確認された須恵器は、窯内や灰層の片づけ後に置かれたと考えられる。焼成部境の幅は0.74mである。

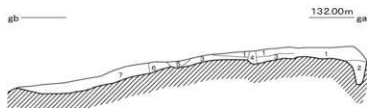
**焼成部** 焼成部の平面プランはゆるやかにふくらんでおり、最大幅は0.97m、燃焼部境から奥壁までの長さは1.92mである。床面の傾斜角度は20~46°と窯尻に行くに従い急になる。左側壁の貼壁は大きく失われていたが、右側壁には燃焼部から続く貼壁が残されている。左側壁で確認された石は最終作業時には完全に貼壁に塗りこめられているが、窯を作った当初からであったかは分からない。奥壁の幅は0.52m。幅22~40cmのくぼみが2段確認できる。窯内の縦断土層の観察からは、作業終了後窯内に土が流入(20・21層)した後、焚口側の天井部が崩落し(10層)、その後焼成部側の天井部が崩落したものと考えられる。なお、貼床は確認できなかった。

**排煙部** 丸く掘り込まれた奥壁から直立する煙道を有していたと考えられる。奥壁床面からの高さは0.86mで、排煙口は失われており径は明らかにできない。

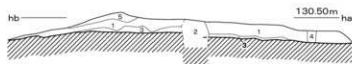
**前庭部** 窯体の前面部は大きく開き、長さ1.29m×幅1.65mの不成形な平坦面をとる。床面は還元されており、焚口部の外側にまで広がっている。前庭部右側の土坑は長さ1.33m×幅1.12m、左側の土坑は長さ2.2m×幅0.95mで、いずれも不整形である。



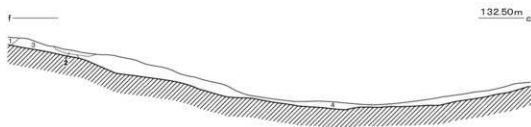
- |                                    |                                     |
|------------------------------------|-------------------------------------|
| 1 褐灰色土 (10YR4/1) しまりなく軟質 反層        | 7 灰黄色土 (2.5Y6/2) しまりなく軟質 表土か?       |
| 2 明褐灰色土 (7.5YR7/1) しまりなく軟質 谷部埋土    | 8 黒色土 (10YR2/1) しまりなく軟質             |
| 3 黄褐色土 (10YR8/6) 地山                | 9 褐灰色土 (10YR5/1) しまりなく軟質 反層         |
| 4 黒褐色土 (10YR3/1) しまりなく軟質 反層        | 10 黒褐色土 (10YR3/1) しまりなく軟質 堆土含む      |
| 5 褐灰色土 (10YR4/1) しまりなく軟質 黄褐色地山土を含む | 11 汚れた黄褐色土 (10YR8/8) しまりなく軟質 炭含む 反層 |
| 6 褐灰色土 (7.5YR4/1) しまりなく軟質 表土か?     |                                     |



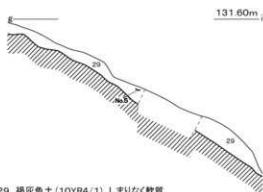
- |                                       |                               |
|---------------------------------------|-------------------------------|
| 1 褐灰色土 (10YR4/1) しまりなく軟質 反層と谷部の土混     | 5 黒褐色土 (2.5Y3/1) しまりなく軟質 反層   |
| 2 黒色土 (7.5YR2/1) しまりなく軟質 ビット内埋土 土師器出土 | 6 にふい黄色土 (2.5Y6/4) しまりなく軟質 反層 |
| 3 にふい黄色土 (2.5Y6/4) しまりなく軟質 反層         | 7 灰黄褐色土 (10YR5/2) しまりなく軟質 反層  |
| 4 ヤマイモ穴                               |                               |



- |                                 |                                     |
|---------------------------------|-------------------------------------|
| 1 黒褐色土 (10YR3/1) しまりなく軟質 反層     | 4 淡黄色土 (5Y8/4) しまりなく軟質 ヤマイモ掘穴       |
| 2 灰黄色土 (2.5Y7/2) しまりなく軟質 ヤマイモ掘穴 | 5 暗灰黄色土 (2.5Y5/2) しまりなく軟質 反層上部堆積崩落土 |
| 3 明黄褐色土 (2.5Y7/6) しまりなく軟質 地山直上  |                                     |



- |   |
|---|
| 1 黒褐色土 (5YR2/1) しまりなく軟質 反層                          |
| 2 黒色土 (5YR1.7/1) しまりなく軟質 反層                         |
| 3 にふい黄色土 (7.5YR7/3) しまりなく軟質 谷部又は築家前埋土               |
| 4 褐灰色土 (10YR5/1) ~ 褐色土 (7.5YR7/6) しまりなく軟質 谷部又は築家前埋土 |



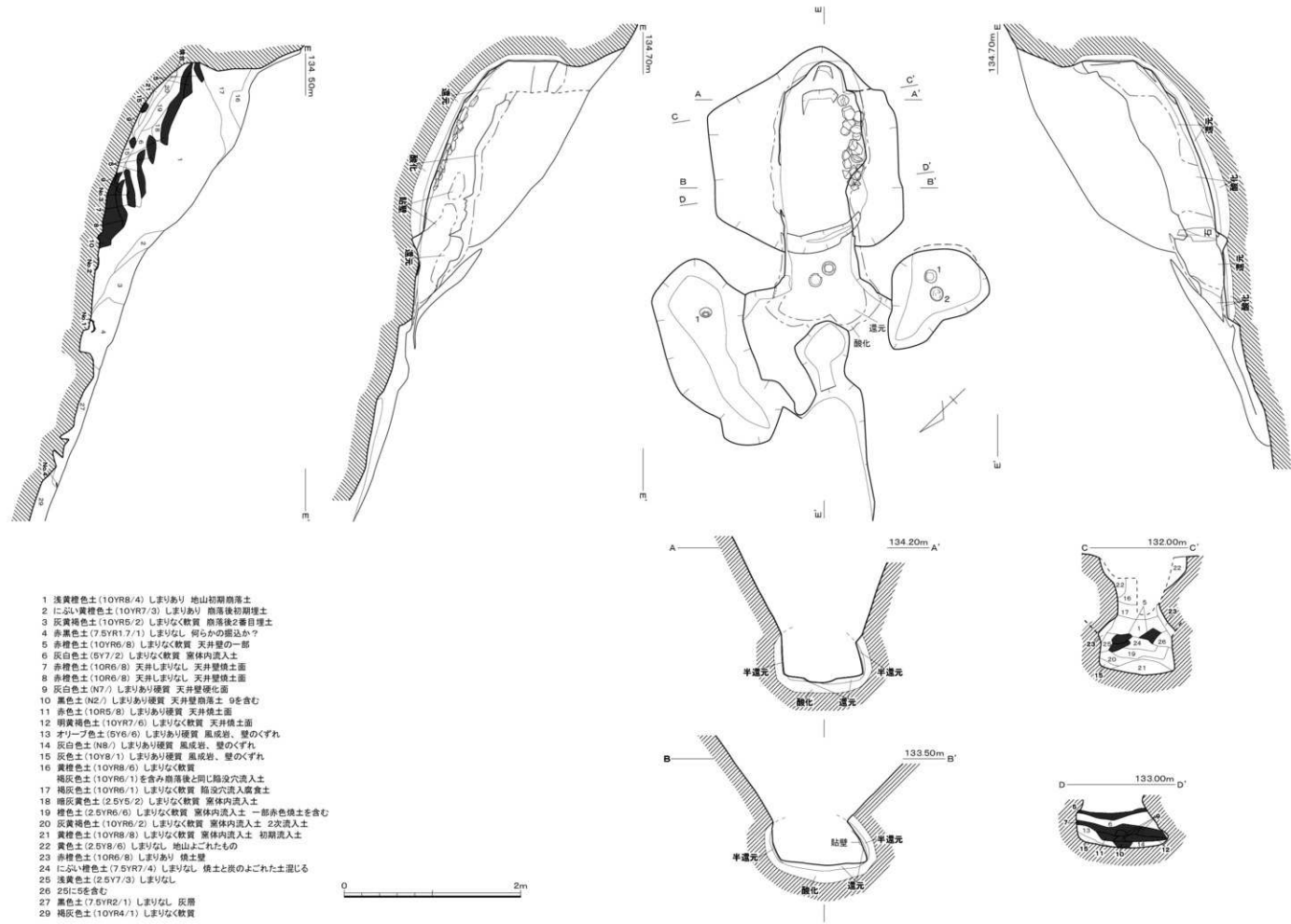
- |                           |
|---------------------------|
| 29 褐灰色土 (10YR4/1) しまりなく軟質 |
|---------------------------|

0 2m

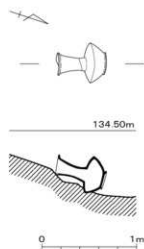
第87図 1号竈跡灰原土層断面実測図 (1/60)



第88图 71地点地形测量图 (1/100)



第89図 1号窯跡実測図 (1/40)



第90図 谷部A-2須恵器出土状況実測図 (1/40)

**灰原・谷部** 検出時、窯跡の下方長さ約7mまで黒色土が大きく広がり、谷部まで続いていた。黒色土は灰層と谷部の堆積土が混ざり合ったもので、土層観察で明確に区分することはできなかった。灰層は、最も厚い所で25cm。谷部掘り下げ中に長頸壺が出土した。口縁部を斜面上方に向けてた状態で検出されたもので、当初からの状態で置かれたのかは明らかにできなかった。

(石木)

### (3) 出土遺物

#### 床面・窯体内 (第91図、図版58)

929・930は床面直上、934は窯体内崩落土出土で土層図(第89図E-E)のNo.3に当たる。931・933・936・935は焚口部埋土出土、932は窯体内埋土出土である。

**杯蓋 (931~933)** 931は天井部がわずかに丸味をおび、口縁端部を下方にわずかに突出させる。天井部外面は回転ヘラ切り後ナデである。932は扁平で、口縁端部は下方に折り曲げる。天井部外面は回転ヘラケズリを施し、ボタン様の扁平なつまみを付ける。933は天井部がやや丸みを持ち、口縁端部は下方に小さくつまみ出し断面三角形状を呈する。天井部外面は回転ヘラケズリを施し、高さのあるボタン様のつまみを有する。

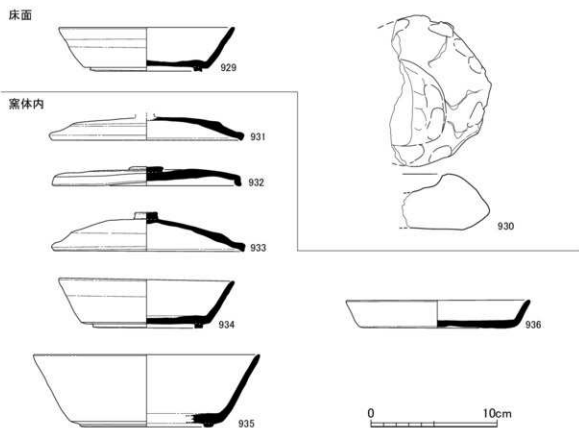
**杯身 (929・934・935)** いずれも体部が直線的に外方に開く。底部と口縁部の境は明瞭である。高台は低く断面方形を呈する。935は径18cmの大型品である。

**皿 (936)** 底部はわずかに丸みをおび、体部は直線的に外方に開く。全体的に摩滅しており調整不明瞭である。

**焼台 (930)** 上面は凹み、底部は平坦である。ユビオサエによる調整で、被熱により白色化する。

#### 前庭部 (第92図、図版58・59)

右前庭部からの出土は938、947、左前庭部からの出土は948、下層から出土は937・949、前庭部中央から出土は940・941・944で、土層図(第89図E-E)の4層にあたるものが、939・942・943・945・946である。



第91図 1号窯跡出土遺物実測図(1/3)

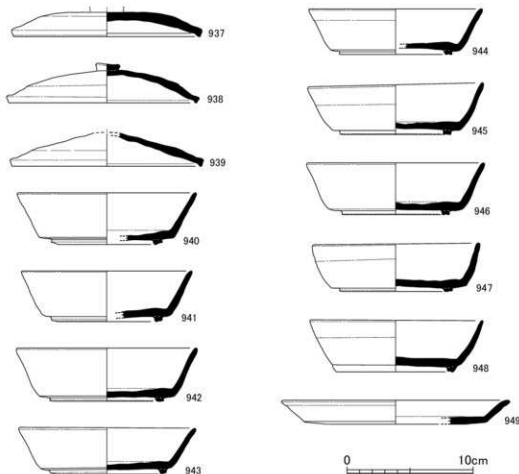
**杯蓋(937~939)** 937は扁平な形態で、天井部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。938は天井部が丸味を持ち、ドーム状を呈する。天井部外面は回転ヘラ切り後ナデを施し、扁平なボタン状のつまみが付く。939は焼き歪みが著しく、天井部は回転ヘラケズリ後ハケ状工具でナデられる。いずれも口縁端部は下方に短くつまみ出し、断面三角形を呈する。937は、天井部につまみが剝離した痕跡が見られる。

**杯身(940~948)** いずれも体部が直線的に外方に開くものである。942~946は口縁部を外反させる。947は体部は直立気味に立ち上がり、948は体部が内湾気味に立ち上がる。いずれも高台が低く断面方形を呈する。

**皿(949)** 体部は大きく外へ開き、口縁端部は外反する。底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施し、体部と底部との境は明瞭である。

#### 灰原(第93図、図版59~61)

**杯蓋(950~973)** いずれも口縁端部は下方に小さくつまみ出し、断面三角形を呈する。950~959・962・963~973は扁平な形態で、960・961は丸味をおびドーム状を呈する。天井部は950~960・962・963・965・966・968・970~973は回転ヘラ切り、950・959は回転ヘラ切り未調整、その他は回転ヘラケズリを施す。擬宝珠様のつまみを有する962・970・972は、いずれも中央が高く扁平な形状を呈する。それ以外は、ボタン状のつまみが付き、いずれも扁平である。958は籐状の圧痕、956は板状工具の当たり痕、965・973は板状の圧痕が認められる。968~973は径1.8cm以上の



第92図 1号窯跡前庭部出土遺物実測図(1/3)

大型品である。973は、土層図(第87図g'-i)のNo5に当たる。

**杯(974)** 体部は直線的に外方に開き、口縁部は外反する。底部外面はヘラ切り後ナデを施し、板状の圧痕が残る。

**杯身(975~981)** いずれも体部は直線的に外方に開き、975・981は口縁部をわずかに外反させ、976は若干湾曲気味に立ち上がる。いずれも高台は低く、断面方形を呈する。978は底部外面に板状の工具痕が残り、981は底部外面はヘラ切り後板状工具によるケズリを施す。

**稜椀(982)** 口縁部のみ資料である。体部は直線的に外方に開き、口縁端部は屈曲して外方にのびる。体部外面は中位を屈曲させ、断面三角形の稜を作り出す。全体に回転ナデを施す。

**皿(983・984)** いずれも体部が大きく外方に開く。底部外面は回転ヘラケズリ後回転ナデを施す。SX04(第94図)

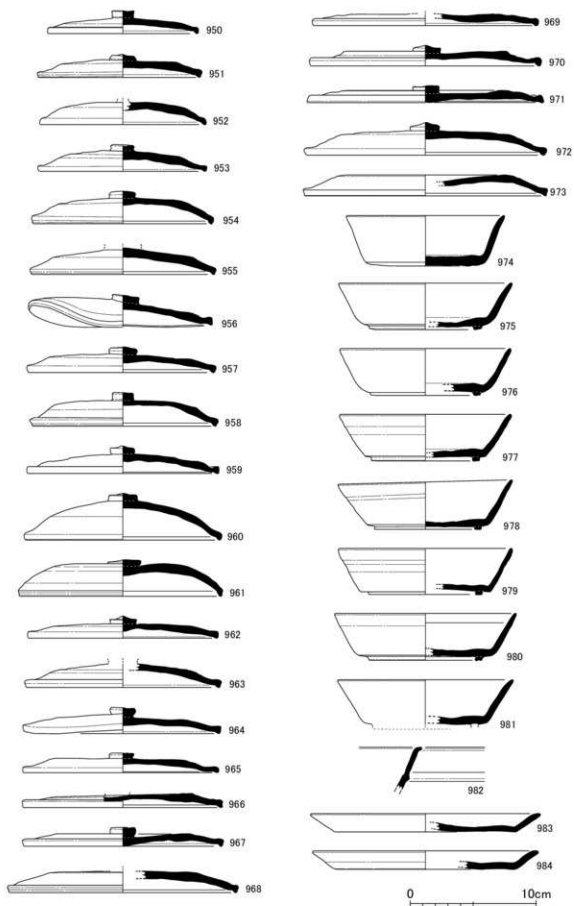
**杯身(985)** 体部は直線的に外方に開き、中位から器壁は薄くなり、わずかに外反する。底部と体部の境は明瞭で、その内側に高台が付く。高台は低く断面方形を呈する。

**谷部(第94図、図版61・62)**

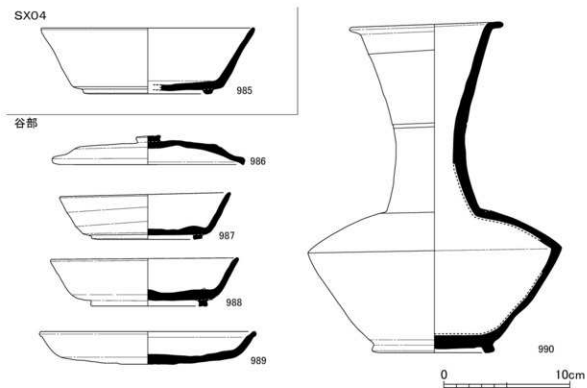
**杯蓋(986)** 扁平な形態で焼き歪みがある。口縁端部は肥厚させ、わずかに下方に突出させる。天井部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。ボタン状の扁平なつまみが付く。

**杯身(987・988)** 987は体部が直線的に外方に開き、底部外面に板状の圧痕が見られる。988は口





第93图 1号窑跡灰原出土遺物実測図(1/3)



第94図 SX04・谷部出土遺物実測図(1/3)

縁部がわずかに外反し、底部内面に重ね焼きの痕跡が認められる。いずれも高台は低く断面方形を呈する。

**皿(989)** 底部は丸味をおび、体部は直線的に外方に開き、口縁端部は外反する。底部外面は回転ヘラ切り後板状工具による不定方向のケズリを施す。底部内面は重ね焼きの痕跡が認められる。

**壺(990)** 長頸壺で、ほぼ完形である。頸部は外方に開き、口縁端部は外方に突出し短く仕上げる。肩部は強く張る。頸部中に1条の沈線を巡らせる。高台は低く断面方形で外方に踏ん張る。高台の接地部に板状の圧痕が残る。谷部A-2 杭付近の掘り下げ中に出土した。(藤島)

#### (4) 出土遺物の数量

表4 71地点出土遺物重量表

遺物名	数量																				土器類		合計				
	銅器	鉄器	土器	石	骨	角	貝	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	土器類	土器類					
1号遺物	170	0	0	0	0	280	0	80	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	540	
1号竪石	310	0	0	0	0	0	0	0	0	120	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	540	
1号貯蔵器	200	0	0	0	120	0	100	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0	2,350	
1号瓦葺1枚	410	0	0	0	0	0	0	0	110	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	660	
1号瓦葺2枚	1,340	0	0	0	0	100	0	180	0	60	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	1,650	
1号瓦葺3枚	100	0	0	0	0	0	0	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0	240	
1号瓦葺4枚	2,000	0	0	0	0	200	0	270	0	360	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	570	0	0	0	0	4,670	
1号瓦葺5枚	1,200	0	0	0	0	300	0	30	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	90	0	0	0	0	1,810	
1号瓦葺6枚	2,600	0	0	0	110	700	0	290	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	90	0	0	0	0	3,930	
1号瓦葺7枚	1,000	0	0	0	0	180	0	80	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	220	0	0	0	0	1,480	
1号瓦葺8枚	960	0	0	0	30	210	0	110	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	140	0	0	0	0	1,170	
1号瓦葺	70	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	90	
1号瓦葺遺土	190	0	0	0	0	140	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	230	
1号石	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	
1号谷部	2,000	0	120	0	20	600	0	240	0	140	0	0	0	0	200	50	0	1,510	90	0	1,30	0	0	0	0	280	1,570
合計	14,020	0	140	0	280	4,700	0	1,640	0	1,100	0	0	0	200	50	0	1,510	90	0	1,440	0	0	0	0	0	280	15,540
%	54.9%	0.0%	1.0%	0.0%	1.7%	18.4%	0.0%	8.4%	0.0%	4.2%	0.0%	0.0%	0.8%	0.2%	0.0%	1.1%	0.4%	0.0%	5.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	0.5%	100.0%

71地点での出土須恵器の総重量は25.56kgである。杯B蓋が54.9%と全体のほぼ半数を占めている。次いで杯Bが18.4%、長頸壺5.9%、皿4.3%の順となり、高杯の出土はない。この点は供膳具や貯蔵具のすべての器種が認められる70地点においても、高杯の出土量が1%と低いことを考慮すると、他地点も含め、高杯自体の生産比率が総じて低かったことを反映している可能性がある、本地点では、杯蓋及び杯身が量的に突出していることから、69地点と同様に、蓋や杯を主体とした生産が行われていたと考えられよう。(稗田)

#### (5) 小結

71地点では1基の須恵器窯跡が確認され、出土遺物から1号窯跡はⅦB期にあたると思われる。1号窯跡は、操業終了後、窯内や焚口部を丁寧に片づけており興味深い。また、71地点は70地点と同じ丘陵斜面に位置しているが、1基単独で立地している。両地点の操業時期は重複すると考えられるが、71-1号窯跡は貼床がなく、あまり長期の操業を考えづらい。

今回の報告では、68→70→71地点の順に時期が下るに従い、次第に谷奥へ窯が移動していく様子が明らかになった。このことと、谷部に置かれた長頸壺が何らかの関連があるのであろうか。今後さらに周辺の窯跡を含めた遺跡動態を明らかにしながら、その意味も推測できるのではないかと考えている。(石木)

## 5. 72地点の調査

### (1) 調査概要 (第95図、図版15)

72地点は、70・71地点の位置する丘陵から南側に入り込んだ小さな谷の東側斜面に位置する。試掘調査で窯跡が確認されたC地点にあたり、調査の結果、炭窯1基を確認した。窯跡は、斜面下方の谷に近い場所に作られており、試掘調査中に焚口部の一部を削ってしまった。また、図化できなかったが、谷部埋土中に焼土面が確認されたことから、焚口部は谷部堆積土上に開口していたものと考えられる。炭窯以外の遺構は確認できなかった。

### (2) 72-炭窯跡 (第96・97図、図版15・16)

炭窯跡は焚口部を失っているが、残存長1.4m、主軸はN-86°-Wをとる。半地下式構造の平窯であり、平面プランは楕円形を呈する。室内は艶やかな黒色を呈していた。奥壁を溝状に掘り込んだ後、床面に煙取り入れ口を石で組み、溝状の掘り込みの両側に石を積み上げて粘土を貼ることで煙道部を作り出している。

室内の掘り下げ時に、腐食土層を除去すると石と焼土壁が堆積していた。焼土壁にはワラの痕跡があったことから、スサ入り粘土を用いていたと考えられる。

**焼成部** 室内は二段掘りになっており、まず長さ1.95m、幅2.92mで楕円形に掘り下げた後、周囲を12~34cmの平坦面を残した後、さらに長さ1.82m×幅1.96m、深さ0.65mで楕円形に掘り下げて焼成部を作っている。平坦面の上には石が置かれ、粘土を20cmほど貼っている。粘土は赤く焼け固まっておりスサ入り粘土が用いられ、平坦面を利用し、天井を構築したものと考えられる。室内は黒く焼けており、焼成部の残存長1.4m、幅1.8mである。

**排煙部** 奥壁を幅0.28~0.62m、高さ0.66mの範囲で溝状に掘り込んでおり、床面に石を組み、さらに前面に粘土を貼ることで煙道部を作り出している。

煙取り入れ口は石を組んでおり、幅20cm×高さ12cmの方形になる。溝状の掘り込みの両側壁には石が積み上げられ、煙道部の幅は煙取り入れ口で20cmほどである。排煙口は径10cmで、床面からの高さは0.95m。焼成部の周囲の平坦面より30cmほど高く作りだされる。また排煙口上の壁面が高さ54cm、幅40cmの範囲で還元している。煙道部がさらに続いていた痕跡はないことから、吹き上がった灰により還元したのではないかと考えられる。

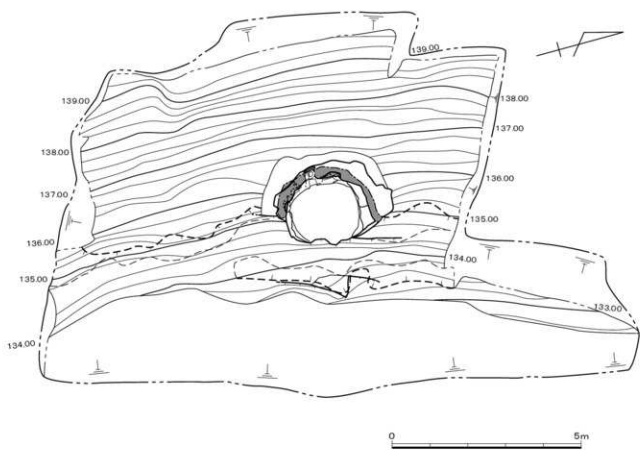
### (3) 小結

72地点では1基の炭窯が確認された。出土遺物はないことから、時期を明らかにすることはできない。また、焚口部を失っていることから、黒炭・白炭いずれを生産していたかは分からない。

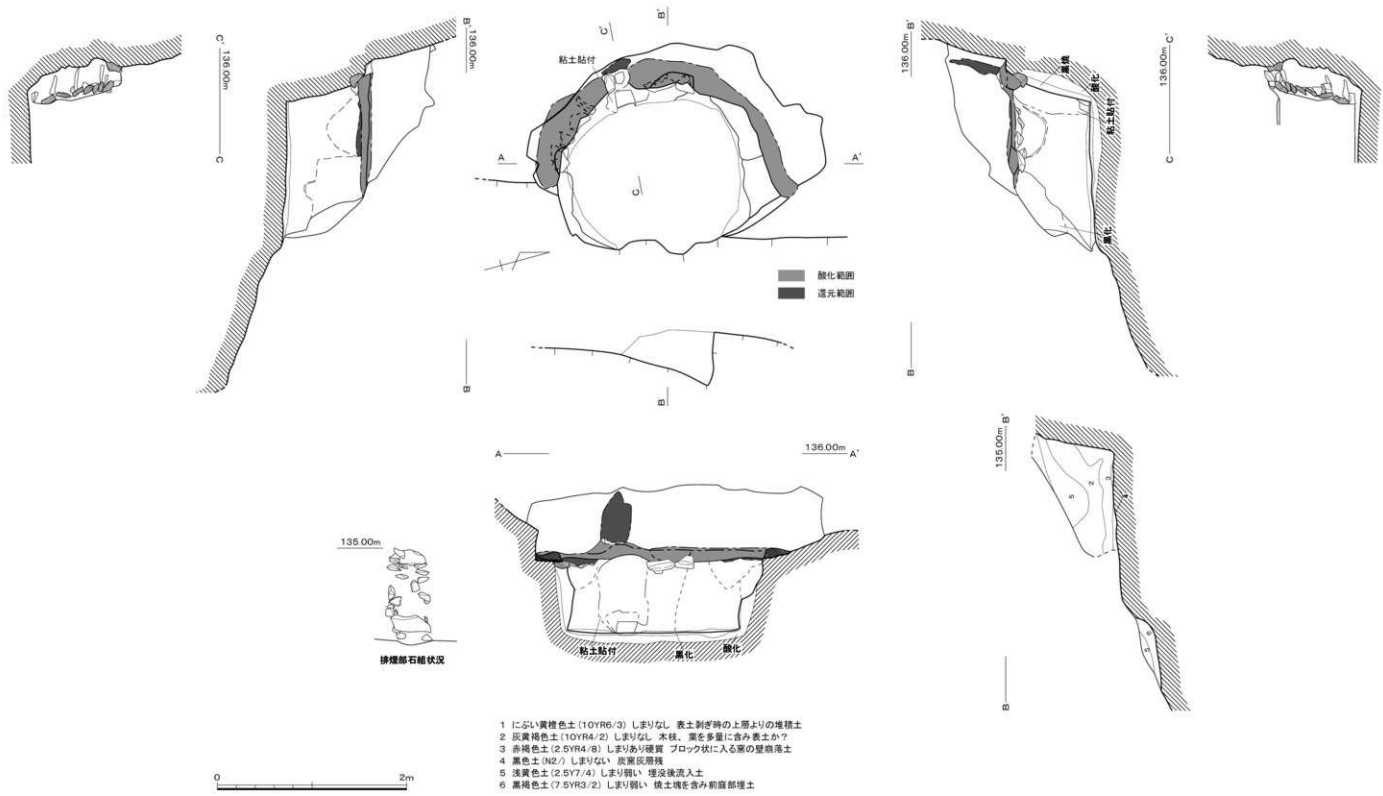
これまでの牛頭窯跡群の調査で、平面プラン楕円形で平窯の炭窯は、石坂窯跡E-1号窯跡(註1)、本堂遺跡第11次調査1号窯跡(註2)で確認されている。これらの時期を見ると石坂E-1号窯跡は13世紀第2四半期から第3四半期、本堂11次1号窯跡は昭和40年代に埋没したと考えられている。

このことから、窯構造からは72-炭窯跡が作られた時代を明らかにすることはできないが、古

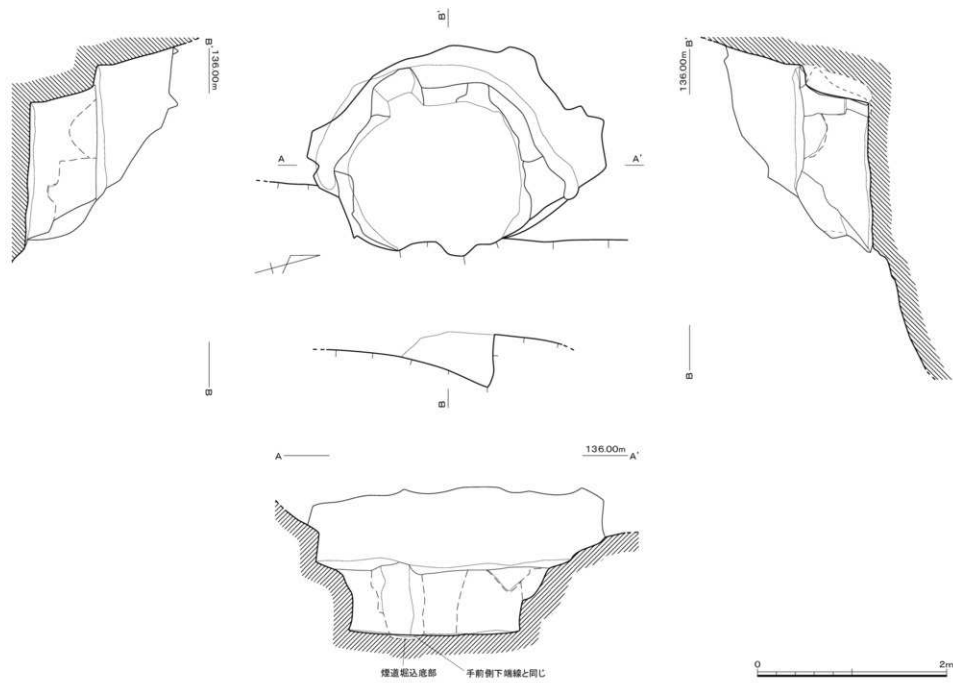
72  
地  
点



第95图 72地点地形测量图 (1/100)



第96図 炭窯跡実測図① (1/40)



第97図 炭窯跡実測図② (1/40)

代に牛頭窟跡群で行われていた須恵器生産の後、中世になると山深いこの地域まで森林資源を求め炭の生産が行われていることは、中世以降の牛頭周辺の森林利用と産業の在り方を考える上で重要である。 (石木)

石木秀啓1997『牛頭石坂遺跡—E地点—』大野城市文化財調査報告書第49集

石木秀啓編2007『牛頭本堂遺跡群Ⅳ—第10・11次調査—』大野城市文化財調査報告書第75集



## 6. 74地点の調査

### (1) 調査概要 (第98図、図版16)

74地点は、70・71地点の位置する谷部をさらに南西に入り込んだ所に位置する。当初は遺構・遺物を確認していなかったが、70～73地点の調査開始後、須恵器を表採したことから試掘調査を実施し、遺構を確認したことから74地点として調査を実施することになった。

調査地は、北側に伸びる丘陵先端部にあたり、土坑が確認された。土坑はいずれも不整形なものであるが、須恵器鉢を半裁したものが出土した。(石木)

### (2) SX01 (第99図、図版16)

SX01は、調査地の東側に位置する。長さ2.5m×幅0.9m、深さ1.43m、平面プラン長楕円形の土坑である。土坑の西側に不整形な落ち込みを伴うが、調査では遺構とは確認できなかった。埋土の上面からは、半裁された鉢が伏せた状態で出土した。また、土坑底面は長さ0.75m×幅0.25mの長楕円形プランとなる。埋土はバイラン土であり、炭や焼土などは出土しなかった。(石木)

### (3) 出土遺物 (第102図)

鉢 (991) 底部を欠く。体部は直線的に外方に開き、口縁端部は内傾する。内外面とも強い回転ナデを施す。(藤島)

### (4) SX05 (第100図、図版16)

SX05は、調査地の北側に位置する。長さ3.33m×幅2.46mの方形に近いプランを呈する土坑である。床面は不整形であり、凹凸が著しく、最も深い所で0.85mである。埋土はバイラン土であり、出土遺物には須恵器がある。(石木)

### (5) 出土遺物 (第102図)

杯 (992) 口縁部の破片で、大きく外傾する。口縁端部はわずかに外反する。(藤島)

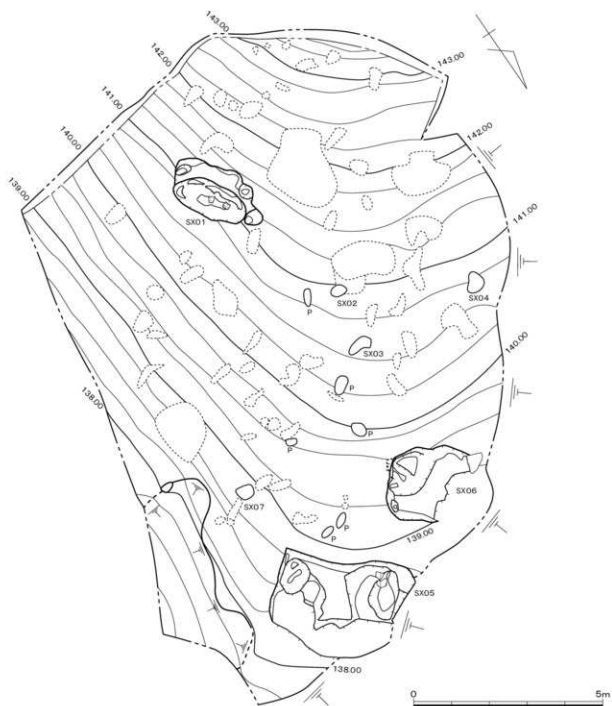
### (6) SX06 (第101図)

SX06は、調査地の北側に位置する。長さ1.5m×幅1.93mの方形に近いプランを呈する土坑である。床面は不整形であり、凹凸が著しく、最も深い所で0.66mである。埋土はバイラン土であり、出土遺物はなかった。(石木)

### (7) 出土遺物

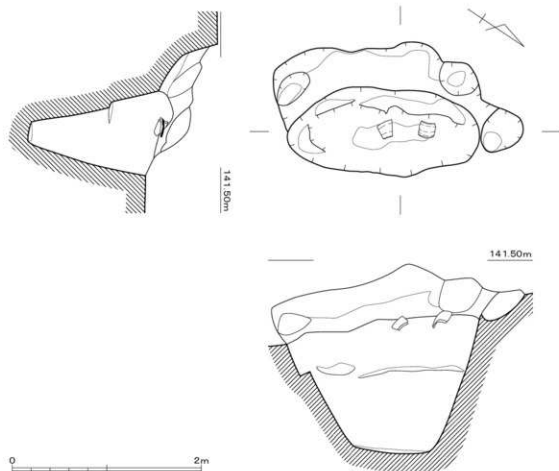
#### 試掘トレンチ (第102図、図版62)

杯 (993) 底部から体部にかけての小片である。体部は直線的に外方に開き、体部と底部との境は、くの字状に屈曲する。底部外面は回転ヘラ切り後ナデ、体部内面は強い回転ナデを施す。(藤島)



74  
地点

第98图 74地点地形测量图 (1/100)



第99図 SX01実測図 (1/40)

## 表採 (第102図)

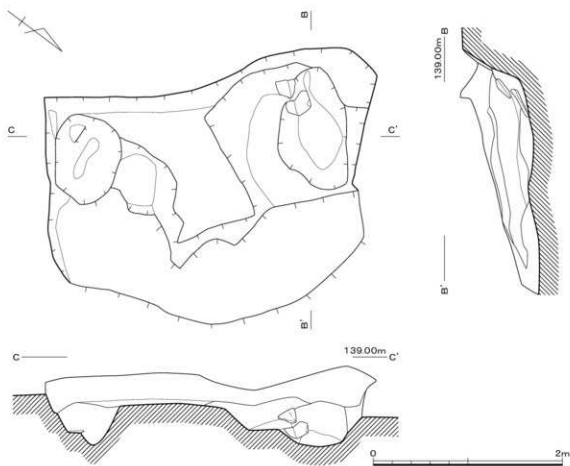
**杯蓋 (994~996)** 994は山形を呈し、天井部中心が高く直線的に伸び口縁部に至る。口縁端部はわずかに下方に突出させ丸くおさめる。天井部外面は回転ヘラケズリを施す。995は扁平な形態をなす。口縁端部は下方に小さくつまみ出し、断面三角形状を呈する。天井部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。996は焼き歪みの著しい破片で、形態の詳細は不明である。天井部外面は回転ヘラケズリを施す。中央が突起する扁平な擬宝珠様のつまみが付く。

**杯身 (997・998)** いずれも底部の破片であり、底部と体部の境は明瞭で、体部は直線的に外方に立ち上がる。いずれも高台は短く断面方形を呈し、直立する。

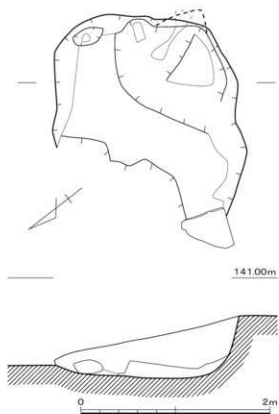
**皿 (999・1000)** いずれも体部は直線的に外方に開く。底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施し、体部と底部との境は明瞭である。1000は径約20cmを測る大型品である。(藤島)

## (8) 小結

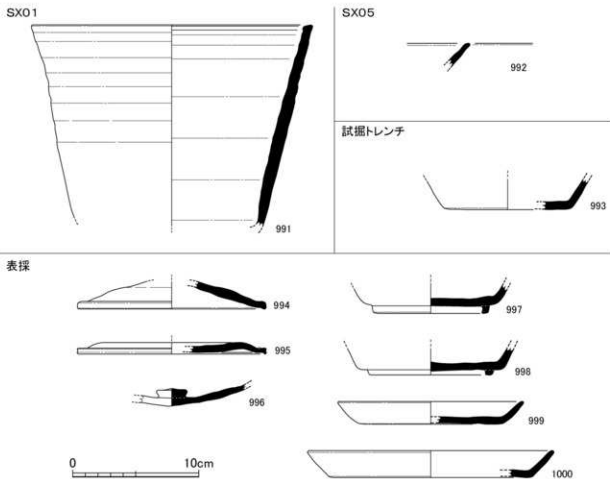
74地点では3基の土坑を報告したが、遺物が出土したピットは他にもある。SX01出土の鉢、SX05出土の杯、表採された須恵器はいずれもⅦB期のものであることから、74地点の遺構はいずれもこの時期のものと考えられる。



第100图 SX05实测图 (1/40)



第101图 SX06实测图 (1/40)



第102図 SX01・SX05・その他出土遺物実測図（1／3）

74地点は、他の地区に比べて傾斜のゆるやかな丘陵部にあたる。掘立柱建物や竪穴住居跡などの居住遺構は確認できていないが、70・71地点の採集を行ったり、あるいは薪を得るために周辺で活動していた工人が一時休息を取った場所であるかもしれない。牛頸窯跡群の調査課題として、7世紀後半以降、山林を深く入った地で須恵器窯跡に隣接して、工人が起居した場所を見つけ出すことができていない。山深い場所での調査の場合、窯跡以外の一時的な工人の居住場所についても周辺地形の観察を行いながら進めていく必要がある。（石木）

表5 68地点出土遺物観察表

遺物 番号	種類	器種	出土地点	法量[cm・g] (注①: 受器裏②: 底面 ③: 底面・器縁)	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色別	保存率	備考
1	須恵焼	杯皿	1号東窯跡体内出土層下層(5層)	①13.4 ②2.8 つまみ径2.5 受器厚16.8	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ。内面回転ナズ、摩滅のため調整不明。	A: 1mm以下白色粒子を少量含む。B: やや不貞。C: 内外焼59%。	ほぼ完好	
2	須恵焼	杯皿	1号東窯跡体内出土層下層(5層)	①13.4 ②2.8 受器厚(15.6)	内外面摩滅のため調整不明。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。B: やや不貞。C: 内外焼59%。	1/8	
3	須恵焼	杯皿	1号東窯跡体内出土層下層(5層)	①12.2 ②2.0 受器厚(11.6)	外面へラ切り痕ナズ。摩滅のため調整不明。内面摩滅のため調整不明。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。B: 不貞。C: 内外焼59%。	1/4	へら切りあり。
4	須恵焼	小皿	1号東窯跡体内出土層下層(5層)	①4.9 ②3.5 ③4.3 最大厚19.6	外面回転ナズ。回転ヘラケズリ。内面へラ切り痕未調整。外面回転ナズ。ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内外焼10%。内焼75%。	ほぼ完好	小型。
5	須恵焼	皿	1号東窯跡体内出土層下層(5層)	②14.0+α	外面平行タタキ。内面同心円文で装飾。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。B: 不貞。C: 内外焼59%。	0/10	
6	須恵焼	皿	1号東窯跡体内出土層下層(5層)	②13.3+α	外面平行タタキ。内面同心円文で装飾。同心円文で装飾ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。B: やや不貞。C: 内外焼59%。	0/10	
7	須恵焼	杯皿	1号東窯跡体内層土上層(1-3層)	①13.0 ②2.3 つまみ径2.7 受器厚(13.4)	外面回転ナズ。回転ヘラケズリ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。1mm以下の長石。金銅屑を少量含む。B: 良好。C: 内外焼9%。	1/2	
8	須恵焼	杯皿	1号東窯跡体内層土上層(1-3層)	①16.2 ②3.4 つまみ径2.9	外面回転ナズ。回転ヘラケズリ。指オサエ。内面回転ナズ。指オサエ。摩滅のため調整不明。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。B: 調整不良を少量含む。B: 不貞。C: 内外焼100%。	1/2	
9	須恵焼	杯皿	1号東窯跡体内層土上層(1-3層)	①16.3 ②3.3 つまみ径2.9	外面回転ナズ。回転ヘラケズリ。内面回転ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。B: 調整不良を少量含む。B: 不貞。C: 内外焼100%。	ほぼ完好	器みあり。
10	須恵焼	杯皿	1号東窯跡体内層土上層(1-3層)	①14.4 ②3.7 つまみ径2.8	外面回転ナズ。回転ヘラケズリ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。1mm以下の長石を少量含む。B: 良好。C: 内外焼10%。	1/2	器みあり。
11	須恵焼	杯皿	1号東窯跡体内層土上層(1-3層)	①15.4 ②3.6 つまみ径3.1	外面回転ナズ。回転ヘラケズリ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。1mm以下の長石を少量含む。B: やや不貞。C: 内外焼100%。	1/2	器みあり。内面に穴ナズ。
12	須恵焼	杯皿	1号東窯跡体内層土上層(1-3層)	①15.4 ②3.4 つまみ径2.4	外面回転ナズ。回転ヘラケズリ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。1mm以下の長石を少量含む。B: やや不貞。C: 内外焼55%。内焼25%。	完好	器みあり。焼成跡あり。へら切りあり。
13	須恵焼	杯皿	1号東窯跡体内層土上層(1-3層)	①15.8 ②2.9 つまみ径2.9	外面回転ナズ。回転ヘラケズリ。指オサエ。内面回転ナズ。指オサエ。回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。1mm以下の長石を少量含む。B: 不貞。C: 内外焼25%。内焼59%。	ほぼ完好	
14	須恵焼	杯皿	1号東窯跡体内層土上層(1-3層)	①17.3 ②3.3 つまみ径3.3	外面回転ナズ。回転ヘラケズリ。練成工具による研削状の回転ナズ。内面回転ナズ。練成工具による研削状の回転ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。1mm以下の長石を少量含む。B: 不貞。C: 内外焼99%。	1/4	器みあり。
15	須恵焼	杯皿	1号東窯跡体内層土上層(1-3層)	①15.3 ②2.4 つまみ径2.9	外面回転ナズ。回転ヘラケズリ。内面回転ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。1mm以下の長石を少量含む。B: やや不貞。C: 内外焼59%。内焼25%。	ほぼ完好	器みあり。
16	須恵焼	杯皿	1号東窯跡体内層土上層(1-3層)	①17.2 ②3.2 つまみ径3.2	外面回転ナズ。摩滅のため調整不明。内面摩滅のため調整不明。	A: 3mm以下の白色粒子を少量含む。B: 不貞。C: 内外焼59%。	1/2	器みあり。
17	須恵焼	杯皿	1号東窯跡体内層土上層(1-3層)	①16.0 ②2.6 つまみ径2.8	外面回転ナズ。回転ヘラケズリ。指オサエ。内面回転ナズ。指オサエ。回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。B: やや不貞。C: 内外焼25%。内焼59%。	完好	器みあり。焼成跡あり。
18	須恵焼	杯皿	1号東窯跡体内層土上層(1-3層)	①17.8 ②2.2+α つまみ径2.1+α	外面回転ナズ。回転ヘラケズリ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内外焼94%。	3/4	器みあり。内面に練成あり。
19	須恵焼	杯皿	1号東窯跡体内層土上層(1-3層)	①13.0 ②3.3 ③3.0	外面回転ナズ。回転ヘラケズリ。へら切り痕未調整。内面回転ナズ。摩滅のため調整不明。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。1mm以下の長石を少量含む。B: 不貞。C: 内外焼25%。内焼25%。	1/4	
20	須恵焼	杯皿	1号東窯跡体内層土上層(1-3層)	①13.9 ②5.7 ③11.4	外面回転ナズ。回転ヘラケズリ。内面回転ナズ。ナズ。	A: 1mm以下の長石を少量含む。B: 不貞。C: 内外焼59%。	1/4	

産物 番号	種類	産地	出土地点	法量(cm・g) ①(10倍) ②(原産) ③(産地) ④(産地) ⑤(産地)	外形・技法の特徴	A: 粒土 B: 塊状 C: 色選	保存率	備考
21	湧き湯	林山	1号実跡家体内埋土上層(1-3層)	②3.4+a (3)(10.8)	外面摩滅のための調整不揃、回転ナズ、回転へう切り、内面摩滅のための調整不揃。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。1mm以下の黒石を少量含む。B: 不貞。C: 内外両側10YR7/6。	1/4	
22	湧き湯	林山	1号実跡家体内埋土上層(1-3層)	①(14.5) ②(5.3) ③(10.0)	外面回転ナズ(塊)。回転ナズ、摩滅のための調整不揃、内面回転ナズ(塊)。一層摩滅のための調整不揃。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。1mm以下の黒石を少量含む。B: 不貞。C: 内外の25YR2。内面25YR/6。	1/4	
23	湧き湯	林山	1号実跡家体内埋土上層(1-3層)	①(15.0) ②4.6+a	外面回転ナズ、ヘラケズリ、内面回転ナズ、ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。1mm以下の黒石を少量含む。B: やや不貞。C: 外側25YR2。内側3YR/6。	1/4	高位割跡あり。
24	湧き湯	林山	1号実跡家体内埋土上層(1-3層)	①(16.8) ②5.3+a	内外面回転ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。B: 不貞。C: 外に少し黒石10YR7/6。内面25YR/6。	1/3	
25	湧き湯	山	1号実跡家体内埋土上層(1-3層)	①(19.6) ②3.0-3.3 ③(9.5)	外面回転ナズ、回転へう切り、内面回転ナズ、回転ナズ(塊)。	A: 磨滅な黒石を少量含む。B: 不貞。C: 内外側25YR/6。	3/4	一部に黒痕あり。
26	湧き湯	湯	1号実跡家体内埋土上層(1-3層)	①(16.4) ②(7.1) ③(原産) ④(6.2)	外面回転ナズ、ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ(塊)。	A: 3mm以下の白色粒子を少量含む。1mm以下の黒石を少量含む。B: やや不貞。C: 外側3YR7/1。内面25YR/1。	1/2	
27	湧き湯	湯	1号実跡家体内埋土上層(1-3層)	①(11.8) ②(2.3)+a	内外面回転ナズ。	A: 磨滅な黒石を少量含む。B: 不貞。C: 内外に少し磨25YR7/6。	1/6	
28	湧き湯	湯	1号実跡家体内埋土上層(1-3層)	②(2.6)+a (3)(11.4)	外面回転ナズ、回転へう切り、内面ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。B: やや不貞。C: 外側3YR7/1。内面25YR/1。	1/4	
29	湧き湯	湯	1号実跡家体内埋土上層(1-3層)	②(2.3)+a (3)(12.7)	外面摩滅のための調整不揃、回転ナズ、回転へう切り後ナズ。内面摩滅のための調整不揃。	A: 3mm以下の白色粒子を少量含む。1mm以下の黒石を少量含む。B: 不貞。C: 真砂	完全	
30	湧き湯	湯	1号実跡家体内埋土上層(1-3層)	②(6.8)+a (3)(11.8)	外面回転へラケズリ、回転ナズ、回転へう切り、内面回転ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。1mm以下の黒石を少量含む。B: 不貞。C: 内外側3YR6/6。	1/4	
31	湧き湯	湯	1号実跡家体内埋土上層(1-3層)	③(4.3)+a	外面回転ナズ、内面摩滅のための調整不揃。	A: 3mmの白色粒子を含む。B: 不貞。C: 外側3YR6/6。内側25YR7/6。	小片	
32	湧き湯	林山	1号実跡家土層下時	①(9.4) ②(2.1) ③(原産) ④(6.6)	外面摩滅のための調整不揃、回転へう切り後ナズ(塊)。回転ナズ、内面回転ナズ、摩滅のための調整不揃(塊)後ナズ(塊)。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。磨滅な黒石を少量含む。B: 不貞。C: 内外側3YR7/1-灰白3YR/1。	5/6	へう切りあり。
33	湧き湯	林山	1号実跡家土層下時	①(13.9) ②(3.6) ③(原産) ④(6.6)	外面回転ナズ、回転へラケズリ、内面回転ナズ、ナズ(塊)。	A: 1mm以下の管管母を少量含む。1mm以下の白色粒子を含む。B: 不貞。C: 内外両側25YR2。内側に真砂10YR7/6。	2/3	
34	湧き湯	林山	1号実跡家土層下時	①(16.0) ②(2.7) ③(原産) ④(6.6)	外面回転ナズ、回転へラケズリ、内面回転ナズ、回転ナズ(塊)。	A: 4mm以下の白色粒子を少量含む。磨滅な黒石を含む。B: やや不貞。C: 外側3YR7/1。内側25YR7/1。	5/6	
35	湧き湯	林山	1号実跡家土層下時	①(14.8) ②(4.7-4.9) ③(11.1)	外面回転ナズ、回転へラケズリ、回転へう切り、内面回転ナズ、ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。磨滅な黒石を含む。B: 不貞。C: 内外側3YR6/6。	3/5	
36	湧き湯	林山	1号実跡家土層下時	①(15.2) ②(6.4) ③(11.2)	外面回転ナズ、回転へう切り後ナズ。内面回転ナズ、ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子。管管母を含む。B: 不貞。C: 外側3YR6/6。内側に塊3YR6/6。	ほぼ完全 1/4 ほぼ完全	
37	湧き湯	穿孔土	1号実跡家土層下時	②(8)	外面へラケズリ後ナズ、内面摩滅のための調整不揃。	A: 2mm以下の黒石を含む。磨滅な黒石を少量含む。B: 不貞。C: 外側3YR7/6。	小片	穿孔力所あり。
38	土層	湯	1号実跡家土層下時	②(5)+a	外面ナズ、ハケム後ナズ。内面ナズ、ハケム。	A: 3mm以下の石を少量含む。磨滅な管管母。黒石を含む。B: 良好。C: 外に少し塊25YR7/6。内面真砂25YR/6。	小片	外面に黒痕あり。
39	鉄石	方製井 新式跡	1号実跡家土層下時	長9.2+a 幅2.5 厚0.3 重21.0g				本位置付近に三本分の道具跡あり。
40	湧き湯	林山	1号実跡家土層下時	①(9.5) ②(2.0) ③(原産) ④(11.5)	外面回転ナズ、回転へう切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ(塊)。	A: 1mm以下の白色粒子。黒石粒子を含む。B: やや不貞。C: 外側25YR6/1。内側3YR7/1。	ほぼ完全	歪みあり。 へう切りあり。 管管母1つあり。

遺物 番号	種類	部材	出土地点	質量 (cm・g) (□□位 空部高 □位厚 表面自治・透徹大径)	形態・技法の特徴	A：出土 B：焼成 C：色別	残存率	備考
41	須恵器	押目器	兵庫県 豊前郡13.4	①11.2 ②2.2	外面回転ナズ、回転ヘラケズリナズ、へう切り後未調整 回転ヘラケズリナズ、内面 回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：1mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：内肉内層。	完全	蓋ありあり。 へう切りあり。 古形の異なる板状圧痕あり。
42	須恵器	押目器	兵庫県 豊前郡14.4	①12.2 ②2.1	外面回転へう切り後ナズ、手 持ちヘラケズリ、回転ナズ。 内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：1mm以下の白色粒子、黒石を 含む。B：不良。C：内肉に白い 異種10YR6/3。	1/3	
43	須恵器	押目器	兵庫県 つまみ92.4 豊前郡13.3	①11.2 ②2.7	外面回転ナズ、回転ヘラケズ リ、内面回転ナズ、回転ナズ 後ナズ。	A：1mm以下の白色粒子、黒石を 含む。B：良好。C：内肉内層 5Y6/1。	3/4	蓋ありあり。 へう切りあり。
44	須恵器	押目器	兵庫県 つまみ92.5 豊前郡13.5	①11.4 ②2.8	外面回転ナズ、回転ヘラケズ リ後ナズ。内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A：1mm以下の白色粒子、黒石を 含む。B：良好。C：内肉内層 2.5Y5/1、内肉層。	完全	蓋ありあり。
45	須恵器	押目器	兵庫県 つまみ92.10 豊前郡14.8	①12.5 ②2.10	外面回転ナズ、回転ヘラケズ リ、内面回転ナズ、回転ナズ 後ナズ。	A：2mm以下の白色粒子を含む。 黒石を含む。B：やや不 良。C：外肉内層2.5Y5/1、内肉 層。	ほぼ完全	蓋ありあり。 へう切りあり。
46	須恵器	押目器	兵庫県 ①10.8 ②3.7	外面回転ナズ、ヘラケズリ後 ナズ。回転へう切り後ナズ、 内面回転ナズ、回転ナズ後 ナズ。	A：1mm以下の白色粒子、黒石を 含む。B：不良。C：内肉に白い 異種10YR7/4。	口縁部 1/4 底面 完全		へう切りあり。
47	須恵器	押目器	兵庫県 ①13.2 ②4.4 ③8.0	外面摩滅のため調整不明 回転ナズ。回転へう切り後ナズ が、内面摩滅のため調整不明 回転ナズが。	A：1mm以下の白色粒子、黒石を 含む。B：不良。C：内肉内層 2.5Y8/2、内肉に白い異種 10YR7/3。	1/6	へう切りあり。	
48	須恵器	押目器	兵庫県 ①12.8 ②3.7 ③8.4	外面摩滅のため調整不明、へう 切り。内面摩滅のため調整 不明。	A：2mm以下の白色粒子、黒石を 含む。B：不良。C：外に白い異 種10YR7/4、内層層3.5YR6/3。	1/3	へう切りあり。	
49	須恵器	押目器	兵庫県 ①12.2 ②4.3 ③8.0	外面回転ナズ、ヘラケズリ後 ナズ。回転へう切り後ナズ。 内面回転ナズ、回転ナズ後 ナズ。	A：1mm以下の白色粒子を少量含 む。B：良好。C：外肉内層 2.5Y5/1、内肉層。	1/4		
50	須恵器	押目器	兵庫県 ①13.2 ②4.2	外面回転ナズ、ヘラケズリ後 ナズ。へう切り後ナズ。内面 回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A：1mm以下の白色粒子、黒石を 含む。B：良好。C：外肉内層 2.5Y6/1、内肉5Y5/1。	口縁部 1/4 底面 完全		
51	須恵器	押目器	兵庫県 ①15.8 ②4.9 ③11.0	外面摩滅のため調整不明、回 転ナズ。内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A：2mm以下の白色粒子を少量含 む。B：不良。C：内肉内層 3.5YR6/4。	口縁部 1/4 底面 完全		
52	須恵器	押目器	兵庫県 ①13.6 ②6.4 a	外面回転ナズ、回転ヘラケズ リ、回転へう切り。内面回 転ナズ、ナズ。	A：調整不明の黒石を少量含む。 B：不良。C：外に白い異種 7.5YR5/4、内層7.5YR7/6。	口縁部 1/3	裏面が剥離あり。	
53	須恵器	押目器	兵庫県 Z43-a ①12.8	外面回転ナズ、回転へう切り 後ナズ。内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A：2mm以下の白色粒子を少量含 む。B：不良。C：外に白い異種 7.5YR6/4、内肉に白い異種 10YR6/4。	底面 1/4		
54	須恵器	押目器	兵庫県 Z15-a ①11.3	内外面摩滅のため調整不明。	A：2mm以下の白色粒子を少量含 む。B：不良。C：外に白い異種 10YR7/4、内肉に白い異種 10YR7/3。	底面 完全	底面が二次焼物らしい。 (全体的に二次焼物) 焼成跡等孔状あり	
55	須恵器	浅形	兵庫県 Z30-a 豊前郡10.6	内外面回転ナズ。	A：2mm以下の白色粒子を少量含 む。B：良好。C：内肉内層 2.5Y4/1。	口縁部 1/2		
56	須恵器	楕	兵庫県 ①7.0 ②4.7 a	内外面回転ナズ、文様。	A：2mm以下の白色粒子を少量含 む。B：やや不良。C：内肉内層 黄2.5Y5/2。	口縁部 1/4		
57	須恵器	チャップ 楕	兵庫県 ①3.0 ②1.8 a	内外面回転ナズ。	A：2mm以下の白色粒子を少量含 む。B：良好。C：内肉内層4/1。	口縁部 1/4	蓋ありあり。	
58	須恵器	鉢	兵庫県 ①21.4 ②10.8	外面回転ナズ、文様、回転ヘ ラケズリ。内面回転ナズ、ナ ズ(出て異種残る)	A：2mm以下の白色粒子を少量含 む。B：良好。C：外肉5Y4/1、 内肉N4/1。	1/4	蓋ありあり。	
59	須恵器	楕	兵庫県 Z9.6 a	外面回転ナズ、文様、内面回 転ナズ。	A：2mm以下の白色粒子を少量含 む。B：良好。C：内肉内層 N6/1。	小片		
60	須恵器	不明	兵庫県 ①6.2 ②2.9 a	外面ナズ。内面ナズ。製オ 工。	A：調整不明の黒石を少量含む。B： 不良。C：外肉内層2.5Y4/1、内肉 層10YR7/6。	1/4		



建物 番号	様相	用途	出土地点	測量 (cm・g) ①②③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳	形制・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色別	保存率	備考
61	湧き池	林道区	元原区	①8.3②1 埋厚10.4	外面回転ヘラ切り後ナズ、回転ナズ、内面回転ナズ、ナズ。	A: 1mm以下白色粒子を含む、B: 良好、C: 内外両面。	口縁部一部欠損	蓋みあり、ヘラ記号あり。
62	湧き池	林道区	元原区	①8.6②2.4 埋厚10.8	外面摩滅のため磨盤不明回転ヘラ切り後ナズか、回転ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む、B: やや不良、C: 内外両面5YR7/3。	1/6	ヘラ記号あり。
63	湧き池	林道区	元原区	①8.6②2.4 埋厚10.7	外面回転ヘラ切り後ナズ、回転ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む、B: 不良、C: 外に10YR7/2、内におい黄緑5YR7/3。	ほぼ完整	
64	湧き池	林道区	元原区	①11.8②2.6 埋厚14.0	外面回転ヘラ切り後ナズ、回転ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む、B: 磨滅な長石を少量含む、B: 不良、C: 外に10YR7/2、内におい黄緑5YR7/3。	欠損部一部欠損	
65	湧き池	林道区	元原区	①12.8②2.9 埋厚15.1	外面摩滅のため磨盤不明回転ヘラ切り後ナズか、回転ナズ、内面回転ナズ、ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む、B: 磨滅な長石を含む、B: やや不良、C: 内外両面2.5YR/2。	ほぼ完整	蓋みあり。
66	湧き池	林道区	元原区	①12.9②3.1 埋厚15.4	外面回転ヘラ切り後ナズ、回転ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の石灰を少量含む、B: 2mm以下の白色粒子を含む、B: 磨滅な長石を含む、B: 不良、C: 内外両面10YR7/6。	1/2	
67	湧き池	林道区	元原区	①8.4②3.0 つまみ9.1 埋厚10.3	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を少量含む、B: 2mm以下の石灰を含む、B: 磨滅な長石を少量含む、B: 良好、C: 内外両面2.5YR/2。	1/2	蓋みあり。
68	湧き池	林道区	元原区	①13.3②3.4 つまみ9.6 埋厚15.0	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ、ヘラケズリ後ナズ、内面回転ナズ、ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む、B: 磨滅な長石を含む、B: やや不良、C: 内外両面1.5YR/1。	1/2	蓋みあり。
69	湧き池	林道区	元原区	①13.6②3.3 つまみ9.2 埋厚16.2	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ、内面回転ナズ、ナズ。	A: 2mmの白色粒子を少量含む、B: 磨滅な長石を含む、B: 不良、C: 外におい黄7.5YR/4、内面5YR6/6。	1/2	蓋みあり。
70	湧き池	林道区	元原区	①14.0②3.0 つまみ9.0 埋厚16.0	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ後ナズ、内面回転ナズ、ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を少量含む、B: 磨滅な長石を含む、B: やや不良、C: 内外両面2.5YR/2。	1/2	蓋みあり。
71	湧き池	林道区	元原区	①13.8②3.6 つまみ9.9 埋厚16.3	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ、内面回転ナズ、ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む、B: 磨滅な長石を少量含む、B: やや不良、C: 内外両面2.5YR7/6。	3/5	
72	湧き池	林道区	元原区	①13.8②3.7 つまみ9.2 埋厚16.2	外面回転ナズ、摩滅のため磨盤不明回転ヘラケズリか、内面回転ナズ、ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む、B: 磨滅な長石を含む、B: やや不良、C: 内外におい黄7.5YR7/4。	1/4	
73	湧き池	林道区	元原区	①16.4②3.0 つまみ9.2 埋厚20.7	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む、B: 磨滅な長石を含む、B: 良好、C: 内外両面2.5YR/2。	1/2	
74	湧き池	林道区	元原区	①17.0②2.1	外面回転ヘラケズリ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む、B: やや不良、C: 内外両面2.5YR/2、内面2.5Y7/2。	1/6	蓋みあり。
75	湧き池	林道区	元原区	①15.8②1.8+ つまみ9.2	外面回転ヘラケズリ、回転ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む、B: 磨滅な長石を含む、B: 良好、C: 外両面2.5Y7/3、内両面2.5Y7/2。	2/3	つまみ別あり。
76	湧き池	林道区	元原区	②3+ つまみ9.2	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 磨滅な長石を含む、B: 良好、C: 内外両面2.5YR/2。	1/4	
77	湧き池	林道区	元原区	①9.6②3.1	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む、B: 良好、C: 内外両面2.5YR/2。	3/4	ヘラ記号あり。
78	湧き池	林道区	元原区	①10.4②2.8③16.0	外面回転ナズ、摩滅のため磨盤不明、内面回転ナズ、ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む、B: 1mm以下の長石を少量含む、B: 不良、C: 外側2.5YR7/6、内側5YR6/6。	1/4	
79	湧き池	林道区	元原区	①25.2②2.7-2.9③7	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子、褐色粒子、雲母を含む、B: 良好、C: 外両面5YR7/6、内両面5YR6/6。	口縁部一部欠損	蓋みあり、ヘラ記号あり。
80	湧き池	林道区	元原区	①12.0②3.5	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む、B: 2mm以下の長石を少量含む、B: 良好、C: 内外両面、内両面。	口縁部一部欠損	ヘラ記号あり。

透物 番号	種類	部材	出土地点	質量[cm・g] (口内径・口外径・口高径 ・口高さ・口厚)	形態・技法の特徴	A：黄土・B：焼成・C：色別	残存率	備考
81	透き器	杯A	兵庫県	①03.7②4.2③12	外面回転ナズ、回転ヘウ切り ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ。	A：1mm以下白色粒子、黄 色、赤褐色を含む。B：不 良。C：外径3.5mm、内径 2.5mm、口高径10.9mm、口 厚1.0mm	口縁部 1/8 片断 劣化	
82	透き器	杯A	兵庫県	①03.9②4.5③15	外面回転ナズ、回転ヘウ切り ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ。	A：1mm以下白色粒子、赤石 を含む。B：不良。C：外径 5.9mm、内径2.9mm、	口縁部 1/6 片断 劣化	
83	透き器	杯A	兵庫県	①04.0②4.1+α③ 11.6	外面回転ナズ、回転ヘウ切り ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ。	A：1mm以下白色粒子、赤石 を含む。B：不良。C：内径に3.5 mm、口高径10.9mm、	1/4	
84	透き器	杯A	兵庫県	①14.8②3.7③11.6	外面回転ナズ、回転ヘウ切り ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ。	A：1mm以下白色粒子、赤石 を含む。B：不良。C：外径3.5 mm、口高径10.9mm、口 厚1.0mm	口縁部 1/2 片断 劣化	蓋あり。
85	透き器	杯B	兵庫県	①03.0②4.6③9.0	外面回転ナズ、回転ヘウ切り ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ。	A：2mm以下白色粒子を少量 含む。1mm以下の赤石を少量 含む。B：中や不良。C：内径 2.5mm、	1/4	
86	透き器	杯B	兵庫県	①13.3②4.7~4.8③9.5	外面回転ナズ、回転ヘウ切り ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ。	A：1mm以下の赤石を少量 含む。B：中や不良。C：内径 2.5mm、口高径10.9mm、	2/3	
87	透き器	杯B	兵庫県	①04.5②5.0③11.4	外面回転ナズ。内面回転ナ ズ。摩滅のため調整不明。	A：2mm以下白色粒子を少量 含む。顕微鏡赤石を少量 含む。B：不良。C：外径3.5 mm、内径2.5mm、口高 径10.9mm、	1/4	
88	透き器	杯B	兵庫県	①04.0②5.2+α	外面回転ナズ、回転ヘウ切り ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ。	A：2mm以下白色粒子を含む。 顕微鏡赤石を含む。B：中 や不良。C：外径3.5mm、内 径2.5mm、	1/2	蓋あり。 裏面割あり。
89	透き器	杯B	兵庫県	①03.9②5.6③12.2	外面回転ナズ、回転ヘウ切り ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ。	A：2mm以下の白色粒子を少量 含む。1mm以下の赤石を少 量含む。B：良好。C：内径 2.5mm、	1/4	
90	透き器	杯B	兵庫県	①05.3②5.0③12.2	外面回転ナズ、回転ヘウ切り ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ。	A：1mm以下の白色粒子、赤石 を含む。顕微鏡赤石を含む。B ：不良。C：外径5.9mm、	口縁部 1/12 片断 劣化	
91	透き器	杯B	兵庫県	①04.2②6.0③11.2	外面回転ナズ、回転ヘウ切り ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ。	A：2mm以下の白色粒子を含む。 顕微鏡赤石を含む。B：不良。 C：外径2.5mm、口高径 2.5mm、	1/4	
92	透き器	杯B	兵庫県	①04.2②5.8+α	外面回転ナズ、回転ヘウ切り ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ。	A：2mm以下の白色粒子を少量 含む。1mm以下の赤石を少 量含む。B：不良。C：外径 2.5mm、口高径2.5mm、	1/4	裏面割あり。
93	透き器	杯B	兵庫県	②3+α	外面回転ナズ、ナズ。内面 回転ナズ。回転ナズ。	A：2mm以下の白色粒子を少量 含む。B：良好。C：外径4mm、	小片	
94	透き器	高杯	兵庫県	②36+α 断面径11.0	内外面回転ナズ。	A：1mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：外径3.5mm、内 径2.5mm、	断面 1/3	
95	透き器	高杯	兵庫県	②5.2+α 断面径11.7	外面回転ヘラクスリ、回転 ナズ。内面調整のため調整不 明。回転ナズ。	A：1mm以下の白色粒子、赤石 を含む。B：不良。C：外径 2.5mm、内径2.5mm、口高 径10.9mm、	断面 1/2 片断 劣化	
96	透き器	高杯	兵庫県	②5.4+α 断面径11.2	外面回転ヘラクスリ、回転 ナズ。内面回転ナズ/摩滅のた め調整不明(ナズ)。ナズ	A：2mm以下の白色粒子を含む。 顕微鏡赤石を含む。B：不良。 C：外径2.5mm、内径 2.5mm、	断面 1/2 片断 劣化	
97	透き器	高杯	兵庫県	②4.1+α 断面径10.8	外面調整工具による回転ナズ /ヘラクスリまではいかない。回転 ナズ。内面回転ナズ、シボリ 壊。	A：2mm以下の白色粒子、赤石 を含む。顕微鏡赤石を含む。B ：中や不良。C：外径3.5mm、内 径2.5mm、	断面 1/2	蓋あり。
98	透き器	器	兵庫県	①02.0②3.4+α	内外面回転ナズ。	A：顕微鏡白色粒子、赤色粒子、 黄褐色を含む。B：不良。C：外 径3.5mm、口高径10.9mm、	口縁部 1/2	蓋あり。
99	透き器	器	兵庫県	①0.4②6.1+α	内外面回転ナズ。	A：1mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：外径3.5mm、	口縁部 1/4	底割あり。
100	透き器	器	兵庫県	①0.0②3.0+α	外面回転ナズ、回転ナズ。 内面回転ナズ。	A：2mm以下の白色粒子を多量 含む。顕微鏡赤石を含む。B：良 好。C：外径2.5mm、内径 2.5mm、	口縁部 1/6	外面に焼あり。 内面に焼あり。 小破。

産物 番号	種類	産地	出土地点	重量 (cm・g) ①X②③ ④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕ 保通台巻巻大巻	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色紙	保存率	備考
101	洗器類	壺	天原B区	①24.0 ②78×α	外面回転ナズ、縦格子タタナ。内面回転ナズ、当て真鍮。	A: 1mm以下白色粒子を含む、縦線な長石を含む。B: やや不具。C: 内面裏25YR5/2、内外面に赤褐色2.5YR5/3。	□線部 1/12	
102	洗器類	壺	天原B区	①24.0 ②6.6×α	外面環状のため磨擦不明、縦格子タタナ。内面環状のため磨擦不明、当て真鍮。	A: 1mm以下の白色粒子、赤色粒子を含む。縦線な長石を含む。B: 不具。C: 外環2.5YR7/6、内面5YR7/6。	□線部 1/4	赤みあり。
103	土師器	壺	天原B区	①21.6 ②5.7×α	外面環状のため磨擦不明(ヘラケツリ)。内面環状のため磨擦不明(ヘラケツリ)。	A: 2mm以下の赤褐色、白色粒子を含む。縦線な長石を含む。B: 良好。C: 内面に赤褐色10YR7/4、内面2.5YR7/6。	□線部 1/12	
104	洗器類	杯皿	天原C区	①8.2 ②2.2 受部径10.4	外面へう切り後未磨削、回転ナズ。内面回転ナズ、ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。縦線な長石を含む。B: 良好。C: 内面に白10Y7/1。	1/2	赤みあり。 へう記号あり。
105	洗器類	杯皿	天原C区	①9.5 ②2.0 受部径11.7	外面へう切り後ナズ。回転ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 2.5mm以下の白色粒子を含む。磨擦な金雲母を含む。B: やや不具。C: 内面裏2.5YR2、内面に白5Y7/1。	ほぼ完全	赤みあり。 へう記号あり。 外面に割傷跡の残存計量あり。
106	洗器類	杯皿	天原C区	①8.9 ②2.1 受部径10.9	外面回転へう切り後ナズ。回転ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 1.5mm以下の赤褐色。赤色粒子を含む。1mm以下の白色粒子を含む。B: やや不具。C: 内面に赤褐色2.5YR6/2。	3/5	へう記号あり。
107	洗器類	杯皿	天原C区	①9.0 ②2.1 受部径11.1	外面へう切り後ナズ。回転ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 縦線な長石。白色粒子を含む。B: やや不具。C: 内面裏褐色2.5YR6/2。	□線部 3/5	赤みあり。 へう記号あり。
108	洗器類	杯皿	天原C区	①11.3 ②2.7 受部径13.4	外面回転へう切り。回転ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。1mm以下の長石を少量含む。B: 不具。C: 内面に赤褐色2.5YR6/4。	ほぼ完全	へう記号あり。
109	洗器類	杯皿	天原C区	①10.3 ②2.2 受部径12.7	外面環状のため磨擦不明(回転へう切り後ナズ)。回転ナズ。内面回転ナズ、ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。縦線な長石を含む。B: やや不具。C: 内外両裏2.5YR7/2。	□線部 3/5	へう記号あり。
110	洗器類	杯皿	天原C区	①10.4 ②2.5×α 受部径①2.7	外面回転ヘラケツリ。回転ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後横ナズ。	A: 2mm以下の長石を少量含む。1mm以下の白色粒子を少量含む。縦線な長石を含む。B: やや不具。C: 内外両裏2.5YR7/2。	□線部 1/3	へう記号あり。
111	洗器類	杯皿	天原C区	①10.8 ②3.0 受部径13.0	外面回転へう切り後ナズ。回転ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内外両裏2.5YR6/2。	完全	赤みあり。 へう記号あり。
112	洗器類	杯皿	天原C区	①10.8 ②3.9 つまみ径14 受部径12.6	外面環状のため磨擦不明、回転ヘラケツリ。回転ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。B: やや不具。C: 内裏2.5Y7/2、内面裏2.5Y5/1。	ほぼ完全	赤みあり。 へう記号あり。 構成内野あり。
113	洗器類	杯皿	天原C区	①11.8 ②3.5 つまみ径21 受部径14.2	外面回転ナズ。回転ヘラケツリ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を少量含む。1mm以下の長石を少量含む。B: 不具。C: 内外両裏10YR7/6。	1/2	へう記号あり。
114	洗器類	杯皿	天原C区	①12.2 ②3.2 つまみ径21 受部径14.5	外面回転ナズ。回転ヘラケツリ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。1mm以下の長石を少量含む。B: やや不具。C: 外裏裏2.5YR6/2、内面裏2.5Y6/2。	完全	赤みあり。 構成内野あり。
115	洗器類	杯皿	天原C区	①12.3 ②3.5 つまみ径22 受部径14.2	外面回転ナズ。回転ヘラケツリ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外両裏5Y5/1。	ほぼ完全	へう記号あり。
116	洗器類	杯皿	天原C区	①12.4 ②2.8 つまみ径25 受部径14.6	外面回転ナズ。回転ヘラケツリ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外両裏5Y5/1。	完全	赤みあり。 構成内野あり。
117	洗器類	杯皿	天原C区	①10.6 ②2.8×α	外面回転ヘラケツリ後ナズ。回転ナズ。内面回転ナズ、ナズ。	A: 2mm以下の赤褐色を少量含む。2mm以下の白色粒子を含む。縦線な金雲母を含む。B: やや不具。C: 外裏10Y6/1、内面すりへう2.50Y7/1。	□線部 1/4	へう記号あり。
118	洗器類	杯皿	天原C区	①10.6 ②3.4 ③6.2	外面回転ナズ。回転ヘラケツリ後ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 外裏赤褐色2.5YR6/2。	1/4	へう記号あり。
119	洗器類	杯皿	天原C区	①10.6 ②3.2 ③6.4	外面回転ナズ。回転ヘラケツリ後ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外両裏5YR6/1。	1/2	へう記号あり。
120	洗器類	杯皿	天原C区	①11.2 ②3.9 ③8.0	外面回転ナズ。回転ヘラケツリ後ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。縦線な長石を含む。B: 不具。C: 内外両裏2.5Y7/2。	1/2	へう記号あり。

通物 番号	種類	部材	出土地点	法量(cm・g) (口径 空部高 口部径 内径 自重 透体長)	形態・技法の特徴	A：粘土 B：焼成 C：色別	残存率	備考
121	須恵部	FG.0	兵庫県	①12.1 ②4.1 ③7.2	外面回転ナブ、回転ヘラ切り痕ナブ。内面回転ナブ、回転ナブ痕ナブ。	A：1.5mm以下の白色粘土を食む。1mm以下の黄色粘土を含む。縦線な金帯帯を含む。B：やや不貞。C：内径白5Y7/2。	口部部 1/3 底面 完全	へう記号あり。
122	須恵部	FG.0	兵庫県	①12.9 ②4.0 ③2.8	外面回転ナブ、回転ヘラ切り痕ナブ。内面回転ナブ、回転ナブ痕ナブ。	A：2mm以下の白色粘土を少量含む。2mm以下の石灰を少量含む。縦線な長石を含む。B：やや不貞。C：内径白5Y7/2。	口部完全	へう記号あり。
123	須恵部	FG.0	兵庫県	①12.9 ②3.9 ③9.7	外面回転ナブ、へうクリ痕ナブ。回転ヘラ切り痕未調整。内面回転ナブ。	A：2mm以下の石灰を含む。1mm以下の白色粘土を含む。縦線な金帯帯を含む。B：やや不貞。C：外黄沢2.5Y5/1。内径白黄緑10Y7/2。	口部部 3/4	へう記号あり。
124	須恵部	群B	兵庫県	②2.6 a	外面回転ナブ、回転ヘラクリナブ。回転ヘラ切り痕ナブ。内面回転ナブ、回転ナブ痕ナブ。	A：1mm以下の白色粘土、長石を含む。B：不貞。C：外黄沢2.5Y7/2。内径黄緑10Y9/2。	小片	群B。
125	須恵部	群B.0	兵庫県	①11.0 ②4.5 ③7.0	外面回転ナブ、回転ヘラ切り痕ナブ。内面厚縁のため調整不明(回転ナブ痕)	A：1mm以下の白色粘土を含む。B：良好。C：内径白4。内径黄沢2.5Y6/2。	1/4	へう記号あり。 内面に群Bあり。
126	須恵部	群B.0	兵庫県	①12.2 ②4.4~4.5 ③4.1	外面回転ナブ、回転ヘラクリナブ。内面回転ナブ、ナブ。	A：1mm以下の白色粘土、石灰を少量含む。縦線な金帯帯を含む。B：良好。C：内径白7.5Y6/1。	口部部 3/5 底面 完全	群Bあり。 へう記号あり。
127	須恵部	群B.0	兵庫県	①13.0 ②4.1 ③9.0	外面回転ナブ、回転ヘラ切り痕ナブ。内面回転ナブ、厚縁のため調整不明(回転ナブ痕ナブ)	A：2mm以下の白色粘土、石灰を含む。B：良好。C：内径白N2/。	口部部 1/4 底面 完全	群Bあり。 へう記号あり。 内面に群Bあり。
128	須恵部	群B.0	兵庫県	②2.8 a ③8.6	外面回転ナブ、回転ヘラ切り痕ナブ。内面回転ナブ、回転ナブ痕ナブ。	A：2mm以下の白色粘土を含む。縦線な長石を含む。B：不貞。C：内径白黄沢2.5Y6/2。内径黄緑10Y9/2。	底面 完全	へう記号あり。
129	須恵部	群B.0	兵庫県	②3.9 a ③9.0	外面回転ナブ、回転ヘラ切り痕ナブ。内面回転ナブ、回転ナブ痕ナブ。	A：2mm以下の白色粘土を含む。B：良好。C：内径白6/。	底面 1/2	へう記号あり。
130	須恵部	群B	兵庫県	①9.8 ②7.8 群B.0(7.1)	外面回転ナブ、沈線、カキメ。内面回転ナブ、回転ナブ痕ナブ。	A：1mm以下の白色粘土を少量含む。長石を含む。B：良好。C：外径白4。内径白N2/。	1/4	群Bあり。
131	須恵部	群B	兵庫県	②3.2 a 群B.0(6.7)	外面厚縁のため調整不明(回転ナブ痕)。シボリ痕。	A：1mm以下の白色粘土を含む。B：不貞。C：外径白4。内径白2.5Y7/2。	口部 完全	へう記号あり。
132	須恵部	群B	兵庫県	①8.5 ②2.3 群B.0(9.9)	外面へう切り痕辛付もへうクリナブ。内面回転ナブ、回転ナブ痕ナブ。	A：2mm以下の石灰を含む。1mm以下の白色粘土を少量含む。縦線な長石を少量含む。B：やや不貞。C：外径白5Y7/1。内径黄沢2.5Y7/2。	口部完全	群Bあり。 へう記号あり。 内面に群B痕跡あり。
133	須恵部	群B	兵庫県	②4.5 a	外面回転ナブ、カキメ、沈線文。内面回転ナブ、カキメ。	A：2mm以下の白色粘土を含む。B：良好。C：外径白5Y7/1。内径白N2/。	小片	
134	須恵部	群B	兵庫県	②12.3 a	外面回転ナブ、沈線、沈線文。カキメ。内面回転ナブ。	A：1.5mm以下の白色粘土、黄色粘土を含む。B：良好。C：外径5Y6/1。内径10Y6/1。	小片	
135	須恵部	不明	兵庫県	径7.3 幅1 厚1.3	外面板状工具のナブ。内面ナブ痕ナブ。	A：1mm以下の石灰を含む。1mm以下の白色粘土を含む。B：良好。C：外径5Y5/1。内径黄沢2.5Y6/2。	小片	へう記号あり。 群B1方あり。
136	須恵部	群B.0	兵庫県	①10.6 ②2.6 受部厚12.8	外面へう切り痕ナブ。回転ナブ。内面回転ナブ、回転ナブ痕ナブ。	A：2mm以下の白色粘土を少量含む。1mm以下の石灰を少量含む。B：良好。C：外径5Y5/2。内径黄沢2.5Y6/2。	3/4	へう記号あり。 群B1方あり。
137	須恵部	群B.0	兵庫県	①11.2 ②2.2 受部厚13.4	外面回転ヘラクリナブ。回転ナブ。内面回転ナブ。回転ナブ痕ナブ。	A：2mm以下の白色粘土を含む。1mm以下の長石を少量含む。B：不貞。C：外黄沢2.5Y6/1。内径白N2/。	底面	群Bあり。 へう記号あり。
138	須恵部	群B.0	兵庫県	①10.0 ②4.0 つまみ厚1.6 受部厚(12.7)	外面回転ナブ、回転ヘラクリナブ。内面回転ナブ、厚縁のため調整不明。	A：2mm以下の白色粘土を少量含む。1mm以下の石灰を少量含む。B：良好。C：外径黄沢2.5Y5/1。内径黄緑10Y9/2。	1/3	
139	須恵部	群B.0	兵庫県	①11.9 ②3.3 つまみ厚2.4 受部厚14.0	外面回転ナブ、回転ヘラクリナブ。内面回転ナブ、回転ナブ痕ナブ。	A：2mm以下の白色粘土を少量含む。B：良好。C：外黄沢2.5Y6/1。内径黄沢2.5Y4/1。	底面	
140	須恵部	群B.0	兵庫県	①12.0 ②3.4 つまみ厚2.7 受部厚14.6	外面回転ナブ、回転ヘラクリナブ。ナブ。内面回転ナブ、回転ナブ痕ナブ。	A：1mm以下の白色粘土を少量含む。1mm以下の長石を少量含む。B：やや不貞。C：内径黄沢2.5Y7/2。	4/5	

建物 番号	種類	用途	出土地点	面積(m <sup>2</sup> ・g) ①:坪 ②:坪数 ③:坪数 換算自治体標準坪数	形態・技法の特徴	A:土壁 B:煉瓦 C:色紙	保存率	備考
141	洋風邸	洋館	兵庫県 兵庫県	①1327 ②4.9 つまみ径2.5 壁厚径15.6	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A:2mm以下の白色粒子を少量含む。1mm以下の石灰を少量含む。B:やや不良。C:内側に色紙25Y6/Z。	劣形	等みあり。
142	洋風邸	洋館	兵庫県 兵庫県	①134 ②4.5 つまみ径2.8 壁厚径16.0	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A:2mm以下の白色粒子を含む。1mm以下の石灰を少量含む。B:やや不良。C:内側に色紙25Y6/4。	ほぼ劣形	
143	洋風邸	洋館	兵庫県 兵庫県	①9.6②1.1③(7.3)	外面回転ナズ、ナズ、回転ヘラケリ後ナズ、内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A:1mm以下の白色粒子を少量含む。B:良好。C:内側に色紙25Y5/L。内側に色紙10Y85/L。	1/4	
144	洋風邸	洋館	兵庫県 兵庫県	①100②3.8③(6.6)	外面回転ナズ、回転ヘラケリ後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A:1mm以下の白色粒子を少量含む。B:不良。C:内側に色紙25Y6/Z。内側に色紙25Y7/L。	1/4	
145	洋風邸	洋館	兵庫県 兵庫県	①149 ②3.4	外面回転ナズ、ヘラケリ後ナズ、内面回転ナズ。	A:2mm以下の白色粒子を少量含む。B:良好。C:内側に色紙10Y87/L。	1/4	ヘラ記号あり。
146	洋風邸	洋館	兵庫県 兵庫県	①132②4.7③(9.3)	外面壁葺のための調整不調。回転ヘラケズリ、回転ナズ、内面壁葺のための調整不調。	A:1mm以下の白色粒子を少量含む。B:不良。C:内側に色紙10Y87/L。	①:壁面 1/3-1:壁面	壁面に煉瓦積層壁1カ所あり
147	洋風邸	洋館	兵庫県 兵庫県	①132 ②4.5③(9.3)	外面回転ナズ、回転ヘラケリ後回転ナズ、回転ヘラケリ後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A:3mm以下の白色粒子を少量含む。B:良好。C:内側に色紙10Y86/L。内側に色紙5Y6/L。	劣形	ヘラ記号あり。
148	洋風邸	洋館	兵庫県 兵庫県	①148②4.5③(9.4)	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ、内面回転ナズ。	A:1mm以下の白色粒子を少量含む。煉瓦状石灰石を含む。B:不良。C:外側に色紙25Y66/4。内側に色紙5Y85/4。	①:壁面 1/2	
149	洋風邸	洋館	兵庫県 兵庫県	②4.9 a	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ、内面回転ナズ。	A:1mm以下の白色粒子を少量含む。B:良好。C:外側に色紙10Y73/8/L。	劣形	
150	洋風邸	洋館	兵庫県 兵庫県	②7.6 a	外面回転ナズ、沈線、波線文、内面回転ナズ。	A:2mm以下の白色粒子を少量含む。B:良好。C:外側に色紙10Y87/L。	劣形	
151	洋風邸	洋館	兵庫県 兵庫県	②6.3 a	外面回転ナズ、沈線、波線文、文様へらけり後ナズ、内面回転ナズ。	A:1mm以下の白色粒子を少量含む。B:やや不良。C:外側に色紙25Y7/Z。	劣形	
152	洋風邸	洋館	兵庫県 兵庫県	②7.2 a	外面回転ナズ、沈線、波線文、菱格子タタキ、内面回転ナズ、ナズ。	A:2mm以下の白色粒子を少量含む。B:良好。C:内側に色紙10Y84/L。	劣形	
153	洋風邸	洋館	1号実跡兵庫県A-6型ヘルト	①11.9 ②2.8 a 壁厚径14.6	外面へらけり後未調整、葺葺のための調整不調、内面壁葺のための調整不調。	A:1mm以下の白色粒子を少量含む。1mm以下の石灰を含む。B:不良(内側に二次粉砕石灰)。C:内側に色紙5Y8/Z。	4/5	壁厚1カ所あり。
154	洋風邸	洋館	1号実跡兵庫県下層	①11.6②2.1 a 壁厚径14.0	内面壁葺のための調整不調。	A:1mm以下の白色粒子を少量含む。B:不良。C:外側に色紙10Y88/4。内側に色紙25Y7/Z。	1/3	
155	洋風邸	洋館	1号実跡兵庫県下層	①1212②2.1 a 壁厚径14.4	外面へらけり未調整、葺葺のための調整不調、内面壁葺のための調整不調。	A:1mm以下の白色粒子を少量含む。B:不良。C:外側に色紙10Y88/6。内側に色紙25Y7/Z。	1/4	ヘラ記号あり。
156	洋風邸	洋館	1号実跡兵庫県B-6型ヘルト	①11.2 ②3.3③(7.2)	外面回転ナズ、回転ヘラケリ後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A:2mm以下の白色粒子を少量含む。1mm以下の石灰を少量含む。B:やや不良。C:内側に色紙10Y6/L。	1/3	ヘラ記号あり。
157	洋風邸	洋館	1号実跡兵庫県下層	①12②3.4③(8.8)	内面壁葺のための調整不調、ヘラケリ後未調整、葺葺のための調整不調。	A:3mm以下の石灰を少量含む。2mm以下の白色粒子を少量含む。B:煉瓦状白色粒子を少量含む。B:不良。C:外側に色紙10Y87/L。内側に色紙10Y87/L。	1/2	ヘラ記号あり。
158	洋風邸	洋館	1号実跡兵庫県(上層)	①144 ②4.2③(9.6)	外面回転ナズ、回転ヘラケリ後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A:2mm以下の白色粒子を含む。B:やや不良。C:外側に色紙10Y86/3。内側に色紙25Y86/4。	1/3	
159	洋風邸	洋館	1号実跡兵庫県(上層)	①35.4 ②4.2-4.5③11.1	外面回転ナズ、ヘラケリ後未調整、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A:2mm以下の白色粒子を含む。煉瓦状石灰石を少量含む。B:やや不良。C:外側に色紙25Y6/Z。内側に色紙25Y7/Z。	1/2	
160	洋風邸	洋館	1号実跡兵庫県(上層)	①13.6②5.3 a	外面回転ナズ、回転ヘラケリ後未調整、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A:1mm以下の白色粒子を少量含む。B:やや不良。C:内側に色紙25Y7/L。	2/5	裏面調整あり。
161	洋風邸	洋館	1号実跡兵庫県A-6型ヘルト	①35.4 ②6.1③11.3	外面回転ナズ、ヘラケリ後未調整、内面回転ナズ、ナズ。	A:1mm以下の白色粒子を含む。B:煉瓦状石灰石を少量含む。B:やや不良。C:内側に色紙10Y87/L。	①:壁面 1/3 劣形 劣形	

通称 番号	種類	部材	出土地点	質量[cm・g] (①②③ ④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿)	形態・形状の特徴	A: 出土 B: 検定 C: 色別	残存率	備考
162	須恵器	高杯	1号東瀬川中継所(上層)	②8.0+a 製厚(11.9)	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ、シボ分厚、内面回転ナズ、回転ナズ像ナズ。	A: 2mm以下白色粒子を少量含む。B: 中や不貞。C: 内外面白2.5V7/L。	2/3	
163	須恵器	鉢	1号東瀬川C-D間ベルト	①0.6②25.2	外面回転ナズ、手持ちヘラケズリ、回転ヘラ切り後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外面白。	1/3	要みあり。
164	須恵器	楕形	1号東瀬川中継所(上層)	②16.8+a	外面ナズ、内面磨キヤセナズ。	A: 数顆な長石を含む。B: 不貞。C: 内面に白い磨傷1①0V7/L。	小片	
165	須恵器	楕	粘土	②4.2+a	外面回転ナズ、沈線、内面回転ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外面白。	小片	
166	須恵器	楕	粘土	長6.0 幅11.0 厚0.8	外面ヘラケ、内面同心円文当量で真流。	A: 1mm以下の白色粒子、石炭を少量含む。磨傷な長石を含む。B: 中や不貞。C: 内面に白い磨傷1.5VR7/L、内底磨傷10V8/L。	小片	穿孔1カ所あり。
167	須恵器	杯蓋	2号東瀬川出土物21	①0.2②22.3+a 受厚(15.2)	外面磨滅のため調整不明(回転ヘラケズリナカ、回転ナズナカ)、内面磨滅のため調整不明(回転ナズナカ)。	A: 2mm以下の白色粒子、石炭を含む。磨傷な長石、赤色粒子を含む。B: 不貞。C: 内外面白5V8/L。	1/6	
168	須恵器	杯蓋	2号東瀬川出土物2	①13.4 ②2.7 受厚15.6	外面回転ヘラケズリ、回転ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ像ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を少量含む。1mm以下の白色粒子を少量含む。磨傷な長石を含む。B: 不貞。C: 内外面白5V8/L。	ほぼ完形	つまみなし。
169	須恵器	杯蓋	2号東瀬川出土物14	①0.4 ②2.8+a 受厚(15.8)	外面回転ヘラケズリ、回転ナズ、内面回転ナズ、磨滅のため調整不明。	A: 2mm以下の白色、白色粒子を含む。磨傷な長石を含む。B: 不貞。C: 外に白い磨傷10V7/L、内底5V7/L。	1/3	
170	須恵器	杯蓋	2号東瀬川出土物8	①0.2③2.5 つまみ②3.2 受厚(15.0)	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後回転ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ像ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。B: 良好。C: 外外面白、内外面白。	1/6	要みあり。
171	須恵器	杯蓋	2号東瀬川出土物1	①0.2 ②4.0 つまみ②2.6 受厚(14.4)	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ、磨滅のため調整不明(回転ナズナカ)、内面磨滅のため調整不明(回転ナズナカ)、回転ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を少量含む。2mm以下の白色粒子を少量含む。B: 1不貞。C: 内外面白。7.5VR7/L。	2/3	要みあり。
172	須恵器	杯蓋	2号東瀬川出土物55+2号東瀬川出土物56	①0.2②23.2+a 受厚(15.0)	外面回転ヘラケズリ、回転ナズ、内面回転ナズ。	A: 3mm以下の白色、白色粒子を含む。B: やや不貞。C: 内外面白ー7.5V8/L、内底5V8/L。	1/3	つまみ新製あり。
173	須恵器	杯蓋	2号東瀬川出土物41	①13.1 ②3.3 つまみ②3.3 受厚15.2	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ、内面回転ナズ、磨滅のため調整不明。	A: 2mmの白色粒子を含む。B: 不貞。C: 外に白い磨傷1①0V7/L。	1/2	
174	須恵器	杯蓋	2号東瀬川出土物60	①0.2②23.0+a 受厚(15.2)	外面磨滅のため調整不明(回転ヘラケズリナカ、回転ナズナカ)、内面磨滅のため調整不明(回転ナズナカ)、ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子、石炭を含む。B: 不貞。C: 内外面白2.5V8/L。	1/4	
175	須恵器	杯蓋	2号東瀬川出土物19	①15.5 ②4.1 つまみ②2.6 受厚15.8	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ、内面回転ナズ、回転ナズ像ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子、石炭を含む。磨傷な長石を含む。B: 不貞。C: 外底5V8/L、内面に白い磨傷5V8/L。	2/3	
176	須恵器	杯蓋	2号東瀬川出土物3	①0.3②23.3+a 受厚(15.6)	外面回転ヘラケズリ、回転ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ像ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。1mm以下の白色粒子を少量含む。磨傷な長石を含む。B: 不貞。C: 内外面白5V7/L。	1/2	
177	須恵器	杯蓋	2号東瀬川出土物59	①0.4②4.1 つまみ②2.3 受厚(16.0)	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ、内面回転ナズ、回転ナズ像ナズ。	A: 2mm以下の白色、白色粒子を含む。B: 不貞。C: 内外面白5V8/L。	1/4	
178	須恵器	杯蓋	2号東瀬川出土物17	①13.4 ②4.1 つまみ②2.6 受厚16.0	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ、内面回転ナズ、回転ナズ像ナズ。	A: 2mm以下の白色、白色粒子を含む。磨傷な長石を含む。B: 不貞。C: 外底2.5V8/L、内底2.5V8/L。	2/3	
179	須恵器	杯蓋	2号東瀬川出土物4	①0.1②23.7 つまみ②2.4 受厚(15.4)	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ、内面回転ナズ、回転ナズ像ナズ。	A: 5mm以下の白色粒子を含む。1mm以下の白色粒子を少量含む。磨傷な長石を含む。B: 不貞。C: 内外面白5V8/L。	1/2	
180	須恵器	杯蓋	2号東瀬川出土物10	①15.5 ②3.3+a 受厚15.7	外面磨滅のため調整不明(回転ヘラケズリナカ、回転ナズナカ)、内面磨滅のため調整不明(回転ナズナカ、回転ナズ像ナズナカ)。	A: 3mm以下の白色粒子を少量含む。2mm以下の白色粒子を少量含む。B: 1不貞。C: 内外面白5V7/L。	ほぼ完形	要みあり。 つまみ新製あり。
181	須恵器	杯蓋	2号東瀬川出土物7	①0.1②4.0 つまみ②2.8 受厚(15.7)	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後回転ナズ、内面回転ナズ、磨滅のため調整不明。	A: 3mm以下の白色粒子を少量含む。1mm以下の白色粒子を含む。磨傷な長石を含む。B: 不貞。C: 外底磨傷5V7/L、内底磨傷5V7/L。	1/4	要みあり。

建物 番号	種類	階数	出土地点	品質 (cm・g) [X]が空部率、[Y]が透 気係数、[Z]が透湿 係数、[W]が断熱大抵	形態・技法の特徴	A: 鉄土 B: 鉄骨 C: 鉄骨 鉄骨	備考	備考
182	洋風	洋風	2号東洋風出土地46	[Y]1.3[Q]2.9+a 受容係(15.4)	外面回転ヘラズリ、回転ナ ズリ、内面回転ナズリ、厚紙のた め調整不明。	A: 3mm以下の石炭を少量含む、 B: 不具。C: 内外壁2.5YR6/6。	1/4	
183	洋風	洋風	2号東洋風出土地48	[Z]2.0+a つぎ4部2.5	外面回転ナズリ、回転ヘラズ リ、内面ナズリ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む、 B: やや不具。C: 内外壁 5YR6/6。	1/2	
184	洋風	洋風	2号東洋風出土地48	[Z]2.0+a つぎ4部2.7	外面回転ナズリ、回転ヘラズ リ、内面回転ナズリ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む、 B: 不具。C: 内外壁2.5Y7/3、 内い黄褐色10YR7/4。	天井部のみ	
185	洋風	洋風	2号東洋風出土地47	[Y]1.1[Q]2.4+a 受容係(15.2)	外面回転ヘラズリ、回転ナ ズリ、内面回転ナズリ。	A: 2mm以下の白色粒子、石炭を 含む。B: やや不具。C: 内外 1.5Y6/1、内1.5Y5/1。	1/6	
186	洋風	洋風	2号東洋風出土地12	[Y]1.2[Q]1.9+a 受容係(15.4)	内外面厚紙のため調整不明。	A: 2mm以下の白色粒子、石炭、 赤色粒子を含む。B: 不具。C: 内外面黄褐色1.5YR7/4。	1/4	
187	洋風	洋風	2号東洋風出土地49	[Y]1.4[Q]2.7+a 受容係(16.4)	内外面厚紙のため調整不明。	A: 2mm以下の白色粒子を少量 含む。B: 不具。C: 内外い黄 褐色10YR7/4。	1/4	
188	洋風	洋風	2号東洋風出土地48	[Y]1.4[Q]2.2+a 受容係(16.4)	内外面厚紙のため調整不明。	A: 2mm以下の白色粒子を含む、 B: 不具。C: 内外い黄褐色 10YR7/4。	1/6	
189	洋風	洋風	2号東洋風出土地35	[Y]1.4[Q]2.6+a 受容係(16.6)	外面回転ヘラズリ、回転ナ ズリ、内面回転ナズリ、回転ナ ズリ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む、 1mm以下の赤色粒子を少量 含む。B: やや不具。C: 内い 褐色5YR6/4、内黄褐色10YR8/4。	1/2	
190	洋風	洋風	2号東洋風出土地53	[Y]1.3[Q]1.9+a 受容係(16.6)	内外面厚紙のため調整不明 回転ナズリ。	A: 1mm以下の白色粒子、石炭を 含む。B: 不具。C: 内外い黄 褐色10YR7/3、内い黄褐 色10YR7/4。	1/4	
191	洋風	洋風	2号東洋風出土地26	[Y]1.4[Q]2.8+a 受容係(17.2)	内外面厚紙のため調整不明 回転ナズリ。	A: 2mm以下の石炭、白色粒子 を少量含む。B: 不具。C: 内外 黄褐色5YR6/4、内褐色10Y7/4。	1/6	
192	洋風	洋風	2号東洋風出土地52	[Y]1.4[Q]2.2+a 受容係(17.4)	内外面厚紙のため調整不明、内 面回転ナズリ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む、 暗褐色を含む。B: 不具。C: 内外壁5YR7/4、内い黄褐色 10YR7/4。	1/4	
193	洋風	洋風	2号東洋風出土地38	[Y]1.8[Q]1.9+a 受容係(17.6)	内外面回転ナズリ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む、 2mm以下の石炭を少量含む。B: やや不具。C: 内外い黄褐色 10YR7/4。	1/4	
194	洋風	洋風	2号東洋風出土地16	[Y]1.3[Q]2.2+a 受容係(18.0)	外面ヘラズリ、厚紙のため 調整不明、内面厚紙のため調 整不明。	A: 2mm以下の白色粒子、石炭を 含む。B: 不具。C: 内外壁 1.5YR6/3、内壁5YR7/4。	1/2	
195	洋風	洋風	2号東洋風出土地22	[Y]1.3[Q]4.5~4.8[Q]6	外面回転ナズリ、回転ヘラズ リ、内面回転ナズリ、厚紙のた め調整ナズリ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む、 暗褐色、赤色粒子を含む。 B: 不具。C: 内外壁2.5YR6/6。	ほぼ完成	内面漆塗りに黒線あり。
196	洋風	洋風	2号東洋風出土地5	[Z]2.3+a [Q]9.0	外面回転ナズリ、回転ヘラズ リ後ナズリ、内面回転ナズリ、 回転ナズリ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量 含む、2mm以下の石炭を少量 含む、暗褐色を少量含む。B: 不具。C: 内外壁5YR7/4。	一部 完成	内面漆塗りに黒線あり。
197	洋風	洋風	2号東洋風出土地13	[Z]1.6+a [Q]9.0	外面厚紙のため調整不明 回転ナズリ、回転ヘラズリ、内 面厚紙のため調整不明。	A: 1mm以下の白色粒子、石炭を 含む。B: 不具。C: 内外い黄 褐色10YR7/4、内黄褐色2.5Y7/3。	1/3	
198	洋風	洋風	2号東洋風出土地44	[Z]1.8+a [Q]10.2	外面回転ナズリ、回転ヘラズ リ後ナズリ、内面厚紙のため調 整不明。	A: 1mm以下の白色粒子を含む、 B: 不具。C: 内外白 2.5Y8/2。	1/4	
199	洋風	洋風	2号東洋風出土地9	[Y]1.4[Q]2.3+a	外面回転ナズリ、回転ヘラズ リ、内面厚紙のため調整不 明。	A: 4mm以下の白色粒子を少量 含む、2mm以下の石炭を含む、 暗褐色を含む。B: 不具。C: 内外壁5YR7/4、内壁2.5YR7/4。	1/6	黒点欠損。
200	洋風	洋風	2号東洋風出土地33	[Y]1.4[Q]2.7+a	内外面厚紙のため調整不明 回転ナズリ。	A: 2mm以下の石炭を含む、 1mm以下の白色粒子を含む。B: 不具。C: 内外い黄褐色 10YR7/4。	1/6	
201	洋風	洋風	2号東洋風出土地39	[Y]1.4[Q]2.3+a	内外面回転ナズリ。	A: 1mm以下の白色粒子、石炭 を少量含む。B: 不具。C: 内外 1.5YR7/4、内黄褐色10YR7/4。	1/4	
202	洋風	洋風	2号東洋風出土地20	[Z]3.6+a	内外面厚紙のため調整不明 回転ナズリ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む、 B: 不具。C: 内外い黄褐色 10YR7/4。	小片	

遺物 番号	種類	部類	出土地点	法量[cm・g] ①C位 ②部表 ③部底 ④全面 ⑤継ぎ目	形態・技法の特徴	A：粘土 B：焼成 C：色染	残存率	備考
203	須恵焼	杯	2号東瀬田遺跡上小畑片群	①③0.0 ②3.6+a	外面摩滅のため調整不明(回転ナズカ、回転ヘラケズリ)か、内面摩滅のため調整不明(回転ナズカ)。	A：2mm以下の白色粒子、石灰を多量含む。B：不具。C：内径⑤977/丸。	1/4	要みあり。
204	須恵焼	杯	2号東瀬田遺跡土俵54	①④.2 ②3.6+a	内外面摩滅のため調整不明(回転ナズカ)。	A：1mm以下の白色粒子、石灰を含む。B：不具。C：内径⑤2572。	1/4	
205	須恵焼	杯	2号東瀬田遺跡土俵40	①④.0 ②3.4+a	内外面回転ナズ。	A：2mm以下の白色粒子を含む。B：不具。C：内径⑤1077/丸。	1/8	
206	須恵焼	盃	2号東瀬田遺跡土俵18	②10.0-a	A：2mm以下の白色粒子、石灰を含む。B：やや不具。C：外径⑦5796/丸、内径⑤361/丸。	小片		外面に格子目タテあり。
207	須恵焼	杯皿	2号東瀬田体内出土	①⑩.9 ②3.6 つまみ径2.3 要量径15.0	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ。内面回転ナズ、摩滅のため調整不明。	A：2mm以下の石灰、白色粒子を少量含む。B：不具。C：内径⑤2579/丸。	ほぼ完形	要みあり。
208	須恵焼	杯皿	2号東瀬田体内出土	①⑩.7 ②3.7 つまみ径1.6 要量径15.0	外面摩滅のため調整不明。回転ヘラケズリ、回転ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：不具。C：外径②5796/丸、内径⑤361/丸。	ほぼ完形	
209	須恵焼	杯皿	2号東瀬田体内出土	①⑩.6 ②4.1 つまみ径3.2 要量径17.3	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不具。C：外径②5795/丸、内径⑤361/丸。	1/4	要みあり。
210	須恵焼	杯皿	2号東瀬田体内出土	①⑩.4 ②4.7-5.0 ③8.4	外面摩滅のため調整不明(回転ナズカ)、回転ナズ、へら切り痕ナズ。内面摩滅のため調整不明(回転ナズカ)。	A：3mm以下の白色粒子、石灰を含む。B：不具。C：外径⑤977/丸。	5/6	要みあり。
211	須恵焼	杯皿	2号東瀬田体内出土	①③.0 ②4.5 ③8.4	外面摩滅のため調整不明(回転ナズカ)、回転ナズ、回転ヘラケズリ。内面摩滅のため調整不明(回転ナズカ)。	A：2mm以下の白色粒子、石灰を含む。B：不具。C：内径⑤2577/丸、内径⑤2577/丸。	表面 完形 口縁部 1/4	
212	須恵焼	杯皿	2号東瀬田体内出土	①⑩.8 ②4.1-4.4 ③8.4	外面回転ナズ、へら切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：調整な白色粒子、石灰を少量含む。B：不具。C：外径⑤10792/丸、内径⑤1077/丸。	5/6	
213	須恵焼	杯皿	2号東瀬田体内出土	①④.4 ②4.7 ③10.3	外面摩滅のため調整不明(回転ナズカ)、回転ナズ、回転ヘラケズリ。内面摩滅のため調整不明(回転ナズカ)。	A：2mm以下の白色粒子を含む。調整な石灰を含む。B：不具。C：外径⑤10792/丸、内径⑤1077/丸。	1/4	要みあり。
214	須恵焼	杯皿	2号東瀬田体内出土	①④.0 ②4.4 ③10.0	内外面摩滅のため調整不明。	A：2mm以下の白色粒子、赤色粒子を含む。B：不具。C：内径⑤977/丸。	1/3	
215	須恵焼	杯皿	2号東瀬田出土部埋土中	②2.0-a ③(7.2)	外面回転ナズ、回転へら切り痕ナズ。内面回転ナズ、ナズ。	A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内径⑤976/丸、内径⑤976/丸。	1/4	
216	須恵焼	盃形	2号東瀬田体内出土	②7.7-a 要量径13.0	外面磨研工具による回転ナズ。回転ナズ。内面回転ナズ。	A：1mm以下の白色粒子、赤色粒子、石灰を含む。B：不具。C：外径②5797/丸、内径⑤977/丸。	表面 完形	
217	須恵焼	杯皿	3号東瀬田了戻体内下	②1.4-a つまみ径②.0	外面回転ナズ、摩滅のため調整不明(回転へら切り痕ナズカ)、内面ナズ。	A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：外径⑤976/丸、内径⑤976/丸。	1/4	
218	須恵焼	杯皿	3号東瀬田了戻体内下	①⑩.0 ②2.9-3.8 ③8.4	外面回転ナズ、回転へら切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：外径⑤976/丸、内径⑤976/丸。	4/5	要みあり。 外面に格子目あり。

表6 69地点出土遺物観察表

遺物 番号	種類	部類	出土地点	法量[cm・g] ①C位 ②部表 ③部底 ④全面 ⑤継ぎ目	形態・技法の特徴	A：粘土 B：焼成 C：色染	残存率	備考
219	須恵焼	杯皿	1号東瀬田の下の埋積土中	①⑩.4 ②1.7+a	外面回転ヘラケズリ、回転ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内径⑤976/丸。	1/4	
220	須恵焼	杯皿	1号東瀬田の下の埋積土中	①⑩.2 ②2.8+a	外面回転ヘラケズリ、回転ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内径⑤975/丸。	2/6	内面に格子目タテあり。
221	須恵焼	杯皿	1号東瀬田体内出土	②1.7-a ③(7.4)	外面ナズ。回転ヘラケズリ。内面ナズ。回転ナズ。	A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不具。C：内径⑤976/丸、内径⑤2575/丸。	1/4	



遺物 番号	種類	調査 出土地点	重量(cm・g) ①②③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳	形状・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色質	保存率	備考	
222	洪赤瓦	林森身	1号窯跡の下層焼土中	②37+a ③⑩0.0	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後回転ナズ。内面厚縁のため調整不揃、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下白色粒子を少量含む。B: やや不揃。C: 内外灰白5Y7/1。	1/4	
223	洪赤瓦	林森身	反露出土	①①5.① ②2.6 ③3.4④1.4	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。B: やや不揃。C: 内外灰白5.5Y7/1。	①線部 1/3～線部	
224	洪赤瓦	林森身	焼土・焼土中	①④4.② ②2.6+a	外面回転ヘラナズリ。回転ナズ。内面回転ナズ、ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。1mm以下の黒色を少量含む。B: やや不揃。C: 内外灰白5.5Y6/2。内面5.5Y6/1。	1/4	
225	洪赤瓦	林森身	焼土・焼土中	①①1.0 ②4.3+a	外面回転ナズ。ナズ。内面回転ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内外灰白5Y7/1。内灰NS。	1/8	表白剥離。
226	洪赤瓦	林森身	赤土かまき土し中出土	①④1.② ③3.2 ④3.4⑤1.1	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を少量含む。1mm以下の黒色を少量含む。B: 良好。C: 内外灰白5Y7/2。内面5Y6/1。	ほぼ定形	
227	洪赤瓦	林森身	赤土かまき土し中出土	①④2.② ②2+a	外面回転ヘラナズリ。回転ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の黒色粒子。白色粒子を少量含む。B: 不揃。C: 内外灰黄5.5Y7/2。	1/4	つまみ剥離あり。
228	洪赤瓦	林森身	赤土かまき土し中出土	②2.5+a ③⑨.0	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面厚縁のため調整不揃。	A: 1mm以下の黒色粒子を含む。1mm以下の白色粒子を少量含む。B: やや不揃。C: 内外灰黄5.5Y7/2。	表部 1/4	

表7 70地点1号窯跡出土遺物観察表

遺物 番号	種類	調査 出土地点	重量(cm・g) ①②③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳	形状・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色質	保存率	備考	
229	洪赤瓦	林森身	1号窯跡趾内赤土状ピット1	①①5.② ②1.5 ③3.6④2.0	外面回転ナズ、ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内外灰NS。	1/3	歪みあり。
230	洪赤瓦	林森身	1号窯跡家体内焼土4層	①②0.② ②1.9+a	内面厚縁のため調整不揃。回転ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。B: 不揃。C: 内外灰NS。5Y7/1。	1/8	
231	洪赤瓦	蓋	1号窯跡壁面土層赤土	①①8.0 ②1.8 ③④4.4	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内外灰NS。内灰NS。	1/8	
232	洪赤瓦	不明	1号窯跡内詰土一様(層位不明)	①3.5+a ②1.5+a ③0.8+a	内外回転ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内外灰NS。	小片	
233	洪赤瓦	林森身	1号窯跡戻土1区前段右側焼土層	①①3.② ②1.7 ③3.4④2.5	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子。黒色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内外灰NS。	2/3	歪みあり。 内外面に重ね焼き痕あり。
234	洪赤瓦	林森身	1号窯跡戻土1区前段右側焼土層	①①3.7 ②4.0 ③3.4④1.8	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰NS。内灰NS。	ほぼ定形	歪みあり。 内外面に層状に厚みあり。 つまみが中心からずれて凹行っている。
235	洪赤瓦	林森身	1号窯跡戻土1区前段右側焼土層	①①3.6 ②3.0 ③3.4④1.9	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後回転ナズ。回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子。黒色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内外灰NS。内灰NS。	2/3	歪みあり。 内外面に重ね焼き痕あり。
236	洪赤瓦	林森身	1号窯跡戻土1区前段右側黄色土層	①①1.2 ②3.4 ③3.4④1.7	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰NS。	ほぼ定形	歪みあり。 内外面に厚みあり。 内外面に重ね焼き痕あり。
237	洪赤瓦	林森身	1号窯跡戻土1区前段右側黄色土層	①①3.1 ②3.6 ③3.4④1.7	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子。黒色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰NS。	ほぼ定形	歪みあり。 別面に焼行付着あり。
238	洪赤瓦	林森身	1号窯跡戻土1区前段右側黄色土層	①①3.6 ②1.9 ③3.4④1.7	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子。黒色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰NS。	ほぼ定形	歪みあり。
239	洪赤瓦	林森身	1号窯跡戻土1区前段右側黄色土層	①①3.7 ②1.3 ③3.4④1.8	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰NS。	ほぼ定形	歪みあり。
240	洪赤瓦	林森身	1号窯跡戻土1区前段右側黄色土層	①①3.3 ②1.7 ③3.4④1.7	外面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。ナズオサエ。回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子。黒色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰NS。	ほぼ定形	歪みあり。

通物 番号	種類	部材	出土地点	法量(cm・g) (口付 空部高 口部径 底面直径 台巻大径)	形態・技法の特徴	A：出土 B：焼成 C：色別	残存率	備考
241	須恵部	杯蓋	1号塚原沢1区前期右明黄色土層	1143 22.4 つまみ11.8	外面回転ナズ、回転ヘソ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：10mm以下の白色粒子、黒色粒子も少量含む。B：良好。C：内径197/72、内径16/。	完好	蓋みあり。
242	須恵部	杯蓋	1号塚原沢1区前期右明黄色土層	1153 22.0 つまみ11.9	外面回転ナズ、回転ヘソ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：20mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内径197/72。	口部破 1/2	蓋みあり。 内面に黒い焼き痕あり。
243	須恵部	杯蓋	1号塚原沢右方落ち込み	1148 22.3 つまみ11.6	外面回転ナズ、回転ヘソ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：10mm以下の白色粒子、黒色粒子も少量含む。B：良好。C：内径197/72。	1/4	蓋みあり。
244	須恵部	杯蓋	1号塚原沢1区前期右明黄色土層	1154 22.4 つまみ11.9	外面回転ナズ、回転ヘソ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：10mm以下の白色粒子を含む。B：1不良。C：内径197/72。	ほぼ完好	つまみを中心からずれて 抜け行われている。
245	須恵部	杯蓋	1号塚原沢1区前期右明黄色土層	1148 22.0 つまみ11.7	外面回転ナズ、回転ヘソ切り痕工具によるナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：30mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内径196/。	ほぼ完好	内外面に黒い線状に 焼痕あり。 つまみを中心からずれて 抜け行われている。
246	須恵部	杯蓋	1号塚原沢1区前期右明黄色土層	1162 21.6 つまみ12.2	外面回転ナズ、回転ヘソ切り痕回転ナズ。回転ヘソ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：綺麗な白色粒子を含む。B：やや不良。C：内径197/72、内径197/72。	口部破 1/8	蓋みあり。 焼痕が散見あり。
247	須恵部	杯蓋	1号塚原沢1区前期右明黄色土層	1155 21.4 つまみ11.7	外面回転ナズ、回転ヘソ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：10mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内径194/、内径196/。	1/4	蓋みあり。
248	須恵部	杯蓋	1号塚原沢1区前期右明黄色土層	1170 24.5 つまみ11.7	外面回転ナズ、回転ヘソ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：20mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内径196/、内径195/。	完好	蓋みあり。 杯状の平面的な変形あり。
249	須恵部	杯蓋	1号塚原沢1区前期右明黄色土層	1167 23.8 つまみ11.9	外面回転ナズ、回転ヘソ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：40mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内径196/。	2/3	蓋みあり。
250	須恵部	杯蓋	1号塚原沢右方落ち込み	1198 21.5+a	外面回転ナズ、回転ヘソ切り痕ナズ。芝罘、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：10mm以下の白色粒子も少量含む。B：良好。C：内径196/、内径196/。	1/4	蓋みあり。
251	須恵部	杯蓋	1号塚原沢1区前期右明黄色土層	1194 21.7+a	外面回転ヘラズリ、ヘラズリ痕回転ナズ。回転ヘソ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：30mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内径197/、内径197/2、内径197/2。	1/4	蓋みあり。
252	須恵部	杯	1号塚原沢1区前期右明黄色土層	1130 23.4 39.4	外面回転ナズ、回転ヘソ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：30mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内径196/。	ほぼ完好	唇状に破れあり。
253	須恵部	杯	1号塚原沢1区前期右明黄色土層	1133 23.8 310.0	外面回転ナズ、回転ヘソ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：30mm以下の白色粒子も少量含む。B：良好。C：内径195/。	完好	蓋状に破れあり。 付着物あり。
254	須恵部	杯	1号塚原沢1区前期右明黄色土層	1133 24.1-42 39.5	外面回転ナズ、回転ヘソ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：30mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内径196/。	口部破 3/4 底部 完好	蓋みあり。
255	須恵部	杯	1号塚原沢1区前期右明黄色土層	1131 23.9-4.0 39.9	外面回転ナズ、回転ヘソ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：20mm以下の白色粒子も少量含む。B：良好。C：内径195/。	ほぼ完好	蓋みあり。
256	須恵部	杯	1号塚原沢1区前期右明黄色土層	1134 23.7 39.8	外面回転ナズ、回転ヘソ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：20mm以下の白色粒子も少量含む。B：良好。C：内径195/。	1/8	唇状に破れあり。
257	須恵部	杯	1号塚原沢1区前期右明黄色土層	1134 23.5-3.7 39.5	外面回転ナズ、回転ヘソ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：30mm以下の白色粒子も少量含む。B：良好。C：内径195/。	ほぼ完好	蓋みあり。
258	須恵部	杯	1号塚原沢1区前期右明黄色土層	1137 23.4-3.5 39.9	外面回転ナズ、回転ヘソ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：60mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内径196/。	ほぼ完好	蓋みあり。 唇状に破れあり。
259	須恵部	杯	1号塚原沢1区前期右明黄色土層	1132 23.3 39.4	外面回転ナズ、回転ヘソ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：30mm以下の白色粒子を含む。10mm以下の黒色粒子も少量含む。B：良好。C：内径195/。	ほぼ完好	蓋みあり。
260	須恵部	杯	1号塚原沢1区前期右明黄色土層	1126 24.1-4.2 36.2	外面回転ナズ、回転ヘソ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：10mm以下の白色粒子も少量含む。B：良好。C：内径196/、内径196/。	口部破 2/3	蓋みあり。
261	須恵部	杯	1号塚原沢右方斜面	1136 23.7 38.4	外面回転ナズ、ヘラズリ痕回転ナズ。回転ヘソ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：10mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内径196/、内径195/。	2/5	蓋面に圧痕あり。
262	須恵部	杯	1号塚原沢1区前期右明黄色土層	1136 23.9-4.0 38.3	外面回転ナズ、回転ヘソ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：10mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内径197/72、内径197/2。	ほぼ完好	内面に黒い焼き痕あり。
263	須恵部	杯	1号塚原沢1区前期右明黄色土層	1132 23.7-3.9 37.6	外面回転ナズ、回転ヘソ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：10mm以下の白色粒子、黒色粒子も少量含む。B：良好。C：内径196/、内径196/。	完好	焼痕が散見あり。
264	須恵部	杯	1号塚原沢1区前期右明黄色土層	1133 24.1-4.5 38.3	外面回転ナズ、回転ヘソ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：20mm以下の白色粒子も少量含む。綺麗な白色も少量含む。B：良好。C：内径196/。	完好	蓋みあり。 焼痕が散見あり。

建物 番号	様式	用途	出土地点	測量 (cm・g) (X)印 位置地 ①通径 ②透径 ③容積 ④重量	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色別	残存率	備考
265	溝倉庫	林倉庫	1号東溝沢1区1区前庭右側黄色土層	①13.4 ②4.2~4.5 ③8.9	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰NSV。	5/6	溝底圧痕あり。
266	溝倉庫	林倉庫	1号東溝沢1区1区前庭右側黄色土層	①13.9 ②4.4~4.5 ③8.3	外面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。回転へつ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。微細な炭粉を少量含む。B: やや不良。C: 内外灰NSV/L。	欠形	溝底圧痕あり。
267	溝倉庫	林倉庫	1号東溝沢1区1区前庭右側黄色土層	①13.8 ②3.9 ③8.3	外面回転ナズ。工具による回転ナズ跡跡の跡が認められ、へつ切り後ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。回転ナズ跡跡によるナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰M/L、内灰NSV。	ほぼ完成	釜みあり。 釜底に付着物あり。
268	溝倉庫	林倉庫	1号東溝沢1区1区前庭右側黄色土層	①14.6 ②3.7 ③8.2	外面回転ナズ。へつ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内外灰TSV/L。	1/4	
269	溝倉庫	林倉庫	1号東溝沢1区1区前庭右側黄色土層	①14.2 ②4.8 ③8.2	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。微細な炭粉を含む。B: 不良。C: 内外灰TSV/L、内灰NSV/L。	1/2	溝底圧痕あり。
270	溝倉庫	林倉庫	1号東溝沢1区1区前庭右側黄色土層	①15.4 ②5.6 ③9.0	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内外灰TSV/L、内灰NSV/L。	1/2	釜みあり。
271	溝倉庫	竪	1号東溝沢1区1区前庭右側黄色土層	①14.6 ②1.6 ③11.2	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内外灰NSV/L。	1/4	
272	溝倉庫	竪	1号東溝沢1区1区前庭右側黄色土層	①18.6 ②2.3 ③14.0	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ(L)。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: やや不良。C: 内外灰NSV/L。	6/5	
273	溝倉庫	竪	1号東溝沢1区1区前庭右側黄色土層	①19.2 ②1.6 ③16.2	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子。黒色粒子を含む。B: やや不良。C: 内外灰TSV/L。	1/4	
274	溝倉庫	溝井	1号東溝沢1区1区前庭右側黄色土層	①24.8 ②2.1+g	外面回転ナズ。へつ切り後回転ナズ。回転ナズ後ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子。黒色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰NSV、内灰NSV/L。	口縁部 1/12	釜みあり。
275	溝倉庫	長溝庫	1号東溝沢1区1区前庭右側黄色土層。1号東溝沢1区1区前庭右側黄色土層。1号東溝沢1区1区前庭右側黄色土層。1号東溝沢1区1区前庭右側黄色土層。	①32.0+g ①(11.3) 最大厚径②(8.4)	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ。内面回転ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を多量含む。B: 良好。C: 内外灰NSV/L、内灰NSV/L。	胴部~底面 1/4	外面に釜底あり。 外面に凹部跡の残存片あり。
276	溝倉庫	短溝庫	1号東溝沢1区1区前庭右側黄色土層	①15.4 ②18.3 ③11.9 最大厚径④(8.6)	外面回転ナズ。回転へつ切り後ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。方向ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰NSV。	口縁部 1/4 胴部 1/2 底面 ほぼ完成	
277	溝倉庫	穿土土器	1号東溝沢1区1区前庭右側黄色土層。1号東溝沢1区1区前庭右側黄色土層。1号東溝沢1区1区前庭右側黄色土層。1号東溝沢1区1区前庭右側黄色土層。	長4.7 幅8.0 厚0.9 穿孔径1.6	内外面摩擦のため調整不準。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 不良。C: 内外灰白TSV/L。		穿孔1箇所あり。
278	溝倉庫	林倉庫	1号東溝沢1区1区前庭右側黄色土層	①14.3 ②3.7 ③4.6 ④1.8	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: やや不良。C: 内外灰NSV/L。	欠形	つまみを中心からずれて磨けられている。
279	溝倉庫	林倉庫	1号東溝沢1区1区前庭右側黄色土層	①14.3 ②3.8 ③4.6 ④1.8	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰TSV/L、内灰NSV/L。	3/4	釜みあり。 内外面口縁部に残存あり。 外面に磨痕跡あり。
280	溝倉庫	林倉庫	1号東溝沢1区1区前庭右側黄色土層	①14.6 ②3.3 ③4.6 ④1.9	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰NSV/L。	欠形	釜みあり。 外面に磨痕跡あり。
281	溝倉庫	林倉庫	1号東溝沢1区1区前庭右側黄色土層	①14.7 ②2.7 ③4.6 ④1.8	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 4mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰NSV/L。	欠形	溝底圧痕あり。
282	溝倉庫	林倉庫	1号東溝沢1区1区前庭右側黄色土層	①15.1 ②2.6 ③4.6 ④1.9	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰NSV/L。	3/4	内外面口縁部に残存あり。
283	溝倉庫	林倉庫	1号東溝沢1区1区前庭右側黄色土層	①14.2 ②2.7 ③4.6 ④1.9	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰M/L、内灰TSV/L。	3/4	溝底圧痕あり。
284	溝倉庫	林倉庫	1号東溝沢1区1区前庭右側黄色土層	②2.4+g ③4.6 ④2.1	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 4mm以下の白色粒子を含む。1mm以下の黒色粒子を含む。B: やや不良。C: 内外灰TSV/L、内灰NSV/L。	天井部 欠形	
285	溝倉庫	林倉庫	1号東溝沢1区1区前庭右側黄色土層	①18.2 ②2.6 ③4.6 ④1.9	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 4mm以下の白色粒子を多量含む。B: やや不良。C: 内外灰TSV/L。	3/4	

透物 番号	種類	部材	出土地点	質量 (cm・g) (口径 空部高 口部径 底面直径 透物高さ)	形態・技法の特徴	A：粘土 B：焼成 C：色別	残存率	備考
286	透器部	杯蓋	1号東洋原土質	①18.5 ②3.0 つまみ径2.3	外面回転ナズ、回転ヘラツクリ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：1mm以下白色粒子、黒色粒子を含む。焼成不良を含む。 B：不良。C：内径1.0、内径10YR/2。	1/4	
287	透器部	杯蓋	1号東洋原土質	①22.4 3.4 つまみ径2.6	外面回転ナズ、回転ヘラツクリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：2mm以下の白色粒子を含む。 B：不良。C：外径5YR5/2、内径10YR/2。	1/4	
288	透器部	杯蓋	1号東洋原土1区前庭右側縁出 土層部	①15.7 ②1.6 つまみ径1.8	外面回転ナズ、回転ヘラツクリ後回転ナズ、回転ヘラツクリ後ナズ。内面回転ナズ、内面回転ナズ後ナズ。	A：3mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：内径1.0Y/1。	口縁部 1/8	否みあり。
289	透器部	杯蓋	1号東洋原土1区	①17.7 ②1.7 つまみ径2.1	外面回転ナズ、回転ヘラツクリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：2mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：外径5YR6/1。	ほぼ完全	否みあり。 焼成時期あり。
290	透器部	杯蓋	1号東洋原土2区屋中	①21.1 ②1.8 つまみ径1.9	外面回転ナズ、回転ヘラツクリ後回転ナズ、回転ヘラツクリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：外径7.5Y/1、内径7.5Y/1。	1/8	
291	透器部	杯蓋 × 杯蓋	1号東洋原土層出土	上：①15.0 ②1.4 つまみ径1.7 下：①14.9 ②1.4 つまみ径2.3	外面回転ナズ、回転ヘラツクリ後ナズ。	A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を少量含む。B：良好。C：外径5YR6/1、内径1。	ほぼ完全	内面に磨み跡あり。 2区の数が多い。
292	透器部	杯蓋 × 杯蓋	1号東洋原土12層部(水口) 14層部出土	上①21.7-a 下②2.0+a	外面回転ヘラツクリ後ナズ。回転ナズ。	A：1mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：外径5YR6/1。	1/3	同層部出土の黒い焼跡。(内面同士が合わさる。)
293	透器部	杯A	1号東洋原土質	①12.0 ②3.2 ③0.8	外面回転ナズ、回転ヘラツクリ後ナズ。内面回転ナズ、ナズ。	A：3mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内径5YR/1。	1/4	
294	透器部	杯B	1号東洋原土3区右側(土器層部上)	①12.0 ②3.4 ③0.9	外面回転ナズ、ヘラツクリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：外径5YR6/1、内径1。	ほぼ完全	
295	透器部	杯B	1号東洋原土3区下層出土土 土層	①13.1 ②3.4-3.5 ③0.8	外面回転ナズ、回転ヘラツクリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：3mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外径5YR6/1、内径10YR6/1。	1/8	否みあり。
296	透器部	杯B	1号東洋原土1区5号東洋原土 出土層(埋土)	①13.5 ②3.9-4.0 ③0.8	外面回転ナズ、回転ヘラツクリ後ナズ。	A：3mm以下の白色粒子を含む。1mm以下の黒石を含む。B：良好。C：内径5YR6/1。	完全	焼成時期あり。
297	透器部	杯B	1号東洋原土1区5号東洋原土 出土層(埋土)	①13.9 ②4.7-5.0 ③0.8	外面回転ナズ、回転ヘラツクリ後木調整。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：2mm以下の白色粒子を含む。1mm以下の黒石を含む。B：やや不良。C：外径5YR6/1、内径1.5Y/2。	口縁部 1/4 ほぼ完全	否みあり。 区層あり。
298	透器部	杯B	1号東洋原土3区右側(土器層部上)	①13.0 ②5.0 ③0.8	外面回転ナズ、ヘラツクリ後回転ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：3mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：外径5YR6/1。	1/3	
299	透器部	杯B	1号東洋原土1区5号東洋原土 出土層(埋土)	①13.9 ②4.5-4.6 ③0.8	外面回転ナズ、ヘラツクリ後回転ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内径5YR6/1。	ほぼ完全	
300	透器部	杯B	1号東洋原土1区5号東洋原土 出土層(埋土)	①14.3 ②3.9-4.6 ③0.8	外面回転ナズ、ヘラツクリ後ナズ。工具痕。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内径5YR6/1、内径7.5Y/2。	ほぼ完全	焼成時期あり。
301	透器部	杯B	1号東洋原土3区下層出土土 土層	①16.9 ②5.6 ③0.5	外面回転ナズ、回転ヘラツクリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：3mm以下の白色粒子。石灰を含む。B：良好。C：外径5YR6/1、内径3.5Y/1。	1/3 (底部 欠片)	否みあり。 一部区層あり。
302	透器部	杯B	1号東洋原土1区	①18.4 ②5.2 ③12.4	外面回転ナズ。適合付け後回転ナズ。回転ヘラツクリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：1mm以下の白色粒子を含む。B：不良。C：外径5YR6/2、内径5YR6/2。	1/4	否みあり。
303	透器部	皿	1号東洋原土1区5号東洋原土 出土層(埋土)	①17.2 ②2.7 ③1.8	外面回転ナズ、回転ヘラツクリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：2mm以下の白色粒子を含む。1mm以下の黒石を含む。B：やや不良。C：外径5YR6/1、内径5YR7/2。	完全	否みあり。 焼成時期あり。
304	透器部	皿	1号東洋原土1区	①18.3 ②2.4 ③13.2	外面回転ナズ、回転ヘラツクリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：3mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：外径5YR6/1、内径1.6。	1/4	否みあり。 部位区層あり。
305	透器部	台付皿	1号東洋原土層出土	①21.0 ②3.1 ③16.0	外面回転ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A：2mm以下の黒石を少量含む。1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内径5YR6/1。	1/6	
306	透器部	台付皿	1号東洋原土層出土	①23.6 ②3.0 ③17.0	外面回転ナズ、回転ヘラツクリ後回転ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：外径5YR6/1、内径5YR6/1。	1/6	内面に磨み跡あり。

遺物 番号	種類	遺種	出土地点	質量 (cm・g) ①X②Y③Z④底径 ⑤高さ⑥直径⑦長さ	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色別	残存率	備考
307	洪赤器	煮器	1号窯跡下灰濁表土層	①(14.8)②2.3+α	内外面回転ナデ。	A: 焼成白色粒子を含む。B: 不貞。C: 内灰白10YR6/1。内面に黄緑10YR7/2。	口縁部 1/12	
308	洪赤器	煮器	1号窯跡下灰濁表土層	①(15.0)②2.7+α	外面回転ヘラケズリ。回転ナデ。内面回転ナデ。	A: 焼成白色粒子を含む。B: やや不貞。C: 内灰白2.5Y6/1。内面に黄緑1.5YR5/1。	口縁部 1/年	釜みあり。
309	洪赤器	煮器	1号窯跡下灰濁表土層	①(17.2)②2.5+α	外面回転ヘラケズリ後回転ナデ。回転ナデ。内面回転ナデ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内灰白5Y6/1。内面に黄緑1.5YR5/1。	口縁部 1/年	
310	洪赤器	煎餅器	1号窯跡灰濁区①5号窯跡遺構出土片(土質上)	①29.4+α③9.3 最大断面径21.5	外面回転ナデ。回転ヘラケズリ後ナデ。ヘラケリ後回転ナデ。内面回転ナデ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。B: やや不貞。C: 内灰白。内面に黄緑10YR7/2。	下半部のみ	破片あり。 形状は不明。
311	洪赤器	煎餅器	1号窯跡灰濁区①6号窯跡遺構出土片(土質上)	①(13.2)②8.3+α	外面回転ナデ。回転ヘラケズリ後回転ナデ。内面回転ナデ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: やや不貞。C: 内灰白2.5Y5/1。内面に黄緑1.5YR5/1。	1/年	
312	洪赤器	平皿	1号窯跡灰濁区①区	①9.0②7.4+α	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。B: やや不貞。C: 内灰白。内面に黄緑1.5YR5/1。	口縁部 2/3	釜みあり。 形状は不明。
313	洪赤器	煮器	1号窯跡下灰濁表土層	①7.6②17.8-17.9③10.2 最大断面径15.6	外面回転ナデ。回転ヘラケズリ。ナデ。内面回転ナデ。ナデ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内灰白4/1。内面に黄緑1.5YR7/1。内面に黄緑。	4/5	内面に破片あり。 内面に黄緑を施す破片あり。 外面に黄緑を施す破片あり。
314	洪赤器	双耳瓶	1号窯跡下灰濁表土層	②8.9+α	内面ナデ。工具による切り取り。内面回転ナデ。	A: 1mm以下の白色粒子。黒色粒子を含む。B: 良好。C: 内灰白。内面に黄緑。	1/年	
315	洪赤器	皿	1号窯跡下灰濁表土層	①2.2+α②(14.0)	外面回転ヘラケズリ。内面回転ナデ。ナデ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 不貞。C: 内灰白。内面に黄緑10YR6/2。内面に黄緑10YR6/1。	縁部 1/年	
316	洪赤器	皿	1号窯跡灰濁区②(煎餅器土)	①6.6+α②(14.8)	外面回転ナデ。ヘラケズリ後ナデ。回転ヘラケリ後板状工具によるナデ。内面回転ナデ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内灰白5Y7/1。内面に黄緑2.5Y6/1。	縁部 1/4	内面に破片あり。
317	洪赤器	皿	1号窯跡灰濁区①区	①25.3②111+α	内外面回転ナデ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内灰白。内面に黄緑10YR6/1。	口縁部 1/年	

表 8 70地点 2号窯跡出土遺物観察表

遺物 番号	種類	遺種	出土地点	質量 (cm・g) ①X②Y③Z④底径 ⑤高さ⑥直径⑦長さ	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色別	残存率	備考
318	洪赤器	杯蓋	2号窯跡灰濁区①区	①(14.6)②3.4 つまみ径2.5	外面回転ナデ。回転ヘラケズリ。内面回転ナデ。回転ナデ後ナデ。	A: 1mm以下の白色粒子。黒色粒子を含む。B: 良好。C: 内灰白7.5Y5/1。	3/5	釜みあり。
319	洪赤器	杯蓋	2号窯跡灰濁区①区	①(19.2)②5.8③(13.4)	外面回転ナデ。ケズリ後回転ナデ。回転ヘラケリ後回転ナデ。内面回転ナデ。回転ナデ後ナデ。	A: 1mm以下の白色粒子。黒色粒子を含む。B: 良好。C: 内灰白。内面に黄緑。	1/年	
320	洪赤器	皿	2号窯跡灰濁区①区(煎餅器)	①(17.2)②3.2+α	外面回転ナデ。回転ヘラケリ後板状工具によるナデ。内面回転ナデ。回転ナデ後ナデ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内灰白。内面に黄緑。	1/3	
321	洪赤器	煎餅器	2号窯跡灰濁区①区	①(13.0)②14.4+α	外面回転ナデ。沈積。回転ナデ。シロリ後。内面回転ナデ。回転ナデ。シロリ後。ナデ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内灰白。内面に黄緑。	口縁部完全	内面に黄緑あり。
322	洪赤器	杯蓋	2号窯跡灰濁区①区	①15.2②1.6	外面回転ヘラケズリ。回転ナデ。内面回転ナデ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内灰白2.5Y7/2。内面に黄緑7.5YR7/2。	2/3	釜みあり。 内外面口縁部に破片あり。 内面に黄緑を施す破片あり。 外面に黄緑を施す破片あり。 外面に自然焼あり。
323	洪赤器	杯蓋	2号窯跡灰濁区①区	①15.6②2.8 つまみ径1.4	外面回転ナデ。回転ヘラケズリ。回転ナデ後ナデ。内面回転ナデ。回転ナデ後ナデ。	A: 1mm以下の白色粒子。黒色粒子を含む。B: やや不貞。C: 内灰白。内面に黄緑。	口縁部 5/6	釜みあり。 形状は不明。
324	洪赤器	杯蓋	2号窯跡灰濁区①区	①(14.4)②2.3 つまみ径2.6	外面回転ナデ。回転ヘラケズリ。内面回転ナデ。回転ナデ後ナデ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内灰白。内面に黄緑。	口縁部 1/年	
325	洪赤器	杯蓋	2号窯跡灰濁区①区	①19.5②2.6 つまみ径2.7	外面回転ナデ。回転ヘラケズリ。回転ナデ後ナデ。内面回転ナデ。回転ナデ後ナデ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内灰白。内面に黄緑。	口縁部 2/3	釜みあり。 形状は不明。

通物 番号	種類	部材	出土地点	法量(cm・g) (□□位 空部高□位部 径横自治 径部大径)	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 彩色	残存率	備考
326	透壺部	杯A	2号家跡前庭部左側	①124 ②29~33 ③9.9	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 痕ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 1mm以下白色粒子を含む。 B: 粘土。焼成なしを含む。 C: 内外共に 2.5V6/L。内径裏2.5V7/L。	3/4	外面部に縦状凹痕あり。
327	透壺部	杯B	2号家跡前庭部左側	①140 ②3.9 ③9.4	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 痕ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。 B: 良好。C: 内外共に、内径裏 3.9V6/L。	①3層部 1/4 焼成 完形	粘土あり。 外面部に縦状凹痕あり。
328	透壺部	杯B	2号家跡前庭部左側	①140 ②4.1 ③9.4	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 痕ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。 B: やや不長。C: 内外共に 2.5V7/L。内径裏10.9V2/L。	①3層部 1/3 焼成 完形	粘土あり。 焼成跡あり。
329	透壺部	杯B	2号家跡前庭部左側	①151 ②3.9 ③11.6	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 痕ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子、黒色を 含む。B: やや不長。C: 内外共に 3.9V7/L。内径裏2.5V7/L。	①3層部 1/2 焼成 完形	粘土あり。
330	透壺部	杯B	2号家跡前庭部左側	①184 ②6.7 ③11.2	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナ ズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。 1mm以下の黒色粒子を含む。B: 良好。C: 内外共に、内径裏 5.9V7/L。	①3層部 1/4 焼成 完形	外面に凹痕の残片付属あり。 外面に一部凹痕あり。 溝は中心位置とずれている。
331	透壺部	酒杯	2号家跡前庭部左側	①214 ②7.8 ③部厚10.5	外面回転ナズ、回転ヘラケズ り後回転ナズ。内面回転ナ ズ。回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子、黒色粒 子を含む。B: やや不長。C: 内 径白2.5V7/L。内径裏 5.9V7/L。	①3層部 1/5 焼成 完形	外面に凹痕あり。 断面に凹痕の残片付属あり。
332	透壺部	酒杯	2号家跡前庭部左側	①154 ②2.8-a	外面回転ヘラケズり。回転ナ ズ。内面回転ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。 B: 良好。C: 内外共に、内径 戻2.5V7/L。	①3層部 1/6	粘土あり。
333	透壺部	杯B	2号家跡前庭部1区	①144 ②2.8-a	外面回転ヘラケズり。回転ナ ズ。内面回転ナズ。回転ナズ 後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。 B: 良好。C: 内外共に2.5V7/L。 内径戻2.5V7/L。	①3層部 1/4	
334	透壺部	杯B	2号家跡前庭部1区	①12.8 ②2.4 つまみ0.2	外面回転ナズ、回転ヘラケズ り。内面回転ナズ。回転ナズ 後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子、黒色粒 子を含む。B: 良好。C: 内外 共に、内径戻2.5V6/L。	完形	粘土あり。
335	透壺部	杯B	2号家跡前庭部1区	①15.2 ②2.4 つまみ0.21	外面回転ナズ、回転ヘラケズ り。内面回転ナズ。回転ナズ 後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。 B: 良好。C: 内外共に2.5V7/L。 内径戻2.5V6/L。	2/3	粘土あり。
336	透壺部	杯B	2号家跡前庭部1区	①17.1 ②2.8 つまみ0.2	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後板状工具によるナズ。内面 回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。 B: 良好。C: 内外共に、内径 戻2.5V7/L。	①3層部 1/6	外面に凹痕の残片付属あり。
337	透壺部	杯B	2号家跡前庭部1区	①144 ②4.2 ③9.4	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 痕ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。 B: やや不長。C: 内外共に 3.9V7/L。内径戻1.5V7/L。	1/2	粘土あり。 外面に凹痕あり。 外面に自然凹痕あり。
338	透壺部	杯B	2号家跡前庭部1区	①14.4 ②4.2 ③10.9	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 痕ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。 B: 不長。C: 内外共に2.5V6/L。 内径戻2.5V7/L。	1/2	
339	透壺部	皿	2号家跡前庭部1区	①146 ②1.9 ③12.0	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後板状工具によるナズ。内面 回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 4mm以下の白色粒子を含む。 1mm以下の黒色粒子を含む。B: 良好。C: 内外共に、内径 戻2.5V7/L。	1/3	
340	透壺部	台付皿	2号家跡前庭部1区	②2.2-a ③30.2	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後板状工具によるナズ。内面 回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子、黒色粒 子を含む。B: やや不長。C: 内 外共に2.5V7/L。	①3層部 1/6	
341	透壺部	酒杯	2号家跡前庭部1区+2号家跡前庭部左側	①24.4 ②3.7 ③部厚10.1	外面回転ナズ、回転ヘラケズ り。シボリ痕。内面回転ナ ズ。シボリ痕。ナズ。回転ナ ズ後ナズ。	A: 4mm以下の白色粒子を含む。 B: 良好。C: 内外共に 2.5V4/L。内径裏2.5V1/L。	①3層部 完形 ①/4	
342	透壺部	短頸壺	2号家跡前庭部1区+2号家跡前庭部左側+2号家跡前庭部1区+3号家跡前庭部1区+4号家跡前庭部1区+5号家跡前庭部1区	①12.2 ②14.3~15.2 ③11.4 ④部厚20.8	外面回転ナズ、回転ヘラケズ り。回転ヘラ切り痕ナズ。内 面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。 B: やや不長。C: 内外共に 3.9V7/L。	ほぼ完形	粘土あり。 断面に凹痕あり。 外面に凹痕あり。 凹痕あり。
343	透壺部	深鉢B	2号家跡前庭部1区+2号家跡前庭部1区	①8.4 ②10.0-a	外面回転ナズ、シボリ痕。ヘ ラによる面取り。内面回転 ナズ。ナズ。筒サマシ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。 1mm以下の黒色粒子を含む。B: 良好。C: 内外共に、内径 戻3.9V6/L。	①3層部 完形 ①/4	粘土あり。 焼成跡あり。
344	透壺部	杯B	2号家跡前庭部2区	①141 ②2.8 つまみ0.1.9	外面回転ナズ、回転ヘラケズ り。内面回転ナズ。回転ナズ 後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。 B: 良好。C: 内外共に、内径 戻2.5V6/L。	1/4	外面に凹痕あり。
345	透壺部	杯B	2号家跡前庭部2区	①15.4 ②2.4 つまみ0.21	外面回転ナズ、回転ヘラケズ り。内面回転ナズ。回転ナズ 後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。 B: やや不長。C: 内外共に 2.5V7/L。	1/4	
346	透壺部	杯B	2号家跡前庭部2区	①15.4 ②3.1 つまみ0.2.6	外面回転ナズ、回転ヘラケズ り。回転ナズ後ナズ。内面 回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。 B: やや不長。C: 内外共に 2.5V7/L。内径裏2.5V7/L。	1/3	焼成跡あり。

建物 番号	種類	階数	出土地点	品質 (cm・d) (X)が 空室率 3 未満 又は自治体 合格判定	形態・構造の特徴	A: 鉄土 B: 鉄骨 C: 木造	残存率	備考
347	洋風館	林産	2号東部沢沢2区	①202.1 ②1.6 ③2.9	外周回廊ナゾ、回転ヘラケズリ、内周回廊ナゾ、回転ナゾ後ナゾ。	A: 3mm以下の白色乾子を含む、1mm以下の黒色乾子を含む、B: 良好、C: 内床反14、内床反19。	1/2	済みあり。
348	洋風館	林産	2号東部沢沢2区	①202.1②1.7-a ③2.8	外周回廊ナゾ、回転ヘラケズリ、内周回廊ナゾ、回転ナゾ後ナゾ。	A: 3mm以下の白色乾子を含む、1mm以下の黒色乾子を含む、B: 良好、C: 内床反109RS/L、内床反109RL。	1/3	済みあり、内面に壁紙剥き残あり。
349	洋風館	林産	2号東部沢沢2区	①200.2②4.8-4.9③11.9	外周回廊ナゾ、回転ヘラケズリ後ナゾ、内周回廊ナゾ、回転ナゾ後ナゾ。	A: 3mm以下の白色乾子少量含む、B: やや不良、C: 内床反109R/L、内床反109RL。	口継ぎ 5年	済みあり、内面に壁紙剥き残あり。
350	洋風館	磐石土 基	2号東部沢沢2区	階6.1 層4.0 厚1.0 磐石埋(1)	内周回廊ナゾ。	A: 1mm以下の白色乾子を含む、B: 不良、C: 内床反12.5RS/L。		壁紙不剥 磐石土1カ所あり。
351	洋風館	林産	2号東部沢沢3区	①14.1②2.7-a	外周回廊ナゾ、回転ヘラケズリ後ナゾ、内周回廊ナゾ、回転ナゾ後ナゾ。	A: 1mm以下の白色乾子、黒色乾子を含む、B: 良好、C: 内床反12。	1/2	外面に壁紙剥き残あり。
352	洋風館	林産	2号東部沢沢3区	①0.4②0.2 ③3.4④2.4	外周回廊ナゾ、回転ヘラケズリ、内周回廊ナゾ、回転ナゾ後ナゾ。	A: 1mm以下の白色乾子を含む、黒色乾子を含む、B: 良好、C: 内床反12.5R/L。	1/3	済みあり。
353	洋風館	林産	2号東部沢沢3区	①14.0②3.8 ③2.4④2.1	外周回廊ナゾ、回転ヘラケズリ、内周回廊ナゾ、回転ナゾ後ナゾ。	A: 2mm以下の白色乾子を含む、B: 良好、C: 内床反12.5RS/L。	ほぼ定形	済みあり、内面に石膏の残片付あり。
354	洋風館	林産	2号東部沢沢3区	①14.0②2.8 ③2.4④2.1	外周回廊ナゾ、回転ヘラケズリ、内周回廊ナゾ、回転ナゾ後ナゾ。	A: 1mm以下の白色乾子少量含む、黒色乾子少量含む、B: やや不良、C: 内床反12.5R/L、内床反12.5RL。	1/4	内面に壁紙剥き残あり。
355	洋風館	林産	2号東部沢沢3区	①15.0②1.9 ③2.4④2.5	外周回廊ナゾ、回転ヘラケズリ、内周回廊ナゾ、回転ナゾ後ナゾ。	A: 2mm以下の石膏少量含む、1mm以下の白色乾子を含む、B: やや不良、C: 内床反109RS/L、内床反109RL。	口継ぎ 2/3	済みあり。
356	洋風館	林産	2号東部沢沢3区	①14.0②1.6 ③2.1④2.1	外周回廊ナゾ、回転ヘラケズリ、内周回廊ナゾ、回転ナゾ後ナゾ。	A: 1mm以下の白色乾子、黒色乾子、黒石を含む、B: やや不良、C: 内床反12.5R/L、内床反12.5RL。	1/3	済みあり、外面に壁紙剥き残あり。
357	洋風館	林産	2号東部沢沢3区	①15.5②1.7 ③2.4④2.6	外周回廊ナゾ、回転ヘラケズリ、内周回廊ナゾ、回転ナゾ後ナゾ。	A: 3mm以下の白色乾子多量含む、B: やや不良、C: 内床反12.5R/L。	2/3	済みあり、内面に壁紙剥き残あり。
358	洋風館	林産	2号東部沢沢3区	①15.9②2.3 ③2.4④2.4	外周回廊ナゾ、回転ヘラケズリ、内周回廊ナゾ、回転ナゾ後ナゾ。	A: 4mm以下の白色乾子を含む、1mm以下の黒色乾子、黒石少量含む、B: やや不良、C: 内床反12.5R/L、内床反12.5RL。	ほぼ定形	外面に付着物あり。
359	洋風館	林産	2号東部沢沢3区	①16.0②2.2+a	外周回廊へう切り後ナゾ、回転ヘラケズリ、回転ナゾ、内周回廊ナゾ、後回廊ナゾ後ナゾ。	A: 1mm以下の白色乾子、黒色乾子少量含む、B: やや不良、C: 内床反12.5R/L。	2/3	済みあり、つまみ剥きあり。
360	洋風館	林産	2号東部沢沢3区	①16.0②1.9 ③2.4④2.3	外周回廊ナゾ、回転ヘラケズリ、内周回廊ナゾ、回転ナゾ後ナゾ。	A: 2mm以下の白色乾子を含む、B: 不良、C: 内床反12.5R/L、内床反109R/L。	ほぼ定形	済みあり、内面に壁紙剥き残あり。
361	洋風館	林産	2号東部沢沢3区	①0.7②0.3 ③2.4④2.3	外周回廊ナゾ、回転ヘラケズリ、内周回廊ナゾ、回転ナゾ後ナゾ。	A: 1mm以下の白色乾子を含む、B: 良好、C: 内床反12.5RS/L。	1/3	済みあり、外面に壁紙剥き残あり。
362	洋風館	林産	2号東部沢沢3区	①14.0②1.9 ③2.4④2.0	外周回廊ナゾ、回転ヘラケズリ後ナゾ、内周回廊ナゾ、回転ナゾ後ナゾ。	A: 4mm以下の白色乾子を含む、B: 良好、C: 内床反14、内床反19。	1/4	内面に壁紙剥き残あり。
363	洋風館	林産	2号東部沢沢3区	①15.2②2.0 ③2.4④2.1	外周回廊ナゾ、回転ヘラケズリ、内周回廊ナゾ、回転ナゾ後ナゾ。	A: 3mm以下の白色乾子を含む、3mm以下の黒色乾子を含む、B: 良好、C: 内床反14、内床反12.5R/L。	ほぼ定形	済みあり。
364	洋風館	林産	2号東部沢沢3区	①15.4②2.7 ③2.4④2.0	外周回廊ナゾ、回転ヘラケズリ後ナゾ、内周回廊ナゾ、回転ナゾ後ナゾ。	A: 2mm以下の白色乾子、黒色乾子を含む、B: 良好、C: 内床反12.5RS/L。	1/2	済みあり、外面に壁紙剥き残あり。
365	洋風館	林産	2号東部沢沢3区	①16.0②2.3 ③2.4④2.4	外周回廊ナゾ、回転ヘラケズリ後ナゾ、内周回廊ナゾ、回転ナゾ後ナゾ。	A: 4mm以下の白色乾子を含む、B: 良好、C: 内床反12.5、内床反14。	1/2	済みあり。
366	洋風館	林産	2号東部沢沢3区	①15.8②2.2-2.6 ③2.4④2.3	外周回廊ナゾ、回転ヘラケズリ後ナゾ、ヘラケズリ、内周回廊ナゾ、回転ナゾ後ナゾ。	A: 3mm以下の白色乾子を含む、B: 良好、C: 内床反12.5RS/L。	3/4	済みあり、外面に壁紙剥き残あり。
367	洋風館	林産	2号東部沢沢3区	①16.4②1.8 ③2.4④2.5	外周回廊ナゾ、回転ヘラケズリ、内周回廊ナゾ、回転ナゾ後ナゾ。	A: 2mm以下の白色乾子多量含む、B: 不良、C: 内床反12.5R/L、内床反12.5RL。	2/3	済みあり、内面に輪状のアタリ残あり。

通物 番号	種類	部材	出土地点	法量(cm・g) (□□位 空部量□□位 系属台位 空部大位)	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色別	残存率	備考
368	須恵器	杯A	2号東瀬川原3区		上: 外面回転ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。 下: ①13.6 ①13.8 ②2.9 ③10.1	A: 1mm以下白色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内外共にNS/。	上: □位部 3/4 下: □位部 3/4	量みあり。 焼成跡あり。 再加工痕あり。
369	須恵器	杯B	2号東瀬川原3区下層汚れた黄色土下層須恵	②2.6+a ③7.2	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外共にNS/。	残部 1/2	
370	須恵器	杯B	2号東瀬川原3区	①13.4 ②3.7 ③9.2	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。焼成な表面を含む。B: やや不。C: 内外共に2.5V7/L。	口縁部 1/4 底面 ほぼ定形	外面に工具痕あり。
371	須恵器	杯B	2号東瀬川原3区	①14.3 ②4.1-4.2 ③10.1	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の石英を含む。2mm以下の白色粒子を少量含む。B: やや不。C: 内外共にNS/、内面NS/L。	定形	量みあり。 底部に焼成跡あり。 外面に焼成あり。 外面に形状圧痕-工具痕あり。
372	須恵器	杯B	2号東瀬川原3区	①14.5 ②3.5-3.6 ③9.6	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の石英を少量含む。1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外共にNS/、内面NS/L。	口縁部 1/2	量みあり。 焼成跡あり。
373	須恵器	杯B	2号東瀬川原3区	①14.4 ②3.3-4.0 ③9.0	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。2mm以下の石英を少量含む。B: やや不。C: 内外共にNS/。	3/5	量みあり。
374	須恵器	杯B	2号東瀬川原3区	①15.4 ②3.8-4.1 ③12.3	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の石英を含む。2mm以下の白色粒子を少量含む。B: 不。C: 内外共に2.5V8/L、内面2.5V7/L。	ほぼ定形	
375	須恵器	杯B	2号東瀬川原3区下部砂褐色砂層2層(上層)	①18.6 ②4.7-5.9 ③12.3	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子、褐色粒子を含む。焼成な表面を含む。B: やや不。C: 内外共にNS/。	3/4	量みあり。 外面に焼成あり。
376	須恵器	杯B	2号東瀬川原3区下層	①19.4 ②5.9 ③12.4	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外共にNS/、内面1.0V96/L。	1/4	
377	須恵器	山付皿	2号東瀬川原3区	②2.4+a ③13.0	外面回転ナズ、回転ヘラ切り。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。焼成な表面を含む。B: やや不。C: 内外共にNS/、内面1.0V97/L。	残部 1/4	
378	須恵器	酒杯	2号東瀬川原3区	①12.1 ②2.0+a	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。	A: 2mm以下の石英を含む。B: やや不。C: 内外共にNS/、内面NS/L。	口縁部 1/6	量みあり。
379	須恵器	酒杯	2号東瀬川原3区 2号東瀬川原4区	①12.8 ②2.3+a	外面回転ナズ、焼成により形状不明。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の石英、褐色粒子を含む。焼成な表面を含む。B: やや不。C: 内外共に2.5V7/L、内面2.5V6/L。	口縁部 1/3	量みあり。 外面に焼成あり。
380	須恵器	酒杯	2号東瀬川原3区	②6.9+a 部厚10.2	外面回転ナズ、内面回転ナズ、シボリ痕、ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外共にNS/、内面NS/。	底面 定形	
381	須恵器	酒杯	2号東瀬川原3区	②6.1+a 部厚11.2	外面回転ナズ、シボリ痕。内面回転ナズ、シボリ痕、ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。2mm以下の褐色粒子を少量含む。1mm以下の石英を含む。B: 良好。C: 内外共にDN7/。	3/5	量みあり。 外面に焼成あり。
382	須恵器	酒杯	2号東瀬川原3区	②6.9+a 部厚10.6	外面回転ヘラ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。焼成な表面を含む。B: やや不。C: 内外共に2.5V7/L、内面1.0V96/L。	底面 定形	焼成跡あり。
383	須恵器	煎釜	2号東瀬川原3区	①14.0 ②3.0 つまみ8.2	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外共に2.5V7/L、内面1.0V96/L。	1/2	外面に焼成あり。
384	須恵器	拍子桶	2号東瀬川原3区	①12.8 ②1.9+a 最大部厚(17.8)	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外共にNS/。	底面 1/3	外面に焼成あり。
385	須恵器	盃	2号東瀬川原3区	②8.4+a	外面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。内面回転ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子、褐色粒子を含む。2.5V7/L、内面2.5V7/L。	小片	外面に焼成あり。
386	須恵器	不明	2号東瀬川原3区	②3.8+a	外面回転ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外共にNS/、内面2.5V7/L。	小片	内面に焼成あり。
387	須恵器	不明	2号東瀬川原3区下部砂褐色砂層土(上層)	②1.4+a ③14.0	内外面回転ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外共にNS/、内面NS/L。	底面 1/8	



建物 番号	種類	階層	出土地点	量器(cm・g) ①C型 ②標準 ③標準 式適合性適合大径	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色別	保存率	備考
388	湧き土 器	2号実跡区3区下層	層3.2 幅4.5 厚0.7 穿孔径(内)		外面回転ナズリ、ナズ。外面 回転ナズ後ナズ	A: 焼成な白色粒子を少量 含む。B: 良好。C: 内裏 25Y6/1。内訳裏25Y7/2		穿孔孔ありあり。 穿孔あり。
389	湧き土 器	2号実跡区4区谷部黒色土 上層	①131.4②2.6 つまみ径2.1		外面回転ナズ。回転ヘラケズ リ。内面回転ナズ。内面回転ナ ズ。回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下白色粒子を少量 含む。B: 良好。C: 内裏 10YR6/1。内訳裏7.5YR6/1。	1/3	
390	湧き土 器	2号実跡区4区	①150.0②1.8 つまみ径2.2		外面回転ナズ。回転ヘラケズ リ。内面回転ナズ。回転ナズ 後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を多量 含む。1mm以下の石灰を含む。 焼成な赤石を含む。B: 不良。C: 内面に赤い層2.5YR6/4。内 訳裏2.5YR6/6。		ほぼ完成 歪みあり。
391	湧き土 器	2号実跡区4区	①160.0②2.4 つまみ径3.3		外面回転ナズ。回転ヘラケズ リ。内面回転ナズ。回転ナズ 後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。 焼成な赤石を含む。焼成な 金管母を少量含む。B: 不良。 C: 内訳裏2.5YR6/3。	1/4	
392	湧き土 器	2号実跡区4区左側砂礫 土上層の上層	①160.0②1.8 つまみ径2.7		外面回転ナズ。回転ヘラケズ リ。内面回転ナズ。回転ナズ 後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。 B: 良好。C: 内訳裏 7.5YR7/1。	1/3	歪みあり。
393	湧き土 器	2号実跡区4区	①212.0②3.9 つまみ径(内)		外面回転ナズ。回転ヘラケズ リ。内面回転ナズ。内面 回転ナズ。摩滅のため調整 不明。	A: 2mm以下の石灰を少量含む。 焼成な赤石。白色粒子を含む。 B: 不良。C: 外に赤い層 7.5YR7/4。内訳裏10YR7/4。	1/3	
394	湧き土 器	2号実跡区4区	①208.0②3.5 つまみ径2.9		外面回転ナズ。回転ヘラケズ リ。内面回転ナズ。回転ナズ 後ナズ。	A: 焼成な白色粒子。長石を含む。 B: 不良。C: 内訳 7.5YR7/6。	口縁部 1/3	
395	湧き土 器	2号実跡区4区	①204.0②1.8 つまみ径3.0		外面回転ナズ。回転ヘラケズ リ。内面回転ナズ。摩滅のた め調整不明。	A: 2mm以下の石灰を少量含む。 焼成な赤石を含む。B: 不良。 C: 内面に赤い層10YR7/4。	ほぼ完成	
396	湧き土 器	2号実跡区4区	①118.0②1.6③7.5		外面回転ナズ。回転ヘラケズ リ。内面回転ナズ。内面 回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を多量 含む。1mm以下の石灰を含む。 焼成な赤石を含む。B: 不良。 C: 内訳裏7.5YR7/1。内訳裏 7.5YR7/1。	完成	内面に穴すきあり。
397	湧き土 器	2号実跡区4区	①137.0②4.5-4.7③6.2		外面回転ナズ。回転ヘラケズ リ。内面回転ナズ。内面 回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の石灰を含む。 2mm以下の白色粒子を含む。 焼成な金管母を含む。B: 不良。 C: 内裏2.5Y6/2。内訳 2.5Y7/2。	1/4	歪みあり。
398	湧き土 器	2号実跡区4区	①154.0②4.2③12.4		外面回転ナズ。回転ヘラケズ リ。内面回転ナズ。内面 回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 4mm以下の石灰を含む。 2mm以下の白色粒子を多量 含む。焼成な金管母を少量 含む。B: 不良。C: 内訳 10YR7/4。内訳裏2.5Y7/2。 内訳裏2.5Y7/2。	ほぼ完成	歪みあり。
399	湧き土 器	2号実跡区4区	①17.5②5.4-5.9③ 11.8		外面回転ナズ。回転ヘラケズ リ。内面回転ナズ。内面 回転ナズ後ナズ。	A: 4mm以下の石灰を含む。 3mm以下の白色粒子を多量 含む。焼成な赤石を少量 含む。B: 不良。C: 内訳裏 10YR6/2。内訳裏2.5Y6/2。	ほぼ完成	歪みあり。 裏面に付着物あり。 外面に工痕あり。
400	湧き土 器	2号実跡区4区谷部黒色土 上層	①171.4②5.7③(11.8)		外面回転ナズ。回転ヘラケズ リ。内面回転ナズ。回転ナズ 後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。 焼成な赤石。赤色粒子を含む。 B: 良好。C: 内訳裏 7.5YR7/1。内訳裏7.5YR7/1。	2/3	歪みあり。
401	湧き土 器	2号実跡区4区	①186.0②5.1-5.5③ 13.9		外面回転ナズ。回転ヘラケズ リ。内面回転ナズ。回転ナズ 後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子。赤色粒 子を含む。1mm以下の赤石。金 管母を含む。B: 不良。C: 内 面に赤い層10YR7/4-赤層 10YR7/3。内訳裏10YR7/4。	1/4	歪みあり。 ヘラケあり。 外面底部に磨痕あり。
402	湧き土 器	2号実跡区4区左側砂礫 土上層の上層	①11.7+a 断面厚13.5		外面回転ナズ。内面回転ナ ズ。シボリ後。回転ヘラケズ リ。後未調整。回転ナズ後ナズ。	A: 12mm以下の白色粒子。赤色粒 子を含む。B: 良好。C: 内訳 5Y6/1。	断面 完成	
403	湧き土 器	2号実跡区4区+3-4号実跡 区3区剥れた黄色土	①28.3+a 断面厚(内)		外面回転ナズ後ナズ。回転 ヘラケズ後ナズ。回転ヘラケ ズリ。内面回転ナズ。回転ナ ズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。 B: やや不良。C: 内訳 2.5Y7/2。内訳裏2.5Y6/2。	断面 1/2	歪みあり。
404	湧き土 器	2号実跡区3区+2号実跡 区4区	①22.1②11.7+a		外面回転ナズ。回転ヘラケズ リ。内面回転ナズ。回転ナズ 後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。 B: 良好。C: 内訳裏 10YR6/2。	1/4	
405	湧き土 器	2号実跡区4区	①13.2 断面厚 8.9 断面厚 6.6		外面回転ナズ。回転ナズ。未調 整。	A: 5mm以下の白色粒子を多量 含む。C: 内訳裏2.5Y6/2。	完成	
406	湧き土 器	2号実跡区4区	①15.7 断面厚 13.5 断面厚 8.3		外面回転ナズ。回転ナズ。未調 整。	A: 5mm以下の白色粒子を多量 含む。C: 外訳裏2.5Y6/2。	完成	

表9 70地点3号窯跡出土土物観察表

遺物 番号	種類	器種	出土地点	質量(cm・g) (口径 交差角 口径 底径 片径 透徹寸法)	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色物	保存率	備考	
407	須恵器	杯蓋	3号窯跡本体内陶26	Ⅱ131 Ⅱ24 つまみ11.9	外面回転ナズ、回転ヘリ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 3mm以下白色粘土を含む。 B: 良好。C: 内赤黒、内赤 黒。	1/2	欠形	器みあり。
408	須恵器	杯蓋	3号窯跡本体内陶9	Ⅱ124 Ⅱ28 つまみ11.6	外面回転ナズ、回転ヘリ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粘土を多量含 む。B: 良好。C: 内赤黒。	1/2		
409	須恵器	杯蓋	3号窯跡本体内17層(仮測定下)	Ⅱ133 Ⅱ25 つまみ11.9	外面回転ナズ、回転ヘリ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粘土を含む。 B: 良好。C: 内赤黒。	1/2		内面に磨石跡あり。
410	須恵器	杯蓋	3号窯跡本体内陶11	Ⅱ136 Ⅱ17+a	外面回転ヘリ切り後ナズ。内 面回転ナズ。内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の赤黒を含む。 1mm以下の白色粘土を多量含 む。B: 不良。C: 内赤 黒、内赤7.5V/L、内赤白7.5V/L。	2/5		器みあり。
411	須恵器	杯蓋	3号窯跡本体内17層(仮測定下)	Ⅱ140 Ⅱ27 つまみ11.8	外面回転ナズ、回転ヘリ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。取扱工具による ナズ。	A: 1mm以下の赤黒を含む。B: やや不良。C: 内赤黒、内赤 黒。	1/3		器みあり。 内面に環状あり。
412	須恵器	杯蓋	3号窯跡本体内17層(仮測定下)	Ⅱ126 Ⅱ23+a	外面回転ヘリ切り後ナズ。回 転ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の赤黒を多量含む。 1mm以下の白色粘土を多量含 む。B: 良好。C: 内赤黒。	1/2		器みあり。
413	須恵器	杯蓋	3号窯跡本体内44層	Ⅱ144 Ⅱ24+a	外面回転ナズ、回転ヘリ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粘土を多量含 む。B: 良好。C: 内赤黒。	1/2		内面に磨石跡あり。
414	須恵器	杯蓋	3号窯跡本体内陶5	Ⅱ145 Ⅱ28 つまみ12.1	外面回転ナズ、回転ヘリ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粘土。褐色粘 土を含む。B: 良好。C: 内赤 黒、内赤黒。	1/2	欠形	器みあり。 内面に磨石跡あり。
415	須恵器	杯蓋	3号窯跡内陶2	Ⅱ149 Ⅱ16+a	外面回転ナズ、回転ヘリ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粘土を含む。 B: やや不良。C: 内赤黒 5V/L。	1/2		器みあり。 つまみ貼付け痕あり。
416	須恵器	杯蓋	3号窯跡内3層黄色土	Ⅱ160 Ⅱ23+a	外面回転ヘリ切り後ナズ。回 転ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粘土。褐色粘 土を含む。B: 良好。C: 内赤 黒2.5V/L。	1/5		器みあり。 内面に磨石跡あり。 片すく破あり。
417	須恵器	杯蓋	3号窯跡本体内陶17	Ⅱ171 Ⅱ41 つまみ11.8	外面削サテ。回転ナズ。回 転ヘリ切り後ナズ。内面回 転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粘土を含む。 B: やや不良。C: 内赤黒 10V/L、緑黄黒2.5V/L。	1/2	欠形	器みあり。 焼成時割れあり。
418	須恵器	杯蓋	3号窯跡本体内17層(仮測定下)	Ⅱ172 Ⅱ27 つまみ11.9	外面回転ナズ、回転ヘリ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粘土を含む。 B: 良好。C: 内赤黒。	1/4		器みあり。
419	須恵器	杯蓋	3号窯跡本体内陶32	Ⅱ186 Ⅱ23+a	外面回転ヘリ切り後ナズ。回 転ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粘土を含む。 B: 良好。C: 内赤黒。	1/4		器みあり。 つまみ痕あり。
420	須恵器	杯蓋	3号窯跡内黄色土(3号窯跡土)	Ⅱ193 Ⅱ36 つまみ12.1	外面ナズ。回転ナズ、回転ヘ リ切り後ナズ。内面回転ナズ、 回転ナズ後ナズ。片すくサテ。	A: 2mm褐色粘土。白色粘土を 含む。B: 良好。C: 内赤黒 2.5V/L。	1/2		
421	須恵器	杯蓋	3号窯跡本体内装1口赤黒ビツ ト内	Ⅱ207 Ⅱ24 つまみ12.4	外面回転ナズ、回転ヘリ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の赤黒を多量含む。 1mm以下の白色粘土を多量含 む。B: やや不良。C: 内赤 黒、内赤7.5V/L。	2/3		器みあり。 内面に環状あり。 指痕あり。
422	須恵器	杯蓋	3号窯跡18層下層2次焼成内 内	Ⅱ204 Ⅱ32 つまみ13.4	外面回転ナズ、回転ヘリ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粘土を含む。 B: やや不良。C: 内赤黒 2.5V/L。	1/4		
423	須恵器	杯蓋	3号窯跡内陶3	Ⅱ273 Ⅱ25+a	外面回転ヘリ切り後ナズ。回 転ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粘土。褐色粘 土を含む。B: 良好。C: 内赤 黒5V/L、内赤白5V/L。	1/5		内面に穴すきあり。
424	須恵器	杯蓋	3号窯跡内陶5	Ⅱ30-a つまみ13.6	外面回転ナズ、回転ヘリ切り 後ナズ。内面回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粘土を含む。 B: 良好。C: 内赤黒。		つまみ部 欠形	器みあり。 割傷の痕片付着あり。
425	須恵器	杯蓋	3号窯跡内陶1	Ⅱ132 Ⅱ10+a	内外面回転ナズ。	A: 1mm以下の白色粘土を含む。 B: 良好。C: 内赤黒5V/L、 内赤2.5V/L。	1/5		内面に環状あり。
426	須恵器	杯蓋	3号窯跡本体内陶10	Ⅱ129 Ⅱ22 つまみ11.2	外面回転ナズ、回転ヘリ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粘土。褐色粘 土を含む。B: 良好。C: 内赤 黒10V/L。	1/2	欠形	器みあり。 外面に凹傷の痕片付着 あり。
427	須恵器	杯蓋	3号窯跡内陶	Ⅱ140 Ⅱ28 つまみ11.8	外面回転ナズ、回転ヘリ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粘土を含む。 B: 良好。C: 内赤黒。	1/4		
428	須恵器	杯蓋	3号窯跡本体内17層(仮測定下)	Ⅱ144 Ⅱ12 つまみ11.7	外面回転ナズ、回転ヘリ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の赤黒を多量含む。 1mm以下の白色粘土を含む。B: やや不良。C: 内赤黒、内赤 黒。	ほぼ欠形		器みあり。
429	須恵器	杯蓋	3号窯跡本体内陶33	Ⅱ154 Ⅱ33 つまみ11.7	外面回転ナズ、回転ヘリ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粘土を含む。 B: 良好。C: 内赤黒。	1/2		器みあり。

建物 番号	種類	階層	出土地点	質量 (cm・g) ①XRF ②XRF ③XRF ④XRF ⑤XRF ⑥XRF ⑦XRF ⑧XRF ⑨XRF	形状・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色着	保存率	備考
430	湧き池	林道	3号実跡家体内17層(実跡戻下)	①16.11 ②2.2 ③よみ厚2.0	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下のお灰を含む。B: 不灰。C: 内外灰白2.5Y7/2。	1/2	
431	湧き池	林道	3号実跡家体内4層	①17.9 ②1.4 ③よみ厚1.8	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の石灰を少量含む。B: 良好。C: 内外灰白5Y7/1。	ほぼ完全	シミあり。 焼成時期あり。
432	湧き池	林道	3号実跡家体内17層(実跡戻下)	①18.0 ②6.8+α	外面回転ヘラ切り後形状工具によるナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の石灰を少量含む。1mm以下の白色粒子を含む。B: 不灰。C: 内外灰黄2.5Y7/2。	1/2	
433	湧き池	林道	3号実跡家体内6層12	①17.3 ②1.7 ③よみ厚1.9	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の石灰を少量含む。1mm以下の白色粒子。黒色粒子を含む。焼成後石灰も少量含む。B: やや不灰。C: 内外灰白7.5Y7/1。	ほぼ完全	シミあり。 焼成時期あり。
434	湧き池	林道	3号実跡家体内6層14	①18.6 ②1.4+α	外面回転ヘラ切り後形状工具によるナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の石灰を少量含む。1mm以下の白色粒子。黒色粒子を含む。B: やや不灰。C: 内外灰黄2.5Y7/2。	ほぼ完全	シミあり。 つまり跡あり。 ①層底近所時亀裂の跡あり。
435	湧き池	林A	3号実跡家体内黄色土	①9.61 ②2.5 ③6.2	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後未調整。内面回転ナズ。	A: 2mm以下の黒色粒子を含む。1mm以下の白色粒子。黒色粒子を含む。B: やや不灰。C: 内外灰黄2.5Y7/2。	1/4	
436	湧き池	林A	3号実跡家体内44層44層下層壁	①10.4 ②3.0 ③7.2	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内外灰白。	1/3	
437	湧き池	林A	3号実跡家体内31-16層	①13.4 ②8.1 ③3.3	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。1mm以下の黒色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内外灰白。	1/2	
438	湧き池	林A	3号実跡家体内17層	①13.8 ②4.2 ③9.4	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。1mm以下の石灰を含む。B: 良好。C: 内外灰黄2.5Y6/1。	①層底 3/4 一部 完全	焼成時期あり。 内外面に穴状多量あり。
439	湧き池	林A	3号実跡家体内17層(実跡戻下)	①14.2 ②3.9 ③10.3	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の石灰を少量含む。1mm以下の白色粒子。黒色粒子も少量含む。B: 不灰。C: 内外灰白2.5Y7/1-灰白2.5Y6/1。内灰2.5Y6/1-灰白NT。	①層底 3/5 一部 完全	
440	湧き池	林A	3号実跡家体内4層	①34.4 ②2.9-3.0 ③9.8	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ。摩滅のため形状不明。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 不灰。C: 内外灰白2.5Y7/2。	完全	焼成時期あり。 裏面に石灰あり。
441	湧き池	林A	3号実跡家体内4層	①15.2 ②3.9 ③10.9	外面回転ナズ。摩滅のため調整不明。	A: 1mm以下の石灰を少量含む。焼成後石灰を含む。B: 不灰。C: 内外灰黄2.5Y7/2。内灰白2.5Y7/1。	1/3	
442	湧き池	林A	3号実跡家体内4層	①4.4 ②3.6-3.8 ③10.0	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の黒色粒子を少量含む。B: 不灰。C: 内外灰白2.5Y6/1。	完全	焼成時期あり。
443	湧き池	林道	3号実跡家体内6層	①11.3 ②3.5-3.6 ③6.3	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰白。	1/8	
444	湧き池	林道	3号実跡家体内6層35	①11.61 ②3.7 ③6.6	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子。黒色粒子を含む。B: やや不灰。C: 内外灰黄2.5Y6/2。内灰白。	1/2	
445	湧き池	林道	3号実跡家体内6層28	①14.4 ②3.7-4.0 ③6.3	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後未調整。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: やや不灰。C: 内外灰黄10Y6/2。内灰白10Y6/1。	2/3	シミあり。
446	湧き池	林道	3号実跡家体内6層7	①13.6 ②4.5-4.6 ③9.0	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後形状工具によるナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子。黒色粒子。長石を含む。B: やや不灰。C: 内外灰白5Y7/1。	1/8	シミあり。 焼成時期あり。
447	湧き池	林道	3号実跡家体内2層2層底(実跡戻下)	①14.3 ②2.5-3.1 ③8.3	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰白。	3/4	シミあり。 穴状や変形あり。 内面に亀裂多量あり。
448	湧き池	林道	3号実跡家体内6層16	①14.1 ②3.4-3.7 ③7.8	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後形状工具によるナズ。	A: 3mm以下の石灰を少量含む。1mm以下の白色粒子を含む。B: やや不灰。C: 内外灰黄。内灰。	3/5	シミあり。 内面に工具痕あり。
449	湧き池	林道	3号実跡家体内6層27	①13.7 ②3.7-4.0 ③7.0	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子。黒色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰白。	1/2	
450	湧き池	林道	3号実跡家体内6層31	①13.8 ②3.9 ③9.4	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: やや不灰。C: 内外灰黄2.5Y7/2。内灰白。	1/2	シミあり。

選物番号	種別	品種	出土地点	質量(cm・g) (①口径 ②壁厚 ③底径 ④表径 ⑤全長 ⑥全径)	形状・技法の特徴	A：黄土 B：焼成 C：色落	保存率	備考
451	透き筒	押形	3号東洋館体内17層(東夷国下)	①13.7 ②5.9-4.3 ③7.7	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A:1mm以下白色粒子を少量含む。1mm以下の白色粒子を多量含む。1mm以下の黒色粒子を含む。B:やや不貞。C:外周オリブ径2.50V7/1～RIN6/1。内径IN6/1。	1/3	蓋みあり。 焼成時期あり。 裏面に假伏工痕あり。
452	透き筒	押形	3号東洋館体内44層44層下層	①(13.4) ②3.5+0.4	内外面回転ナズ。	A:1mm以下の白色粒子を含む。B:良好。C:内外径IN6/1。	1/3	
453	透き筒	押形	3号東洋館体18層下層2次焼成面内	①14.0 ②4.5-4.9 ③9.2	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、磨削のため調整不明(回転ナズか)。	A:1mm以下の白色粒子を含む。1mm以下の黒色粒子を含む。C:外径①54/1～裏径2.5V5/1。内径真2.5V7/2～真径2.5V6/1。	ほぼ完好	内面に火だすきあり。
454	透き筒	押形	3号東洋館体内17層(東夷国下)	①(15.6) ②4.6 ③8.0	外面回転ナズ、回転ヘラズリ後ナズ。内面回転ナズ。内面回転ナズ。	A:2mm以下の石灰を少量含む。1mm以下の白色粒子を含む。B:やや不貞。C:外径2.5V6/1。内径①5V7/1。	1/4	内面に火だすきあり。
455	透き筒	押形	3号東洋館体内6層13	①16.2 ②4.8 ③8.9	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A:2mm以下の黒色粒子を含む。1mm以下の白色粒子を含む。B:やや不貞。C:内外径①5V7/1。	5/6	
456	透き筒	押形	3号東洋館体内17層(東夷国下)	①(17.2) ②6.1 ③(9.8)	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A:1mm以下の白色粒子を少量含む。B:やや不貞。C:外径2.5V6/1。内径①7V7/1。	1/2	
457	透き筒	押形	3号東洋館体内44層	①(17.4) ②5.8 ③(10.2)	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A:1mm以下の白色粒子。黒色粒子を含む。1mm以下の石灰を少量含む。調整不明(石灰を少量含む。B:不貞。C:外径54/1～内径①5V8/1。内径①2.5V8/2。	口縁部5/6 底面(完好)	底面に工痕あり。
458	透き筒	押形	3号東洋館体内6層34	①(16.0) ②5.3 ③(9.7)	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後修理工業によるナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A:1mm以下の白色粒子を含む。B:やや不貞。C:外径①5V7/1。内径①5V7/1。	1/2	蓋みあり。 内面に磨削痕あり。
459	透き筒	押形	3号東洋館体内17層(東夷国下)	①17.6 ②5.4-5.6 ③10.4	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A:1mm以下の白色粒子を少量含む。B:やや不貞。C:内外径①7V7/1。	3/5	
460	透き筒	押形	3号東洋館体内6層19	①(18.0) ②5.5 ③9.4	外面調整のため調整不明(回転ナズか)。回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。外面調整のため調整不明(回転ナズか)。	A:2mm以下の白色粒子を含む。1mm以下の黒色粒子。石灰を含む。B:不貞。C:外径①2.5V8/2～真径2.5V7/1。内径①2.5V8/2。	口縁部1/2 底面1/2 ほぼ完好	外面調整痕あり。
461	透き筒	押形	3号東洋館体内6層25	①(17.4) ②5.8 ③(9.0)	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A:2mm以下の白色粒子を少量含む。1mm以下の石灰を少量含む。B:良好。C:内外真径2.5V6/1。	口縁部1/2 底面1/2	
462	透き筒	押形	3号東洋館体内6層21	①(18.0) ②6.3 ③(10.4)	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A:1mm以下の黒色粒子を少量含む。B:不貞。C:外径①2.5V8/2～内径①5V7/1。内径①2.5V8/2。	1/4	
463	透き筒	押形	3号東洋館体内6層18	①(17.4) ②6.5 ③(9.8)	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A:2mm以下の白色粒子を少量含む。1mm以下の石灰を含む。B:やや不貞。C:内外真径2.5V7/1。	口縁部1/2 底面1/2	外面面に工痕あり。
464	透き筒 押形 研磨	押形	3号東洋館体内黒土層下層土層	押形身:①(12.4) ②3.1 ③(8.0) 研磨身:①(13.8) ②3.9 ③(8.6) ④(9.5)	押形身:外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。 研磨身:外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ。ナズ。	研磨身:A:1mm以下の白色粒子を少量含む。B:やや不貞。C:外径オリブ径2.50V6/2。内径IN6/1。 押形身:A:1mm以下の白色粒子を少量含む。B:やや不貞。C:外径IN6/1。内径IN4/1。	研磨身:口縁部2/3 底面1/2 底面1/2 研磨身:1/4	押形と研磨身の輪郭線研磨:蓋みあり。 焼成時期あり。 内外面に磨削痕あり。
465	透き筒	皿	3号東洋館体内17層(東夷国下)	①(14.4) ②5.2 ③(12.0)	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A:2mm以下の石灰を含む。B:良好。C:内外真径108G5/1。	1/3	焼成時期あり。
466	透き筒	皿	3号東洋館体内17層(東夷国下)	①(15.2) ②2.1 ③(12.4)	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後修理工業によるナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A:2mm以下の白色粒子を少量含む。B:良好。C:内外真径IN6/1。	1/3	内面に火だすきあり。
467	透き筒	皿	3号東洋館体内17層(東夷国下)	①15.2 ②4.5-1.6 ③12.0	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A:2mm以下の石灰を含む。B:良好。C:内外真径IN6/1。	1/3	焼成時期あり。 内面に磨削痕あり。
468	透き筒	皿	3号東洋館体内45層	①17.4 ②2.6 ③(14.4)	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A:3mm以下の石灰を含む。1mm以下の白色粒子を多量含む。微細な石灰を含む。B:やや不貞。C:内外真径IN5/1。	5/6	蓋みあり。
469	透き筒	皿	3号東洋館体内6層36	①(17.6) ②2.4 ③(14.8)	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後修理工業によるナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A:2mm以下の白色粒子を含む。B:良好。C:外径①10V5/1。内径①0V6/1。	1/3	

遺物 番号	種類	数量	出土地点	法量 (cm・g) ①(×)印 ②(◎)印 ③(△)印 ④(▽)印 ⑤(◇)印 ⑥(○)印	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色別	残存率	備考
470	洪赤色 皿	3	3号窯跡実体内6a	①(18.0) ②(2.0) ③(15.2)	外面回転ナズ、回転ヘソ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。黒色粒子を少量含む。B: 不灰。C: 内灰黒2.5YR/1、内灰白2.5YR/2。	1/2	
471	洪赤色 皿	3	3号窯跡18層下層2次焼成面内	①(17.8) ②(2.5) ③(15.1)	外面回転ナズ、回転ヘソ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内灰黒N5。	1/2	
472	洪赤色 皿	3	3号窯跡実体内4層	①(16.8) ②(2.0) ③(14.0)	外面回転ナズ、回転ヘソ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の赤みを帯び、1mm以下の白色粒子を含む。微細な黒粒を含む。B: やや不灰。C: 内灰黒N5。	1/6	
473	洪赤色 皿	3	3号窯跡実体内17層(実測17)	①(18.8) ②(2.2) ③(15.2)	外面回転ナズ、回転ヘソ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の赤み、白色粒子を含む。B: 良好。C: 内灰黒N5。	1/3	
474	洪赤色 皿	3	3号窯跡実体内赤色土層下砂質土層	①(18.2) ②(2.7) ③(15.0)	外面回転ナズ、回転ヘソ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。1mm以下の赤色粒子を含む。B: 不灰。C: 内灰白2.5Y7/1、内灰白2.5Y7/2。	2/5	内面に火打さきあり。
475	洪赤色 皿	3	3号窯跡実体内6a-22	①(19.0) ②(2.4) ③(16.0)	外面回転ナズ、回転ヘソ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。B: 不灰。C: 内灰黒2.5Y7/1、内灰白2.5YR/2。	1/4	内面に工痕あり。
476	洪赤色 皿	3	3号窯跡18層下層2次焼成面内	①(18.8) ②(2.1) ③(16.0)	外面回転ナズ、回転ヘソ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 微細な白色粒子を含む。B: 良好。C: 内灰黒N5、内灰黒N6。	口縁部1/6	
477	洪赤色 皿	3	3号窯跡実体内20-22層	①(20.3) ②(2.6) ③(18.4)	外面回転ナズ、回転ヘソ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内灰黒N4。	底部1/4	穿孔あり。
478	洪赤色 台付鉢	3	3号窯跡実体内壁口内遺ベクト内	②(0.0) α ③(17.6)	外面回転ナズ、回転ヘソ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 5mm以下の白色粒子を含む。2mm以下の黒色粒子を含む。B: 良好。C: 内灰黒N3、内灰黒N4。	底部1/2	内面に黒ね跡多量あり。
479	洪赤色 台付鉢	3	3号窯跡内5層	②(3.1) α ③(15.6)	外面回転ナズ、回転ヘソ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。2mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内灰黒N4、内灰黒2.5YR/2。	底部底形	内面に黒ね跡多量あり。
480	洪赤色 酒杯	3	3号窯跡実体内4	①(21.4) ②(2.1) α	外面回転ナズ、回転ヘソ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内灰白2.5Y7/1。	口縁部1/4	釜みあり。底打つけ痕あり。
481	洪赤色 鉢	3	3号窯跡実体内17層(実測17下)+窯跡内17層(14層下18層下)+窯跡内44層下18層粘土上灰砂土質層(接合)	①(26.0) ②(5.6) α ③(13.4)	外面回転ナズ、回転ヘソ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。1mm以下の黒色粒子を含む。B: 不灰。C: 内灰白2.5Y7/1-1、5Y4/1、内灰黒2.5Y7/2。	1/2	内面に火打さき状の色変あり。ハナケ状痕あり。
482	洪赤色 鉢	3	3号窯跡実体内15+3号窯跡内4層+3号窯跡実体内17層(実測17下)接合	①(25.5) ②(6.9) α ③(13.6)	外面回転ナズ、回転ヘソ切り後ナズ、内面回転ナズ、ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。1mm以下の赤みを少量含む。微細な黒粒を少量含む。B: やや不灰。C: 内灰黒2.5Y7/2。	1/2 底部1/6	釜みあり。
483	洪赤色 鉢	3	3号窯跡実体内20-22層+5層に比べ(色別)	①(47.2) ②(11.1) α	内外面回転ナズ。	A: 4mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内灰黒N2、塩灰N3。	口縁部1/4	内面に焼痕あり。
484	洪赤色 穿孔土器	3	3号窯跡実体内灰面直上	①(16.0) ②(2.3) α	外面回転ナズ、回転ヘソ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。B: やや不灰。C: 内灰白N7/1、内灰白2.5Y7/1。	1/6	穿孔1カ所あり。杯痕。

表10 70地点4号窯跡出土土物観察表

遺物 番号	種類	数量	出土地点	法量 (cm・g) ①(×)印 ②(◎)印 ③(△)印 ④(▽)印 ⑤(◇)印 ⑥(○)印	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色別	残存率	備考
485	洪赤色 鉢蓋	4	4号窯跡実体内ベルト27層	①(12.2) ②(1.8) つまみ径1.5	外面回転ナズ、回転ヘソ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: やや不灰。C: 内灰黒2.5Y7/1。	3/4	釜みあり。
486	洪赤色 鉢蓋	4	4号窯跡2次焼成面内5	①(14.5) ②(1.3) つまみ径1.9	外面回転ナズ、回転ヘソ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内灰白2.5Y7/1、内灰黒N5。	底形	釜みあり。
487	洪赤色 鉢蓋	4	4号窯跡実体内6a-2	①(14.6) ②(1.4) つまみ径2.3	外面回転ナズ、回転ヘソ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。良オケ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。2mm以下の赤色粒子を含む。B: 良好。C: 内灰黒N6。	ほぼ底形	釜みあり。内面に黒ね跡多量あり。内面に焼痕あり。
488	洪赤色 鉢蓋	4	4号窯跡実体内黒赤色土目号窯跡焼成面	①(16.0) ②(2.7) つまみ径2.1	外面回転ナズ、回転ヘソ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 不灰。C: 内灰白2.5YR/1、内灰白2.5Y7/1。	1/6	縁部割れあり。内面に黒ね跡多量あり。

透物番号	種類	用途	出土地点	質量〔cm・g〕 ①(口径)②(底径)③(底厚) ④(高さ)⑤(重量)	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色別	残存率	備考
489	透器類	杯蓋	4号塚第1次埴土層6区	①(18.6) ②2.0+a	外面回転ヘラケズリ、回転ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子、黄色粒子、灰石、雲母を含む。B: 不貝。C: 内外面5YR7/2。	1/6	
490	透器類	杯蓋	4号塚第2次埴土層6区	①(24.4) ②2.0+a	外面回転ヘラケズリ、回転ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 2mm以下の黄色粒子を含む。B: 良好。C: 内外面6Y。	1/6	内面に火だすきあり。
491	透器類	杯蓋	4号塚第2次埴土層6区	①(25.5) ②2.7+a	外面回転ヘラケズリ、回転ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: やや不貝。C: 内外面5Y6/2。	口縁部 1/4	蓋みあり。
492	透器類	杯蓋	4号塚第2次埴土層6区	①15.6 ②1.8 つまみ径1.6	外面回転ナズ。回転ヘラケリ後ナズ。内面回転ナズ。内面回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外面白N7/。	ほぼ完整	蓋みあり。 焼成跡あり。外面に雲母残さ残あり。
493	透器類	杯蓋	4号塚第2次埴土層6区	①15.4 ②1.8 つまみ径2.0	外面回転ナズ。回転ヘラケリ後回転ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。B: やや不貝。C: 内外面白N7/。	ほぼ完整	焼成跡あり。 内面に火だすきあり。
494	透器類	杯蓋	4号塚第2次埴土層6区	①16.2 ②1.8 つまみ径2.3	外面回転ナズ。回転ヘラケズリ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内外面白N7/。	5/6	蓋みあり。 内面に工具痕あり。
495	透器類	杯蓋	4号塚第3次埴土層4区	①16.1 ②1.7 つまみ径1.8	外面回転ナズ。回転ヘラケズリ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 2mm以下の黄色粒子を含む。B: 良好。C: 内外面6Y。	ほぼ完整	内面に雲母残さ残あり。
496	透器類	杯蓋	4号塚第2次埴土層6区	①17.0 ②2.0 つまみ径1.8	外面回転ナズ。回転ヘラケズリ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。B: やや不貝。C: 内外面白2.5Y7/2。内外面白5Y6/2。	4/5	
497	透器類	杯蓋	4号塚第2次埴土層6区	②1.6+a つまみ径2.2	外面回転ナズ。回転ヘラケズリ。内面回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 1mm以下の黄色粒子を少量含む。雲母を含む。B: 不貝。C: 内外面5YR7/2。	口縁部 1/4	
498	透器類	杯A	4号塚第3次埴土層1区	①(14.4) ②4.2 ③(12.0)	外面回転ナズ。回転ヘラケリ後ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子、黄色粒子を少量含む。B: 不貝。C: 内外面白5YR7/2。	1/2	全体の隅に磨削している。
499	透器類	杯A	4号塚第3次埴土層黄色土	①(18.2) ②6.7 ③(14.6)	外面回転ナズ。回転ヘラケズリ。回転ヘラケリ後ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。雲母を含む。B: やや不貝。C: 内外面白N7/。内外面白2.5Y7/2。	1/6	
500	透器類	杯B	4号塚第3次埴土層ベム27層	①(12.2) ②3.6 ③(8.2)	外面回転ナズ。回転ヘラケリ後ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外面白N7/。	1/4	
501	透器類	杯B	4号塚第3次埴土層(4層)掘削	①17.5 ②6.6-5.7 ③11.2	外面回転ナズ。回転ヘラケリ後ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子、灰石、雲母を含む。B: 不貝。C: 内面に黄褐色10YR7/2。内外面白2.5Y6/2。	1/4	蓋みあり。
502	透器類	杯B	4号塚第2次埴土層6区	①18.1 ②6.5 ③11.0	外面回転ナズ。回転ヘラケリ後ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子、黄色粒子を含む。B: 不貝。C: 内外面白2.5YR7/2。	口縁部 1/2 底部 完整	蓋みあり。 焼成跡あり。
503	透器類	盃	4号塚第2次埴土層6区	①(19.0) ②2.8 ③(16.4)	外面回転ナズ。回転ヘラケリ後棒状工具によるナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: やや不貝。C: 内外面白5Y7/2。	1/3	蓋みあり。 焼成跡あり。 蓋状圧痕あり。
504	透器類	盃	4号塚第3次埴土層黄色土(1号)掘削6層	①(18.4) ②2.7+a ③(15.7)	外面回転ナズ。回転ヘラケリ後ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: やや不貝。C: 内外面白5Y7/2。	1/3	内面に火だすきあり。
505	透器類	盃	4号塚第2次埴土層6区	①(19.2) ②2.2 ③(17.1)	外面回転ナズ。回転ヘラケリ後ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の石質を少量含む。B: 良好。C: 内外面白5Y6/2。	1/4	
506	透器類	盃	4号塚第3次埴土層1区	①15.3 ②2.2 ③16.7	外面回転ナズ。回転ヘラケズリ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: やや不貝。C: 内外面白2.5Y6/2。	完整	焼成跡あり。
507	透器類	杯A	4号塚第3次埴土層黄色土	径6.6 幅12.6	外面回転ナズ。ヘラケリ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外面白2.5Y6/2。		器口の杯が破損している。 器底の腹目付痕あり。
508	透器類	盃	4号塚第3次埴土層黄色土	①(16.9) ②3.0+a	内外面回転ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外面白10YR7/2。内外面白2.5Y7/2。	口縁部 1/6	内面に磨削あり。

表11 70地点3・4号窯跡灰原1区出土遺物観察表

遺物 番号	種類	窯跡	出土地点	位置(m・d) ①:口塔 ②:高さ ③:造成 ④:土色等 ⑤:産地	形態・用途の特徴	A:粘土 B:焼成 C:色別	保存率	備考
509	褐色器	拝堂	3-4号窯跡灰原1区4号窯跡直前 右側上層褐色土	①11.9②2.5	外面回転ヘラケズリ、回転ナゲナリ、内面回転ナゲ、回転ナゲ後ナリ。	A:1mm以下白色粒子を含む、B:良好、C:外灰黒/内灰黒/。	3/4	内面に陥凹あり。
510	褐色器	拝堂	3-4号窯跡灰原1区焼ベルト29 層土器層	①0.2②2.6 つまみ径1.4	外面回転ナゲ、回転ヘラケズリ、内面回転ナゲ、回転ナゲ後ナリ。	A:3mm以下の石炭を少量含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な黒石を少量含む、B:良好、C:内灰黒/5Y5/7。	1/4	窪みあり。
511	褐色器	拝堂	3-4号窯跡灰原1区焼ベルト29 層土器層	①13.7②2.3-a	外面回転ナゲ、回転ヘラケリ後ナリ、内面回転ナゲ、回転ナゲ後ナリ。	A:2mm以下の石炭を含む、1mm以下の白色粒子を含む、B:やや不良、C:内灰黒/。	1/4	窪みあり。
512	褐色器	拝堂	3-4号窯跡灰原1区右側土器集 中表層	①13.8②3.1 つまみ径2.0	外面回転ナゲ、回転ヘラケリ後ナリ、内面回転ナゲ、回転ナゲ後ナリ。	A:1mm以下の白色粒子を含む、B:良好、C:外灰黒/5P5/7、内灰黒/。	3/4	外面に凹状の残片付着あり、内面に窪む焼き痕あり。
513	褐色器	拝堂	3-4号窯跡灰原1区焼ベルト12 層	①0.4②2.8 つまみ径1.8	外面回転ナゲ、回転ヘラケズリ、内面回転ナゲ、回転ナゲ後ナリ。	A:2mm以下の石炭を少量含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な黒石を少量含む、B:やや不良、C:内灰黒/。	3/4	窪みあり、縁部外面にのみ陥凹あり、内面に窪む焼き痕あり。
514	褐色器	拝堂	3-4号窯跡灰原1区焼ベルト29 層土器層	①0.1②3.6 つまみ径2.0	外面回転ナゲ、回転ヘラケリ後ナリ、内面回転ナゲ、回転ナゲ後ナリ。	A:4mm以下の石炭を少量含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な黒石を少量含む、B:良好、C:内灰黒/5Y6/7。	2/5	窪みあり、内面に窪む焼き痕あり。
515	褐色器	拝堂	3-4号窯跡灰原1区右側土器集 中表層	①15.2②2.5 つまみ径2.0	外面回転ナゲ、回転ヘラケリ後ナリ、内面回転ナゲ、回転ナゲ後ナリ。	A:2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む、B:良好、C:内灰黒/。	1/4	窪みあり、内面に窪む焼き痕あり、内面は凹状痕あり。
516	褐色器	拝堂	3-4号窯跡灰原1区4号窯跡直前 右側上層褐色土	①16.5②2.0 つまみ径1.8	外面回転ナゲ、回転ヘラケリ後ナリ、内面回転ナゲ、回転ナゲ後ナリ。	A:1mm以下の白色粒子を含む、B:良好、C:内灰黒/5P5/7。	5/6	窪みあり、凹状の残片付着あり、内面に窪む焼き痕あり、凹状痕あり。
517	褐色器	拝堂	3-4号窯跡灰原1区4号窯跡直前 右側上層褐色土	①17.6②3.4 つまみ径2.4	外面回転ナゲ、回転ヘラケズリ、内面回転ナゲ、回転ナゲ後ナリ。	A:1mm以下の白色粒子、黒石、石灰を含む、B:不良、C:外灰白/5Y5/7、内灰黒/黄緑/10Y7/3。	1/4	
518	褐色器	拝堂	3-4号窯跡灰原1区4号窯跡直前 右側上層褐色土	①17.8②3.8 つまみ径2.4	外面回転ナゲ、確認のため調整不明回転ヘラケズリから、内面回転ナゲ、回転ナゲ後ナリ。	A:1mm以下の白色粒子、黒石を含む、B:不良、C:外灰黄緑/10Y8/3、内灰黒/黄緑/10Y7/3。	1/3	
519	褐色器	拝堂	3-4号窯跡灰原1区下層褐色土	①18.6②4.4 つまみ径2.0	外面回転ナゲ、ナゲ後修繕工具によるナゲ、内面回転ナゲ、回転ナゲ後ナリ。	A:2mm以下の石炭を含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な黒石を少量含む、B:やや不良、C:内灰黒/5Y6/7。	不定	窪みあり。
520	褐色器	拝堂	3-4号窯跡灰原1区4号窯跡直前 右側上層褐色土	①14.2②1.7 つまみ径2.1	外面回転ナゲ、回転ヘラケリ後ナリ、内面回転ナゲ、回転ナゲ後ナリ。	A:2mm以下の白色粒子、黒石を含む、B:不良、C:内灰黒/黄緑/10Y7/3。	3/4	
521	褐色器	拝堂	3-4号窯跡灰原1区4号窯跡直前 右側上層褐色土	①16.3②2.5 つまみ径2.8	外面回転ナゲ、回転ヘラケズリ、内面回転ナゲ、回転ナゲ後ナリ。	A:2mm以下の白色粒子、黒石を含む、B:やや不良、C:外灰黒/2.5Y5/7、内灰黒/5P5/7。	3/4	窪みあり。
522	褐色器	拝堂	3-4号窯跡灰原1区右側土器集 中4号窯跡の間	①17.6②2.0 つまみ径2.1	外面回転ナゲ、回転ヘラケリ後修繕工具によるナゲ、内面回転ナゲ、回転ナゲ後ナリ。	A:2mm以下の白色粒子を含む、B:良好、C:外灰5Y5/7、内灰黒/。	不定	窪みあり。
523	褐色器	拝堂	3-4号窯跡灰原1区右側土器集 中表層	①19.3②1.9 つまみ径2.0	外面回転ナゲ、回転ヘラケリ後ナリ、内面回転ナゲ、回転ナゲ後ナリ。	A:2mm以下の白色粒子を含む、B:良好、C:外灰5Y5/7、内灰黒/。	7/8	
524	褐色器	拝堂	3-4号窯跡灰原1区右側土器集 中表層	①23.5②2.7 つまみ径2.3	外面回転ナゲ、回転ヘラケズリ、内面回転ナゲ、回転ナゲ後ナリ。	A:5mm以下の白色粒子を含む、2mm以下の黒色粒子を含む、B:良好、C:外灰黒/、内灰5Y6/7。	1/2	
525	褐色器	坪A	3-4号窯跡灰原1区右側土器集 中表層	①11.8②3.5③3.8	外面回転ナゲ、回転ヘラケズリ、内面回転ナゲ、回転ナゲ後ナリ。	A:3mm以下の石炭を含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な黒石を少量含む、B:やや不良、C:外灰黒/〜黒/〜黒/、内灰黒/。	口縁部 2/3 底部	窪みあり、内面に陥凹あり。
526	褐色器	坪A	3-4号窯跡灰原1区右側土器集 中表層	①11.3②3.2③17.5	外面回転ナゲ、回転ヘラケリ後ナリ、内面回転ナゲ、回転ナゲ後ナリ。	A:2mm以下の白色粒子を含む、B:良好、C:内灰黒/。	7/8	内面に陥凹あり。
527	褐色器	坪A	3-4号窯跡灰原1区右側土器集 中表層	①13.6②3.8③19.4	外面回転ナゲ、回転ヘラケリ後未調整、内面回転ナゲ。	A:2mm以下の白色粒子を含む、B:やや不良、C:外灰黒/黄緑/10Y8/2、内灰黒/8Y6/7。	1/3	
528	褐色器	坪A	3-4号窯跡灰原1区下層褐色土	①13.2②3.1③18.7	外面回転ナゲ、回転ヘラケリ後修繕工具によるナゲ、内面回転ナゲ、回転ナゲ後ナリ。	A:5mm以下の石炭を含む、2mm以下の白色粒子を少量含む、微細な黒石を含む、B:良好、C:外灰黒/5Y5/7、内灰黒/。	口縁部 1/3 底部	外面に陥凹あり、内面に窪む焼き痕あり。

通物 番号	種類	部材	出土地点	法量 (cm・g) (10位 空部真 3位真 法量合計 空部真)	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色別	残存率	備考
529	須恵部	杯A	3-4号窯跡1区1区右側土器敷 敷層	①14.1 ②3.4 ③9.4	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後木調整、内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下白色粘土を少量含む、 焼成を要せず。B: やや不 良。C: 内径真10.96/L、内 径真10.96/L。	2/3	
530	須恵部	杯A	3-4号窯跡1区1区4号窯跡前 右側土器敷層	①13.8 ②3.4 ③10.0	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下白色粘土。長石を 含む。B: やや不。C: 内径真 2.59/L。	1/3	
531	須恵部	杯A	3-4号窯跡1区1区土器敷層	①16.0 ②4.3+α ③ 9.4	外面回転ナズ、回転ヘラケツ リ。内面回転ナズ、ナズ。	A: 3mm以下の石質を少量含む、 1mm以下の白色粘土を含む、 焼成を要せず。B: 良好。C: 内径真6/L。	1/6	釜みあり。 内外面に凹凸さまざまあり。 内面に環状溝あり。
532	須恵部	杯B	3-4号窯跡1区1区横ベルト28 層土器敷	①11.4 ②3.8 ③6.8	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の石質を含む。 1mm以下の白色粘土を含む、 焼成を要せず。B: 良好。C: 内径真2.59/L。	①1層部 1/3 焼成 完全	工具痕あり。
533	須恵部	杯B	3-4号窯跡1区1区右側土器敷 敷層	①13.0 ②4.4 ③17.8	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粘土を少量 含む。B: 良好。C: 内径真6/L、 内径真6/L。	1/3	
534	須恵部	杯B	3-4号窯跡1区1区4号窯跡前 右側土器敷層	①13.1 ②4.4 ③7.8	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粘土を含む。 B: 良好。C: 内径真6/L、 内径真6/L。	1/4 焼成 完全	
535	須恵部	杯B	3-4号窯跡1区1区4号窯跡前 右側土器敷層	①14.2 ②3.7 ③9.1	外面回転ナズ後ナズ、回転ナ ズ、回転ヘラ切り後ナズ。内 面回転ナズ、回転ナズ後ナ ズ。	A: 2mm以下の白色粘土、黄褐色 土を含む。B: やや不。C: 内 径真6/L、内径真2.59/L。	①1層部 1/4 焼成 完全	
536	須恵部	杯B	3-4号窯跡1区1区右側土器敷 中黄敷層	①17.0 ②6.0 ③9.8	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粘土を含む。 B: やや不。C: 内径真 2.59/L。内径真2.59/L。	①1層部 1/3 焼成 完全	工具痕・圧痕あり。
537	須恵部	皿	3-4号窯跡1区1区土器敷(黄色 土)	①13.8 ②2.1 ③10.8	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の石質を少量含む、 焼成を要せず。B: 良好。C: 内径真6/L。	1/2	内外面に凹凸さまざまあり。 細線あり。
538	須恵部	皿	3-4号窯跡1区1区4号窯跡前 右側土器敷層	①14.0 ②2.8 ③11.7	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粘土、少量 を含まず。B: 良好。C: 内 径真5.94/L。	1/2	外面に凹凸さまざまあり。
539	須恵部	皿	3-4号窯跡1区1区横ベルト29 層土器敷	①14.4 ②2.8 ③11.8	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粘土。石質を 含む。焼成を要せず。B: 良 好。C: 内径真6/L。	1/2	内面に凹凸さまざまあり。
540	須恵部	皿	3-4号窯跡1区1区横ベルト30 層・3-4号窯跡1区1区土器敷	①18.8 ②2.5 ③15.5	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粘土を少量 含む。B: 良好。C: 内径真6/L、 内径真6/L。	3/4	釜みあり。 内面に凹凸さまざま環状 凸の付属あり。
541	須恵部	皿	3-4号窯跡1区1区4号窯跡前 右側土器敷層	①18.8 ②2.0 ③15.2	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の石質、黄褐色土を 含む。B: やや不。C: 内径真 2.59/L。	1/2	
542	須恵部	白台皿	3-4号窯跡1区1区右側土器敷 敷層	①20.4 ②2.8 ③14.4	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粘土を含む。 B: やや不。C: 内径真6/L、 内径真6/L。	1/8	釜みあり。
543	須恵部	高杯	3-4号窯跡1区1区4号窯跡前 右側土器敷層	①20.9 ②1.6+α	外面回転ナズ、回転ヘラケツ リ。内面回転ナズ、回転ナズ 後ナズ。	A: 3mm以下の白色粘土。長石を 含む。B: 不。C: 内径真 0.59/L。	1/3	
544	須恵部	高杯	3-4号窯跡1区1区横ベルト29 層土器敷	①23.6 ②1.7+α	外面回転ナズ、回転ヘラケツ リ。回転ナズ後回転ナズ 後ナズ。内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粘土を含む。 B: 良好。C: 内径真6/L、 内径真6/L。	杯部 1/2	釜みあり。
545	須恵部	高杯	3-4号窯跡1区1区中黄敷層土 器下層土器敷	②14.1+α ③12.7	外面回転ナズ、内面回転ナ ズ。ナズ木調整。ナズ。	A: 2mm以下の石質、白色粘土を 少量含む。1mm以下の黄褐色 土を含む、焼成を要せず。B: 良好。C: 内径真5.97/L。	杯部 1/4 加部 焼成 完全	
546	須恵部	香盤	3-4号窯跡1区1区右側土器敷 中黄敷層	①12.9 ②3.7 ③8.1	外面回転ナズ、回転ヘラケツ リ。内面回転ナズ、回転ナズ 後ナズ。	A: 3mm以下の白色粘土を含む。 1mm以下の石質を含む。B: や や不。C: 内径真2.59/L、内 径真2.59/L。	完全	焼成面あり。
547	須恵部	香	3-4号窯跡1区1区右側土器敷 中黄敷層	①8.8 ②4.0+α	外面回転ナズ、内面回転ナ ズ。回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粘土を含む。 B: 良好。C: 内径真6/L、 内径真6/L。	①1層部 1/3 焼成 完全	
548	須恵部	香	3-4号窯跡1区1区4号窯跡前 右側土器敷層	①11.6 ②4.7+α	内外面回転ナズ。	A: 2mm以下の石質を含む。B: 良好。C: 内径真6/L。	①1層部 1/4	内面に環状あり。
549	須恵部	長筒香	3-4号窯跡1区1区4号窯跡前 右側土器敷層	①12.6 ②5.9+α	外面回転ナズ、回転ナズ後ナ ズ。内面回転ナズ。	A: 3mm以下の白色粘土を含む。 B: 良好。C: 内径真6/L、 内径真6/L。	①1層部 1/8	
550	須恵部	長筒香	3-4号窯跡1区1区4号窯跡 前土器敷層(土器下層)	②13.5+α ③10.0 最大真部10.0	外面回転ナズ後ナズ、回転ナ ズ、回転ヘラケツリ。内面 回転ナズ後ナズ。内面回転ナ ズ。	A: 3mm以下の石質を少量含む、 1mm以下の白色粘土を少量 含む、焼成を要せず。B: やや不。C: 内径真3.96/L。	杯部 1/3 加部 焼成 完全	内面に付属あり。



遺物 番号	種類	器種	出土地点	流量(cm・g) ①②③ ④⑤⑥⑦ ⑧⑨⑩ ⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色別	残存率	備考
551	洪赤器	短頸瓶	3-4号窯跡灰原1区横へらト28 層土層	①(12.8) ②(3.3)+a 最大断面径(2.6)	外面回転ナズ、回転へらケズ リ後回転ナズ、内面回転ナズ	A: 2mm以下の白色粒子、石灰を 多量含む。B: やや不良。C: 内 面NS/～灰25Y6/1、内面NS。	②断面 1/5 断面 1/2	
552	洪赤器	瓶	3-4号窯跡灰原1区下層赤土 +3-4号窯跡灰原4区下層赤 土層	①15.8+a 最大断面径(2.0)	外面回転ナズ、文線、へらケ ズリ。内面回転ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量 含む。B: やや不良。C: 内 面25Y4/L、内面25Y6/1。	1/3	
553	洪赤器	鉢	3-4号窯跡灰原1区4号窯跡直前 右側上層褐色土	②4.9+a ③(10.6)	外面回転ナズ、回転へら切り 後ナズ。内面回転ナズ。磨 き加工によるナズ。回転ナズ 後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子。 B: やや不良。C: 内 面25Y6/2、内面灰25Y5/L。	断面のみ	外面に刺突痕・圧痕あり。
554	洪土器	不明	3-4号窯跡灰原1区右側土器 層(新)	部5.6 部4.6 部0.7	外面スズ圧痕、圧痕	A: 1mm以下の白色粒子。赤色粒 子。石灰を含む。B: 不良。C: 外面25Y6/1。	小片	裏面線あり。

表12 70地点3・4号窯跡灰原2・3区出土遺物観察表

遺物 番号	種類	器種	出土地点	流量(cm・g) ①②③ ④⑤⑥ ⑦⑧⑨ ⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色別	残存率	備考
555	洪赤器	皿	3-4号窯跡灰原2-3区窯原へら ト③号東下112層	①(14.0) ②(2.1) ③(10.6)	外面回転ナズ。回転へら切り 後ナズ。内面回転ナズ。回転 ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。 B: 良好。C: 内面NS。	1/2	

表13 70地点3・4号窯跡灰原3区出土遺物観察表

遺物 番号	種類	器種	出土地点	流量(cm・g) ①②③ ④⑤⑥ ⑦⑧⑨ ⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色別	残存率	備考
556	洪赤器	杯蓋	3-4号窯跡灰原3区内れた黄色 土	①(12.8) ②(3)+a	外面ナズ。回転ナズ。内面回 転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。 2mm以下の黒色粒子を含む。B: 良好。C: 内面NS/、内面NS。	1/6	内面に雲ね跡多 あり。
557	洪赤器	杯A	3-4号窯跡灰原3区2層赤土③ 号東下10層	①(8.4) ②(2.3) ③(7.7)	外面回転ナズ。回転へら切 り。内面回転ナズ。回転ナズ 後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量 含む。B: 良好。C: 内面NS。	1/4	
558	洪赤器	酒杯	3-4号窯跡灰原3区	①(21.1) ②(5.1) 断面径10.5	外面回転ナズ。回転へら切り 後ナズ。内面回転ナズ。回転 ナズナズ後ナズ。回転ナズ 後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子。赤色粒 子を含む。B: 良好。C: 内面 NS/、内面NS/。	ほぼ完全	雲みあり。 外面に線状あり。
559	洪赤器	甕	3-4号窯跡灰原3区内れた黄色 土	②(9.0)+a ③(11.0)	外面回転ナズ。回転へらケズ リ。回転へら切り。内面回 転ナズ。回転ナズ後ナズ。ナ ズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。 B: やや不良。C: 内面灰白 3Y7/1。	断面 1/4	

表14 70地点3・4号窯跡灰原4・5区出土遺物観察表

遺物 番号	種類	器種	出土地点	流量(cm・g) ①②③ ④⑤⑥⑦ ⑧⑨⑩ ⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色別	残存率	備考
560	洪赤器	皿	3-4号窯跡灰原4-5区横へらト46 層白色砂質層(汚)	②(8)+a	外面略子目タタキ。内面滑 り肌。	A: 3mm以下の石灰を多量含 む。1mm以下の白色粒子を多 量含む。微細な石灰を含む。B: やや不良。C: 内面灰NS/、内 面灰25Y6/1。	小片	縁部による磨痕あり。 外面に略子目タタキあ り。

表15 70地点3・4号窯跡灰原4区出土遺物観察表

遺物番号	種類	器種	出土地点	質量(cm・g) ①(口縁・交差部) ②(底径) ③(高さ) ④(口径)	形状・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色調	残存率	備考
561	須恵器	杯蓋	3-4号窯跡灰原4区黒色土	①(12.4) ②(3.4) つまみ径1.7	外面回転ナズ、回転ヘラ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ痕ナズ。	A: 3mm以下の黒色粘土。白色粒子を含む。B: 良好。C: 内赤灰N6/L。	1/4	蓋みあり。内面に擦ね跡あり。
562	須恵器	杯蓋	3-4号窯跡灰原4区黒土層下層粘土層	①(12.8) ②(3.8) つまみ径1.9	外面回転ナズ、回転ヘラ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ痕ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。B: やや不良。C: 内赤土N6/10YR7/4。内面灰2.5Y6/L。	1/4	工具痕あり。
563	須恵器	杯蓋	3-4号窯跡灰原4区黒色土	①(12.9) ②(3.3)+a	外面回転ヘラ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ痕ナズ。	A: 2mm以下の石炭を少量含む。内面に白色粒子を少量含む。黒色炭を含む。B: 良好。C: 内赤土N6/L。	1/4	蓋みあり。
564	須恵器	杯蓋	3-4号窯跡灰原4区黒色土	①(13.6) ②(2.9) つまみ径2.1	外面回転ナズ、回転ヘラ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ痕ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内赤土N6/L。内面灰10YR5/L。	完形	蓋みあり。
565	須恵器	杯蓋	3-4号窯跡灰原4区黒土層下層粘土層	①(13.6) ②(2.8) つまみ径2.0	外面回転ナズ、回転ヘラ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ痕ナズ。	A: 3mm以下の石炭を含む。1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内赤土N6/L。内面灰10YR5/L。	2/5	蓋みあり。内面に擦ね跡も残存あり。
566	須恵器	杯蓋	3-4号窯跡灰原4区黒色土	①(13.8) ②(2.6)+a	外面回転ヘラ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ痕ナズ。	A: 2mm以下の石炭を少量含む。1mm以下の白色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内赤土N6/L。	2/5	蓋みあり。
567	須恵器	杯蓋	3-4号窯跡灰原4区黒色土	①(14.2) ②(3.2) つまみ径1.7	外面回転ナズ、回転ヘラ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ痕ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内赤土N6/L。	1/4	内面に擦ね跡も残存あり。
568	須恵器	杯蓋	3-4号窯跡灰原4区黒色土	①(14.4) ②(2.9) つまみ径2.0	外面回転ナズ、回転ヘラ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ痕ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。2mm以下の黒色粒子を含む。B: 良好。C: 内赤土N6/L。	1/4	内面に擦ね跡も残存あり。
569	須恵器	杯蓋	3-4号窯跡灰原4区黒色土	①(14.0) ②(2.3)+a	外面回転ヘラ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ痕ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内赤土N6/L。	1/4	蓋みあり。内面に擦ね跡も残存あり。
570	須恵器	杯蓋	3-4号窯跡灰原4区黒土層下層粘土層	①(14.5) ②(2.6) つまみ径1.3	外面回転ナズ、回転ヘラ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ痕ナズ。	A: 2mm以下の石炭を少量含む。1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内赤土N6/L。	口縁部 1/4	
571	須恵器	杯蓋	3-4号窯跡灰原4区黒土層下層粘土層	①(14.7) ②(3.1) つまみ径2.0	外面回転ナズ、回転ヘラ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ痕ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内赤土N6/5Y5/L。	1/2	蓋みあり。外面に擦ね跡も残存あり。内面に口縁部の残存も残存あり。内面に擦ね跡も残存あり。
572	須恵器	杯蓋	3-4号窯跡灰原4区黒色土	①(14.6) ②(2.8)+a	外面回転ヘラ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ痕ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内赤土N6/L。	1/4	内面に擦ね跡も残存あり。
573	須恵器	杯蓋	3-4号窯跡灰原4区黒色土	①(15.0) ②(3.3) つまみ径1.8	外面回転ヘラ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ痕ナズ。	A: 2mm以下の黒色粘土。白色粒子を含む。B: 良好。C: 内赤土N6/L。	1/4	蓋みあり。外面に擦ね跡も残存あり。内面に擦ね跡も残存あり。
574	須恵器	杯蓋	3-4号窯跡灰原4区黒色土	①(15.9) ②(2.2)+a	外面回転ナズ、回転ヘラ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ痕ナズ。内面に擦ね跡も残存あり。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内赤土N6/L。	1/3	
575	須恵器	杯蓋	3-4号窯跡灰原4区黒土層下層粘土層	①(15.6) ②(3.1)+a	外面ナズ。回転ヘラ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ痕ナズ。	A: 3mm以下の石炭を少量含む。黒色炭を含む。B: 良好。C: 内赤土N6/L。内面灰10YR7/4。	1/4	蓋みあり。外面に擦ね跡も残存あり。
576	須恵器	杯蓋	3-4号窯跡灰原4区54・57・59・61・62層黒色土層下層砂質土層(ベト土記)	①(16.4) ②(2.9) つまみ径2.5	外面回転ナズ、回転ヘラ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ痕ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内赤土N6/L。内赤土N7/L。	7/8	蓋みあり。
577	須恵器	杯蓋	3-4号窯跡灰原4区黒色土	①(16.6) ②(2.9) つまみ径2.1	外面回転ナズ、回転ヘラ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ痕ナズ。	A: 3mm以下の石炭を含む。1mm以下の白色粒子を少量含む。黒色炭を少量含む。B: やや不良。C: 内赤土5Y5/L。	1/4	蓋みあり。
578	須恵器	杯蓋	3-4号窯跡灰原4区17層	①(17.3) ②(2.6) つまみ径2.3	外面回転ナズ、回転ヘラ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ痕ナズ。内面に擦ね跡も残存あり。	A: 黒褐色白色粒子を少量含む。B: やや不良。C: 内赤土N6/L。内面灰2.5Y6/L。	完形	蓋みあり。
579	須恵器	杯蓋	3-4号窯跡灰原4区黒色土	①(17.7) ②(2.6) つまみ径2.6	外面回転ナズ、回転ヘラ切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ痕ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子。褐色粒子。石炭を含む。黒色炭を含む。B: 不良。C: 内赤土5Y6/6/L。	3/5	
580	須恵器	杯蓋	3-4号窯跡灰原4区黒色土	①(18.8) ②(4.0) つまみ径1.6	内赤土回転ナズ。回転ナズ痕ナズ。内面に擦ね跡も残存あり。	A: 4mm以下の石炭を含む。1mm以下の白色粒子を含む。黒色炭を少量含む。B: やや不良。C: 内赤土N6/L。	ほぼ完形	蓋みあり。

建物 番号	様式	用途	出土地点	品質 (cm・g) (X)付 空室地 3 添項 別途仕様 各種大抵	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色別	残存率	備考
581	洋風邸	洋風	3-4号東洋沢原4区254-57-59-1 42-62東葉色土下層砂質土 (腐べらト3区)	①(146)②3.4 つまみ部2.6	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の石実を多量含む、1mm以下の白色粒子を含む、陶器な長石を少量含む。B: やや不貞。C: 内黄NS、内灰DN7。	①線部 1/4	
582	洋風邸	洋風	3-4号東洋沢原4区254-57-59-1 42-62東葉色土下層砂質土	①(151)②1.9 つまみ部1.8	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: やや不貞。C: 内黄NS、内灰DN7、内黄NS5/2、内灰SN4/1。	1/4	
583	洋風邸	洋風	3-4号東洋沢原4区254-57-59-1 42-62東葉色土下層砂質土 (腐べらト3区)	①122②1.3 つまみ部1.6	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ後ハケ工具によるナズ、回転ヘラケリ後後修具によるナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内灰NS。	9/10	内面に火だすきあり。内面に藍化粧模様あり。
584	洋風邸	洋風	3-4号東洋沢原4区254-57-59-1 42-62東葉色土下層砂質土	①138②1.9 つまみ部1.7	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む、2mm以下の黒色粒子を含む。B: やや不貞。C: 内黄NS25V4/1、内黄NS5/6/1。	1/2	
585	洋風邸	洋風	3-4号東洋沢原4区葉色土	①(143)②2.5 つまみ部1.9	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の石実を少量含む。1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内灰NS。	1/3	苔みあり。へう記号あり。調整下層。
586	洋風邸	洋風	3-4号東洋沢原4区葉色土	①(145)②2.1 つまみ部1.8	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 不貞。C: 内灰NS、内黄NS10V7/2、内黄NS10V6/1。	11/12	苔みあり。圧縮(フェノ)あり。
587	洋風邸	洋風	3-4号東洋沢原4区葉色土	①164②1.9 つまみ部2.2	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。薄い回転ナズ。	A: 2mm以下の石実を少量含む。1mm以下の白色粒子を含む。陶器な長石を少量含む。B: やや不貞。C: 内灰NS、内黄NS5/6/1。	1/2	
588	洋風邸	洋風	3-4号東洋沢原4区254-57-59-1 42-62東葉色土下層砂質土	①(170)②2.7 つまみ部2.3	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。指オサエ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 不貞。C: 内灰NS、内黄NS5/3。	1/4	へう書流線部「大」。
589	洋風邸	洋風	3-4号東洋沢原4区254-57-59-1 42-62東葉色土下層砂質土	①130 a つまみ部2.2	外面回転ナズ、ナズ。内面ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。1mm以下の石実を含む。陶器な長石を少量含む。B: 不貞。C: 内灰NS、内黄NS10V7/2。	つまみ部 2/3	つまみ部が凹状。
590	洋風邸	洋風	3-4号東洋沢原4区葉色土	①186②1.6 つまみ部1.9	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後修具によるナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 不貞。C: 内灰NS、内黄NS5/6/6。	1/2	
591	洋風邸	洋風	3-4号東洋沢原4区254-57-59-1 42-62東葉色土下層砂質土	①8.9②2.5③2.2	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ後修具。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の石実を多量含む。1mm以下の白色粒子を含む。B: やや不貞。C: 内灰NS、内灰DN7。	①線部 3/5 線部 凹形	
592	洋風邸	洋風	3-4号東洋沢原4区葉色土	①(160)②2.1③(16.4)	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ後木製。内面回転ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内灰NS。	1/6	
593	洋風邸	洋風	3-4号東洋沢原4区葉色土	①(121)②3.3③(19.6)	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 不貞。C: 内灰NS、内黄NS10V6/2、内灰NS10V7/2。	1/4	
594	洋風邸	洋風	3-4号東洋沢原4区254-57-59-1 42-62東葉色土(灰)と苔	①129②1.4③(19.3)	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。B: やや不貞。C: 内灰NS、内黄NS5V4/1。	①線部 5/6 線部 凹形	
595	洋風邸	洋風	3-4号東洋沢原4区葉色土	①(130)②3.1③(18.0)	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: やや不貞。C: 内灰NS、内黄NS25V5/1。	1/4	
596	洋風邸	洋風	3-4号東洋沢原4区葉色土	①(137)②3.9③(19.0)	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内灰NS、内黄NS10V6/2。	1/5	
597	洋風邸	洋風	3-4号東洋沢原4区葉色土	①(132)②3.1③(19.2)	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。陶器な長石を含む。B: 良好。C: 内灰NS、内灰NS。	1/6	内面に火だすきあり。
598	洋風邸	洋風	3-4号東洋沢原4区254-57-59-1 42-62東葉色土(灰)と苔	①332②3.7③(19.4)	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ後ナズ。回転ヘラケズリ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内灰NS。	定形	焼成時影あり。
599	洋風邸	洋風	3-4号東洋沢原4区葉色土	①(132)②3.6③(18.8)	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内灰NS、内黄NS5V6/1。	1/5	
600	洋風邸	洋風	3-4号東洋沢原4区254-57-59-1 42-62東葉色土(灰)と苔	①134②1.1③(19.9)	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。B: 不貞。C: 内灰NS、内黄NS5V7/2。	定形	焼成時影あり。
601	洋風邸	洋風	3-4号東洋沢原4区254-57-59-1 42-62東葉色土下層砂質土	①(142)②3.3③(19.2)	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ後修具ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の石実を多量含む。1mm以下の白色粒子を少量含む。陶器な長石を少量含む。B: やや不貞。C: 内灰NS、内黄NS5/6/1。	1/6	

透物 番号	種類	部材	出土地点	法量 (cm・g) (1)口径 (2)深さ (3)底径 法量(台形・台盤大径)	形態・技法の特徴	A: 胎土 B: 焼成 C: 色別	残存率	備考
602	透器部	杯A	3-4号家跡沢原4区黒色土	①(14.0) ②3.4 ③(8.4)	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。 B: 良好。C: 内径内径5.9/7.1。	1/4	
603	透器部	杯A	3-4号家跡沢原4区下層黒土層	①(13.8) ②3.6 ③(10.0)	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ。内面回転ナズ、内面 回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の石炭を含む。 2mm以下の白色粒子を含む。微 細な長石も少量含む。B: 不良。 C: 外径7.5/6.2-内径 7.5/6.2。内径5.9/7.1。	1/2	蓋のみあり。 内面に穴状すきあり。
604	透器部	杯A	3-4号家跡沢原4区下層黒土層	①(14.0) ②3.3 ③(9.2)	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子、石炭等 を含む。微細な長石も少量含む。 B: 不良。C: 内径5.9/7.1。	1/4	内面に穴状すきあり。 内面に黒染あり。
605	透器部	杯A	3-4号家跡沢原4区黒色土	①(14.0) ②3.4 + ③ (9.4)	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。 B: 不良。C: 内径内径 10.9/8.2。	1/6	
606	透器部	杯A	3-4号家跡沢原4区黒色土	①(15.0) ②4.1 + ③ (9.6)	外面回転ナズ、回転ヘラ切 り。内面回転ナズ、回転ナズ 後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子。黒色粒 子も含む。微細な長石を含む。 B: 不良。C: 外径12.3/7.1。 内径10.2/5.6/7.1。	1/4	内面に黒染あり。
607	透器部	杯A	3-4号家跡沢原4区16層(黒土)	①(14.8) ②4.1 ③(10.0)	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 微細な白色粒子。長石を含む。 B: 不良。C: 外径10.1-内径 7.5/7.4。内径10.1-内径 7.5/6.4。		
608	透器部	杯A	3-4号家跡沢原4区下層黒土層	①(14.8) ②4.2-4.3 ③(7.9)	外面回転ナズ、回転ヘラケツ リ後ナズ。内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A: 4mm以下の石炭を含む。 1mm以下の白色粒子を含む。B: やや不良。C: 外径12.1-内径 7.5/6.4。	1/2	蓋のみあり。 内面に穴状すきあり。 内面に黒染あり。
609	透器部	杯A	3-4号家跡沢原4区12-16層(黒土)	①(15.8) ②3.9 ③(8.6)	外面回転ナズ、回転ヘラケツ リ。内面回転ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。 B: 良好。C: 内径内径。	1/6	内面に穴状すきあり。
610	透器部	杯A	3-4号家跡沢原4区12-16層(黒土)	①(16.0) ②3.6 + a	外面回転ナズ、回転ヘラケツ リ。内面回転ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子も少量含む。 B: 良好。C: 内径内径 5.9/7.1。	1/6	内面に穴状すきあり。
611	透器部	杯A	3-4号家跡沢原4区下層黒土層	②4.0 + ③(8.0)	外面回転ナズ、回転ヘラケツ リ。内面回転ナズ、回転ナズ 後ナズ。	A: 2mm以下の石炭も少量含む。 1mm以下の白色粒子も少量含む。 微細な長石も少量含む。B: やや不良。C: 外径7.5/6.1-内 径7.1/6.1。内径7.5/6.1。	1/4	内面に穴状すきあり。 内面に黒染あり。
612	透器部	杯B0	3-4号家跡沢原4区黒色土	①(11.4) ②3.6 ③(6.0)	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後木調整。内面回転ナズ。回 転ナズ後物状工具によるナ ズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。 B: 良好。C: 内径内径。	1/8	
613	透器部	杯B0	3-4号家跡沢原4区黒色土	①(11.4) ②3.3-3.7 ③(7.2)	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子も少量含む。 B: 良好。C: 内径内径。	ほぼ完好	内面に黒染も残あり。
614	透器部	杯B0	3-4号家跡沢原4区上層黒色土 と下層黒色土(区別)と置	①(11.7) ②3.5 ③(6.7)	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の長石、白色粒子を 含む。B: 良好。C: 内径 NA/。	完好	断面厚みあり。 内面に黒染も残あり。 内面に特状のアタリあり。
615	透器部	杯B0	3-4号家跡沢原4区下層黒色土	①(11.8) ②3.7-4.0 ③(6.4)	外面回転ナズ、回転ヘラ切 り。内面回転ナズ、回転ナズ 後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子。石炭等 を含む。B: 良好。C: 内径 NS/。	ほぼ完好	内面に黒染あり。
616	透器部	杯B0	3-4号家跡沢原4区黒色土	①(11.9) ②3.8 ③(7.2)	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。 2mm以下の黒色粒子を含む。B: 良好。C: 内径内径。	1/4	
617	透器部	杯B0	3-4号家跡沢原4区下層黒土層	①(12.1) ②4.5 ③(7.8)	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の石炭も少量含む。 1mm以下の白色粒子も少量含む。 微細な長石も少量含む。B: 不良。C: 外径7.5/7.0-内径 5.9/6.4。内径7.5/7.0。	2/5	
618	透器部	杯B0	3-4号家跡沢原4区黒色土	①(12.9) ②4.5 ③(9.0)	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。 B: 良好。C: 内径内径。	1/4	
619	透器部	杯B0	3-4号家跡沢原4区黒色土	①(13.0) ②4.4 ③(7.3)	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後木調整。内面回転ナズ。回 転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の黒色粒子も少量含む。 B: やや不良。C: 内径 NA/。内径7.5/6.1。	ほぼ 1/2 程度 良好	
620	透器部	杯B0	3-4号家跡沢原4区下層黒土層	①(14.2) ②4.8 ③(8.7)	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 4mm以下の石炭を含む。 1mm以下の白色粒子を含む。微 細な長石も少量含む。B: 不良。 C: 外径10.9/9.6-内径10.1-内径 5.9/6.2。内径7.5/7.0。	1/4	

遺物 番号	様相	数量	出土地点	品質(cm・g) ①(長)②(幅)③(厚) ④(重量)⑤(備付)	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色別	保存率	備考
621	洪赤色	円形	3-4号溝跡区画4区黒色土	①(14.6)②(3.8)③(9.0)	外面回転ナズ後ナズ、回転ナズ。回転へつ切り、内面回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含有、1mm以下の黒色粒子、黒石を含む。B: 良好。C: 内径N4、内径N6/L。	1/2 底部 変形	内面に黒ね殻片あり。
622	洪赤色	円形	3-4号溝跡区画4区黒色土	①(14.8)②(3.6)③(10.0)	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子、黒石を含む。B: 良好。C: 内径N4、内径N6/L。	1/4	
623	洪赤色	円形	3-4号溝跡区画4区黒色土	①(13.8)②(3.9)③(9.6)	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後後状工具によるナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含有。B: 良好。C: 内径N6/L。	①底部 1/6 底部 1/2	
624	洪赤色	円形	3-4号溝跡区画4区黒色土	①(14.0)②(3.8)③(8.3)	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後後状工具によるナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含有。B: 良好。C: 内径N6/L。	1/4	
625	洪赤色	円形	3-4号溝跡区画4区黒色土	①(13.8)②(4.2)③(8.2)	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含有。B: 良好。C: 内径N6/L。	①底部 3/4 底部 変形	
626	洪赤色	円形	3-4号溝跡区画4区黒色土	①(13.6)②(3.9)③(8.0)	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内径N4/L。	①底部 1/3 底部 変形	
627	洪赤色	円形	3-4号溝跡区画4区黒色土	①(13.6)②(3.9)③(8.2)	外面回転ナズ、回転へつ切り後本調整、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を少量含む。B: やや不良。C: 内径N4、内径N6/L。	3/4	
628	洪赤色	円形	3-4号溝跡区画4区黒色土	①(16.0)②(4.5)③(11.0)	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ、ロクの日状回転ナズ後ナズ。	A: 微細な白色粒子を少量含む。B: 不良。C: 内径10VR6/L、内径10VR7/L。	1/4	
629	洪赤色	円形	3-4号溝跡区画4区黒色土	①(15.7)②(4.5)③(9.2)	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含有。B: やや不良。C: 本径15Y7/L～内径6/L、内径N6/L。	①底部 1/3 底部 変形	歪みあり。
630	洪赤色	円形	3-4号溝跡区画4区黒色土	①(15.5)②(5.1)③(5.5)④(8.8)	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。B: やや不良。C: 本径15Y6/L、内径5Y6/L。	1/2	
631	洪赤色	円形	3-4号溝跡区画4区黒色土	①(16.2)②(5.6)③(10.0)	外面回転ナズ、回転ナズ後ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含有。B: 良好。C: 内径5Y6/L。	1/2	形状変形あり。
632	洪赤色	円形	3-4号溝跡区画4区上層黒色土 と下層黒色土(灰層)上層	①(17.1)②(5.6)③(6.0)④(10.0)	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子、黒石を含む。B: 不良。C: 内径N6、内径25Y6/L。	①底部 3/4 底部 変形	歪みあり。
633	洪赤色 洪赤色	円形 円形	3-4号溝跡区画4区	洪赤色: ①(12.7)②(4.8)③(7.8) 洪赤色: ①(4.3)	外面回転ナズ、回転へつ切り後調整圧縮。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	洪赤色 A: 2mm以下の白色粒子を含有。B: 良好。C: 内径10VR6/L。 洪赤色 A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内径10VR4/L、内径10VR5/L。	洪赤色 変形 洪赤色 変形	洪赤色: 歪みあり、地味変形あり。 洪赤色: 歪みあり、洪赤色と洪赤色が隣接する。
634	洪赤色	不明	3-4号溝跡区画4区黒色土(灰層土)	①(14.8)②(3.2)③(a)	内外面回転ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含有。B: 良好。C: 内径35Y5/L。	①底部 1/3	
635	洪赤色	不明	3-4号溝跡区画4区下層黒色土	①(9.4)②(3.7)③(a)	外面回転ナズ、調整カ、内面回転ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含有。B: 良好。C: 内径N7/L、内径N6/L。	①底部 1/4	歪みあり。
636	洪赤色	不明	3-4号溝跡区画4区11層	①(22.0)②(8.7)③(a)	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含有。B: 1mm以下の黒石を少量含む。B: やや不良。C: 内径25Y6/L、内径25Y6/L。	①底部 1/3	表面は付付物あり。
637	洪赤色	皿	3-4号溝跡区画4区黒色土	①(12.8)②(1.7)③(13.0)	外面回転ナズ、回転へつ切り後後状工具によるナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含有、1mm以下の黒石、黒色粒子を含む。B: 良好。C: 内径N5/L。	1/4	
638	洪赤色	皿	3-4号溝跡区画4区黒色土	①(13.2)②(2.8)③(8.6)	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の黒石、白色粒子を含む。B: 良好。C: 内径N5、内径25Y5/L。	1/4	
639	洪赤色	皿	3-4号溝跡区画4区下層黒色土	上: ①(13.4) 下: ①(3.7)②(1.9)③(10.9)	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	上: A: 2mm以下の白色粒子を含有。B: 良好。C: 内径N5/L。 下: A: 2mm以下の白色粒子を含有。B: 良好。C: 内径N5/L。	上: 1/2 下: 2/3	皿が2つ隣接する。
640	洪赤色	皿	3-4号溝跡区画4区黒色土	①(14.4)②(1.7)③(11.6)	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含有。B: 不良。C: 内径10VR6/L。	1/2	内面に穴だてあり。

透物 番号	種類	規格	出土地点	法量(cm・g) ①(注) 交差法 ②流注 法(注) 透物大径	形態・性状の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色物	残存率	備考
641	透物器	皿	3-4号築隼沢4区黒色土	①(14.4) ②2.3+a ③ (11.6)	外面回転ナズ、回転へう切り 後ナズ、内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含有 シ、やや不純。C: 内径真径 2.5V6/L	1/3	
642	透物器	皿	3-4号築隼沢4区黒色土	①17.0 ②3.1 ③14.0	外面回転ナズ、回転へう切り 後ナズ、内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含有 シ、良好。C: 内径真径3V4/L	1/2	
643	透物器	皿	3-4号築隼沢4区黒色土	①(18.0) ②2.4 ③(14.2)	外面回転ナズ、回転へう切り 後ナズ、内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含有 シ、良好。C: 内径真径3V6/L	1/2	外面に穴大だすきあり。
644	透物器	皿	3-4号築隼沢4区黒色土	①(17.8) ②3.0 ③(14.8)	外面回転ナズ、回転へう切り 後ナズ、内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含有 シ、良好。C: 内径真径3V6/L	1/2	磨状の穴あり。
645	透物器	白付皿	3-4号築隼沢4区下層黒色土	①(21.6) ②3.1 ③(15.8)	外面回転ナズ、回転へう切り 後ナズ、ナズ、内面回転ナ ズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含有 シ、良好。C: 内径真径、内真 径3V6/L	1/3	釜みあり。 外面に凹傷の残片付 あり。
646	透物器	高杯	3-4号築隼沢4区黒色土	①(21.2) ②2.3+a	外面回転ナズ、回転ナズ後ナ ズ、回転へう切り、内面回 転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の石灰を少量含有 シ、微細な石灰を少量含有 シ、やや不純。C: 内径真径、内真 径2.5V6/L	残部 1/3	釜みあり。
647	透物器	高杯	3-4号築隼沢4区黒色土	①(21.8) ②6.5 ③(12)	外面回転ナズ、回転へう切り ナズ、回転ナズ後ナズ、内 面回転ナズ、回転ナズ、シ ゾリ後、回転ナズ後復状工具 によるナズ。	A: 2mm以下の石灰を少量含有 シ、1mm以下の白色粒子を含有 シ、微細な石灰を少量含有 シ、やや不純。C: 内径真径、内真 径3V6/L	残部 1/2 1/4	釜みあり。 焼成跡あり。 外面に陥凹あり。
648	透物器	高杯	2-3-4号築隼沢4区 黒部9.6	①22.6 ②7.4+a ③(9.6)	外面回転ナズ、回転へう切り ナズ、回転へう切り後ナズ、 シゾリ後、回転ナズ、内面 回転ナズ、シゾリ後、回転へ う切り後ナズ、回転ナズ後 ナズ。	A: 2mm以下の石灰を含有 シ、2mm以下の白色粒子を含有 シ、やや不純。C: 内径真径2V6/L 〜 3V6/L、内真径2.5V6/L。	残部 1/2 1/4 1/4	釜みあり。 外面に陥凹を複数有 り。
649	透物器	香盤	3-4号築隼沢4区黒色土	①(15.0) ②2.7+a	外面回転へう切り、回転ナ ズ、内面回転ナズ、回転ナ ズ後ナズ。	A: 2mm以下の石灰を少量含有 シ、1mm以下の白色粒子を含有 シ、微細な石灰を少量含有 シ、やや不純。C: 内径真径10V7/Lに 比し、真径10V7/2。	1/2	釜みあり。 凹傷あり。
650	透物器	香盤	3-4号築隼沢4区黒色土	①14.8 ②3.1 ③未測2.3	外面回転ナズ、回転へう切り 後ナズ、内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の石灰を含有 シ、1mm以下の白色粒子を少量 含有シ、微細な石灰を少量含有 シ、やや不純。C: 内径真径/内 径2.5V7/L、内径真径、	5/6	釜みあり。 凹傷あり。
651	透物器	香盤	3-4号築隼沢4区砂層(沢の 側)	①15.3 ②4.3 ③未測2.4	外面回転ナズ、回転へう切り 後ナズ、内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子、黒色粒 子を含有シ、やや不純。C: 内 径真径10V7/L	口縁部 1/2 外周部 1/4	外面に陥凹あり。 へう切りあり。
652	透物器	鉢	3-4号築隼沢4区土(沢 側)	①未測 ②4.3+a	外面回転ナズ、内面回転ナ ズ、カキメ状の回転ナズ。	A: 1mm以下の石灰を含有シ、B: 不純。C: 内径真径10V9/L、内 径に比し、真径10V7/L。	1/3	
653	透物器	鉢	3-4号築隼沢4区土(沢 側)	②2.7+a	内外面回転ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含有 シ、やや不純。C: 内径真径、内 径3V6/L	小片	
654	透物器	短頸鉢	3-4号築隼沢4区黒色土	①(12.1) ②7.5+a ③最大胴径(14.0)	外面回転ナズ、回転ナズ後 ナズ、内面回転ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含有 シ、微細な石灰を含有シ、B: やや不純。C: 内径真径2.5V6/L、内真 径2.5V5/L	口縁部 1/2	
655	透物器	短頸鉢	3-4号築隼沢4区黒色土	①(10.6) ②5.9+a	内外面回転ナズ。	A: 2mm石灰を含有シ、1mm以下 の白色粒子を含有シ、微細な石 灰を少量含有シ、B: 不純。C: 内径 3V6/L〜内径2.5V6/L、内真 径3V6/L	口縁部 2/5	
656	透物器	短頸鉢	3-4号築隼沢4区黒色土	②11.8+a ③最大胴径(25.1)	外面回転ナズ、回転へう切り 後回転ナズ、回転へう切り 後ナズ、内面回転ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含有 シ、良好。C: 内径真径、内真 径3V6/L	残部 1/4	
657	透物器	鉢	3-4号築隼沢4区黒色土	②7.6+a ③(14.0)	外面回転ナズ、回転へう切り 後ナズ、内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 4mm以下の石灰を含有シ、 1mm以下の白色粒子を含有シ、 微細な石灰を含有シ、B: 良好。C: 内径3V6/L、内径真径3V7/L	1/2	
658	透物器 (深草付)	鉢	3-4号築隼沢4区上層褐色土 と下層褐色土(沢側)之間	②4.3+a	内外面回転ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子、黒色粒 子を含有シ、B: 良好。C: 内径 真径2.5V6/L	小片	
659	透物器	鉢	3-4号築隼沢4区SS層(下層 褐色土)	②10.8+a ③(14.4)	外面ナズ、回転へう切り、 内面回転ナズ、良いナズ。	A: 3mm以下の石灰を少量含有 シ、1mm以下の白色粒子、黒色粒 子を含有シ、微細な石灰を少量 含有シ、B: やや不純。C: 内径真 径3V7/L	底面 1/6	焼成跡あり。

建物 番号	様相	階層	出土地点	深さ (cm・g) ①:口径 ②:底径 ③:底径 ④:底径 ⑤:底径	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色別	残存率	備考
660	須恵器	釜	3-4号窯跡区画4区下層焼土層	②84+a	外面回転ナズ、筒口エッジナズ、内面回転ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。陶器は長尺を少量含む。B: やや不揃。C: 内径白25Y7/L。内径黒2.5Y7/L。	小片	
661	須恵器	紀子(平箱)	3-4号窯跡区画4区	②5.9 ③1.9 ④0.8	外面回転ナズ。内面手持ちヘラケズリ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内径5Y6/L。	細片のみ	
662	須恵器	鉢	3-4号窯跡区画4区下層黒色土	①②9.2 ③4.4 ④底0	外面回転ナズ。筒口ヘラケズリ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内径5Y6/L。	口縁部 1/12 底面 1/2	内面に黒ね焼き痕あり。
663	須恵器	鉢	3-4号窯跡区画4区54-57-59-61-62層黒色土下層砂質土(黒ペルト②区)	①②0.0 ③9.6-a	外面回転ナズ。筒口目タテキ後回転ナズ。筒口目タテキ。内面回転ナズ。当て具焼。	A: 4mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内径5Y6/L。	1/2	
664	須恵器	釜	3-4号窯跡区画4区砂層(灰の影響)	②11.8+a	外面回転ナズ。筒口実焼。内面回転ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内径5Y6/L。	小片	内面に付着物あり。内面に別個焼の残片付着あり。
665	須恵器	釜	3-4号窯跡区画4区下層焼土層	②3.2+a	外面回転ナズ。内面回転ナズ。筒口エッジ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。1mm以下の黒色粒子を含む。B: 良好。C: 内径5Y6/L。	小片	
666	須恵器	穿丸土器	3-4号窯跡区画4区17層	①①8.9 ②2.1-a	外面回転ナズ。筒口ヘラケズリ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内径5Y6/L。	1/5	筒縁部あり。穿丸1カ所あり。研磨。
667	須恵器	穿丸土器	3-4号窯跡区画4区砂層(灰の影響)	②1.8-a (③底0)	外面回転ナズ。筒口ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: やや不揃。C: 内径白25Y7/L。	底面 1/4	底面に付着物あり。穿丸1カ所あり。研磨。
668	須恵器	穿丸土器	3-4号窯跡区画4区下層焼土層	②1.6-a	外面回転ナズ。筒口ヘラケズリ後回転ナズ。筒口ヘラケズリ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。B: やや不揃。C: 内径5Y6/L。10YR/L。	小片	穿丸1カ所あり。研磨。
669	焼土塊		3-4号窯跡区画4区下層黒色土	②4.8 ③3.4 ④1.8	外面スズリ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。C: 焼5Y6/L。		

表16 70地点3・4号窯跡灰5区出土遺物観察表

建物 番号	様相	階層	出土地点	深さ (cm・g) ①:口径 ②:底径 ③:底径 ④:底径 ⑤:底径	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色別	残存率	備考
670	須恵器	鉢蓋	3-4号窯跡区画5区24層黒色土	①①2.2 ②2.9 ③3.4 ④1.4	外面回転ナズ。筒口ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内径5Y6/L。内径5Y6/L。	1/6	穿丸あり。内面に黒ね焼き痕あり。
671	須恵器	鉢蓋	3-4号窯跡区画5区24層黒色土	①①3.0 ②4.2 ③3.4 ④1.8	外面回転ナズ。筒口ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の石質を含む。1mm以下の白色粒子を含む。陶器は長尺を少量含む。B: やや不揃。C: 内径5Y6/L。	2/5	穿丸あり。内面に黒ね焼き痕あり。筒縁部あり。
672	須恵器	鉢蓋	3-4号窯跡区画5区24層黒色土	①①4.5 ②2.4 ③3.4 ④2.0	外面回転ナズ。筒口ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: やや不揃。C: 内径5Y6/L。2.5Y6/L。内径5Y6/L。	1/5	穿丸あり。内面に別個焼の残片付着あり。
673	須恵器	鉢蓋	3-4号窯跡区画5区24層黒色土	①①5.0 ②2.5 ③3.4 ④1.8	外面回転ナズ。筒口ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後製鉄工具によるナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。B: やや不揃。C: 内径5Y6/L。内径5Y6/L。	11/12	内面に黒ね焼き痕あり。
674	須恵器	鉢蓋	3-4号窯跡区画5区24層黒色土	①①5.5 ②2.4 ③3.4 ④2.1	外面回転ナズ。筒口ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内径5Y6/L。	11/12	内面に黒ね焼き痕あり。筒縁部あり。
675	須恵器	鉢蓋	3-4号窯跡区画5区24層黒色土	①①5.0 ②2.0 ③3.4 ④2.0	外面回転ナズ。筒口ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ。強い回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子。石質を少量含む。陶器は長尺を少量含む。B: やや不揃。C: 内径5Y6/L。内径5Y6/L。	2/5	焼成時割れあり。
676	須恵器	鉢蓋	3-4号窯跡区画5区24層黒色土	①①6.0 ②2.9 ③3.4 ④1.8	外面回転ナズ。筒口ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。1mm以下の石質を少量含む。B: やや不揃。C: 内径5Y6/L。	1/3	穿丸あり。筒縁部あり。
677	須恵器	鉢蓋	3-4号窯跡区画5区24層黒色土	①①6.9 ②2.5 ③3.4 ④2.0	外面回転ナズ。筒口ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内径5Y6/L。	2/3	内面に黒ね焼き痕あり。
678	須恵器	鉢蓋	3-4号窯跡区画5区24層黒色土	①①8.3 ②2.5 ③3.4 ④2.3	外面回転ナズ。筒口ヘラケズリ後ナズ。筒口ヘラケズリ後製鉄工具によるナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 不揃。C: 内径白10YR/2。	3/4	穿丸あり。

選別 番号	種類	品種	出土地点	法則 (cm・g) ①②③ 定規長 ④定規 表面積 ⑤重量 (g)	形態・性状の特徴	A: 粘土 B: 塊状 C: 色濁	残存率	備考
679	赤面赤	栲蓐	3-4号葉除 匠原52区24層黒色土	①13.60 ②2.1 ③5.61④1.8	外面回転ナズ。回転へう切り 残ナズ。内面回転ナズ。回転 ナズ残ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を多量含む。B: 良好。C: 内外RN5%、内 RN5%。	1/6	否みあり。
680	赤面赤	栲蓐	3-4号葉除 匠原52区24層黒色土	①13.5 ②2.7 ③5.61④1.6	外面回転ナズ。回転へう切り 残ナズ。回転へう切り。内面 回転ナズ。回転ナズ残ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を多量含む。B: やや不長。C: 内外RN 10%RN1。内RN5%。	1/2	否みあり。
681	赤面赤	栲蓐	3-4号葉除 匠原52区24層黒色土	①15.5 ②3.7 ③5.61④1.8	外面回転ナズ。回転へうケズ リ。内面回転ナズ。回転ナ ズ残ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子。石英 を含む。B: 良好。C: 内外RN 6%。	2/3	否みあり。 外面に火打すきあり。 外面に藍ね残すきあり。
682	赤面赤	栲蓐	3-4号葉除 匠原52区24層黒色土	①18.0 ②3.3 ③5.61④2.0	外面回転ナズ。回転へう切り 残ナズ。内面回転ナズ。回転 ナズ残ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子。黒色 粒子を含む。塊状な粘土を含む。B: やや不長。C: 内外RN5%。内 RN7.5%。	1/2	否みあり。
683	赤面赤	栲蓐	3-4号葉除 匠原52区9層黒色土 (匠原)	①8.5 ②2.0 ③6.9	外面回転ナズ。回転へう切り 残ナズ。内面回転ナズ。回転 ナズ残ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量 含む。B: 良好。C: 内外RN5%。 内RN5%。	□線部 1/3 底部 残部	
684	赤面赤	栲蓐	3-4号葉除 匠原52区24層黒色土	①10.80 ②5.5 ③ (7.0)	外面回転ナズ。回転へう切り 残部残部。内面回転ナズ。回 転ナズ残ナズ。	A: 2mm以下の石英を少量含む。 2mm以下の白色粒子を含む。塊 状な粘土を少量含む。B: やや不 長。C: 内外RN5%。	□線部 1/8 底部 1/4	
685	赤面赤	栲蓐	3-4号葉除 匠原52区17層-8 区24層黒色土	①10.4 ②2.5 ③6.6	外面回転ナズ。回転へう切り 残ナズ。内面回転ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量 含む。B: 良好。C: 内外RN6%。 内RN5%。	1/3	塊状残部あり。
686	赤面赤	栲蓐	3-4号葉除 匠原52区24層黒色土	①10.7 ②2.6 ③7.4	外面回転ナズ。回転へう切り 残ナズ。内面回転ナズ。回転 ナズ残ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。 。1mm以下の石英を少量含む。 B: 不長。C: 内外RN 2.5%。	ほぼ完全	
687	赤面赤	栲蓐	3-4号葉除 匠原52区17層-8 区24層黒色土	①11.2 ②2.3 ③7.6	外面回転ナズ。腐敗工具による ケズリ。回転へう切り残ナ ズ。内面回転ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量 含む。B: 良好。C: 内外RN4%。 内RN5%。	1/4	塊状残部あり。
688	赤面赤	栲蓐	3-4号葉除 匠原52区17層-8 区24層黒色土	①13.0 ②3.2 ③ (9.2)	外面回転ナズ。回転へう切り 残部残部。内面回転ナズ。回 転ナズ残ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量 含む。B: 良好。C: 内外RN4%。 内RN4%。	1/4	
689	赤面赤	栲蓐	3-4号葉除 匠原52区24層黒色土	①17.2 ②3.7 ③8.3	外面回転ナズ。回転へうケズ リ。内面回転ナズ。回転ナ ズ残ナズ。	A: 2mm以下の石英を含む。 2mm以下の白色粒子を少量 含む。B: 不長。C: 内外RN 5%RN4%。内RN5%RN4%。	1/8	否みあり。 外面に火打すきあり。
690	赤面赤	栲蓐	3号葉除 匠原52区白色伊賀土 の影響土	②2.0 ④ (3.4)	外面回転ナズ。ナズ。内面 回転ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。 B: 良好。C: 内外RN5%。 内RN5%。	底部 1/4	小型。
691	赤面赤	栲蓐	3-4号葉除 匠原52区17層-8 区24層黒色土	①14.2 ②3.6 ③6.8	外面回転ナズ。回転へう切り 残ナズ。内面回転ナズ。回転 ナズ残ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量 含む。B: 良好。C: 内外RN 7.5%。	□線部 1/2 底部 残部	
692	赤面赤	栲蓐	3-4号葉除 匠原52区24層黒色土	①19.2 ②3.5 ③ (9.6)	外面回転ナズ。回転ナズ第一 部ナズ。回転へう切り残ナ ズ。内面回転ナズ第一 部ナズ。回転ナズ残ナズ。	A: 2mm以下の石英を多量含む。 2mm以下の白色粒子を含む。塊 状な粘土を少量含む。B: 良好。 C: 内外RN5%。内RN5%。	ほぼ完全	否みあり。 塊状残部あり。 外面に藍ね残すきあり。
693	赤面赤	栲蓐	3-4号葉除 匠原52区24層黒色土	①12.80 ②4.2 ③7.6	外面回転ナズ。回転へう切り 残ナズ。内面回転ナズ。回転 ナズ残ナズ。	A: 2mm以下の石英を少量含む。 2mm以下の白色粒子を含む。塊 状な粘土を少量含む。B: 良好。 C: 内外RN3%RN5%。内RN 5%。	□線部 1/3 底部 残部	否みあり。
694	赤面赤	栲蓐	3-4号葉除 匠原52区24層黒色土	①29.2 ②3.5 ④ (37.8)	外面回転ナズ。回転へう切り 腐敗工具によるケズリ。内面 回転ナズ。回転ナズ残ナズ。	A: 2mm以下の石英を含む。 2mm以下の白色粒子を多量 含む。塊状な粘土を少量含む。B: やや不長。C: 内外RN5%。内 RN5%。	完全	否みあり。 塊状残部あり。
695	赤面赤	栲蓐	3-4号葉除 匠原52区24層黒色土	①13.4 ②4.2 ③6.6	外面回転ナズ。回転へう切り 残ナズ。内面回転ナズ。回転 ナズ残ナズ。	A: 2mm以下の石英を多量含む。 2mm以下の白色粒子を含む。B: やや不長。C: 内外RN5%。 内RN5%。	□線部 1/2 底部 残部	
696	赤面赤	栲蓐	3-4号葉除 匠原52区24層黒色土	①15.9 ②4.3 ⑤ (19.4)	外面回転ナズ。回転へう切り 残ナズ。内面回転ナズ。回転 ナズ残ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。 B: 良好。C: 内外RN4%。内 RN5%。	1/2 底部 残部	否みあり。 内面に藍ね残すきあり。
697	赤面赤	栲蓐	3-4号葉除 匠原52区24層黒色土	①17.0 ②5.4 ③9.4	外面回転ナズ。回転へう切り 残ナズ。内面回転ナズ。回転 ナズ残ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。 B: やや不長。C: 内外RN 2.5%。内RN5%RN4%。	□線部 1/6 底部 1/2	
698	赤面赤	栲蓐	3-4号葉除 匠原52区24層黒色土	①22.6 ②4.1 ③ (17.0)	外面回転ナズ。回転へうケズ リ。内面回転ナズ。回転ナ ズ残ナズ。	A: 4mm以下の白色粒子を多量 含む。B: 不長。C: 外RN5%。 RN4%。内RN5%。	1/4 底部 1/2	



遺物 番号	種類	部類	出土地点	法量(cm・g) ①②③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色調	残存率	備考
699	灰土器	皿	3-4号窯跡灰原5区24層黄色土	①14.4 ②2.4 ③11.1	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。 B: 良好。C: 内外灰NS。	1/4	釜みあり。 磨沢にあり。
700	灰土器	高杯	3号窯跡灰原5区白色砂質土共の粉砕土	①14.0 ②4.9+a	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。 B: 良好。C: 内外灰NS。	1/4 1/4 1/4 1/4	釜みあり。 内面に磨沢あり。
701	灰土器	高杯	3-4号窯跡灰原5区17層-6区24層黄色土	②5.8+a 断面径10.3	内面回転ナズ、回転ナズソコリ溝、内面回転ナズ、ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子少量含む。 B: 良好。C: 内外灰NS。	断面のみ	釜みあり。
702	灰土器	高杯	3号窯跡灰原5区白色砂質土共の粉砕土	②10.3+a 断面径16.4	外面回転ヘラケズリ、回転ナズ。内面回転ナズ、シボリ痕、ナズ、工具ナゲナズ。	A: 2mm以下の白色粒子、石炭を含む。B: 不潔。C: 内外灰NS。内灰白SY7/L。内灰白SY7/L。	断面 小片 断面 断面	釜みあり。 内面に磨沢あり。
703	灰土器	高杯	3-4号窯跡灰原5区24層黄色土	①12.8 ②2.2	外面回転ヘラケズリ、回転ナズリ、回転ナズ。内面回転ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。 B: 良好。C: 内外灰NS。	1/4	釜みあり。
704	灰土器	器	3-4号窯跡灰原5区4区17層-6区24層黄色土	①18.0 ②3.9+a	外面回転ナズ。内面回転ナズ。ハケ状の回転ナズ。	A: 断面に白色粒子少量含む。 B: 不潔。C: 内外に赤い焼斑。①2YR6/3。	1/3	
705	灰土器	知照瓶	3-4号窯跡灰原5区24層黄色土	②10.7+a 最大断面径Q1.0	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ、ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズナゲナズ、ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。 B: 不潔。C: 内外灰NS。2.5Y5/2。	断面 1/4	
706	灰土器	知照瓶	3-4号窯跡灰原5区24層黄色土	②15.1+a ③13.8 最大断面径Q2.0	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズナゲナズ、内面回転ナズ。	A: 4mm以下の白色粒子を含む。 B: 不潔。C: 内外に赤い焼斑。2.5YR5/L。内灰白SY7/L。	断面一部分 1/3	
707	灰土器	灰土器	3-4号窯跡灰原5区25層赤色粘土層	①18.8 ②24.6~24.8 ③12.0 最大断面径18.1	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ、筒オサエナゲ、沈積、内面回転ナズ、筒オサエナゲ、ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子、石炭多量を含む。B: やや不潔。C: 外灰NS。2.5Y6/L。内灰NS。2.5YR2/L。	2/3	釜みあり。 粉砕土層残存あり。
708	灰土器	器	3-4号窯跡灰原5区5層(赤色土1層)+3号窯跡灰原138層(黒褐色)+3号窯跡灰原941層(黒褐色)+3号窯跡灰原内赤色粘土層原土位層+38層(黒褐色)+3号窯跡灰原土1層(土層)1号窯跡灰原2区	②24.5+a	外面磨りタタキ、内面に敷。	A: 1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B: 良好。C: 外灰SY2/L。内灰NS。2.5Y5/L。	小片	内面に磨沢あり。 磨りタタキあり。

表17 70地点3・4号窯跡灰原6区出土遺物観察表

遺物 番号	種類	部類	出土地点	法量(cm・g) ①②③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色調	残存率	備考
709	灰土器	杯蓋	3-4号窯跡灰原6区下層黄色土	①10.8 ①②2.4 つまみ径1.2	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。 B: 良好。C: 内外灰NS。	1/4	
710	灰土器	杯蓋	3-4号窯跡灰原6区24層黄色土	①19.0 ②1.9 つまみ径1.2	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。筒オサエ。	A: 1mm以下の白色粒子少量含む。 B: 良好。C: 内外灰NS。	1/4	釜みあり。
711	灰土器	杯蓋	3-4号窯跡灰原6区24層黄色土	①11.4 ②3.5 つまみ径1.7	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子多量含む。 B: 良好。C: 内外灰NS。	2/3	釜みあり。 内面に磨沢あり。 内面に敷付工痕あり。
712	灰土器	杯蓋	3-4号窯跡灰原6区24層	①13.2 ②3.7 つまみ径1.9	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。 B: 良好。C: 内外灰NS。	5/6	釜みあり。 内外面に磨沢あり。
713	灰土器	杯蓋	3-4号窯跡灰原6区下層黄色土	①13.7 ②3.8 つまみ径1.7	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 4mm以下の白色粒子を含む。 B: 良好。C: 内外灰NS。	ほぼ完全	釜みあり。 内面に磨沢あり。
714	灰土器	杯蓋	3-4号窯跡灰原6区24層下層黄色土	①14.0 ②3.9 つまみ径1.8	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰NS。	1/4	釜みあり。 内外面に磨沢あり。
715	灰土器	杯蓋	3-4号窯跡灰原6区24層下層黄色土	①15.2 ②3.0 つまみ径2.0	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B: 良好。C: 外灰NS。内灰NS。	1/4	内面に穴だすきあり。筒状あり。
716	灰土器	杯蓋	3-4号窯跡灰原6区24層下層黄色土	①18.3 ②1.8+a	外面回転ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。1mm以下の炭石を含む。B: やや不潔。C: 外灰NS。2.5Y5/L。内灰NS。2.5Y6/L。	1/4	

遺物 番号	種類	面積	出土地点	法量(cm・g) ①口径 ②全長 ③底径 ④容積 ⑤重量	形態・技法の特徴	A：胎土 B：焼成 C：色備	残存率	備考
717	灰皿	杯蓋	3-4号窯跡Ⅱ区624層下黒黒色土	①191 ②18.4	外面回転ヘラケズリ、回転ナズリ。内面回転ナズリ、回転ナズリ。	A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：やや不長。C：内径2.5%。内径2.5%。	1/4	
718	灰皿	杯蓋	3-4号窯跡Ⅱ区624層下黒黒色土	①243 ②23.4	外面回転ヘラケズリ、回転ナズリ。内面回転ナズリ、回転ナズリ。	A：3mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：内径NS/。NS/。	1/3	内面に黒い焼き痕あり。
719	灰皿	杯蓋	3-4号窯跡Ⅱ区624層下黒黒色土	①157 ②12.7 ③4.8 ④1.7	外面回転ナズリ、回転ヘラケズリ。内面回転ナズリ、回転ナズリ。	A：5mm以下の白色粒子を含む。B：やや不長。C：内径2.5%。内径2.5%。	完全	歪みあり。 焼成跡あり。
720	灰皿	杯蓋	3-4号窯跡Ⅱ区624層下黒黒色土	①154 ②18.4	外面回転ヘラケズリ。内面回転ナズリ、回転ナズリ。	A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：内径NS/。内径5%。	1/3	
721	灰皿	杯蓋	3-4号窯跡Ⅱ区624層	①181 ②25.4 ③4.2 ④2.3	外面回転ナズリ、回転ヘラケズリ。内面回転ナズリ、回転ナズリ。	A：1mm以下の白色粒子を含む。B：不長。C：内径NS/。2.5%。	1/4	
722	灰皿	杯蓋	3-4号窯跡Ⅱ区624層下黒黒色土	①177 ②12.7 ③4.9 ④1.9	外面回転ナズリ、回転ヘラケズリ。内面回転ナズリ、回転ナズリ。	A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：内径5%。5%。	1/2	
723	灰皿	杯蓋	3-4号窯跡Ⅱ区624層下黒黒色土	①181 ②17 ③4.8 ④2.2	外面回転ナズリ、回転ヘラケズリ。内面回転ナズリ、回転ナズリ。	A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：不長。C：内径NS/。NS/。	1/3	
724	灰皿	杯蓋	3-4号窯跡Ⅱ区624層下黒黒色土	①185 ②15 ③4.8 ④1.9	外面回転ナズリ、回転ヘラケズリ。内面回転ナズリ、回転ナズリ。	A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：やや不長。C：内径2.5%。2.5%。	完全	歪みあり。
725	灰皿	杯A	3-4号窯跡Ⅱ区624層下黒黒色土	①102 ②25 ③15.6	外面回転ナズリ、未調整ヘラケズリ。内面回転ナズリ。	A：3mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内径NS/。NS/。	1/2	歪みあり。 内面に黒い焼き痕あり。 内面に黒い焼き痕あり。
726	灰皿	杯A	3-4号窯跡Ⅱ区624層下黒黒色土	①104 ②16 ③16.4	外面回転ナズリ、回転ヘラケズリ。内面回転ナズリ、回転ナズリ。	A：2mm以下の石炭を少量含む。1mm以下の白色粒子を含む。黒色粒子を少量含む。B：やや不長。C：内径NS/。NS/。	口縁部 1/5 底部 1/2	歪みあり。
727	灰皿	杯A	3-4号窯跡Ⅱ区624層下黒黒色土	①137 ②27 ③18.8	外面回転ナズリ、回転ヘラケズリ。内面回転ナズリ、回転ナズリ。	A：3mm以下の白色粒子を含む。2mm以下の黒色粒子を含む。B：やや不長。C：内径NS/。NS/。	1/2	外面に黒い焼き痕あり。
728	灰皿	杯A	3-4号窯跡Ⅱ区624層下黒黒色土	①131 ②37 ③19.2	外面回転ナズリ、回転ヘラケズリ。内面回転ナズリ、回転ナズリ。	A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：内径NS/。NS/。	1/2	
729	灰皿	杯A	3-4号窯跡Ⅱ区624層下黒黒色土	①136 ②34 ③19.2	外面回転ナズリ、回転ヘラケズリ。内面回転ナズリ、回転ナズリ。	A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：内径NS/。NS/。	1/3	
730	灰皿	杯A	3-4号窯跡Ⅱ区Ⅰ区(口部)	①140 ②40 ③10.2	外面調整のため調整不明(回転ナズリ)。回転ヘラケズリ。内面調整のため調整不明(回転ナズリ)。回転ナズリ。	A：1mm以下の白色粒子を含む。B：不長。C：内径2.5%。内径2.5%。	2/3	内面に黒い焼き痕あり。 外側にイブシ状。
731	灰皿	杯B身	3-4号窯跡Ⅱ区624層下黒黒色土	①118 ②23 ③16.8	外面回転ナズリ、回転ヘラケズリ。内面回転ナズリ、回転ナズリ。	A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内径NS/。10%。	口縁部 1/4 底部 完全	外側に焼痕あり。
732	灰皿	杯B身	3-4号窯跡Ⅱ区624層下黒黒色土	①165 ②15 ③18.8	外面回転ナズリ、回転ヘラケズリ。内面回転ナズリ、回転ナズリ。	A：2mm以下の白色粒子を含む。B：不長。C：内径NS/。10%。内径NS/。10%。	口縁部 1/8 底部 1/2	仮伏焼あり。
733	灰皿	杯B身	3-4号窯跡Ⅱ区Ⅰ区(口部)	①181 ②49 ③12.4	外面調整のため調整不明(回転ナズリ)。回転ヘラケズリ。内面調整のため調整不明(回転ナズリ)。回転ナズリ。	A：1mm以下の白色粒子、赤色粒子を含む。黒炭を少量含む。B：やや不長。C：内径2.5%。内径2.5%。	1/4	外側にイブシ状。
734	灰皿	杯B身	3-4号窯跡Ⅱ区624層下黒黒色土	①191 ②59.6 ③11.1	外面回転ナズリ、回転ヘラケズリ。内面回転ナズリ、回転ナズリ。	A：3mm以下の石炭を少量含む。1mm以下の白色粒子を含む。黒炭を少量含む。B：やや不長。C：内径NS/。内径NS/。	ほぼ完全	歪みあり。 焼成跡からもある調整は丁寧。 外側に付着物あり。 内側に火だすきあり。 底に付着物に塗薬を塗す。
735	灰皿	杯B身	3-4号窯跡Ⅱ区624層下黒黒色土	25.0	内面回転ナズリ。	A：2mm以下の白色粒子、石炭を含む。B：やや不長。C：内径5%。5%。	小片	歪みあり。
736	灰皿	台付皿	3-4号窯跡Ⅱ区624層下黒黒色土	①228 ②29 ③16.1	外面回転ナズリ、回転ナズリ。内面回転ナズリ、回転ナズリ。	A：2mm以下の白色粒子を含む。B：不長。C：内径NS/。10%。内径NS/。10%。	1/6	歪みあり。

遺物 番号	種類	遺種	出土地点	法量(cm・g)		形態・技法の特徴	A：粘土 B：焼成 C：色質	残存率	備考
				①(口径) ②(高さ) ③(底径) ④(重量) ⑤(容積)	⑥(口縁)				
737	須恵器	煮	3-4号窯跡区画6区下層黄色土	①(口径) ②(高さ) →③(底径) 1.9	⑥(口縁) ⑦(底径) ⑧(重量) 1.9	外面回転ナズ、回転ヘラケツリ後回転ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下のお茶を含有、1mm以下の白色粒子を含有、微細な黒石を少量含む。B：良好。C：内灰N4/、内灰N5/。	口縁部 1/2 体部 4/5	釜みあり。 調整は丁寧。 造形化が。
738	須恵器	煮	3-4号窯跡区画6区下層黄色土	①(口径) ②(高さ) →③(底径) 2.5	⑥(口縁) ⑦(底径) ⑧(重量) 2.5	外面回転ナズ、回転ヘラケツリ後回転ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の石灰を含有、1mm以下の白色粒子を含有、微細な黒石を少量含む。B：良好。C：内灰N5/。	1/2	釜みあり。
739	須恵器	煮	3-4号窯跡区画6区下層黄色土	①(口径) ②(高さ) →③(底径) 3.0	⑥(口縁) ⑦(底径) ⑧(重量) 3.0	外面回転ナズ、内面回転ナズ、シヤリ後-回転ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子、石灰を少量含む、微細な黒石、滑石を少量含む。B：やや不良。C：内灰N6/1、内灰N5/。	口縁部 1/4	
740	須恵器	煮	3-4号窯跡区画6区下層黄色土(灰層)	①(口径) ②(高さ) →③(底径) 4.1+a	⑥(口縁) ⑦(底径) ⑧(重量) 4.1+a	外面回転ナズ、回転ヘラケツリ後、内面回転ナズ、回転ナズ後斜めにナズ上げる(腰と縁台特)	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内灰N6/1、内灰N5/。	口縁部 完整	
741	須恵器	煮	3-4号窯跡区画6区24層	①(口径) ②(高さ) →③(底径) 3.9+a	⑥(口縁) ⑦(底径) ⑧(重量) 3.9+a	外面回転ナズ、式跡、内面回転ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含有。B：良好。C：内灰N6/。	1/4	
742	須恵器	灰研焼	3-4号窯跡区画6区下層黄色土	①(口径) ②(高さ) →③(底径) 2.8+a 最大断面径(20.2)	⑥(口縁) ⑦(底径) ⑧(重量) 2.8+a	外面回転ナズ、回転ヘラケツリ後、内面回転ナズ、ナズ。	A: 3mm以下の石灰を含有、1mm以下の白色粒子を含有、微細な黒石を少量含む。B：やや不良。C：内灰N5/、内灰N6/。	1/4	
743	須恵器	灰研焼	3-4号窯跡区画6区下層黄色土	①(口径) ②(高さ) →③(底径) 1.4	⑥(口縁) ⑦(底径) ⑧(重量) 1.4	外蓋ナズ、内面回転ナズ。	A: 2mm以下の石灰を少量含む、1mm以下の白色粒子を含有。B：良好。C：内灰N5/、内灰N6/。	口縁部 1/6	
744	須恵器	灰	3-4号窯跡区画6区24層黄色土	①(口径) ②(高さ) →③(底径) 5.3 ④(口径)	⑥(口縁) ⑦(底径) ⑧(重量) 5.3 ④(口径)	外面回転ナズ、回転ヘラケツリ後、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含有。B：良好。C：内灰N4/。	1/4	
745	須恵器	灰	3-4号窯跡区画6区24層	①(口径) ②(高さ) →③(底径) 1.3 ④(口径)	⑥(口縁) ⑦(底径) ⑧(重量) 1.3 ④(口径)	外面回転ナズ、回転ヘラケツリ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含有。B：良好。C：内灰N5/。	1/4	
746	須恵器	灰	3-4号窯跡区画6区24層	①(口径) ②(高さ) →③(底径) 3.3+a	⑥(口縁) ⑦(底径) ⑧(重量) 3.3+a	内面回転ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含有。B：良好。C：内外灰N5/、内灰N6/。	1/4	外側に腐食あり。 押しつけ痕あり。
747	須恵器	灰	3-4号窯跡区画6区下層黄色土(灰層) 下層黄色土・下層黄色土・黒色土	①(口径) ②(高さ) →③(底径) 8.9+a	⑥(口縁) ⑦(底径) ⑧(重量) 8.9+a	外面回転ナズ、調整付付。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含有、微細な黒石を含有。B：良好。C：内灰N6/、内灰N5/。	口縁部 1/4	
748	須恵器	灰	3-4号窯跡区画6区24層	①(口径) ②(高さ) →③(底径) 4.0+a 最大断面径(20.2)	⑥(口縁) ⑦(底径) ⑧(重量) 4.0+a	外面回転ナズ、格子目タタキ。内面回転ナズ、焼オサエナズ。当て真鍮。	A: 3mm以下の白色粒子を含有。B：やや不良。C：内灰N5/、内灰N6/1、内灰N9/6/1。	1/3	内面に格子目タタキあり。
749	須恵器	灰	3-4号窯跡区画6区24層下層黄色土	①(口径) ②(高さ) →③(底径) 2.9+a ④(口径) ⑤(口径) ⑥(口径) ⑦(底径) ⑧(重量) 2.9+a	⑥(口縁) ⑦(底径) ⑧(重量) 2.9+a	外面回転ナズ、格子目タタキ。内面回転ナズ、当て真鍮。	A: 2mm以下の白色粒子を含有。B：良好。C：内灰N6/、内灰N7/。	縁部-断面 1/2	内面に格子目タタキあり。
750	須恵器	灰	3-4号窯跡区画6区24層黄色土	①(口径) ②(高さ) →③(底径) 1.7+a	⑥(口縁) ⑦(底径) ⑧(重量) 1.7+a	内面回転ナズ。	A: 4mm以下の白色粒子を含有。B：良好。C：内灰N3/、内灰N4/。	口縁部 1/4	
751	須恵器	焼(断面)	3-4号窯跡区画6区下層黄色土	①(口径) ②(高さ) →③(底径) 1.1+a ④(口径)	⑥(口縁) ⑦(底径) ⑧(重量) 1.1+a ④(口径)	内面回転ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内灰N3/、内灰N5/。	1/3	
752	須恵器	角形土製品	3-4号窯跡区画6区下層黄色土	長さ6.6 幅3.7 厚6.4	⑥(口縁) ⑦(底径) ⑧(重量) 6.6	外面ナズ。	A: 1mm以下の黄色粒子を少量含む。B：良好。C：内灰N6/。	小片	彫刻の可能性あり。

表18 70地点 5号窯跡出土遺物観察表

遺物 番号	種類	遺種	出土地点	法量(cm・g)		形態・技法の特徴	A：粘土 B：焼成 C：色質	残存率	備考
				①(口径) ②(高さ) ③(底径) ④(重量) ⑤(容積)	⑥(口縁)				
753	須恵器	灰煮	5号窯跡区画内6層黄色土	①(口径) ②(高さ) →③(底径) 3.0+a	⑥(口縁) ⑦(底径) ⑧(重量) 3.0+a	外面回転ヘラケツリ後工具ナズ、回転ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の石灰を少量含む、微細な白色粒子を少量含む、微細な黒石を少量含む。B：良好。C：内灰N6/。	1/4	釜みあり。 内面に黒石焼き痕あり。
754	須恵器	灰煮	5号窯跡区画内6層15	①(口径) ②(高さ) →③(底径) 1.9	⑥(口縁) ⑦(底径) ⑧(重量) 1.9	外面回転ナズ、回転ヘラケツリ後、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子、石灰、滑石を少量含む、微細な黒石を少量含む。B：良好。C：内灰N6/1、内灰N6/。	5/6	内面に腐食あり。 内面に黒石焼き痕あり。
755	須恵器	灰煮	5号窯跡区画内6層黄色土	①(口径) ②(高さ) →③(底径) 1.7	⑥(口縁) ⑦(底径) ⑧(重量) 1.7	外面回転ナズ、回転ヘラケツリ後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含有。B：良好。C：内灰N4/、内灰N5/、内灰N6/1。	5/6	釜みあり。 内面に黒石焼き痕あり。

透物 番号	種類	用途	出土地点	質量[cm・g] ①口径 ②底径 ③底厚 深さ(含む) 透物高さ	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 磁石 C: 色顔	残存率	備考
756	透器器	杯蓋	5号家跡体内5層埋藏層	①14.1 ②3.5 つまみ径1.8	外面回転ナズ、回転へう切り 後ナズ、内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。 B: 良好。C: 外黄鉄396/L、内 黄鉄396/L。	1/2	音みあり。 口縁部内面に線状あり。 外面に黒い焼き痕あり。
757	透器器	杯蓋	5号家跡体内1層黒色土	①14.2 ②3.2 つまみ径2.0	外面回転ナズ、回転へう切り 後ナズ、内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 4mm以下の白色粒子を含む。 1mm以下の黄色粒子を含む。B: 良好。C: 内赤鉄195/L。	1/2	音みあり。 内面に黒い焼き痕あり。
758	透器器	杯蓋	5号家跡体内6層黒色土	①14.2 ②2.8 つまみ径1.8	外面回転ナズ、回転へう切り 後ナズ、内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の石灰を含む。 1mm以下の白色粒子を含む。微 細石灰石を少量含む。B: やや不 良。C: 内赤鉄159/L。	1/2	
759	透器器	杯蓋	5号家跡体内6層14	①14.6 ②2.6 つまみ径2.3	外面回転ナズ、回転へうケズ リ、内面回転ナズ、回転ナズ 後ナズ。	A: 2mm以下の石灰を含む。 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内赤鉄196/L。	2/5	音みあり。 内面に線状あり。
760	透器器	杯蓋	5号家跡体内6層黒色土	①14.6 ②2.2+0.2	外面回転へう切り後ナズ、回 転ナズ、内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の石灰を含む。微細 な白色粒子、灰石を含む。B: 良 好。C: 内赤鉄196/L。	2/5	外面に線状あり。 つまみ付。
761	透器器	杯蓋	5号家跡体内1層黒色土	①14.5 ②2.7 つまみ径2.1	外面回転ナズ、回転へう切り 後ナズ、内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 4mm以下の白色粒子を含む。 1mm以下の黄色粒子を含む。B: 良好。C: 内赤鉄195/L。	1/2	音みあり。 内面に黒い焼き痕あり。
762	透器器	杯蓋	5号家跡体内6層22	①15.0 ②2.4 つまみ径2.5	外面回転ナズ、回転へうケズ リ、内面回転ナズ、回転ナズ 後ナズ。	A: 3mm以下の石灰を含む。 1mm以下の白色粒子を含む。 1mm以下の黄色粒子を少量含 む。B: やや不良。C: 内赤鉄1 96/L。内面に赤い黄鐵 1097/L～赤白197/L。	3/5	つまみ部に付着物あり。
763	透器器	杯蓋	5号家跡体内6層13	①15.0 ②3.3 つまみ径2.0	外面回転ナズ、回転へうケズ リ後ナズ、ナズ。内面回転ナ ズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の石灰を少量含む。 1mm以下の白色粒子を少量含 む。B: やや不良。C: 内赤鉄 196/L。	1/4	音みあり。
764	透器器	杯蓋	5号家跡体内8層黒色土	①16.8 ②3.4	外面回転ナズ、回転へう切り 後ナズ、内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。 B: 良好。C: 内赤鉄196/L。	1/8	音みあり。 内面に大だまりあり。 無残存あり。
765	透器器	杯蓋	5号家跡体内8層黒色土	①16.8 ②4.5 つまみ径1.8	外面回転ナズ、回転へう切り 後板状工具によるナズ。内面 回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。 2mm以下の石灰を含む。微細な 石灰石を少量含む。B: 良好。C: 内赤鉄195/L。	1/2	音みあり。
766	透器器	杯蓋	5号家跡体内8層黒色土	①17.6 ②4.1 つまみ径1.8	外面回転ナズ、回転へう切り 後ナズ、内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。 B: やや不良。C: 外黄鉄 259/L、内赤鉄1098/L。	1/2	音みあり。 板状残存あり。 無残存あり。
767	透器器	杯蓋	5号家跡体内6層21	①18.7 ②2.6+0.6	外面回転ナズ、回転へうケズ リ、内面回転ナズ、回転ナズ 後ナズ。	A: 2mm以下の石灰を含む。B: 1不良。C: 外赤鉄159/L～赤白 157/L。内に赤い黄鐵 1097/L。	2/5	音みあり。
768	透器器	杯蓋	5号家跡体内6層30	①18.7 ②1.9+0.9	外面回転へうケズリ後ナズ。 回転ナズ、内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の石灰を含む。 B: 不良。C: 外赤鉄1098/L。 内赤鉄1098/L。	1/4	つまみ無あり。
769	透器器	杯蓋	5号家跡体内6層③	①18.9 ②1.9+0.9	外面回転へうケズリ後ナズ。 回転ナズ、内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含 む。B: 不良。C: 内赤鉄白 259/L～黄鉄259/L。	1/4	
770	透器器	杯蓋	5号家跡体内6層小溝	①12.7 ②1.3+0.3	外面回転へうケズリ後ナズ。 回転ナズ、内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子、黒色粒 子を含む。B: やや不良。C: 内 赤鉄195/L。	1/4	
771	透器器	杯蓋	5号家跡体内1層黒色土	①14.3 ②2.1 つまみ径1.9	外面回転ナズ、回転へう切り 後回転ナズ、内面回転ナズ。 回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含 む。B: 良好。C: 内赤鉄195/L。	1/2	
772	透器器	杯蓋	5号家跡体内6層黒色土	①14.8 ②2.4 つまみ径1.6	外面回転ナズ、回転へう切り 後ナズ、内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の石灰を含む。 1mm以下の白色粒子を含む。微 細石灰石を少量含む。B: やや不 良。C: 内赤鉄195/L。	1/4	内面に線状あり。
773	透器器	杯蓋	5号家跡体内6層9、10、12	①15.4 ②2.2 つまみ径2.2	外面回転ナズ、回転へうケズ リ、内面回転ナズ、回転ナズ 後ナズ。	A: 3mm以下の石灰を少量含む。 B: 良好。C: 内赤鉄196/L。	3/8	透物判断あり。
774	透器器	杯蓋	5号家跡体内7層小溝	①15.0 ②3.9+0.9	外面回転へうケズリ後ナズ。 回転ナズ、内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の黄色粒子を少量含 む。B: 良好。C: 内赤鉄196/L、内 赤鉄196/L。	1/2 1/4	音みあり。 口縁部
775	透器器	杯蓋	5号家跡体内6層17	①15.2 ②1.4 つまみ径1.7	外面回転ナズ、回転へう切り 後回転ナズ、内面回転ナズ。 回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含 む。B: 良好。C: 内赤鉄196/L。	1/8	音みあり。
776	透器器	杯蓋	5号家跡体内6層4	①15.2 ②1.6 つまみ径2.1	外面回転ナズ、回転へうケズ リ後ナズ、内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。 B: やや不良。C: 内赤鉄 197/L。	1/2	音みあり。 板状残存あり。

建物 番号	様目	階層	出土地点	品質 (cm・g) ①②③ ④ ⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕ 保固自治体番号大府	形制・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色紙	保存率	備考
777	洪赤田	林画	5号実跡家体内輪19	①15.4 ②1.9 ③2.4 ④1.0	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ。 ①: 15.4 ②: 1.9 ③: 2.4 ④: 1.0	A: 1mm以下白色粒子を少量含む。焼成ナズリ後ナズリ。内面回転ナズリ。回転ナズリ後ナズリ。	3/5	
778	洪赤田	林画	5号実跡家体内28-30畳下	①15.7 ②1.7 ③2.4 ④2.0	外面回転ナズリ、回転ヘラケズリ後ナズリ。内面回転ナズリ。回転ナズリ後ナズリ。	A: 6mm以下の白色粒子を少量含む。B: やや不貞。C: 内外両面。25V6/L。	天井部 窓部 口縁部 3/4	
779	洪赤田	林画	5号実跡家体内6	①16.1 ②1.7 ③2.4 ④1.9	外面回転ナズリ、回転ヘラケズリ。内面回転ナズリ。回転ナズリ後ナズリ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内外両面。	1/3	
780	洪赤田	林画	5号実跡家体内輪25	①16.4 ②1.4 ③2.4 ④1.9	外面回転ナズリ、回転ヘラケズリ。ナズリ。内面回転ナズリ。回転ナズリ後ナズリ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外両面。	1/3	
781	洪赤田	林画	5号実跡家体内輪18	①16.3 ②1.2・a	外面回転ナズリ、回転ヘラケズリ。回転ナズリ後ナズリ。内面回転ナズリ。回転ナズリ後ナズリ。	A: 3mm以下の石灰を含む。2mm以下の白色粒子を含む。B: やや不貞。C: 内外両面。内面①15V7/L。	2/5	つまみ僅あり。
782	洪赤田	林画	5号実跡家体内黒色土	①16.9 ②1.8 ③2.4 ④2.0	外面回転ナズリ、回転ヘラケズリ後旋工工具によるナズリ。内面回転ナズリ。回転ナズリ後ナズリ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: やや不貞。C: 内外両面。25V6/L。	ほぼ定形	つまみあり。 焼成割れあり。
783	洪赤田	林画	5号実跡家体内輪8	①18.1 ②1.8 ③2.4 ④2.2	外面回転ナズリ、回転ヘラケズリ。内面回転ナズリ。回転ナズリ後ナズリ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内外両面。10V7/L。	ほぼ定形	
784	洪赤田	林画	5号実跡家体内輪28	①19.4 ②1.6 ③2.4 ④2.1	外面回転ナズリ、回転ヘラケズリ。内面回転ナズリ。回転ナズリ後ナズリ。	A: 2mm以下の白色粒子。黒色粒子を含む。B: やや不貞。C: 内外両面。内面①15V6/L。内面①15V7/L。	天井部 窓部 口縁部 1/2	
785	洪赤田	林画	5号実跡家体内輪11	①19.9 ②2.4 ③2.4 ④2.0	外面回転ナズリ、回転ヘラケズリ。内面回転ナズリ。回転ナズリ後ナズリ。旋工工具によるナズリ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内外両面。10V6/L。	1/2	つまみあり。
786	洪赤田	林画	5号実跡家体内輪26	①20.1 ②2.5 ③2.4 ④2.1	外面回転ナズリ、回転ヘラケズリ。内面回転ナズリ。回転ナズリ後ナズリ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。1mm以下の白色粒子を含む。B: やや不貞。C: 内外両面。25V7/L。内面①15V7/L。	1/2	
787	洪赤田	林画	5号実跡家体内輪24	①20.3 ②1.4・a	外面回転ヘラケズリ、回転ナズリ。内面回転ナズリ。回転ナズリ後ナズリ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。焼成ナズリ後少量含む。B: やや不貞。C: 内外両面。内面①10V7/L。	1/3	
788	洪赤田	林画	5号実跡家体内1黒色土	①13.2 ②1.4 ③1.0	外面回転ナズリ、回転ヘラケズリ後旋工工具によるナズリ。内面回転ナズリ。回転ナズリ後ナズリ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外両面。25V6/L。	2/3	
789	洪赤田	林画	5号実跡家体内1黒色土	①13.6 ②1.6 ③1.2	外面回転ナズリ、回転ヘラケズリ後旋工工具によるナズリ。内面回転ナズリ。回転ナズリ後ナズリ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外両面。内面①10V6/L。	定形	つまみあり。 焼成割れあり。
790	洪赤田	林画	5号実跡内1-7層金	①14.0 ②1.8 ③1.4	外面回転ナズリ、回転ヘラケズリ後ナズリ。内面回転ナズリ。回転ナズリ後ナズリ。	A: 1mm以下の白色粒子。石灰を含む。B: 不貞。C: 内外両面。25V7/L。内面①10V6/L。	定形	
791	洪赤田	林画	5号実跡家体内黒色土	①13.9 ②1.6-3.8 ③1.2	外面回転ナズリ、回転ヘラケズリ後ナズリ。内面回転ナズリ。回転ナズリ後ナズリ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。焼成ナズリ後少量含む。B: やや不貞。C: 内外両面。	3/4	外面一部焼成あり。
792	洪赤田	林画	5号実跡家体内1黒色土	①14.0 ②1.8-4.2 ③1.5	外面回転ナズリ、回転ヘラケズリ後ナズリ。内面回転ナズリ。回転ナズリ後ナズリ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外両面。	定形	つまみあり。 焼成割れあり。 裏状圧痕あり。
793	洪赤田	林画	5号実跡家体内7黒色土	①14.4 ②1.0 ③1.4	外面回転ナズリ。ヘラケズリ後ナズリ。内面回転ナズリ。回転ナズリ後ナズリ。	A: 1mm以下の石灰を少量含む。内面①15V6/L。内面①15V8/L。	1/4	焼成圧痕あり。
794	洪赤田	林画	5号実跡家体内黒色土	①16.9 ②1.7-5.0 ③1.9	外面回転ナズリ、回転ヘラケズリ後ナズリ。内面回転ナズリ。回転ナズリ後ナズリ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外両面。25V6/L。	定形	つまみあり。 裏状圧痕あり。
795	洪赤田	林画	5号実跡家体内1黒色土	①16.2 ②4.9-5.5 ③1.7	外面回転ナズリ、回転ヘラケズリ後ナズリ。内面回転ナズリ。回転ナズリ後ナズリ。	A: 2mm以下の白色粒子。石灰を含む。B: やや不貞。C: 内外両面。内面①10V6/L。	3/4	つまみあり。 裏状圧痕あり。
796	洪赤田	土	5号実跡家体内1黒色土	①16.6 ②1.9 ③1.7	外面回転ナズリ、回転ヘラケズリ後旋工工具によるナズリ。内面回転ナズリ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外両面。	1/3	
797	洪赤田	土	5号実跡家体内1黒色土	①17.0 ②1.5+a ③1.4	外面回転ナズリ、回転ヘラケズリ後ナズリ。内面回転ナズリ。回転ナズリ後ナズリ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: やや不貞。C: 内外両面。内面①10V6/L。内面①10V7/L。	1/4	つまみあり。
798	洪赤田	土	5号実跡家体内1黒色土	①18.0 ②1.0 ③1.4	外面回転ナズリ、回転ヘラケズリ後ナズリ。内面回転ナズリ。回転ナズリ後ナズリ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外両面。25V6/L。	1/4	つまみあり。

遺物 番号	種類	図様	出土地点	法量(cm・g) ①C位 空部裏 ②底面 法適合位 空部大底	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色調	残存率	備考
799	須恵瓦	瓦	5号東部躯体内陶29	①(18.8) ②2.4 ③(14.5)	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後製状工具によるナズ、内面 回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含有 し、良好。C: 内外灰白、内灰 SY6/L	1/4	瓦みあり。 内面に墨ね跡も残あり。
800	須恵瓦	瓦	5号東部躯体内陶25	①(20.4) ②2.4 ③(16.8)	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含 む。B: やや不長。C: 内外灰白 10Y6/L	1/4	碎状圧痕あり。
801	須恵瓦	瓦	5号東部躯体内7層黒褐色土	①(21.0) ②2.9 ③(18.0)	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後製状工具によるナズ、内面 回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含有し、B: やや不長。C: 内外灰白、内赤 リ→ア灰2.50Y6/L	1/2 1/4	口縁部 瓦みあり。
802	須恵瓦	瓦	5号東部躯体内陶22	①(19.6) ②2.0 ③(14.4)	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含有し、 B: 良好。C: 内外灰白、	1/6	
803	須恵瓦	瓦	5号東部躯体内陶10	①(20.0) ②2.2 ③(16.6)	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含 む。B: 良好。C: 内外灰白 7.5Y7/L	1/3	瓦みあり。 内面に穴状すきみあり。

表19 70地点6号窯跡出土土物観察表

遺物 番号	種類	図様	出土地点	法量(cm・g) ①C位 空部裏 ②底面 法適合位 空部大底	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色調	残存率	備考
804	須恵瓦	押瓦	6号東部躯体内	①(18.0) ②1.7+a	外面回転ヘラウズリ、回転ナ ズ。内面回転ナズ、回転ナズ 後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含 む。2mm以下の石炭を含む。B: やや不長。C: 内外灰白、	1/2	
805	須恵瓦	押瓦身	6号東部前庭左側	②1.1+a ③(8.2)	外面摩滅のため調整不明、回 転ナズ。内面回転ナズ。	A: 2mm以下の石炭を含む。 1mm以下の白色粒子を含有 し、2mm以下の褐色粒子を含 む。B: 良好。C: 内外灰白 8Y7/L	1/4	口縁部
806	須恵瓦	押瓦	6号東部前庭左側	①(14.4) ②1.3+a	内外面回転ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含有し、微細 な褐色粒子を少量含む。B: 良 好。C: 内外灰白、内赤 5Y7/L	1/2	口縁部
807	須恵瓦	瓦	6号東部前庭左側	①(22.4) ②2.5+a ③ 19.4)	外面回転ナズ、回転ヘラウズ リ後ナズ。内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含 む。B: 良好。C: 内外灰白 2.5Y7/L	1/2	

表20 70地点SX01出土土物観察表

遺物 番号	種類	図様	出土地点	法量(cm・g) ①C位 空部裏 ②底面 法適合位 空部大底	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色調	残存率	備考
808	須恵瓦	押瓦	SX01黒色土①(7号)	①(11.4) ②2.1 つまみ部1.4	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含有し、 2mm以下の石炭を少量含む。微 細な褐色を少量含む。B: 良好。 C: 内外灰白、内赤SY6/L	1/5	内外面に墨ね跡も残あり。
809	須恵瓦	押瓦	SX01黒色土①(7号)	①(11.8) ②2.1+a	外面回転ヘラ切り後ナズ。回 転ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の石炭を含む。 1mm以下の白色粒子を含有し、微 細な褐色を少量含む。B: やや不 長。C: 内外灰白、内赤SY6/L	2/5	瓦みあり。 内面に焼痕あり。
810	須恵瓦	押瓦	SX01黒色土①(7号)	①1.1 ②1.8 つまみ部1.6	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含 む。B: 良好。C: 内外灰白、	1/6	瓦みあり。
811	須恵瓦	押瓦・ 押瓦身	SX01黒色土①(7号)	量: ①(12.4) ②3.0 つまみ部1.6 柄: ②1.7+a	蓋: 外面回転ナズ、回転ヘラウ ズリ。 柄: 内面回転ナズ、回転ナズ 後ナズ。	A: 8mm以下の石炭を含む。 1mm以下の白色粒子を含有し、微 細な褐色を少量含む。B: 良好。 C: 内外灰白SY5/L 内赤: 灰 N4/L 柄: 灰7.5Y5/L	1/3 1/6	押瓦身 口縁部 押瓦と押瓦身が2枚重 なる。
812	須恵瓦	押瓦	SX01黒色土(7号)	①(13.4) ②2.6 つまみ部1.8	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含有し、 B: 良好。C: 内外灰白、	1/2	瓦みあり。
813	須恵瓦	押瓦	SX01黒色土①(7号)	①(14.0) ②4.6 つまみ部2.0	外面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含 む。2mmの石炭を含む。微細な 褐色を含む。B: やや不長。C: 内外灰白、内赤N5/L	2/5	瓦みあり。 内面に墨ね跡も残あり。 外面に焼痕あり。

産物 番号	産地	産種	出土地点	容量 (cm <sup>3</sup> ) (口徑×底径×底厚 底厚同寸 容積大径)	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色調	残存率	備考
814	渋谷区	杯蓋	SX01 黒色土(下層)	①(14.6) ②(2.7) a	外面回転へう切り後ナズ、回転ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む、B: 良好、C: 内灰②5.97%、内灰③6%。	口縁部 1/6	釜みあり、 内面に雲ね残き痕あり。
815	渋谷区	杯蓋	SX01 黒色土(01下層)	①(14.3) ②(3.0) a	外面回転へう切り後ナズ、回転ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の右灰を含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な右石を少量含む、B: やや不良、C: 内灰③6%。	1/6	釜みあり、 外面に障りあり。
816	渋谷区	杯蓋	SX01 黒色土(01下層)	①(14.2) ②(2.7) a ③A④2.1	外面回転ナズ、回転へう切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む、微細な右石を含む、B: 良好、C: 内灰③2.54%。	2/5	内面に雲ね残き痕あり。
817	渋谷区	杯蓋	SX01 黒色土(01下層)	①(14.7) ②(3.6) a ③A④2.1	外面回転ナズ、回転へう切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む、B: 良好、C: 内灰③6%。	口縁部 1/3	内面に雲ね残き痕あり。
818	渋谷区	杯蓋	SX01 黒色土(01下層)	①(15.5) ②(2.8) a ③A④1.9	外面回転ナズ、回転へう切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の右灰を少量含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な右石を少量含む、B: やや不良、C: 内灰③6%。	1/3	
819	渋谷区	杯蓋	SX01 黒色土(01下層)	①(17.2) ②(3.9) a	外面回転へう切り後ナズ、回転ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ヘラケズリ、回転ナズ後ヘラケズのナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の右灰を含む、微細な右石を少量含む、B: やや不良、C: 内灰③2.57%。	1/6	へう記号あり、 つまみ割れあり。
820	渋谷区	杯蓋	SX01 黒色土(下層)	①(17.6) ②(2.6) a ③A④2.1	外面回転ナズ、回転へう切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む、B: 良好、C: 内灰③7.59%、内灰④6%。	1/3	内面に雲ね残き痕あり。
821	渋谷区	杯蓋	SX01 黒色土層	①(18.2) ②(3.9) a ③A④2.2	外面回転ナズ、回転へう切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む、B: 良好、C: 内灰③7.56%、内灰④6%。	3/4	釜みあり、 縁部割れあり。
822	渋谷区	杯蓋	SX01+SX01 黒色土(01下層)	①(23.3) ②(3.0) a ③A④2.2	外面回転ナズ、回転へうケズリ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む、B: 良好、C: 内灰③6%。	1/2	
823	渋谷区	杯蓋	SX01 黒色土(01下層)+SX01 黄土(黒色土下層)	①(25.4) ②(3.4) a ③A④2.2	外面回転ナズ、回転へうケズリ、回転ナズ後機具によるナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子、右灰を少量含む、2mm以下の白色粒子を含む、B: 良好、C: 内灰③2.54%、内灰④6%。	5/6	釜みあり、 縁部割れあり、 内面に点状さみあり。
824	渋谷区	杯蓋	SX01 黒色土(下層)	①(25.2) ②(3.1) a ③A④1.6	外面回転ナズ、回転へう切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む、B: やや不良、C: 内灰③5.97%、内灰④2.57%。	底面	
825	渋谷区	杯蓋	SX01 黒色土(01下層)	①(24.2) ②(1.7) a ③A④1.6	外面回転ナズ、回転へう切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の右灰、白色粒子を含む、B: 良好、C: 内灰③7.56%。	1/2	
826	渋谷区	杯蓋	SX01 黒色土(下層)	①(15.5) ②(1.6) a ③A④2.1	外面回転ナズ、回転へうケズリ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む、B: 良好、C: 内灰③6%。	ほぼ完形	釜みあり、 外面に雲ね残き痕あり。
827	渋谷区	杯蓋	SX01 黄土土層	①(15.9) ②(1.5) a ③A④2.4	外面回転ナズ、回転へうケズリ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む、B: やや不良、C: 内灰③5.9%。	ほぼ完形	
828	渋谷区	杯蓋	SX01 黒色土(下層)	①(15.7) ②(1.7) a ③A④2.0	外面回転ナズ、回転へう切り後ナズ、回転へう切り後機具によるナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む、B: やや不良、C: 内灰③4.97%。	7/8	釜みあり。
829	渋谷区	杯蓋	SX01 土層(黒色土層下層)	①(16.0) ②(1.7) a ③A④1.9	外面回転ナズ、回転へう切り後回転ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む、B: 良好、C: 内灰③2.6%、内灰④7.56%。	完形	
830	渋谷区	杯蓋	SX01 黒色土(下層)	①(18.1) ②(1.5) a ③A④1.8	外面回転ナズ、回転へう切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む、B: やや不良、C: 内灰③2.57%、内灰④2.57%。	2/3	
831	渋谷区	杯蓋	SX01 黒色土(01下層)	①(18.4) ②(2.3) a ③A④2.0	外面回転ナズ、回転へう切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む、B: 良好、C: 内灰③7.56%。	1/6	
832	渋谷区	杯蓋	SX01 黒色土(下層)	①(14.4) ②(2.1) a ③A④2.5	外面回転ナズ、回転へう切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む、B: やや不良、C: 内灰③5.96%。	1/2	釜みあり、 縁部残あり。
833	渋谷区	杯蓋	SX01	①(19.6) ②(1.4) a ③A④2.2	外面回転ナズ、回転へう切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む、B: やや不良、C: 内灰③7.5%。	外表面 完形 口縁部 3/4	
834	渋谷区	杯蓋	SX01 黄土土層	①(21.3) ②(2.1) a ③A④3.0	外面回転ナズ、回転へうケズリ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む、B: やや不良、C: 内灰③2.56%。	1/2	釜みあり、 縁部割れあり、 外面に雲ね残き痕あり。

透物 番号	種類	部材	出土地点	法量[cm・g] (①口径 ②部高 ③底径 ④底内径・透物最大径)	形状・技法の特徴	A：粘土 B：焼成 C：色別	残存率	備考
835	透器底	杯A	SX01	①(1.0)②2.5③(2.6)	外面回転ナズ、回転ヘリ切り 痕未顕著。内面回転ナズ、 回転ナズ後ナズ。	A：2mm以下の白色粒子、黒色粒 子少量含む。B：やや不良。C： 内径S19/L、内径S19/L。	1/3	
836	透器底	杯A	SX01黒色土(0179)	①(1.4)②3.5③(3.8)	外面回転ナズ、回転ヘリ切り 痕ナズ。内面回転ナズ、 回転ナズ後ナズ。	A：2mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：内径N5/L。	1/3	内面に穴だすきあり。
837	透器底	杯A	SX01黒色土(0179)	①(1.4)②3.5③(10.0)	外面回転ナズ、回転ヘリ切り 痕ナズ。内面回転ナズ、 回転ナズ後ナズ。	A：4mm以下の白色粒子を含む。 2mm以下の黒色粒子を含む。B： やや不良。C：外径②.5Y/L②。 内径②.5Y/L②。	1/3	
838	透器底	杯A	SX01黒色土(0179)	①(0.32)②2.3③(9.4)	外面回転ナズ、回転ヘリ切り 痕ナズ。内面回転ナズ、 回転ナズ後ナズ。	A：2mm以下の白色粒子、黒色粒 子を含む。B：良好。C：内径 N6/L。	1/2	内面に穴だすきあり。
839	透器底	杯A	SX01黒色土(0179)	①4.0②10.0③(9.1)	外面回転ナズ、回転ヘリ切り 後工具によるナズ。内面 回転ナズ。	A：5mm以下の白色粒子を含む。 2mm以下の黒色粒子を含む。B： 良好。C：内径N6/L。	①線部 1/3 透部 定形	縦状圧痕あり。
840	透器底	杯A	SX01+SX01黒色土層	①13.3②3.7③(10.3)	外面回転ナズ、回転ヘリ切り 痕ナズ。内面回転ナズ、 回転ナズ後ナズ。	A：3mm以下の白色粒子少量含 む。B：やや不良。C：内径 S19/L②。	1/5	縦状圧痕あり。
841	透器底	杯A	SX01黒色土(0179)	①(4.0)②(3.1)③(9.0)	外面回転ナズ、摩滅のため鉄 鏝不平等。内面回転ナズ、 回転ナズ後ナズ。	A：2mm以下の白色粒子を含む。 B：やや不良。C：外径 ②.5Y/L②。内径②.5Y/L②。	1/4	内面に穴だすきあり。
842	透器底	杯A	SX01黒色土層	①4.6②③4.4③(9.1)	外面回転ナズ、回転ヘリ切り 後工具によるナズ。内面 回転ナズ後ハツ状のナズ。	A：2mm以下の白色粒子少量含 む。B：良好。C：内径 1.5Y/L②。	透部 1/2	
843	透器底	杯F	SX01+SX01黒色土層	上：①(4.2)②4.6③ 8.4 下：②4.2+α	外面回転ナズ、回転ヘリナズ ナズ。内面回転ナズ、 回転ナズ後ナズ。	A：5mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：上：内径N6/L。 下：内径N3/L。	上：①線部 1/3 透部 定形 下：1/4	杯2枚重なる。 上の杯内面に穴だすき あり。
844	透器底	杯F	SX01+SX01土層(黒色土層下層)	①(4.9)②3.9③(7.7)	外面回転ナズ、回転ヘリナズ ナズ。内面回転ナズ、 回転ナズ後ナズ。	A：3mm以下の白色粒子、黒色粒 子を含む。B：良好。C：内径 N6/L。	1/2	内面に穴だすきあり。
845	透器底	杯F	SX01黒色土層(黒色土層下層)	①(5.0)②4.0③(7.6)	外面回転ナズ、回転ヘリナズ ナズ。内面回転ナズ、 回転ナズ後ナズ。	A：1.5mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：外径N6/L。内径 S19/L②。	1/4	釜みあり。 内面に穴だすきあり。
846	透器底	杯F	SX01	①(5.6)②3.6③(7.3)	外面回転ナズ、回転ヘリナズ ナズ。内面回転ナズ、 回転ナズ後ナズ。	A：2mm以下の白色粒子を含む。 B：やや不良。C：内径 N6/L。内径 ②.5Y/L②。	1/3	内面に穴だすきあり。
847	透器底	杯F	SX01黒色土層	①(6.4)②(3.9)③(7.4)	外面回転ナズ、回転ヘリナズ ナズ。内面回転ナズ、 回転ナズ後ナズ。	A：2mm以下の白色粒子を多量含 む。B：やや不良。C：外 径S19/L②-S19/L②。内径 S19/L②。	1/4	
848	透器底	杯B9	SX01黄色土層(黄色土層下層)	①(1.3)②3.8-4.0③(9.4)	外面回転ナズ、回転ヘリ切り 痕ナズ。内面回転ナズ、 回転ナズ後ナズ。	A：1.5mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：外径N7/L。内径 N6/L。	1/4	
849	透器底	杯B9	SX01黒色土(0179)	①(1.7)②3.3-3.5③(6.4)	外面回転ナズ、回転ヘリ切り 痕ナズ。内面回転ナズ、 回転ナズ後ナズ。	A：4mm以下の白色粒子を含む。 2mm以下の黒色粒子を含む。B： 良好。C：外径S4/L②。内径 S19/L②。	ほぼ完全	釜みあり。
850	透器底	杯B9	SX01黒色土(0179)	①(1.6)②(3.7)③(7.3)	外面回転ナズ、回転ヘリ切り 痕ナズ。内面回転ナズ、 回転ナズ後ナズ。	A：2mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：内径N3/L。	1/2	釜みあり。
851	透器底	杯B9	SX01黒色土(0179)	①(2.5)②4.0③(7.6)	外面回転ナズ、回転ヘリ切り 痕未顕著。内面回転ナズ、 回転ナズ後ナズ。	A：1mm以下の白色粒子、黒色粒 子含む。B：やや不良。C：内径 ②.5Y/L②。	①線部 1/6 透部 定形	内面に縦状圧痕あり。
852	透器底	杯B9	SX01黒色土(0179)	①(1.2)②3.8③(3.0)	外面回転ナズ、回転ヘリ切り 痕ナズ。内面回転ナズ、 回転ナズ後ナズ。	A：2mm以下の白色粒子を含む。 B：やや不良。C：内径 S19/L②。	1/4	
853	透器底	杯B9	SX01黒色土(0179)	①(3.6)②4.0③(8.0)	外面回転ナズ、回転ヘリ切り 痕ナズ。内面回転ナズ、 回転ナズ後ナズ。	A：4mm以下の白色粒子を含む。 1.5mm以下の黒色粒子を含む。B： やや不良。C：内径S19/L②。	①線部 1/4 透部 定形	黒白に圧痕あり。
854	透器底	杯B9	SX01黄色土層(黄色土層下層)	①(3.2)②4.1-4.2③(8.4)	外面回転ナズ、回転ヘリ切り 痕ナズ。内面回転ナズ、 回転ナズ後ナズ。	A：2mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：外径N7/L。内径 N6/L。	1/4	釜みあり。 内面に穴だすきあり。
855	透器底	杯B9	SX01黄色土層(黄色土層下層)	①(3.7)②3.7③(9.0)	外面回転ナズ、回転ヘリ切り 痕ナズ。内面回転ナズ、 回転ナズ後ナズ。	A：2mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：外径S16/L②。内径 S19/L②。	定形	焼地割れあり。
856	透器底	杯B9	SX01黒色土(0179)	①(3.4)②(3.1)③(8.0)	外面回転ナズ、回転ヘリ切り 痕ナズ。内面回転ナズ、 回転ナズ後ナズ。	A：2mm以下の黒色粒子、白色粒 子少量含む。B：やや不良。 C：外径②.5Y/L②。内径 ②.5Y/L②。	1/4	



建物 番号	様式	階数	出土地点	品質 (cm・φ) (X) 評定等級 (Y) 完成 状況 (Z) 仕様書番号	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色別	残存率	備考
857	洋風	洋風	SX01黒色土(01下層)	①X13.0②3.8③X7.0	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子、黒色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内外灰白5Y7/2。	1/3	集合に轉形床あり。
858	洋風	洋風	SX01黒色土(01下層)	①X13.6②3.6~3.7③X7.0	外面回転ナズ、回転へつ切り後未開削、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mmの白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰白5Y7/2。	ほぼ定形	焼成時形あり。
859	洋風	洋風	SX01黒色土(黒色土下層)	①X13.9②3.4~3.8③X8.0	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。回転へつ切り後開削工具によるナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。B: やや不良。C: 内外灰白5Y7/2。	標準形 1/4	
860	洋風	洋風	SX01黒色土(01下層)	①X13.7②3.7~3.8③X8.5	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後開削工具によるナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰白5Y7/2。	ほぼ定形	空みあり。
861	洋風	洋風	SX01黒色土(01下層)	①X14.0②3.8③X8.6	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B: やや不良。C: 内外灰白2.5Y6/2、内灰白2.5Y7/2。	1/4	
862	洋風	洋風	SX01黒色土(黒色土下層)	①X14.9②4.2~4.3③X8.8	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: やや不良。C: 内外灰白2.5Y6/2、内灰白2.5Y7/2。	定形	焼成時形あり。
863	洋風	洋風	SX01黒色土(下層)	①X16.2②5.9~6.1③X11.0	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。2mm以下の黒色粒子を含む。B: やや不良。C: 内外灰白5Y7/2。	標準形 1/3 標準形	
864	洋風	洋風	SX01黒色土(01下層)	①X16.2②5.8③X10.2	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B: やや不良。C: 内外灰白5Y7/2、内灰白2.5Y7/2。	標準形 1/8 標準形 定形	空みあり。 焼成時形あり。
865	洋風	洋風	SX01黒色土(黒色土下層)	①X17.2②5.0③X11.0	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の石を含む。1mm以下の白色粒子を含む。B: 不良。C: 内外灰白5Y7/2。	1/2	
866	洋風	洋風	SX01黒色土(黒色土下層)	①X16.9②5.5③X9.8	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B: 不良。C: 内外灰白10YR6/2。	1/3	
867	洋風	洋風	SX01黒色土(下層)	①X16.3②4.4~4.7③10.0	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰白5Y7/2。	標準形 3/4 標準形 定形	溝状形床あり。
868	洋風	洋風	SX01黒色土(黒色土下層)	①X17.8②4.6~5.2③10.4	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。隙間な石を含む。B: やや不良。C: 内外灰白2.5Y7/2、内灰白2.5Y7/2。	ほぼ定形	空みあり。
869	洋風	洋風	SX01黒色土(黒色土下層)	①X17.3②5.2③X10.4	外面穿通のため貫通不明(回転ナズ)。回転ナズ、回転へつ切り後ナズ。内面穿通のため貫通不明(回転ナズ)。回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子、黒色、石を含む。B: 不良。C: 内外灰白5Y7/2。	1/3	空みあり。
870	洋風	洋風	SX01黒色土(01下層)	①X18.4②5.5③X12.4	外面回転ナズ、へつ切り後ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: やや不良。C: 内外灰白5Y7/2。	1/4	集合に圧痕あり。
871	洋風	洋風	SX01黒色土(黒色土下層)	①X18.0②5.3③X10.8	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子、黒色を含む。B: やや不良。C: 内外灰白5Y7/2。	ほぼ定形	
872	洋風	洋風	SX01黒色土(黒色土下層)	①X17.9②5.7~6.1③12.6	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B: やや不良。C: 内外灰白2.5Y7/2。	ほぼ定形	空みあり。
873	洋風	洋風	SX01黒色土(黒色土下層)	①X21.2②6.0③X14.0	外面穿通のため貫通不明(回転ナズ)。回転ナズ、回転へつ切り後ナズ。内面穿通のため貫通不明(回転ナズ)。回転ナズ後ナズ。回転へつ切り後ナズ。	A: 3mm以下の石を含む。1mm以下の白色粒子を含む。隙間な石を含む。B: 不良。C: 内外灰白5Y7/2。	1/2	赤染。
874	洋風	Ⅲ	SX01黒色土(01下層)	①X13.8②2.0③X10.8	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: やや不良。C: 内外灰白5Y7/2、内灰白5Y7/2。	1/3	内外面に欠けすぎあり。
875	洋風	Ⅲ	SX01黒色土(01下層)	①X14.2②2.1③X11.3	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰白5Y7/2。	1/2	空みあり。
876	洋風	Ⅲ	SX01黒色土(01下層)	①X14.4③3.0-a③(12.3)	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰白5Y7/2。	標準形 1/3	空みあり。
877	洋風	Ⅲ	SX01黒色土(01下層)	①X14.5②2.6-a③X12.0	外面回転ナズ、回転へつ切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。隙間な石を含む。B: やや不良。C: 内外灰白10YR6/2、内灰白2.5Y6/2。	1/4	

選物 番号	種類	品種	出土地点	重量(cm・g) ①②③ 交差長 ④ 底径 ⑤ 高さ(含む土層)	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色釉	保存率	備考
876	須恵器	Ⅲ	SK01	①14.5 ②2.2 ③11.6	外面回転ナズ。回転ヘリ切り 後ナズ。内面回転ナズ。回転 ナズ後ナズ。	A: 1mm以下白色粘土。黄色粘 土少量含む。B: 良好。C: 内 外赤10Y5/L。	1/3	焼成時期別あり。
879	須恵器	Ⅲ	SK01黄色土層(黒色土下層)	①14.8 ②2.1 ③12.1	外面回転ナズ。回転ヘリ切り 後ナズ。内面回転ナズ。回転 ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粘土。赤褐色 少量含む。B: やや不貞。C: 内 外赤10Y7/1-10NS。	2/3	
880	須恵器	Ⅲ	SK01黄色土(黒色土下層)	①14.8 ②2.1 ③12.3	外面回転ナズ。回転ヘリ切り 後ナズ。内面回転ナズ。回転 ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粘土を含む。 B: 不貞。C: 外赤10Y6/6-10に 近い赤褐色10Y6/6-10に 近い黄褐色10Y7/2。	ほぼ完全	内面に火だすきあり。 内面加工痕あり。
881	須恵器	Ⅲ	SK01黒色土(白下層)	①14.7 ②2.1 ③11.7	外面回転ナズ。回転ヘリ切り 後ナズ。内面回転ナズ。回転 ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粘土を含む。 B: 良好。C: 内外赤NS。	ほぼ完全	赤みあり。
882	須恵器	Ⅲ	SK01黒色土(白下層)	①15.0 ②2.3 ③12.4	外面回転ナズ。回転ヘリ切り 後ナズ。内面回転ナズ。回転 ナズ後ナズ。	A: 4mm以下の右系少量含む。 1mm以下の白色粘土を含む。B: 良好。C: 外赤NS。内赤NS- 10M。	1/3	赤みあり。 内外面に焼戻あり。
883	須恵器	Ⅲ	SK01黒色土(白下層)	①17.0 ②2.7 ③14.1	外面回転ナズ。回転ヘリ切り 後ナズ。内面回転ナズ。回転 ナズ後ナズ。	A: 微細な白色粘土を少量含む。 B: 良好。C: 内外赤NS。	1/4	内面に火だすきあり。
884	須恵器	Ⅲ	SK01黄色土層(黒色土下層)	①18.4 ②3.0 ③16.2	外面回転ナズ。回転ヘリナズ リ。内面回転ナズ。回転ナズ 後模状工具によるナズ。	A: 3mm以下の白色粘土を多量含 む。2mm以下の右系少量含 む。1mm以下の黒色粘土を多量含 む。B: 良好。C: 外赤NS。内 赤NS。	ほぼ完全	赤みあり。
885	須恵器	Ⅲ	SK01黒色土(白下層)	①18.6 ②3.9 ③14.6	外面回転ナズ。回転ヘリ切り 後木割器。内面回転ナズ。内 面ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粘土。赤色粘 土。灰土を含む。B: 不貞。C: 内赤に近い赤褐色10Y7/4-10に 近い黄褐色10Y7/2。	1/3	赤みあり。
886	須恵器	Ⅲ	SK01黄色土層	①19.4 ②2.6 ③16.3	外面回転ナズ。回転ヘリ切り 後模状工具によるナズ。内面 回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の黄色粘土。白色粘 土を含む。B: 不貞。C: 内外 赤2.5Y7/2。	4/5	
887	須恵器	Ⅲ	SK01黄色土層(黒色土下層)	①19.5 ②2.8 ③16.3	外面回転ナズ。回転ヘリ切り 後ナズ。内面回転ナズ。回転 ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粘土を含む。 B: 良好。C: 内外赤NS。	5/6	
888	須恵器	Ⅲ	SK01黒色土(白下層)	①19.8 ②2.3 ③16.4	外面回転ナズ。回転ヘリ切り 後ナズ。内面回転ナズ。回転 ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粘土を含む。 B: 良好。C: 外赤1.5Y5/L。内 赤1.5Y6/L。	2/3	赤みあり。
889	須恵器	白付Ⅲ	SK01黒色土層	①22.0 ②3.4 ③18.6	外面回転ナズ。回転ヘリ切り 後ナズ。内面回転ナズ。回転 ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粘土を含む。 B: 良好。C: 外赤NS。内赤 NS。	1/3	赤みあり。
890	須恵器	高林	SK01黒色土(下層)	②12.9・a 断面厚12.4	外面回転ナズ。シボリ痕・凹輪 ナズ。内面回転ナズ。シボリ 痕・凹輪ナズ。ナズ。	A: 5mm以下の白色粘土を含む。 B: 良好。C: 内外赤NS。	断面 1/2	
891	須恵器	高林	SK01黄色土層	②13.2・a 断面厚13.6	外面回転ナズ。回転ナズ・シボ リ痕。内面回転ナズ。	A: 2mm以下の白色粘土を含む。 B: 良好。C: 内外赤NS/4。	断面のみ	
892	須恵器	阿曇寺	SK01黄色土層(黒色土下層)	①10.9 ②14.7-15.2 ③ 9.7 最大断面厚21.0	外面回転ナズ。回転ヘリナズ リ。内面回転ナズ。回転ナズ 後ナズ。	A: 3mm以下の白色粘土を含む。 B: やや不貞。C: 外赤赤褐色 7.5R4/L。内赤NS。	3/4	赤みあり。 焼成時期別あり。
893	須恵器	阿曇寺	SK01。SK01黄色土。SK01黒 色土層。SK01黒色土(白下層)	②14.7・a 最大断面厚18.8	外面回転ナズ。回転ヘリナズ リ。内面回転ナズ。回転ナズ 後後ナズ。	A: 2mm以下の白色粘土を含む。 B: 良好。C: 外赤NS。内赤 1.5Y6/6/L。	断面 2/3	内面に一層焼戻あり。
894	須恵器	馬	SK01黒色土(下層)	①19.2 ②2.1・a	内外面回転ナズ。	A: 2mm以下の白色粘土を含む。 B: やや不貞。C: 外赤 10Y4/L。内赤NS/6。	口縁部 1/6	
895	須恵器	馬	SK01黒色土(下層)	①17.0 ②3.7・a	内外面回転ナズ。	A: 1mm以下の白色粘土を含む。 B: 良好。C: 外赤1.5Y5/NS/L。 外赤1.5Y6/L。	口縁部 1/4	内面に焼戻あり。
896	須恵器	馬	SK01黒色土	②15.7・a 最大断面厚17.4	外面回転ナズ。回転ヘリナズ リ後ナズ。内面回転ナズ。凹 輪ナズ。	A: 3mm以下の右系少量含む。 1mm以下の白色粘土を含む。微 細な灰土を含む。B: やや不貞。 C: 内外赤NS。	断面 1/3	
897	須恵器	阿曇寺	SK01黒色土(下層)	②19.2・a ③15.0 最大断面厚26.8	外面回転ナズ。回転ヘリナズ リ。内面回転ナズ。回転ナズ 後後によるタナナズ。回転ナ ズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粘土を含む。 微細な灰石を含む。B: やや不 貞。C: 外赤1.5Y6/L。内赤 2.5Y7/2。	断面 1/6 断面 1/2	焼成時期別あり。
898	須恵器	埴	SK01黒色土(下層)。SK01黄色 土(黒色土下層)	②19.2・a ③13.8	外面回転ナズ。回転ヘリナズ リ。内面回転ナズ。回転ナズ 後ナズ。内面回転ナズ。内 面ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粘土を含む。 B: 良好。C: 外赤1.5Y6/L。 内赤1.5Y6/L。	断面一部 1/2	
899	須恵器	埴	SK01黄色土層	①20.9 ②24.4・a 最大断面厚36.0	外面回転ナズ。磨子目多 キ。内面回転ナズ。ナズ。出 て異色。	A: 3mm以下の白色粘土を含む。 B: 良好。C: 外赤NS。内赤 10Y6/6/L。	口縁部一部 1/3	内面に磨子目タナキ あり。

表21 70地点SX02出土遺物観察表

遺物 番号	種類	図様	出土地点	深さ(cm・d)	①②③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪⑫⑬⑭ ⑮⑯⑰⑱	形状・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色別	保存率	備考
900	滑石器	杯蓋	SX02	①16.3 ②1.1 →③4.0④1.0		外面回転ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の石灰を少量含む、1mm以下の白色粒子を含む。B: やや不脱。C: 内外灰N6/L、内灰白N7/L。	3/4 口縁の一部を欠く	胚みあり。 内面に黒ねり痕あり。
901	滑石器	杯蓋	SX02	①19.2 ②2.9 →③4.0④1.7		外面回転ナズ、回転へう切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の石灰を少量含む、1mm以下の白色粒子を含む。B: やや不脱。C: 内外灰N6/L。	1/3	胚みあり。
902	滑石器	杯蓋	SX02	①13.9 ②4.4 →③4.0④1.8		外面回転ナズ、回転へう切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の石灰を含む、1mm以下の白色粒子を含む。炭粉を少量含む。B: 1/4不脱。C: 内外灰N6/L。	欠所	胚みあり。
903	滑石器	杯蓋	SX02	①15.3 ②2.3 →③4.0④1.8		外面回転ナズ、回転へう切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の石灰を含む、1mm以下の白色粒子を含む。炭粉を少量含む。B: 不脱。C: 内外灰白2.5YR/2。	2/3	
904	滑石器	杯蓋	SX02	①14.0 ②3.7 →③4.0④2.1		外面回転ナズ、回転へう切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の石灰を含む、1mm以下の白色粒子を含む。炭粉を少量含む。B: 良好。C: 内外灰N6/L。	欠所	胚みあり。 内外面に傷みあり。
905	滑石器	杯蓋身	SX02	①11.8 ②3.4→3.7 ③6.8		外面回転ナズ、回転へう切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B: やや不脱。C: 内外灰5Y7/L。	口縁部 1/2 欠所 変形	底面に任傷あり。
906	滑石器	杯蓋身	SX02	①13.2 ②3.8→3.9 ③8.4		外面回転ナズ、回転へう切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰10Y5/L。	欠所	胚みあり。 底面に工具痕あり。 ツメ状の穴あり。
907	滑石器	杯蓋身	SX02	①14.0 ②3.9 ③(8.4)		外面回転ナズ、回転へう切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。B: やや不脱。C: 内外灰5BG5/L、内灰7.5Y6/L。	1/4	
908	滑石器	杯蓋身	SX02	①16.0 ②5.8 ③9.8		外面回転ナズ、回転へう切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の石灰を含む。B: やや不脱。C: 内外灰2.5Y7/2。	口縁部 1/2 変形 欠所	
909	滑石器	杯蓋身	SX02	①16.9 ②5.1→5.8 ③10.0		外面回転ナズ、回転へう切り後未調整。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 3mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B: やや不脱。C: 内外灰5Y6/L。	ほぼ欠所	胚みあり。 焼成特製あり。
910	滑石器	杯蓋身	SX02	①20.9 ②7.2→7.8 ③11.7		外面回転ナズ、回転へう切り後焼成工具によるナズ。	A: 2mm以下の白色粒子、黒色、黒色粒子を含む。B: やや不脱。C: 内外灰5Y7/L、内灰黄2.5Y7/2。	欠所	胚みあり。 焼成特製あり。 縁部圧痕あり。
911	滑石器	皿	SX02	①18.2 ②2.8 ③14.9		外面回転ナズ、回転へう切り後焼成工具によるナズ。	A: 2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰N6/L。	1/2	
912	滑石器	盃形	SX02	①13.1+a 脚部径12.6		内外面回転ナズ、シボリ滑。	A: 1mm以下の白色粒子。黒色を含む。B: 良好。C: 内外灰5Y7/L、内灰白N7/L。	脚部 5/6	
913	滑石器	香蓋	SX02	②2.6+a		内外面回転ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰N6/L。	小片	
914	滑石器	皿	SX02	②8.6+a ③(12.0)		外面回転ナズ、回転へう切り後ナズ。焼成工具によるナズ。内面回転ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰白2.5Y7/1、内灰白5Y7/L。	底面 1/2	
915	滑石器	蓋	SX02	①19.0 ②6.1+a		外面回転ナズ、種子目タタキ。内面回転ナズ、当て具痕。	A: 1mm以下の白色粒子、黒色、黒色を含む。B: 不脱。C: 内外灰黄2.5Y7/2。	1/4	内面に格子目タタキあり。

表22 70地点SP出土遺物観察表

遺物 番号	種類	図様	出土地点	深さ(cm・d)	①②③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪⑫⑬⑭ ⑮⑯⑰⑱	形状・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色別	保存率	備考
916	滑石器	杯	SP03	①14.4 ②3.6 ③11.1		外面回転ナズ、回転へう切り後工具ナズ、回転へう切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: やや不脱。C: 内外灰2.5YR/2、内灰黄2.5Y7/L。	ほぼ欠所	焼成特製あり。
917	滑石器	杯蓋身	SP03	①13.0 ②4.0 ③9.0		外面回転ナズ、回転へう切り後ナズ、内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の黒色粒子を少量含む。B: 不脱。C: 内外灰10YR8/2、内灰白2.5YR/2。	1/4	

遺物 番号	種類	遺物	出土地点	質量(cm・g) ①口径 ②高さ ③口径 ④底径 ⑤最大径	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色別	残存率	備考
918	滑石器	長柄杓	SP03	②12.9 × ③19.2 最大径27.0	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ 内面回転ナズ、回転ヘラケズリ。 内面回転ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B: 良好。C: 内灰1.5%以下、内灰黒化。	1/4	
919	滑石器	杯形	SP04	①13.0 ②3.7 ③8.4	外面回転ナズ、回転ヘラ切り ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。 B: やや不良。C: 内灰 2.5%以下、内灰2.5%以下。	完形	構成材料あり。
920	滑石器	杯蓋	SP06	①13.5 ②3.6 つまみ径2.3	外面回転ナズ、回転ヘラケズ リナズ。回転ヘラ切りナズ。 内面回転ナズ、回転ナズ ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。 B: 良好。C: 内灰黒化2.5%以下。	5/6	つまみ部に工痕あり。
921	滑石器	杯A	SP06	①14.4 ②3.4 ③11.6	外面回転ナズ、回転ヘラ切り ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。 B: 不良。C: 内灰黒 2.5%以下。	2/3	構成材料あり。
922	滑石器	皿	SP06	①21.8 ②3.1 ③18.8	外面回転ナズ、回転ヘラケズ リナズ。内面回転ナズ、回転 ナズナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。 B: やや不良。C: 内灰黒 2.5%以下、内灰黒2.5%以下。	1/3	内面に穴だすきあり。
923	滑石器	高杯	SP06	②1.6+a 胴部径14.0	内外面回転ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B: 良好。C: 内灰黒 化。内灰1.5%以下。	遺部 1/4	外面に傷あり。
924	滑石器	盃	SP06	①12.0 ②2.8+a	内外面回転ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内灰黒化、内灰黒 2.5%以下。	2/5	
925	滑石器	長柄杓	SP06	②1.7+a 最大胴部径20.2	内外面回転ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。 B: 良好。C: 内灰1.5%以下、内 灰白1.5%以下。	1/8	
926	滑石器	高杯	谷部下層汚れた黄色土	②10.7+a 胴部径10.8	外面シボリ痕・回転ナズ。回転 ナズ。内面回転ナズ、シボリ 痕。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。 B: 良好。C: 内灰黒化、内灰 1%以下。	遺部 1/3	
927	滑石器	双耳杯	谷部下層汚れた黄色土	②9.3+a ③11.6	外面回転ヘラケズリ、内面ケ ズリナズ。回転ヘラ切りナズ。 内面回転ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子、石炭を 含む。B: 不良。C: 内灰 5%以下、内灰黒2.5%以下。	遺部 1/2	外面に肥土一層残存。

表23 70地点 1・2号窯跡出土遺物観察表

遺物 番号	種類	遺物	出土地点	質量(cm・g) ①口径 ②高さ ③口径 ④底径 ⑤最大径	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色別	残存率	備考
928	滑石器	皿	1-2号窯跡埋砂層下層下伏S-X02	①20.8 ②8.6+a	外面回転ナズ。ナズ。粘土目 タタキ。内面回転ナズ、同心 円状で裏溝。	A: 4mm以下の石炭を少量含む。 B: 1mm以下の白色粒子を含む。 B: やや不良。C: 内灰 1%以下、内灰黒化。	口縁部 1/2	外面に粘土目タタキあり。 内面に工痕あり。

表24 71地点出土遺物観察表

遺物 番号	種類	遺物	出土地点	質量(cm・g) ①口径 ②高さ ③口径 ④底径 ⑤最大径	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色別	残存率	備考
929	滑石器	杯蓋	1号窯跡窯体内床面上(内面に 面上に外口とあり)	①14.0 ②3.5 ③8.9	外面回転ナズ、回転ヘラ切り ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズナズ。	A: 2mm以下の石炭を少量含む。 1mm以下の白色粒子を含む。 B: 良好。C: 内灰黒化。	1/2	
930	滑石器	杯蓋	窯体内床面	長12.0 幅8.1+a 厚4.5	内外面削オケテ。	A: 1mm以下の石炭を少量含む。 1mm以下の白色粒子を少量含む。 C: 内灰白2.5%以下(黒化による 白色色。一部黒化色)。	1/2	
931	滑石器	杯蓋	1号窯跡開口出土	①15.1 ②1.8	外面回転ヘラ切りナズ。回転 ナズ。内面回転ナズ、回転 ナズナズ。	A: 1mm以下の白色粒子、黒色粒子 を含む。B: 良好。C: 内灰白 2.5%以下。	ほぼ完形	
932	滑石器	杯蓋	1号窯跡窯体陥没穴中土層土	①15.0 ②1.5 つまみ径2.7	外面回転ナズ、回転ヘラケズ リ。回転ヘラケズリナズ。 内面回転ナズ、回転ナズ ナズ。	A: 5mm以下の白色粒子を含む。 B: 良好。C: 内灰黒化、内灰黒 2.5%以下。	4/5	歪みあり。 外面に凹痕の残存付 あり。
933	滑石器	杯蓋	1号窯跡開口右側土層土	①15.1 ②3.1 つまみ径1.8	外面回転ナズ、回転ヘラケズ リ。内面回転ナズ、回転ナズ ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子、白色粒 子を含む。B: やや不良。C: 内灰白 5%以下。	1/2	歪みあり。 つまみ付の凹痕土を よく残る。

建物 番号	種類	階層	出土地点	位置 (cm・d) (□印付 左端部 □印付 深部印付 右端部)	形態・技法の特徴	A:胎土 B:縁底 C:色調	残存率	備考
934	洪赤色	坪倉	1号東洋館本体(原壁型土中 部体内土層印付)	①(14)②3.7~4.0③8.7	内面回転ナズ、回転ヘラ切り ナズ、内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A:2.5mm以下の白色粒子を少量含 む。1mm以下の白色粒子、黄色 粒子を含む。縦断面長石を含む。 B:良好。C:内赤色 7.5/7.1。	3/5	
935	洪赤色	坪倉	館体内入口部埋土中	①(18)②5.8③(10.6)	内面回転ナズ、摩滅のため 調整不詳。	A:1.5mm以下の白色粒子を含む。 縦断面金髪母を含む。B:不良。 C:外黄赤2.5/4.7、内赤黄 2.5/8/7.1。	□縁部 1/8 透部 1/6	
936	洪赤色	皿	1号東洋館口出土	①(14)②2.2③12.4	内外面調整のため調整不詳。	A:2.5mm以下の白色粒子を少量含 む。1.5mm以下の白色粒子を少量 含む。縦断面長石を含む。B:不 良。C:外黄赤2.5/6.7、内赤黄 2.5/8/7.1。	表面 ほぼ完形	
937	洪赤色	坪倉	1号東洋館前左側土坑下層黄赤 土出土	①(14)②1.9+a	内面回転ヘラ切り後ナズ、回 転ナズ、内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A:4mm以下の白色粒子を少量含 む。B:不良。C:内赤 5/9/6/6。	1/4	面みあり。 つまみ跡あり。
938	洪赤色	坪倉	1号東洋館前右側2	①(14)②3.2 つまみ痕1.9	内面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ、内面回転ナズ。	A:2.5mm以下の白色粒子を含む。 B:良好。C:内赤オレンジ 5/9/7.2。	完形	面みあり。 焼成跡あり。
939	洪赤色	坪倉	1号東洋館前4層埋込土中	①(15)②2.4+a	内面回転ヘラ切り後ハタケ 状調整、回転ヘラナズリ、回 転ナズ、内面回転ナズ、回転 ナズ後ナズ。	A:1.5mm以下の白色粒子を少量含 む。B:良好。C:内赤 2.5/6/2、内黄赤2.5/6.1。	1/3	
940	洪赤色	坪倉	1号東洋館前中央成物集巾地 点	①(14)②4.1③(9.8)	内面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ、内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A:2.5mm以下の白色粒子を少量含 む。B:良好。C:内赤5/6/1。 内赤黄赤2.5/6.2。	1/4	
941	洪赤色	坪倉	1号東洋館前中央成物集巾地 点	①(18)②4.0③(8.8)	内面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ、内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A:2.5mm以下の白色粒子、黄色粒 子を少量含む。B:良好。C:内 赤黄赤2.5/7.2。	1/3	
942	洪赤色	坪倉	1号東洋館前4層埋込土中	①(14)②4.2③(5.1)	内面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ、内面回転ナズ、摩滅 のため調整不詳。	A:縦断面長石を含む。B:やや 不良。C:内赤黄赤2.5/7.2。	1/3	
943	洪赤色	坪倉	1号東洋館前4層埋込土中	①(14)②3.6~3.7③(9.2)	内面回転ナズ、回転ヘラナズ リ後ナズ、内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A:縦断面金髪母を含む。B:良 好。C:内赤黄赤2.5/6.1。	□縁部 3/4	焼成跡あり。 現状状態あり。
944	洪赤色	坪倉	1号東洋館前中央成物集巾地 点	①(18)②3.4③(9.8)	内面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ、内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A:2.5mm以下の白色粒子を少量含 む。B:良好。C:内赤 5/5/7.1。	1/2	
945	洪赤色	坪倉	1号東洋館前4層埋込土中	①(14)②3.8~4.1③(8.8)	内面回転ナズ、回転ヘラナズ リ後回転ナズ、回転ナズ、回 転ナズ後ナズ、内面回転 ナズ、回転ナズ後ナズ。	A:縦断面長石を含む。B:良 好。C:内赤5/6/1、内赤黄 2.5/6/2。	□縁部 3/4	焼成跡あり。
946	洪赤色	坪倉	1号東洋館前4層埋込土中	①(14)②4.1③(8.6)	内面回転ナズ、回転ヘラナズ リ後ナズ、内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A:1.5mm以下の白色粒子を少量含 む。縦断面長石を少量含む。B: やや不良。C:内赤(2.5/3.7)7.2。 内赤黄赤2.5/7.2。	1/2	現状状態あり。
947	洪赤色	坪倉	1号東洋館前右側1	①(14)②3.7~3.9③(9.0)	内面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ、内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A:2.5mm以下の白色粒子を含む。 B:良好。C:内赤5/6/1。	完形	面みあり。 焼成跡あり。
948	洪赤色	坪倉	1号東洋館前左側1	①(18)②4.1③(9.3)	内面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ、内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A:4mm以下の白色粒子を少量含 む。B:良好。C:内赤 5/5/7.1。	ほぼ完形	面みあり。 焼成跡あり。
949	洪赤色	皿	1号東洋館前左側土坑下層黄赤 土出土	①(18)②(1.9)③(14.6)	内面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ、内面回転ナズ。	A:3mm以下の白色粒子を含む。 縦断面長石を少量含む。B:良 好。C:内赤5/6/1。	1/6	
950	洪赤色	坪倉	1号東洋館西2	①(11)②1.8 つまみ痕1.8	内面回転ナズ、回転ヘラ切り 後未調整、内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A:1.5mm以下の白色粒子を少量含 む。B:良好。C:内赤 7.5/5.1。	1/2	
951	洪赤色	坪倉	1号東洋館西2	①(28)②1.9 つまみ痕1.8	内面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ、内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A:1.5mm以下の白色粒子を含む。 縦断面長石を少量含む。B: やや不良。C:内赤(内赤)4 7.5/6/7.1。	3/5	面みあり。
952	洪赤色	坪倉	1号東洋館西1	①(18)②1.8+a	内面回転ヘラ切り後ナズ、回 転ナズ、内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A:1.5mm以下の白色粒子、骨母を 含む。B:やや不良。C:内赤 2.5/6/2、内赤黄赤2.0/6/2。	1/3	面みあり。
953	洪赤色	坪倉	1号東洋館西2	①(11)②2.1 つまみ痕1.9	内面回転ナズ、回転ヘラ切り 後回転ナズ、内面回転ナズ、 回転ナズ後ナズ。	A:1.5mm以下の白色粒子を含む。 B:やや不良。C:内赤黄 2.5/6/2。	5/6	
954	洪赤色	坪倉	1号東洋館西2	①(14)②2.6 つまみ痕2.1	内面回転ナズ、回転ヘラ切り 後ナズ、内面回転ナズ、回 転ナズ後ナズ。	A:4mm以下の白色粒子を少量含 む。B:良好。C:内赤5/6/1。	完形	面みあり。 焼成跡あり。 内面に黄赤跡多量あり。

通物 番号	種類	部材	出土地点	法量(cm・g) (□□□ ②部量 ③法理 法適合性 ④最大径)	形態・技法の特徴	A：黄土 B：焼成 C：色別	残存率	備考
995	須恵器	杯蓋	1号東瀬川原5区	①0.4②2.1+α	外面凹縁へう切り痕ナシ。凹縁ナシ。内面凹縁ナシ。凹縁ナシ後ナシ。	A：1mm以下の上向き多量含む。2mm以下の上向き多量含む。B：良好。C：内外共に5/97/②。	1/4	蓋みあり。 つまみ跡認められ。
996	須恵器	杯蓋	1号東瀬川原2区	①14.5②2.6 つまみ痕2.1	外面凹縁ナシ。凹縁へう切り痕ナシ。内面凹縁ナシ。凹縁ナシ後ナシ。	A：1mm以下の白色粒子を少量含む。1mm以下の長石を少量含む。B：良好。C：内外共に5/95/①。	1/4	蓋みあり。
997	須恵器	杯蓋	1号東瀬川原4区	①14.7②2.0 つまみ痕2.2	外面凹縁ナシ。凹縁へう切り痕ナシ。内面凹縁ナシ。凹縁ナシ後ナシ。	A：1mm以下の長石を少量含む。2mm以下の白色粒子を含む。燧石を含む量も少量含む。B：良好。C：内外共に7.5/95/①。	5/8	
998	須恵器	杯蓋	1号東瀬川原4区	①14.6②2.7 つまみ痕1.7	外面凹縁ナシ。凹縁へう切り痕ナシ。内面凹縁ナシ。凹縁ナシ後ナシ。	A：1mm以下の長石を含む。1mm以下の白色粒子。黒色粒子を含む。B：良好。C：内外共に5/96/①。	1/4	焼成時期あり。 磨痕は認められ。
999	須恵器	杯蓋	1号東瀬川原1区	①15.2②2.2 つまみ痕1.9	外面凹縁ナシ。凹縁へう切り痕本数個。凹縁へう切り痕ナシ。内面凹縁ナシ。凹縁ナシ後ナシ。	A：1mm以下の白色粒子。燧石を含む。B：やや不良。C：内外共に2.5/97/②。内面に③痕。	1/4	蓋みあり。
990	須恵器	杯蓋	1号東瀬川原5区	①15.0②2.7	外面凹縁ナシ。凹縁へう切り痕ナシ。内面凹縁ナシ。凹縁ナシ後ナシ。	A：1.5mm以下の長石を含む。1mm以下の白色粒子を含む。燧石を含む量も少量含む。B：良好。C：内外共に5/97/②。	1/4	蓋みあり。
991	須恵器	杯蓋	1号東瀬川原土師式	①16.0②2.9 つまみ痕2.6	外面凹縁ナシ。凹縁へう切り痕ナシ。内面凹縁ナシ。凹縁ナシ後ナシ。	A：1mm以下の白色粒子。長石を含む。B：不良。C：内外共に10/97/②。	1/4	蓋みあり。
992	須恵器	杯蓋	1号東瀬川原5区	①15.0②2.8 つまみ痕2.2	外面凹縁ナシ。凹縁へう切り痕ナシ。内面凹縁ナシ。凹縁ナシ後ナシ。	A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外共に7.5/95/①。	1/4	
993	須恵器	杯蓋	1号東瀬川原3区	①15.3②1.9+α	外面凹縁へう切り痕ナシ。凹縁ナシ。内面凹縁ナシ。凹縁ナシ後ナシ。	A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外共に5/96/①。	1/4	
994	須恵器	杯蓋	1号東瀬川原6区	①15.6②2.1 つまみ痕2.0	外面凹縁ナシ。凹縁へう切り痕ナシ。内面凹縁ナシ。凹縁ナシ後ナシ。	A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外共に6/96/①。	ほぼ完全	蓋みあり。
995	須恵器	杯蓋	1号東瀬川原7区	①15.4②2.6 つまみ痕2.0	外面凹縁ナシ。凹縁へう切り痕ナシ。内面凹縁ナシ。凹縁ナシ後ナシ。	A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外共に2.5/97/②。	1/3	磨痕は認められ。
996	須恵器	杯蓋	1号東瀬川原1区	①15.9②1.1	外面凹縁へう切り痕ナシ。凹縁ナシ。内面凹縁ナシ。凹縁ナシ後ナシ。	A：1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内外共に2.5/97/②。	ほぼ完全	蓋みあり。 つまみ跡認められ。
997	須恵器	杯蓋	1号東瀬川原6区(木櫃カクラン内)	①15.8②1.5 つまみ痕2.0	外面凹縁ナシ。凹縁へう切り痕ナシ。内面凹縁ナシ。凹縁ナシ後ナシ。	A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外共に3/96/①。	1/3	
998	須恵器	杯蓋	1号東瀬川原3区	①18.0②1.7+α	外面凹縁へう切り痕ナシ。凹縁ナシ。内面凹縁ナシ。凹縁ナシ後ナシ。	A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不良。C：内外共に2.5/97/②-裏面2.5/95/①。	1/4	
999	須恵器	杯蓋	1号東瀬川原7区	①17.0②1.9+α	外面凹縁へう切り痕ナシ。凹縁ナシ。内面凹縁ナシ。凹縁ナシ後ナシ。	A：1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内外共に2.5/97/②。	1/5	
990	須恵器	杯蓋	1号東瀬川原土師式	①18.2②1.6 つまみ痕2.2	外面凹縁ナシ。凹縁へう切り痕ナシ。内面凹縁ナシ。凹縁ナシ後ナシ。	A：1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内外共に2.5/97/②。	1/6	
991	須恵器	杯蓋	1号東瀬川原1区	①18.0②1.3 つまみ痕2.1	外面凹縁ナシ。凹縁へう切り痕ナシ。内面凹縁ナシ。凹縁ナシ後ナシ。	A：1mm以下の白色粒子。長石を含む。B：不良。C：内外共に2.5/97/②。	1/6	蓋みあり。
992	須恵器	杯蓋	1号東瀬川原2区	①18.0②2.6 つまみ痕2.3	外面凹縁ナシ。凹縁へう切り痕ナシ。内面凹縁ナシ。凹縁ナシ後ナシ。	A：1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内外共に2.5/97/②。内面に③痕。裏面2.5/95/①。	1/3	
993	須恵器	杯蓋	1号東瀬川原5区	①19.2②1.7	外面凹縁へう切り痕ナシ。凹縁ナシ。内面凹縁ナシ。凹縁ナシ後ナシ。	A：1mm以下の白色粒子。燧石を含む。B：不良。C：内外共に2.5/97/②。	口縁部 1/4	磨痕は認められ。
994	須恵器	杯	1号東瀬川原6区	①12.0②4.0③(9.5)	外面凹縁ナシ。へう切り痕ナシ。凹縁へう切り痕ナシ。内面凹縁ナシ。凹縁ナシ後ナシ。	A：1mm以下の白色粒子を含む。B：不良。C：内外共に10/96/②。	口縁部 1/9 表面 1/4 底部 1/4	磨痕は認められ。
995	須恵器	杯口	1号東瀬川原7区	①13.0②3.7③(8.0)	外面凹縁ナシ。凹縁へう切り痕ナシ。内面凹縁ナシ。凹縁ナシ後ナシ。	A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外共に5/96/①。	1/3	
996	須恵器	杯口	1号東瀬川原土師式	①13.0②3.7③(8.0)	外面凹縁ナシ。凹縁へう切り痕ナシ。内面凹縁ナシ。凹縁ナシ後ナシ。	A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外共に2.5/96/①。	1/4	蓋みあり。 焼成時期あり。

遺物 番号	種類	数量	出土地点	重量(cm・g) ①X②③ ④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ ⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色別	保存率	備考
977	浜巻田	村巻	1号家跡瓦溝1区	①13.0②3.7③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰白⑤⑦⑨⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲	1/4	釜みあり。
978	浜巻田	村巻	1号家跡瓦溝5区	①13.9②3.6~3.9③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。板状工具。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。1mm以下の石灰を少量含む。微細な骨髄を含む。B: やや不貞。C: 内外灰黒2.5Y7/2。	3/5	釜みあり。 高位に属する工具類あり。
979	浜巻田	村巻	1号家跡瓦溝表土貯室	①13.8②3.7③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子。骨髄を含む。B: 良好。C: 内外灰黒2.5Y5/2。内灰黒2.5Y6/2。	1/5	釜みあり。
980	浜巻田	村巻	1号家跡瓦溝5区	①14.4②3.8③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1.5mm以下の白色粒子を含む。1mm以下の石灰を含む。微細な骨髄を含む。B: やや不貞。C: 内外灰黒2.5Y7/2。	2/5	
981	浜巻田	村巻	1号家跡瓦溝7区	①14.0②3.6+a	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。板状工具によるナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰黒2.5Y6/2。	1/8	高位割製あり。
982	浜巻田	復習(全 家跡探 掘区)	1号家跡瓦溝5区	②3.4+a	内外面回転ナズ。	A: 3mm以下の石灰を少量含む。1mm以下の白色粒子を含む。B: やや不貞。C: 外灰黒2.5Y6/2。内灰黒10Y6/2。	小片	
983	浜巻田	皿	1号家跡瓦溝5区	①18.3②4.5③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰白⑦⑨⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲	1/8	釜みあり。
984	浜巻田	皿	1号家跡瓦溝5区	①18.0②4.5③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内外灰白5Y7/2。	口縁部 1/4	
985	浜巻田	村巻	S304	①17.0②5.2③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲	外面摩滅のため調整不明。回転ナズ。回転ヘラ切り後ナズ。内面摩滅のため調整不明。	A: 2.5mm以下の褐色粒子を含む。2mm以下の白色粒子を含む。微細な石灰を含む。B: 不貞。C: 外灰黒2.5Y6/2。内灰黒2.5Y6/2。	口縁部 1/4	
986	浜巻田	村巻	必帯C-1(瓦溝1-3-5区と型)	①15.1②2.3 ③2.8④3.9	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子。石灰を含む。B: 不貞。C: 内外灰5Y6/2。内灰白2.5Y7/2。	2/3	釜みあり。
987	浜巻田	村巻	必帯C-1(瓦溝3-5・7区と型)	①13.6②3.4~3.7③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 不貞。C: 外灰黒2.5Y7/2。内灰黒2.5Y7/2。	1/2	釜みあり。 板状工具類あり。
988	浜巻田	村巻	必帯A-1	①14.9②3.7~3.8③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ後ナズ。回転ヘラ切り後ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: 不貞。C: 外灰白2.5Y7/2。内灰黒2.5Y6/2。	1/2	内面に骨ね焼き痕あり。
989	浜巻田	皿	必帯赤土線表土保	①17.2②2.6③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後板状工具による不方向ケズリ。内面回転ナズ、回転ナズ後ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。B: 良好。C: 内外灰黒⑦⑨⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲	1/5	口縁部に焼痕あり。 内面に骨ね焼き痕あり。
990	浜巻田	長形器	必帯A-2(器あり)	①12.1②25.8~26.2③ 9.7 最大断面厚20.1	外面回転ナズ。沈線。回転ナズ後ナズ。回転ヘラケズリ。内面回転ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を含む。B: 良好。C: 内外灰黒10Y6/2。	ほぼ完好	釜みあり。 板状工具多数あり。 板状器類あり。 内面に焼痕あり。

表25 74地点出土遺物観察表

遺物 番号	種類	数量	出土地点	重量(cm・g) ①X②③ ④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ ⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲	形態・技法の特徴	A: 粘土 B: 焼成 C: 色別	保存率	備考
991	浜巻田	皿	S301	①22.4②16.0+a	外面回転ナズ、回転ヘラケズリ。内面回転ナズ。	A: 2mm以下の白色粒子を少量含む。1mm以下の石灰を少量含む。B: やや不貞。C: 外灰黒2.5Y6/2。内灰黒2.5Y7/2。	3/4	
992	浜巻田	杯	S305	②1.9+a	内外面回転ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。B: やや不貞。C: 内外灰NS。	小片	
993	浜巻田	杯	既調査跡トレンチア段	②2.5+a③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲	外面回転ナズ、回転ヘラ切り後ナズ。内面力キメ状の回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を少量含む。微細な石灰を含む。微細な骨髄を少量含む。B: やや不貞。C: 内外灰黒2.5Y6/2。	1/8	小型。
994	浜巻田	杯巻	表土	①15.0②2.2+a	外面回転ヘラケズリ。回転ヘラケズリ後ナズ。内面回転ナズ。回転ナズ後ナズ。	A: 1mm以下の白色粒子を含む。微細な石灰を含む。B: やや不貞。C: 外に灰黒2.5Y6/2。内灰黒2.5Y6/2。	1/8	

漢物 番号	種類	器種	出土地点	法量[cm・g] ①[口径 定部径 ②底径 器底台径 台継大径]	形態・技法の特徴	A：胎土 B：焼成 C：色別	残存率	備考
995	須恵器	杯蓋	表段	①15.0 ②0.9+α	外面へう切り痕ナズ、回転ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ痕ナズ。	A：4mm以下の白色粒子を少量含む。微細な炭石を少量含む。B：やや不直。C：内面灰白NT。	1/3	
996	須恵器	杯蓋	表段	①1.8+α ②3.4+α③2.4	外面回転ナズ、回転へう切り痕ナズ。内面回転ナズ痕ナズ。	A：4mm以下の石炭を多量含む。微細な炭石を含む。B：やや不直。C：内面灰白NT。	小片	
997	須恵器	杯蓋	表段	①0.4+α ③(9.2)	外面回転ナズ。回転へう切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ痕ナズ。	A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不直。C：内外黄灰2.5Y6/1。	底部 1/6	
998	須恵器	杯蓋	表段	①2.1+α ③(9.6)	外面回転ナズ。回転へう切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ痕ナズ。	A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不直。C：外黄灰10YR5/1、内面黄灰10YR5/2。	底部 1/6	
999	須恵器	皿	表段	①(14.8) ②1.8 ③(11.4)	外面回転ナズ、回転へう切り痕ナズ。内面回転ナズ、回転ナズ痕ナズ。	A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外黄灰2.5Y6/1。	1/4	
1000	須恵器	皿	表段	①(9.6) ②1.1 ③(6.2)	外面回転ナズ、回転へう切り痕ナズ。内面回転ナズ。	A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：外黄灰2.5Y6/2、内面5Y5/1。	1/6	



## IV. 総括

### 1. 課題の抽出

今回報告した牛頭後田窯跡群68～72・74地点では、4地点10基の須恵器窯跡が確認された。これらの窯跡は、南北に延びる谷部に面した斜面上に作られており、その変遷は、窯の操業を行った須恵器製作者集団がどのように動いていったのかを知る上で重要である。

こうした須恵器製作者集団について、岡田裕之は「ある範囲に複数の窯が同時にあるいは連続と営まれる」ものを窯群単位として捉え、野添・惣利・小田浦・浦ノ原・中通・牛頭ダム地区の窯跡群を取り上げ、窯群単位の変遷を分析し、その性格について検討を行った(註1)。その結果、大形の窯から小形化・複数化した窯群への変遷が追える場合、いくつかの窯群からなる場合、大形の窯のみで形成される窯群、小形化・複数化した窯のみで形成される窯群に区分し、それぞれの窯群が須恵器製作者集団の一つの単位として捉えられる可能性が高いとした。そして、須恵器窯製作者集団にはある一定の土地が割り当てられ、その範囲内で累代的に生産をおこなう必要があったとし、窯群単位を族制的な単位と捉えている。また、前代からの継続性を持たずに小形化・複数化した窯によって新しい窯群単位が形成される場合、窯群単位の再編が行われたとした。そして、須恵器製作者集団は族制的な原理をその存立基盤とし、その一方では公的な原理により包括されるという二重の原理に基づく生産関係が考えられるとした。

また、岡田は古墳時代の生産単位についてヘラ記号の分析から考察を行い(註2)、ヘラ記号は複数の生産単位に基づく製品を同時に焼成する場合に必要なものとして、古墳時代の須恵器生産の製作者もしくは製作者群を示すと考えた。併せて、律令期の生産単位についても、古墳時代と大きく変化していないが、生産の場においては一定の器種を一定量生産することに意味があり、ヘラ記号は必要なかったとしている。

さらに、岡田は古墳時代の須恵器製作者集団について宗像市須恵須賀浦遺跡の分析により、須恵器窯跡1基の操業には2～3程度の家族が携っており、窯の操業単位を構成するものとした。この操業単位は、律令期の戸籍に相当する規模の家族集団が相当するものとし、その単位の増加は傍系親族の分節運動に対応すると考えた(註3)。

今回の調査地内の窯跡の変遷を見ていくと、68地点はV～VI期にあたる大形の1号窯跡から小形の2号窯跡に続けてVII A期に3号窯跡を含んだ複数の窯の操業が行われたと考えられ、この群が南側に位置する69地点やVII B期を中心とする70地点、VII B期にあたる71地点へ移動しており、岡田の言う族制的な単位として操業にあたった須恵器製作者集団が時期を下るにつれて次第に谷奥に窯を作る場所を移動した結果として捉えられる。

また岡田の指摘する公的な原理による包括として、ヘラ書き須恵器により知られている大神部の存在が挙げられる。大神部は7世紀前半代には牛頭窯を統括していた氏族であり、8世紀前半代には複数の氏族を編成して牛頭窯の経営にあたったと考えられる(註4)。

牛頭窯跡群はこのような生産体制の下に操業が行われていったが、一方で岡田のいう窯群単位は

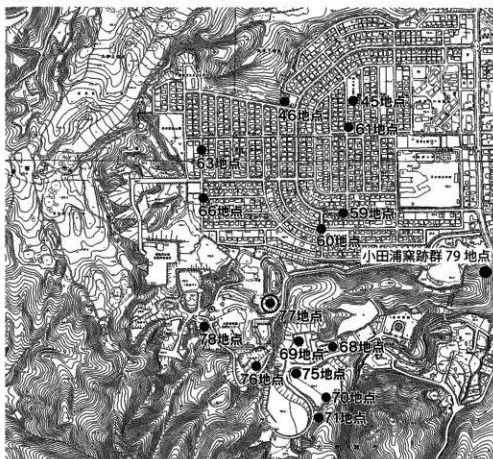
発掘調査で窯跡の存在が明らかになったものに限られており、窯群単位の認定方法には未調査の窯跡を含めたより広い範囲を考える必要がある。また、69・71地点のように単一の窯が確認される場所と68・70地点のように複数の窯が重層的に営まれる場所が近接する場合、その違いは何に基づくものであろうか。

## 2. 窯群の設定

後田・小田浦窯跡群は、小字名により遺跡名を分けているが、本来は丘陵を共有する一連の遺跡群である。このため、窯群設定については両遺跡群の遺跡動態を見ていく必要がある。

今回調査を行った68～71地点の窯群の移動について、最も関連が深いのは小田浦79地点である。小田浦79地点は、月の浦から谷部を登って最初の丘陵にあたり、東側にのびる丘陵の東側斜面に5基の須恵器窯跡が確認され、IV A 期からVI期の時期が考えられている。この小田浦79地点が位置する丘陵を西に入り込んだ所に、68～71地点は存在する。

この間の丘陵部に須恵器窯跡の存在は知られていないが、後田68-1号窯跡と小田浦79-4号窯跡がほぼ同じ時期であることは注目される。小田浦79-4号窯跡は表面検出のみで本格的な調査は行われていないが、かえりの短い杯B蓋を伴い、後田68-1号窯跡より後出する可能性が高い。その場合、後田68-1号窯跡は小田浦79地点より山深い場所に新たに窯場を開いたことになり、両者を一連の窯群の小群としてよいか疑念が残ることから、後田68～71地点は小田浦79地点とは異なる新たな一群として捉えることができる。



第103図 牛頭後田窯跡群のこれまでの調査地点と小田浦窯跡群79地点の調査地点  
(註6より転載、一部改変)

### 3. 窯構造

後田・小田浦窯跡群を地形的に見ると、小田浦79地点が位置する丘陵は東西に長く伸びており、これを境に南北で窯群の範囲を分けることができる可能性がある。いずれにしても、牛頭窯跡群の須恵器窯跡は非常に広範囲に及び、調査されていない窯跡や失われた窯跡もあり、一連の窯群を設定することは中々難しい。このため、今回調査を行った後田68～71地点と西隣の谷部に位置する後田77地点の窯群が同じ須恵器製作者集団であるか、窯構造を手掛かりに見ていきたい。今回確認された窯の規模や構造及び後田77地点の窯構造は、以下のとおりである。

表26 牛頭後田窯跡群68～71・77地点の窯跡各部計測表

窯跡名	時期	全長	燃焼部長	焼成部長	焚口幅	最大幅	窯内最大高	窯内最小高	燃焼部傾斜角	焼成部傾斜角
単位	期	m	m	m	m	m	m	m	°	°
68-1号窯跡	V～VI	1.5～	0.85	-	1.17	-	-	-	3	-
68-2号窯跡	VI	2.77	1.18	1.57	0.50	0.65	0.50	0.34	4	13～40
68-3号窯跡	VII B	2.35	1.00	1.35	0.35～	-	-	-	0	17～28
69-1号窯跡	VII A	0.77～	-	0.77～	-	0.70～	-	0.30	-	30
70-1号窯跡	VII B	2.64	1.26	1.38	0.92	1.12	-	0.46～	10	25～35
70-2号窯跡	VII B	2.42	0.74	1.59	0.83	0.88	-	-	12	14～35
70-3号窯跡	VII B	3.66	1.40	2.26	1.13	1.26	0.82～	0.62～	1～8	22～44
70-4号窯跡	VII B	3.91	1.12	2.79	0.95	1.30	1.22	0.85	4	19～50
70-5号窯跡	VII B	3.18	0.42	2.40	0.82	1.03	0.55	0.47	2	12～38
71-1号窯跡	VII B	2.54	0.62	1.92	0.75	0.97	-	0.47～	5	20～46
77-1号窯跡	VII A～VII B	2.87	0.57	2.30	0.74	0.84	0.47～	0.42	10	15～40

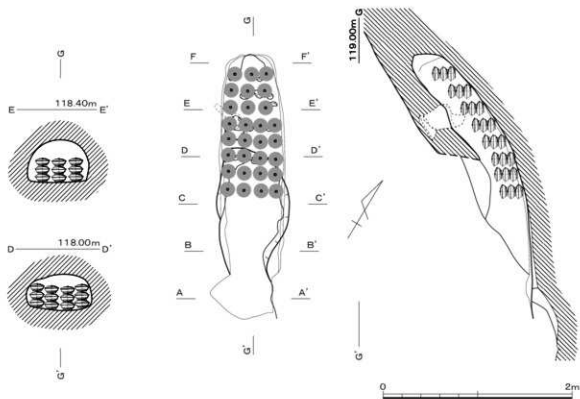
今回調査された68～71地点の各窯跡はいずれも地下式であり、68-2号窯跡を除き、いずれも直立煙道窯であったと考えられる。窯の形態として共通しているのは、焼成部の傾斜角度が煙道部側で30°を超える急なものであることである。70-4号窯跡は奥壁近くに粘土塊焼台を設置しているが、ここに土器を置こうとするのは極めて困難であった。

また、窯の平面プランを見ていくと、68-2号窯跡は細長く、70-5号窯跡は燃焼部が絞り込まれるが、70-1・3・4号窯跡と71-1号窯跡は絞り込みが少なく、前庭部が開く形態をとり、共通性が高い。

一方で、異なっている点を挙げると70-4号窯跡では焼成部床面を掘り窪めることなく粘土塊焼台を設置しているのに対し、68-2号窯跡のように焼成部床面を掘り窪めた置台を設けている点である。VI期とVII B期における置台・焼台の設置方法の違いとして捉えることができる。

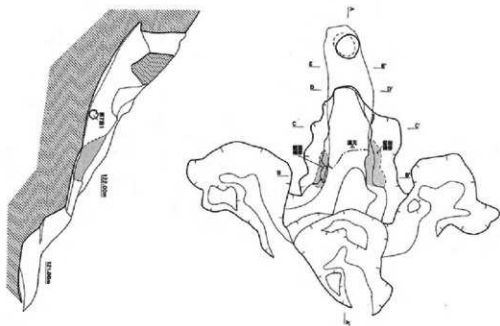
また、窯内の高さを見ていくと、70-4号窯跡のように窯内の最大高が1mを超えるものと、68-2号窯跡・70-5号窯跡のように50cm程度のものがある。窯の大きさも、窯内の高さが高い70-4号窯跡は4m近くあり、やや大型のものであり、こうした窯は甕を焼くためのものであったと考えられる。

参考までに、68-2号窯跡内から出土した須恵器杯蓋・杯身をセットにして窯詰めを行った場合、床面上に焼成部奥側は3個、燃焼部境では4個並べることができ、窯内の高さを考えると3セットを積み上げることができる。これを基に窯詰めをした場合、3個×3列、4個×5列の計8列29個で計87セットが一度に焼くことができるものと考えられる。一方で、窯内の最小高は34cmであり、これより大きなものを焼くことはできない。窯詰方法はさらに研究が必要であるが、窯で焼かれた須恵器の器種や大きさが、窯の幅や長さを決める規格の一つであった可能性も考える事ができ、今後の検討課題である。



第104図 68地点2号窯跡窯詰指定図 (1/40)

このように、68-71地点では、70-1・3・4号窯跡と71-1号窯跡は絞り込みが少なく、前庭部が開く形態をとる共通性が認められた。これに対し、77地点では、絞り込みが少なく、前庭部が開く特徴は共通するが、幅は狭く、ややゆがんだ平面プランを呈している(註6)。このことは、窯を作る場合、時代を経るにしたがって変化しながらも、全体的に共通する特徴があるが、平面プランなどに須恵器製作者集団の違いが表れている可能性がある。窯は、窯を作るにあたって主として生産することを予定していた製品の大きさに、窯幅や長さ・高さなどの規模が決められた可能性があり、窯群集団が伝統的に同じ窯構造を保有していると言うことはできない。時期ごとに焼成す



第105図 牛頭後田窯跡群77地点1号窯跡実測図 (S=1/80) (註6より転載)

る器種に応じて、窯構造を選択していると考えられ、窯構造の検討による須恵器製作者集団の同一性の検証は今後の課題である。

#### 4. 器種別遺物数量から見た生産傾向

69・71地点のように単一の窯が確認される場所と68・70地点のように複数の窯が重層的に営まれる場所が近接する場合、窯構造の共通性から両者は同一の須恵器製作者集団と考えられるが、その違いについて、制作された須恵器の器種ごとの数量により推測してみたい。

69地点は窯の残存状況が悪く参考にならないが、杯蓋・杯身のみ出土することは注意が必要である。また、71地点の出土遺物数量を見ると、特に注目されるのは高杯・甕が全く見られないことである。一方、杯蓋・杯身が圧倒的に多く、皿もそれほど多くはないことから、71地点は杯蓋・杯身の焼成に特化した窯であったと考えられる。

これに対して、68・70地点は甕を含め様々な器種が出土しており、まんべんなく生産されていたことが分かる。特に70地点を見ると、70-4号窯跡のように窯の高さが1mを超える窯では甕の出土が目立っており、甕の生産に対応した窯構造を選択したと考えられる。

以上のことから、単独で窯が作られる71地点は杯蓋・杯身に特化した生産を行ったと考えられるが、70地点の須恵器製作者集団と同一であるかは、今後、出土須恵器の諸特徴を観察する必要があり、今後の課題とした。

(石木)

註1 岡田裕之2003「北部九州における須恵器生産の動向」『古文化談義』第49集 九州古文化研究会

註2 岡田裕之2003「古墳時代における須恵器の生産単位について」『史園』第140号 九州大学大学院人文科学研究科

- 註3 岡田祐之・原俊一2004「古墳時代の須恵器製作者集団」『日本考古学』第17号 日本考古学協会
- 註4 石木秀啓2017「牛頭原跡群出土のヘラ書き須恵器について」『考古学・博物館学の風景』中村浩先生古稀記念論文集刊行会
- 註5 林潤也2007「牛頭小田浦原跡群Ⅱ-79地点の調査-」大野城市文化財調査報告書第73集
- 註6 林潤也2009「牛頭後田原跡群Ⅱ-77地点の調査-」大野城市文化財調査報告書第89集

## 5. 68地点1号窯跡出土の鉄鎌の性格について

68地点の1号窯跡の窯体内埋土中からはほぼ定形に近い鉄鎌が出土した。茎付近に別個体が2本ほど鑄着した状態で出土していて、複数本束ねていたことが分かる。当時の武器として貴重であり、例え窯跡表層の採集物であっても単なる遺失物では無く、須恵器窯跡と何某かの関連性を持つものと考えたい。調査の対象が須恵器の窯であり、出土する須恵器に注意が集中しがちで須恵器以外の遺物を見つけ出しにくい状況なので、見落としもかなりあったかと思われる。しかしながら、本窯跡の周辺では須恵器以外の遺物がかなり出土している。

特筆すべきものとして、以下、周辺での鉄鎌あるいは耳環等の出土した窯について概要を述べる。

①梅頭窯跡1次1号窯跡で、焼成部下位左側に石・焼台を持ち込み、銀象嵌鉄刀・鉄鎌・耳環その他、須恵器杯や赤色顔料が入った杯蓋が出土している。所謂横穴式石室の副葬状態とよく似ているので、廃棄須恵器窯を利用した墳墓とされている。

②梅頭窯跡2次1号窯は焼成部上位から耳環2点が出土している。1点は窯体内埋土から、もう1点は最終作業面直上から出土した。また周辺の埋土中から柳葉式と円頭斧箭式の鉄鎌2片が出土している。

③東浦窯跡2号窯からは焼成部床面から鉄鎌が出土しており、写真によると円頭斧箭式を含む数本の鉄鎌が確認できる。

④後田窯跡68地点1号窯跡では窯体内埋土から斧箭式を含む鉄鎌複数が出土している。その他『大野城市史』によると⑤春日市浦ノ原3号窯跡から耳環1点、⑥大野城市小田浦37-1号窯跡から鉄鎌が出土しているが、市史ではそれぞれの須恵器窯との関連性は無いとされている。梅頭第1次調査1号窯や第2次調査1号窯、東浦窯跡群2号窯など床面直上や最終作業面直上から耳環や鉄鎌が出土した例は廃棄窯を利用した墳墓と解釈されてきたが、窯の埋土中や須恵器窯と関連付けられていない鉄鎌も含めその性格について、違った方向から考えてみたい。なお、ここで取り上げた須恵器以外の遺物を出した窯跡の造営時期はいずれも6世紀末～7世紀中頃の間と納まるようである。

### 土器工人の墳墓

上記の須恵器窯が経営される6世紀後半から7世紀代にかけては横穴式石室を主体部にする小型円墳が密集して造られるが、その中には須恵器工人の古墳と推定できるものがある。後田窯跡群に近い観音山古墳群平石IV群は詳細を割愛するが、築造時期及び造営集団が明確に分けられる一群である。石室の開口方向及び築造時期により、那珂川市中原方向を向く一群と反対に牛頭窯跡群のある東方向を向く一群とがあり前者は6世紀後半頃まで、後者は6世紀末から7世紀にかけて営まれている。この後者に所属する31号墳は径5m程の小円墳で、石室は幅80cmの狭長



第106図 観音山古墳群中原IV群31号墳  
〔観音山古墳群II〕より転載

で不整な長方形に同じ幅の溝道を付け、その左右に石組みを配するもので、玄室床の奥壁側半分に須恵器の甕の破片を敷き詰めている。少し離れるが、岡山県瀬戸市の史跡寒風古窯跡群の中に寒風古墳という直径が6～7mの円墳があるがこの古墳の床も須恵器甕の破片が敷き詰められていて、観音山例と酷似している。同報告書によると横穴式石室ではないが、箱式石棺の床に須恵器甕片を敷き詰めた例として、総社市のすりばち池1・4号石棺があるという。築造時期は6世紀の前葉～中頃とされる。また、大阪南河内郡太子町では横穴式石椁の床面全体に土師器の破片が敷き詰められた松井塚古墳がある。破片は全て食器が選ばれ、調理具、貯蔵具を含まない。7世紀中頃の築造と考えられている。これも土師器づくりに関わる集団の墳墓と考えられる。



第107図 瀬戸市内寒風古墳石室  
（「史跡寒風古窯跡群」より転載）

### 祭祀に使用される耳環

耳環は後期古墳に一般的に副葬される装飾品の一つで、死者に装着され、その数でもって埋葬人数を想定したりする。梅頭窯跡の例も鉄鏝というより耳環の出土が埋葬施設の大きな根拠になっているが、耳環は必ずしもそういった使い方だけではなく、祭祀に使われることも知られているところである。幾つか類例を示すと、①観音山古墳群中原IV群21号墳は先に述べた31号墳の属する集団の盟主的な古墳で、耳環が7個出土しているが、そのうち4個は石室内から出土したもののだが、残りは盛土中、石室掘り方の裏込め中に白玉等と入れられ、盛土中には鉄鏝も差し込まれ、石室構築前の祭祀を行っている。②同じく観音山古墳群中原I群33号墳の墓壇（裏込め）から耳環が出土（ⅢB新期）。③宗像市三郎丸の城ヶ谷17号墳では、石室を収める墓壇を掘削中に須恵器杯蓋に耳環2個を連続にしたものと銀製空玉を入れ、土師器高杯で蓋をした祭具が置かれていた。古墳築造前の地鎮祭が行われたものかと思われる。このように耳環が祭祀の道具として使われている例は枚挙に暇がないが、いづれにしろ、耳環が死者に装着したと限定できないことは周知のことである。

### 三宅瓦窯跡の「窯仕舞い」遺構

昭和8年に玉泉大梁氏により三宅窯寺推定地で瓦窯を調査されその概要を残されている。窯は写真や報告文によると瓦陶兼業窯であったらしく、老司系の丸・平瓦と杯らしき土器が写っている。注目すべきは窯内中央部の東壁に接した所に板石を3枚側面と天井に組み、後背は平瓦を、もう一面は窯の壁で箱状の物を作り、前面の下には平瓦を敷き、その上に完形の杯が置かれていた。この土器は一見、弥生式土器のように見えるが焼成不十分な祝部土器の精巧な作りの様であると記述される。土器はスケッチの形態や糸底としてはあるも



第108図 瓦窯内箱型小石室(スケッチ)  
（「福岡県史蹟名勝天然記念物調査報告書第八輯」から転載）



の、ヘラ磨研を施した8世紀末ごろの赤焼き土器と推察される。氏はこの箱型の構造は土器を焼くためと書き残されているが、明らかに祭壇状であり、耳環や鉄鏃等の遺物は触れられていないが、「窯仕舞い」の所業と考えてよいのではとの岡山理科大学亀田教授から教示を得た。

梅頭1次1号窯例を始め、文頭で上げた耳環や鉄鏃を出土した窯は、6世紀後葉から7世紀前葉に窯の使命を終えている。三宅窯跡の窯仕舞いは時期的には降るものであるが、こういった弓矢や耳環を使った窯仕舞い（火納め）の祭祀行為は6世紀後半頃からも行われていたと考えられる。この行為が広範な窯で行われていたのか、選択的になされていたのかは資料が少なすぎてははっきりしたことが言えないが、今回の68地点1号窯の例も耳環は欠くが祭祀行為の一つと考えたい。

ところで、梅頭1次1号窯では耳環、鉄鏃に加え、象嵌装飾の大刀があり、墳墓として認識されて6世紀末の年代が与えられている。この後、牛頭窯跡群では牛頭編年のIV期とされる飛躍的に窯の数が増加する時期となるが、これは和田晴吾氏の云う「新式群集墳」の増加に伴う需要の増加の結果とも捉えられ、中央王権の共同体把握が横穴式石室の採用という規範（墓制）でなされている時期に、中央から送られたとされる象嵌大刀を所有する集団が古墳ではなく須恵器窯跡を再利用して墳墓とすることは考えにくいのではないだろうか。むしろ、生産体制あるいは経営単位の変遷の両期としての窯仕舞い（祭祀）として捉え、特に、その中でも梅頭1次1号窯の例は特別な（象徴的な）窯と捉えることも出来るのではないだろうか。（澤田）

#### 参考文献

- 大野城市教育委員会「梅頭遺跡群Ⅰ～第1次調査～」大野城市文化財調査報告書第60集 2007  
大野城市教育委員会「梅頭遺跡群Ⅱ～第2次調査～」大野城市文化財調査報告書第84集 2008  
大野城市教育委員会「乙金窯跡・東浦窯跡群・大谷窯跡群」大野城市文化財調査報告書第188集 2021  
瀬戸内市教育委員会「史跡寒風古窯跡群」瀬戸内市埋蔵文化財発掘調査報告Ⅰ 2009  
那珂川町教育委員会「観音山古墳群Ⅱ」那珂川町文化財調査報告書第14集 1986  
那珂川町教育委員会「観音山古墳群Ⅲ」那珂川町文化財調査報告書第17集 1988  
福岡教育大学編クゴタハウス株式会社・住友不動産株式会社「城ヶ谷古墳群」1977  
福岡県「福岡県史跡名勝天然記念物調査報告書第八編 史蹟の部」1933  
奈良文化財研究所編「日本の考古学」和田晴吾-前方後円墳の終焉と古墳の終末- 2007  
「大野城市史 上巻」2005  
大阪府立近つ飛鳥博物館「ふたつの飛鳥の終末期古墳」-松井塚古墳-平成21年度冬期特別図録

## 6. 土師器杯 d 模倣須恵器について

後田窯跡群70地点の3・4号窯跡灰原およびSX01から、特徴的な杯が出土した(第57図531、第61図608-611、第66図689、第80図843-847)。この杯は、底面から体部下半にかけて回転ヘラケズリされたもので、8世紀後半に顕著な調整の粗雑化とは逆行した様相を呈している。当該期に普遍的にみられる平底の杯Aと比較しても、形態・製作技法ともに異なる特徴を有しており、焼成方法こそ異なるものの、太宰府分類で土師器杯dと呼ばれる器種との類似点が多い(第109図1~6)。土師器杯dは8世紀後半に出現する器種であり、下記の属性により規定されている。

- ①底面から体部にかけて回転ヘラケズリ調整される。
- ②内外面ともに回転ヘラミガキが施される。
- ③底径と口径の差が大きく、体部形態が丸い。

土師器杯dの系譜は、平城宮において土師器碗Aと呼ばれる金属器模倣の土器に求められている。また、大宰府を中心に分布し、官的性格を有する遺跡や寺院、祭祀を想定できる遺跡に類出する点が指摘されている(中島1992)。

今回出土した資料は、上記に掲げた属性のうち①・③を有しており、②が欠落するものの、土師器杯dを意識して製作されたことが明確である。一方で後田窯跡群70地点における出土量は全体の1%にも満たず、かなり客体的な存在である。この点からも杯dは、土師器主体の器種であったものと考えられる。

牛頭窯跡群における土師器杯dに類似した器種の存在は、牛頭窯跡群の一角に位置する本堂遺跡群にすでに認識されている(早瀬2008)。しかし、牛頭窯跡群全体における生産の実態が不明瞭であることから、本稿では再度出土例を整理する。また、主要な消費地と目される大宰府の出土事例についても併せて確認し、消費の状況も明らかにする。以下では、土師器杯d模倣須恵器について、便宜的に須恵器杯dと呼ぶこととする。

**牛頭窯跡群の事例** 現在のところ、5遺跡22点が確認されている(第109図、第27表)。8世紀後半の窯跡は多数の調査事例があるものの、須恵器杯dの出土は非常に限られており、生産していない窯の方が多かったとみられる。また、牛頭窯跡群全体の出土量からしても、主体的に生産された器種とは言い難い状況である。いずれの資料も牛頭編年ⅦB期(8世紀後半)に位置付けられることから、土師器杯dの盛行時期と一致する。

また、先に掲げた土師器杯dの属性に従って整理すると、属性①~③の全てを備えたもの(A類)と属性②が欠落したもの(B類)に大別できる。A類は、牛頭窯跡群の北部に位置する本堂遺跡群13次灰原で出土している。かなり薄手で丁寧に作られており、属性は土師器杯dと比べても遜色ない。これらは土師器工人在製作し、須恵器工人在焼成したものと想定されている(早瀬2008)。B類は、後田窯跡群に加え石坂窯跡群やハセムシ窯跡群でも出土しており、牛頭窯跡群の南部にまとまる傾向がある。回転ヘラミガキは施されないものの、底面および体部下半にかけて丁寧に回転ヘラケズリされており、精緻な印象を受ける。

A・B類については、製作手法の簡略化という型式学的な先後関係が想定されるものの、両者に大きな時期差は見出せない。生産地点が異なる点も加味すれば、製作者の土師器杯dに対する模

表27 牛頭窟跡群・大宰府出土須恵器杯 d 一覧

No	遺跡名	所在地	遺構名	出土点数	出典
<b>牛頭窟跡群</b>					
1	本堂遺跡群13次	大野城市上大利	灰層3区2層	2	大野城市文化財調査報告書62集
			灰層3区3層	3	
			雑出地	1	
2	塚原遺跡群	大野城市若草	SK08	2	大野城市文化財調査報告書44集
3	ハセムシ窟跡群	大野城市つっじヶ丘	18-II号窟跡	1	大野城市文化財調査報告書23集
4	石坂窟跡群D地点	大野城市大字牛頭	5号窟跡	2	大野城市文化財調査報告書210集
			3・4号窟跡灰層1区	1	
			3・4号窟跡灰層4区	4	
			3・4号窟跡灰層5区	1	
5	後田窟跡群70地点	大野城市大字牛頭	SK01	5	大野城市文化財調査報告書218集 (本書)
<b>大宰府</b>					
6	大宰府史跡76次(不丁地区)	太宰府市観世音寺	SD2010	1	大宰府政庁周辺官衙跡IV
7	大宰府史跡77次(不丁地区)	太宰府市観世音寺	SD2340	1	大宰府政庁周辺官衙跡IV
8	大宰府史跡129次(不丁地区)	太宰府市観世音寺	SK3838	4	大宰府政庁周辺官衙跡IV
9	大宰府史跡170次	太宰府市観世音寺	埴灰色粘質土層	1	太宰府市の文化財26集
10	大宰府史跡175次(広丸地区)	太宰府市観世音寺	SD4345	1	大宰府政庁周辺官衙跡IX
11	大宰府東坊跡148次	太宰府市観世音寺	SD190	1	太宰府市の文化財43集
12	大宰府東坊跡200次	筑紫野市二日市	SK298	1	筑紫野市文化財調査報告書75集
13	筑前国分尼寺跡13次	太宰府市国分	暗赤色土層	1	太宰府市の文化財25集

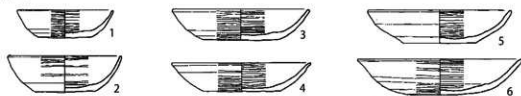
做度合いの差異を示す可能性という見方もできる。回転ヘラミガキは、装飾性の高い調整であり、色調の明るい土師器に施されてこそ本来の視覚的效果を発揮することから、須恵器化にあたり不要な属性として排除された可能性も考えられ、形態的な模倣度の高さが重視されたとはい換えることもできよう。

**大宰府の事例** 大宰府出土例は、管見の限り11点を数え、牛頭窟跡群における生産量の少なさと非常に調和的な状況である。先に述べた分類によれば、いずれもB類である。時期が明らかなものについては、8世紀後半に位置することから、生産地の様相とも矛盾しない。大宰府条坊跡200次SK298からは土師器杯dとともに出土しているが、土師器杯d7点に対して須恵器杯dはわずか1点に過ぎず、土師器優位である点を示唆する。また、第109回211は口縁部に段を有することから、佐波理鏡との関連も指摘されている。

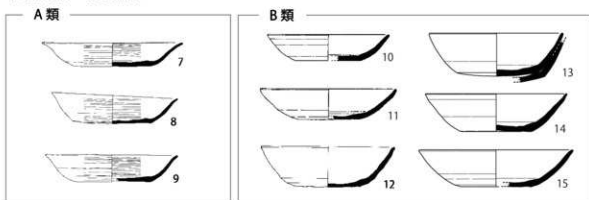
**小結** 牛頭窟跡群および大宰府における須恵器杯dについて概観した結果、いずれにおいても、極めて限定的な存在であることが明らかになった。これは、冒頭にも述べたように、杯dが土師器主体の器種であることを顕著に示す結果である。

須恵器による生産が行われた背景については不明だが、生産量の少なさから突発的な需要に応じて作られたものと考えられる。土師器杯dは、大宰府をはじめ官的様相の強い遺跡との相関が指摘されていることから、須恵器杯dの生産についても大宰府の関与を想定しておきたい。また、今回抽出した資料には、土師器杯dの模倣ではなく、金属器との関連を推測させるものも存在するため、どのような基準で峻別するかも今後の課題である。(山元)

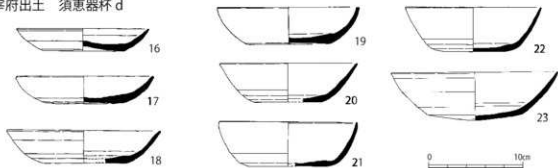
土師器杯 d



牛頭窯跡群 須惠器杯 d



大宰府出土 須惠器杯 d



- 1~6. 大宰府史跡 102 次 SK2999. 7. 本堂遺跡群 13 次灰原 3 区 2 層. 8・9. 本堂遺跡群 13 次灰原 3 区 3 層. 10・11. 石坂窯跡群 F 地点 5 号窯跡  
 12. 塚原遺跡群 SK08. 13~15. 後田窯跡群 70 地点 SX01. 16. 大宰府史跡 170 次褐灰色粘質土. 17. 大宰府史跡 175 次 SD4345  
 18. 大宰府史跡 76 次 SD2010. 19. 大宰府条坊跡 200 次 SK298. 20~22. 大宰府史跡 129 次 SK3838. 23. 筑前國分尼寺跡 13 次暗茶色土

第109図 牛頭窯跡群・大宰府出土須惠器杯 d (1/4)

参考文献

- 中島恒次郎 1992「都へ行った土器—長岡京石京 第102次調査SD10201出土資料—」『古文化誌叢』28集 九州古文化研究会  
 早瀬 賢 2008「須恵質焼成土師器杯 d」『牛頭本堂遺跡群環』大野城市文化財調査報告書第82集

图 版



(1) 68地点全景 (東から)



(2) 68地点検出状況 (南西から)



(3) 68地点検出状況 (南から)



(4) 68地点1号窯跡完掘状況 (南から)



(5) 68地点1号窯跡完掘状況 (南から)



(6) 68地点1号窯跡完掘状況 (上方から)



(7) 68地点1号窯跡土層 (南東から)



(8) 68地点1号窯跡内土層 (南から)

図版 2



(9) 68地点1号窯跡土層ベルト (南から)



(10) 68地点2号窯跡全景 (南東から)



(11) 68地点2号窯跡遺物出土状況 (南東から)



(12) 68地点2号窯跡煙道 (排煙側から)



(13) 68地点2号窯跡奥壁部煙道掘削状況 (南西から)



(14) 68地点3号窯跡完掘状況 (南東から)



(15) 69地点全景 (北西から)



(16) 69地点焼土坑検出状況 (北から)



(17) 69地点焼土坑完掘状況（西から）



(18) 69地点焼土坑土層（東から）



(19) 70地点調査前（北西から）



(20) 70地点検出状況（北西から）



(21) 70地点全景（北西から）



(22) 70地点1・3～5号窯跡全景（北西から）



(23) 70地点1号窯跡完掘状況（北西から）



(24) 70地点1号窯跡焚口部、4号窯跡煙道（東から）



図版 4



(25) 70地点1号窯跡船底ビット遺物出土状況(北から)



(26) 70地点1号窯跡貼床除去後遺物出土状況(北西から)



(27) 70地点1号窯跡窯内縦断面土層奥壁側(東から)



(28) 70地点1号窯跡焚口部土層(北東から)



(29) 70地点1号窯跡B-B'南側土層(北から)



(30) 70地点1号窯跡前庭右側遺物出土状況(西から)



(32) 70地点2号窯跡完掘状況(北西から)



(33) 70地点2号窯跡焚口部(南から)



(34) 70地点 2号窯跡右側壁 (東から)



(35) 70地点 2号窯跡左側壁 (西から)



(36) 70地点 2号窯跡窯体縦断面土層奥壁側 (北から)



(37) 70地点 2号窯跡杭 2-A 付近土層 (西から)



(38) 70地点 2号窯跡横断面土層 (北西から)



(39) 70地点 2号窯跡灰原横断面土層杭 2B-2H (北西から)



(40) 70地点 2号窯跡灰原縦断面土層杭 2B-2C (北東から)



(41) 70地点 3号窯跡全景 (北西から)

図版 6



(42) 70地点3号窯跡焚口左側壁 (西から)



(43) 70地点3号窯跡焚口土層 3-SA～SB(北西から)



(44) 70地点3号窯跡窯内横断面土層 (北から)



(45) 70地点3号窯跡焚口縦断面土層 (北東から)



(46) 70地点3号窯跡横断面土層 (北から)



(47) 70地点3号窯跡窯体内土層 (北から)



(51) 70地点3号窯跡内粘土検出状況 (北から)



(48) 70地点3号窯跡遺物出土状況(北から)



(49) 70地点3号窯跡窯体内粘土検出状況(北から)



(50) 70地点3号窯跡窯体内粘土検出状況(北から)



(52) 70地点3・4号窯跡灰原(杭1-DN~1-D)(北から)



(53) 70地点3・4号窯跡灰原5区土層(北東から)

図版 8



(54) 70地点3・4号窯跡灰原(杭1-D~1-D5)(北西から)



(55) 70地点3・4号窯跡灰原3・6区縦断面土層(北東から)



(56) 70地点3・4号窯跡灰原6区縦断面土層(北東から)



(57) 70地点3・4号窯跡灰原4・5区間土層(北東から)



(58) 70地点4号窯跡完掘状況(北から)



(59) 70地点4号窯跡焚口部(南から)



(60) 70地点4号窯跡土坑(南西から)



(61) 70地点4号窯跡左側壁(西から)



(62) 70地点4号窯跡右側壁(東から)



(63) 70地点4・5号窯跡焚口部検出状況(北から)



(65) 70地点4号窯跡4A-4B 縦断面土層(東から)



(64) 70地点4号窯跡遺物出土状況(北から)



(66) 70地点4号窯跡焚口部縦断面土層(北から)



(68) 70地点4号窯跡横断面土層(北西から)



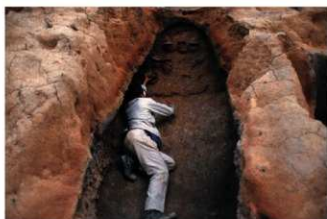
(67) 70地点4号窯跡縦断面土層(北から)



(69) 70地点4号窯跡完掘状況(北西から)



(70) 70地点4号窯跡焼台設置状況(北西から)



(71) 70地点4号窯跡遺物復元風景(北西から)



(72) 70地点5号窯跡完掘状況(北西から)



(73) 70地点5号窯跡焚口部(西から)



(74) 70地点4・5号窯跡土層(杭38東側)(西から)



(75) 70地点5号窯跡焚口部検出状況(北西から)



(76) 70地点5号窯跡縦断面土層（北西から）



(77) 70地点5号窯跡煙道部（西から）



(78) 70地点5号窯跡掘削状況復元（北から）



(79) 70地点6号窯跡全景（北西から）



(80) 70地点 SX02 全景（北から）



(81) 70地点 SX02 (A-B 土層) (東から)





(82) 71地点調査前(北西から)



(83) 71地点調査後全景(北西から)



(84) 71地点遺構検出状況(北西から)



(85) 71地点遺構検出状況窯体近景(北西から)



(86) 71地点谷部遺構検出状況(北西から)



(87) 71地点1号窯跡全景(北西から)



(88) 71地点長頸壺出土状況(東から)



(89) 71地点1号窯跡土層 (南西から)



(90) 71地点1号窯跡煙道部土層 (南西から)



(91) 71地点1号窯跡焚口部土層 (北から)



(92) 71地点1号窯跡窯体内煙出し縦断面土層 (北東から)



(93) 71地点1号窯跡内煙道土層 (南西から)



(94) 71地点1号窯跡内横断面土層 (北西から)



(95) 71地点1号窯跡窯内K-K'土層 (北西から)



(96) 71地点1号窯跡内横断面土層 (北西から)

図版14



(96) 71地点1号窯跡灰原土層 (北西から)



(97) 71地点1号窯跡灰原J-Ja土層 (北西から)



(98) 71地点1号窯跡灰原g-gb土層 (北西から)



(99) 71地点1号窯跡灰原ga-gb土層 (北西から)



(100) 71地点1号窯跡灰原g-ga土層 (北西から)



(101) 71地点1号窯跡灰原h-hb土層 (北西から)



(105) 71地点谷部b-ba土層 (北西から)



(106) 71地点谷部土層 (北から)



(107) 72地点調査前（南から）



(108) 72地点完掘状況（東から）



(109) 72地点炭窯跡全景（東から）



(110) 72地点炭窯跡煙道完掘状況（東から）



(111) 72地点炭窯跡窯内（東から）



(113) 72地点炭窯跡煙道（東から）



(112) 72地点炭窯跡煙出し（東から）

図版16



(114) 72地点炭窯跡焚口下部土層 (北東から)



(115) 72地点炭窯跡焚口部縦断面土層 (北から)



(116) 72地点炭窯跡内縦断面土層 (北から)



(117) 72地点道路側土層 (西から)



(119) 74地点調査後全景 (北東から)



(120) 74地点SX01遺物出土状況 (南東から)



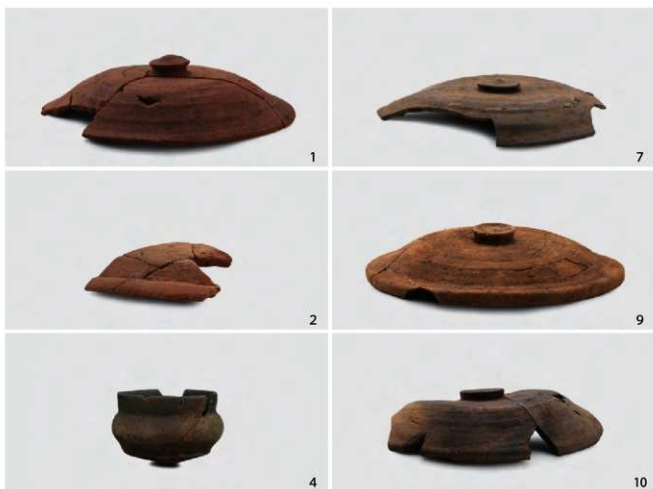
(121) 74地点SX01完掘状況 (北東から)



(122) 74地点SX05完掘状況 (北から)



68地点集合写真



68地点1号窟跡出土遺物①

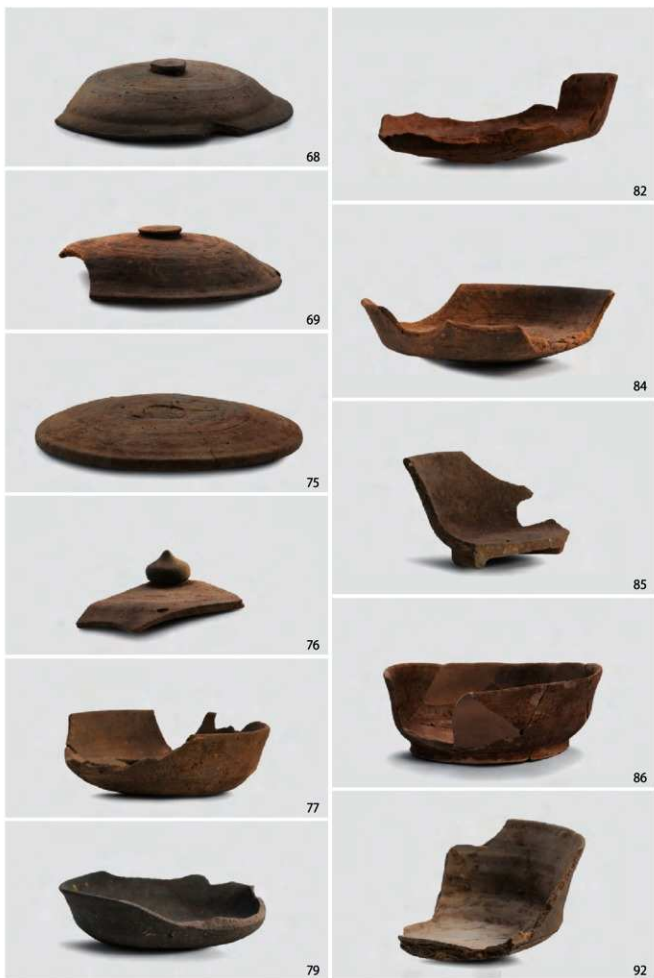




68地点1号窑迹出土遗物③







68地点1号窑迹出土遗物⑤





68地点1号窯跡出土遺物⑦





68地点1号窟跡出土遺物◎  
69地点出土遺物



70地点1号窯跡集合写真



229



234



233



235



70地点1号窑迹出土遗物②













70地点2号窑迹集合写真



323



326



325



329



70地点2号窑跡出土遺物②





369



379



370



381



372



382



374



383



375







399



403



400



404



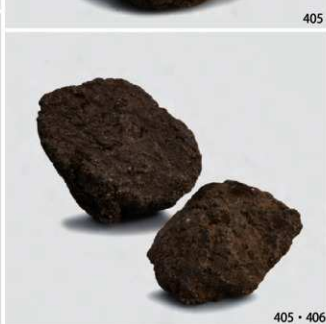
401



405



402



405 · 406



70地点3号窑跡集合写真



407



414



408



417



409



418



70地点3号窠迹出土遗物②





70地点3号窑迹出土遗物④



70地点4号窑迹集合写真



485



487



486



492



70地点4号窟跡出土遺物②  
70地点3・4号窟跡灰原出土遺物①





70地点3·4号窯跡灰原4区集合写真



519



524



522



526



523



540



70地点3・4号窯跡灰原  
1～3・5・6区集合写真



545



546



547





70地点3・4号窯跡灰原出土遺物⑤









70地点5号窑迹集合写真



762



765



764



766







70地点5号窟跡出土遺物④  
70地点SX01出土遺物①



70地点 SX01 集合写真



829



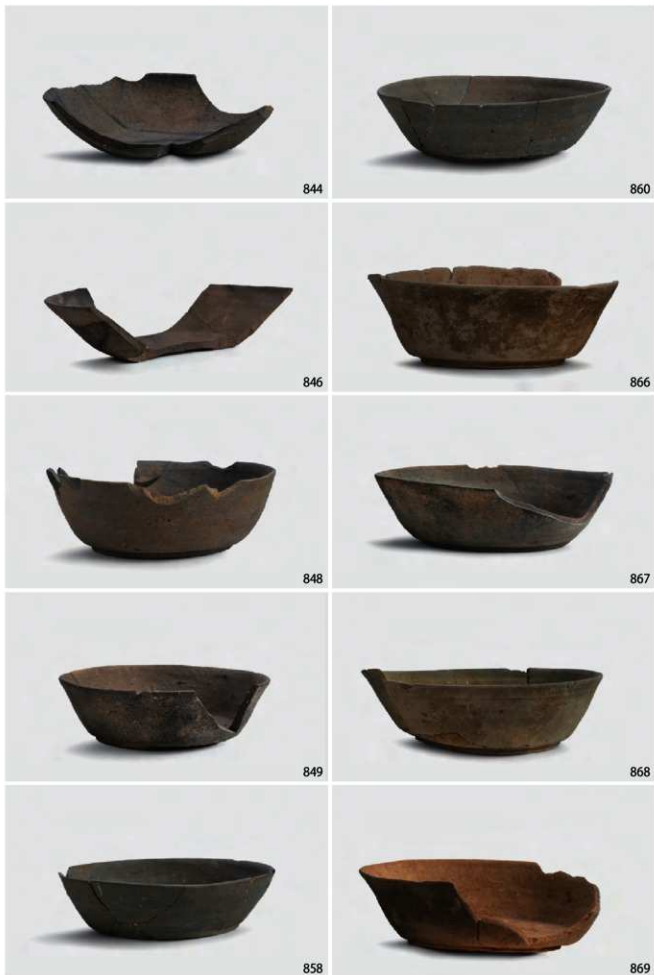
834



833



843



70地点 SX01出土遺物③





893



897



896



898



899



70地点 SX02・SP06・谷部下層出土遺物  
71地点 1号窯跡出土遺物①



71地点1号窯跡集合写真



942



948



943



950



947



951

71地点1号窯跡出土遺物②





71地点1号窯跡  
灰原集合写真



953



956



954



957



71地点1号窑迹出土遗物④



窯道具 集合写真

71地点 1号窯跡出土遺物⑤  
74地点 試掘トレンチ出土遺物

## 報告書抄録

ふりがな	うしくひうしろだかまあとぐん さん							
書名	牛頭後田窯跡群3							
副書名	68・69・70・71・72・74地点							
巻次	3							
シリーズ名	大野城市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第218集							
編著者名	石木秀啓・上田龍児・山元瞭平・澤田康夫・藤島友美・裨田智美							
編集機関	大野城市							
所在地	〒816-8510 福岡県大野城市曙町二丁目2番1号 電話092(501)2211							
発行年月日	2024年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
牛頭後田窯跡群 68・69地点	福岡県大野城市牛頭 他			33° 29' 42"	130° 27' 26"	1996年 10月24日 ～12月20日	約350㎡	墓園建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
牛頭後田窯跡群 68・69地点	生産遺跡	飛鳥・奈良	須惠器窯跡・土坑	須惠器・土師器 ・鉄鏝				
要約	調査地は牛頭山から八つ手状に広がる山麓の急峻な斜面の中腹に位置する。須惠器の登り窯4基を検出したが、2号窯跡以外は残存状況が極めて悪く、全様は窺い知れない。68地点2号窯跡は長さ2.7m、幅0.7mで、床面の傾斜は約30°程度である。窯体内の埋土の状況から、焼成中に燃焼部付近の天井部が崩落したため放棄されたらしく、床面の遺物はある程度原位置を保っていると思われる。当該時期の須惠器焼成の際の製品の窯詰め的一端を窺い知ることができる資料と思われる。							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
牛頭後田窯跡群 70～72・74地点	福岡県大野城市牛頭							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
牛頭後田窯跡群 70～74地点	生産遺跡	奈良	須惠器窯跡・炭窯 ・土坑	須惠器				
要約	調査地は牛頭山から北側に派生する山塊の斜面に立地する。遺構は70地点で須惠器窯6基を検出したが、そのうち1基は空焚き中に崩落したようである。71地点では須惠器窯1基を検出したが、窯体内では焼き台が片付けられた状態で見つかった。72地点では炭窯を1基検出した。円形プランの平窯で、花崗岩の岩盤を削り貫いた半地下式の窯である。出土遺物は無く時期は不明である。73地点は遺構を検出せず、地点は次番とした。74地点は尾根上を調査したもので、不明土坑を検出した。8世紀代のものである。今回調査した窯跡群は牛頭窯跡群で最も盛んに須惠器生産が行われた時期のものであり群全体の検討材料が増加したと共に、74地点において遺構の検出があったのは窯跡群とそれに付帯する遺構の存在を確認できた上で貴重な調査成果となった。							

大野城市文化財調査報告書 第218集

牛頭後田窯跡群 3

— 68・69・70・71・72・74地点 —

令和6年3月31日

発行 大野城市  
福岡県大野城市曙町2-2-1

印刷 九州コンピュータ印刷  
福岡市南区向野1丁目19番1号

